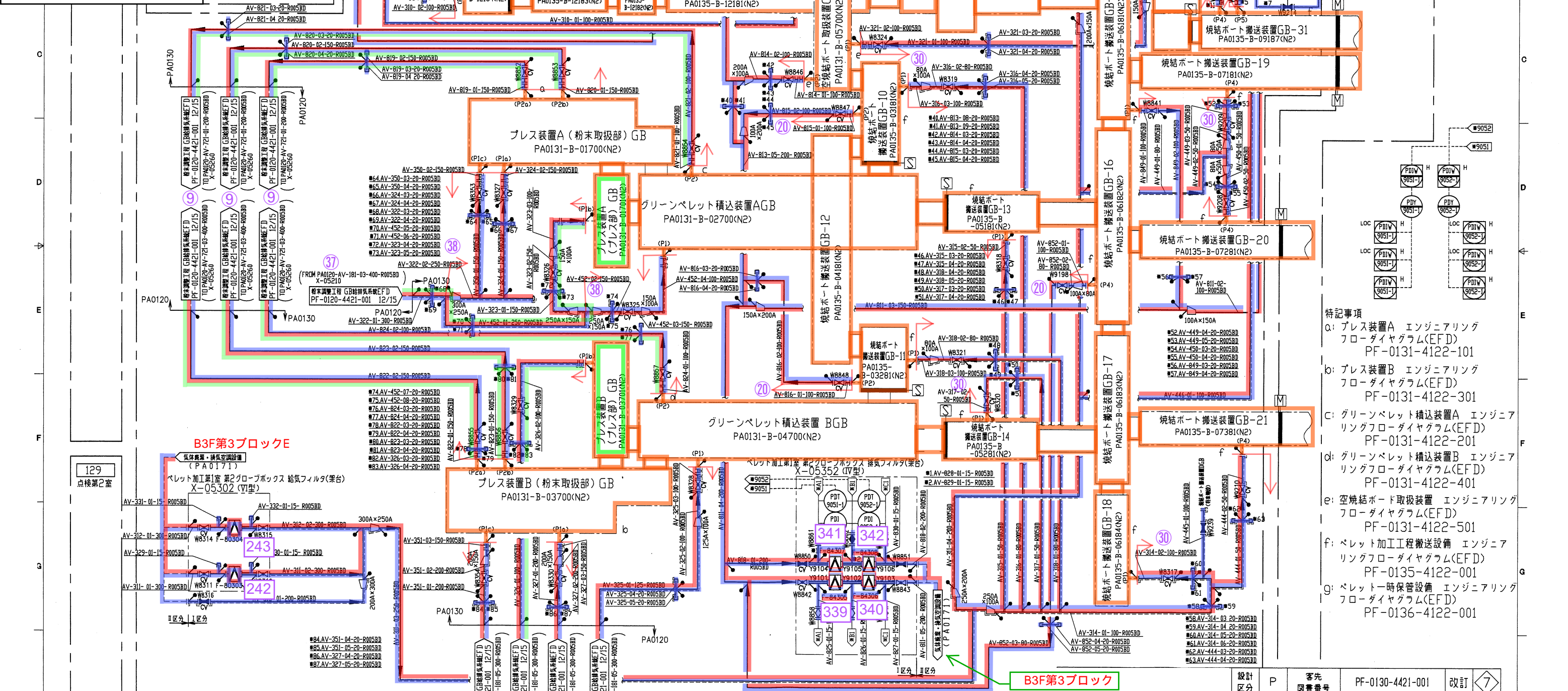


【凡例】  
 < 機器等 >  
 番号：機器等との紐付け番号  
 (1, 2, ...)   
 紫色線：グループボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



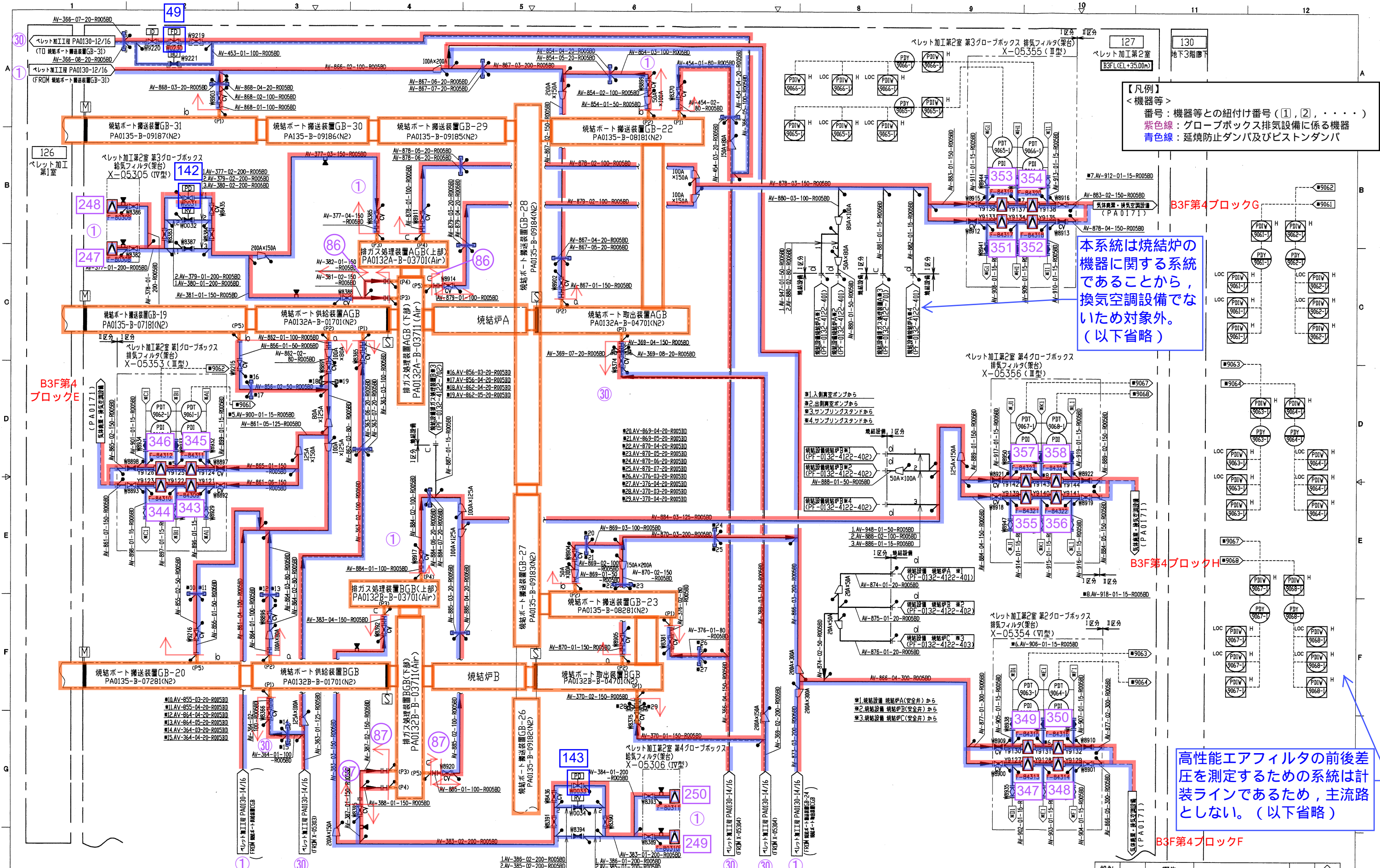
- 特記事項
- Q: プレス装置A エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0131-4122-101
  - b: プレス装置B エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0131-4122-301
  - c: グリーンペレット積込装置A エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0131-4122-201
  - d: グリーンペレット積込装置B エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0131-4122-401
  - e: 空焼結ポート取扱装置 エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0131-4122-501
  - f: ペレット加工工程搬送設備 エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0135-4122-001
  - g: ペレット一時保管設備 エンジニアリングフロアダイヤグラム(EFD) PF-0136-4122-001

注記) 1.本シートの系統番号は全てPA0130であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。

【凡例】  
 < 配管等 >  
 ○番号：主配管との紐付け番号 ( , , , , , )  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グループボックス排気設備)  
 橙色線：グループボックス

設計	P	客先	図番	PF-0130-4421-001	改訂	7
日本原燃株式会社 莫々燃料工場 ペレット加工工程 グループボックス給排気系統 エンジニアリングフロアダイヤグラム (EFD)			エンジニアリングフロアダイヤグラム PA0130-12/16			





【凡例】  
 < 機器等 >  
 番号：機器等との細付け番号 (①, ②, ...) )  
 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

本システムは焼結炉の機器に関する系統であることから、換気空調設備でないため対象外。(以下省略)

高性能エアフィルタの前後差圧を測定するための系統は計装ラインであるため、主流路としない。(以下省略)

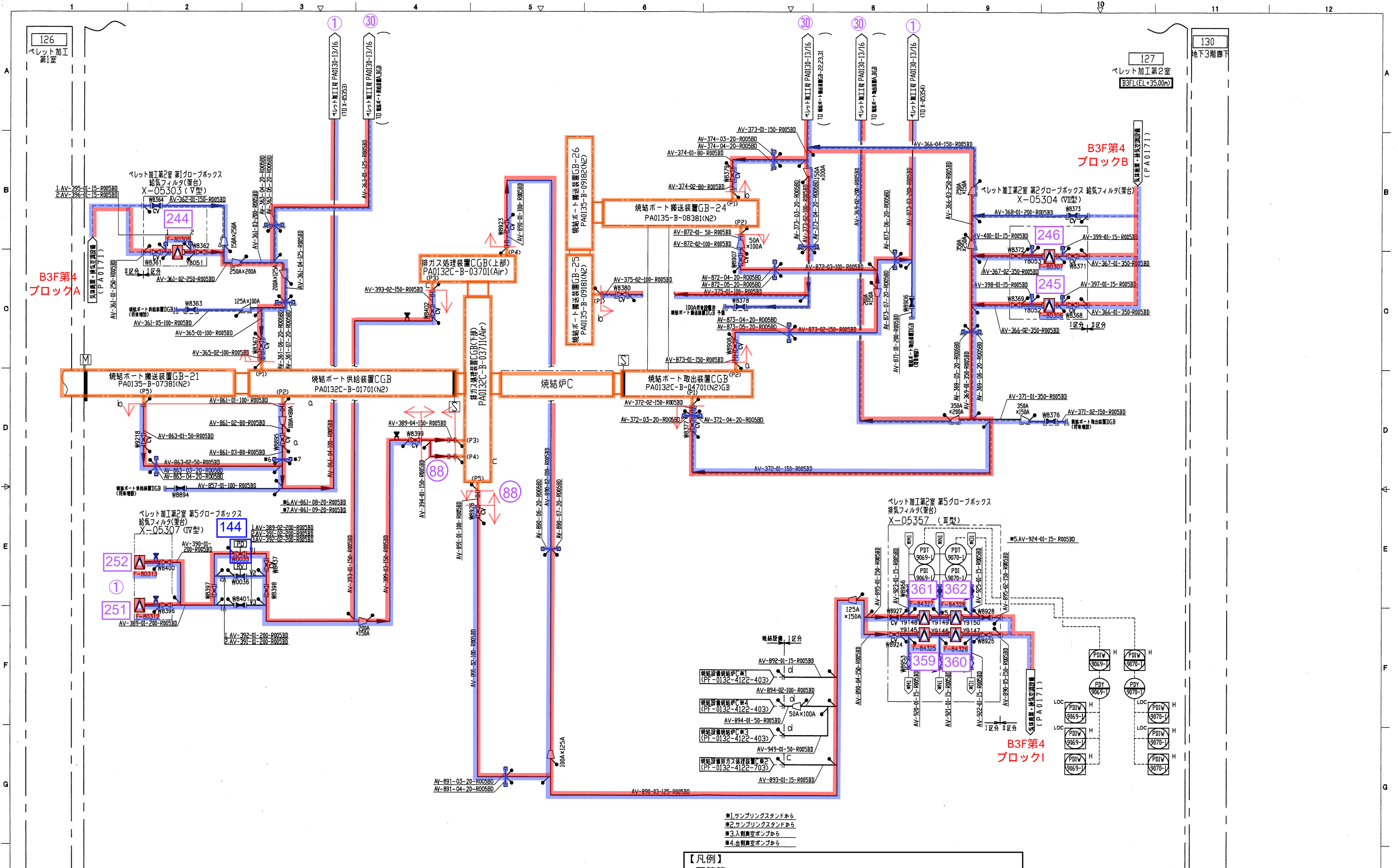
特記事項  
 ○：焼結設備(焼結ポート供給装置・焼結ポート取出装置) エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD) PF-0132-4122-101  
 □：ペレット加工工程搬送設備 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD) PF-0135-4122-001  
 □：焼結設備 排ガス処理装置 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD) PF-0132-4122-701~703  
 □：焼結設備 焼結炉 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD) PF-0132-4122-401~403  
 注記) 1.本サイトの系統番号は全てPA0130であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。

【凡例】  
 < 配管等 >  
 ○番号：主配管との細付け番号 ( . . . . . )  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線：グローブボックス

設計	P	客先	PF-0130-4421-001	改訂	7
区分		図書番号			

尺 N.T.S  
 日本原燃株式会社 燃工MOK  
 ペレット加工工程 グローブボックス給排気系統  
 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD)





特記事項  
 a: 焼結設備(焼結ポート供給装置・焼結ポート取出装置) エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0132-4122-101  
 b: ベレット加工工程搬送設備 エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0135-4122-001  
 c: 焼結設備 排ガス処理装置 エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0132-4122-701~703  
 d: 焼結設備 焼結炉 エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0132-4122-401~403  
 注記) 1.本サイトの系統番号は全てPA0130であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。

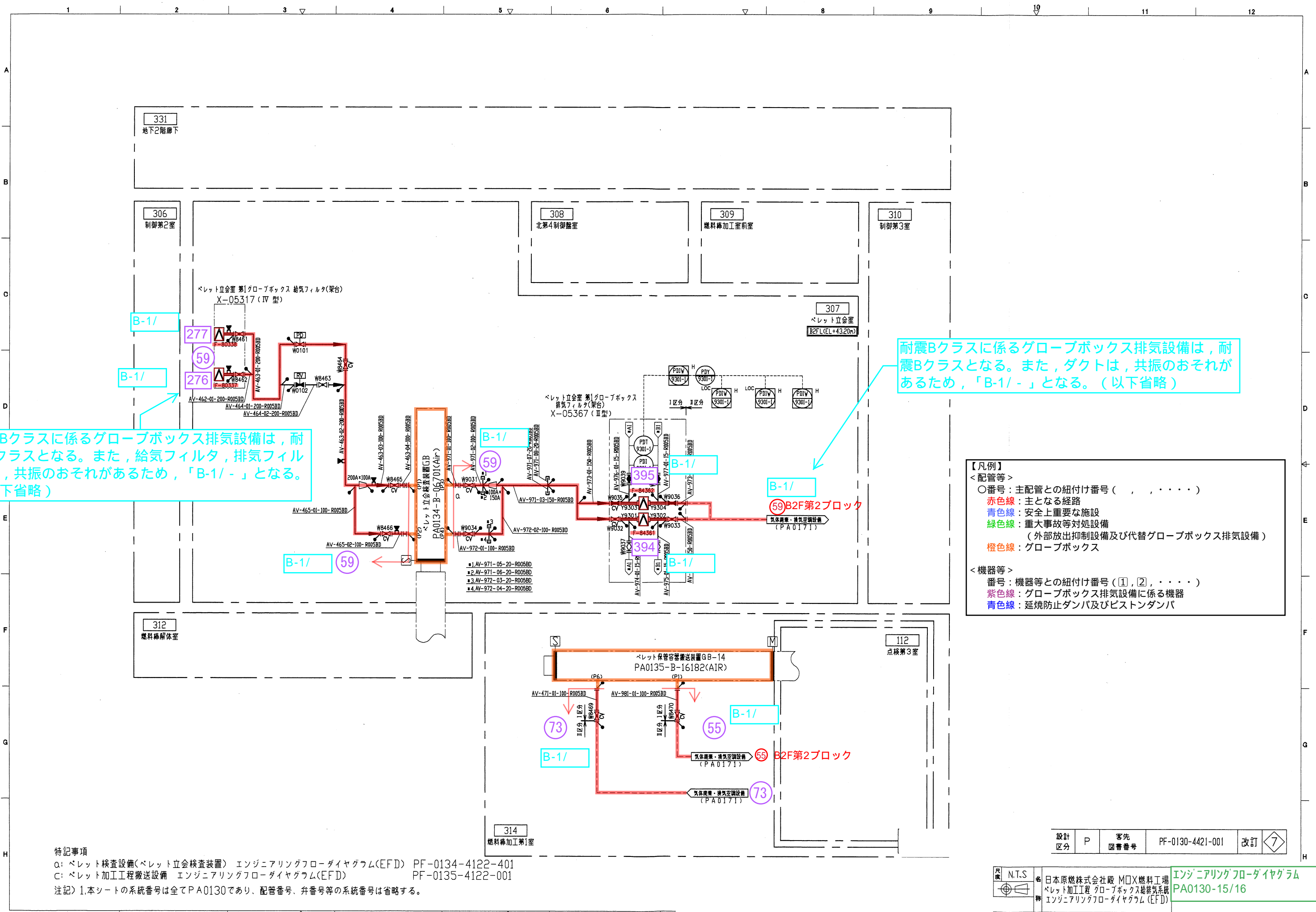
- 【凡例】
- < 配管等 >  
 ○番号: 主配管との紐付け番号 ( , , . . . )  
 赤色線: 主となる管路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス
- < 機器等 >  
 番号: 機器等との紐付け番号 ( ① , ② , . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びヒストンダンパ

設計	P	客先	PF-0130-4421-001	改訂	7
区分		図書番号			

日本原燃株式会社 MOX燃料工場  
 ベレット加工工程 グローブボックス給排気系統  
 エンジニアリングフローダイアグラム (EFD)

エンジニアリングフローダイアグラム  
 PA0130-14/16





耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、給気フィルタ、排気フィルタは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)

耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、ダクトは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)

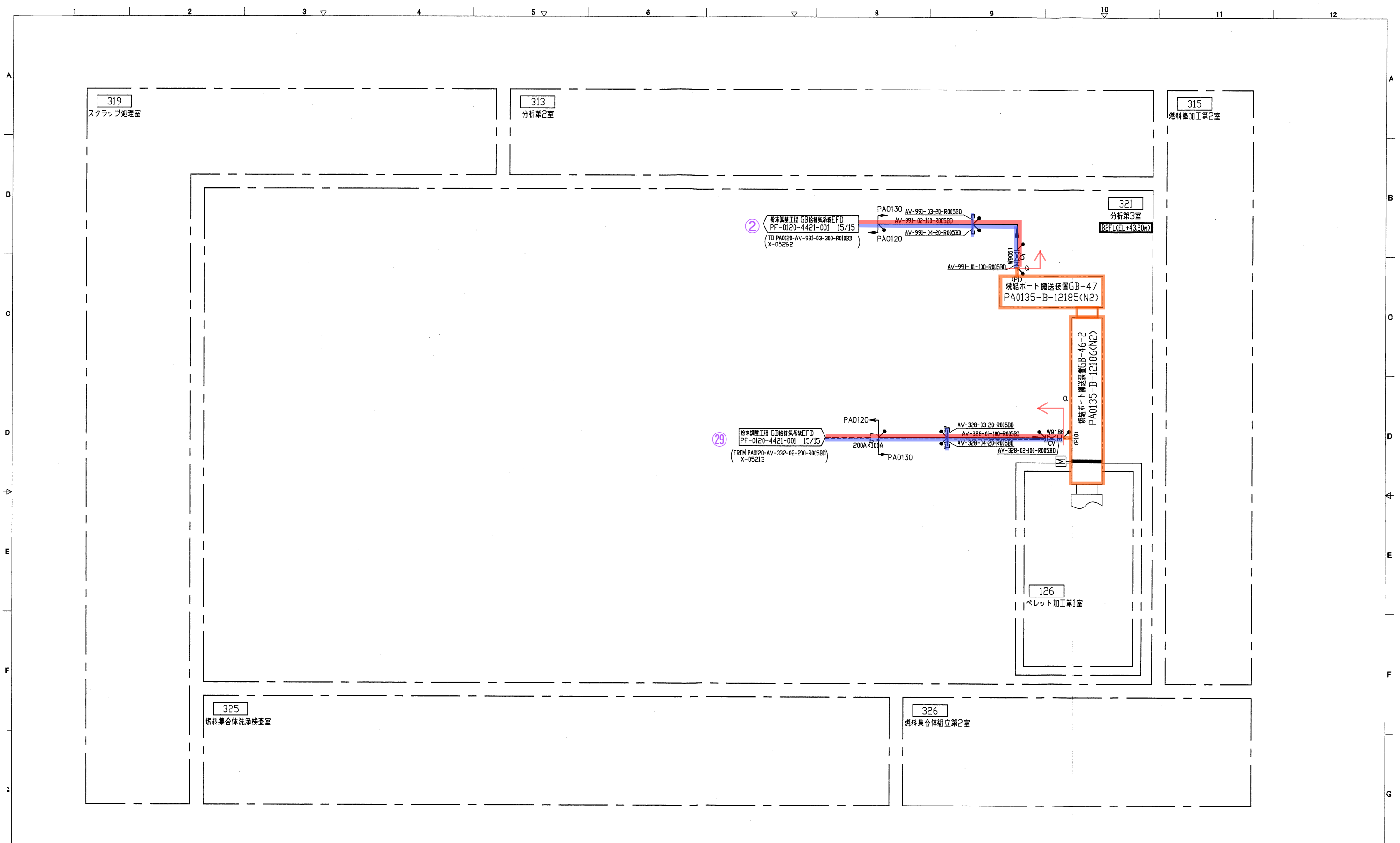
- 【凡例】
- <配管等>
- 番号：主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- <機器等>
- 番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

特記事項  
 Q: ペレット検査設備(ペレット立会検査装置) エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0134-4122-401  
 C: ペレット加工工程搬送設備 エンジニアリングフローダイアグラム(EFD) PF-0135-4122-001  
 注記) 1.本シートの系統番号は全てPA0130であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。

設計区分	P	客先図書番号	PF-0130-4421-001	改訂	7
------	---	--------	------------------	----	---

尺 N.T.S. 日本原燃株式会社 莫X燃料工場 エンジニアリングフローダイアグラム PA0130-15/16  
 名 ペレット加工工程 グローブボックス給排気系統  
 特 エンジニアリングフローダイアグラム (EFD)





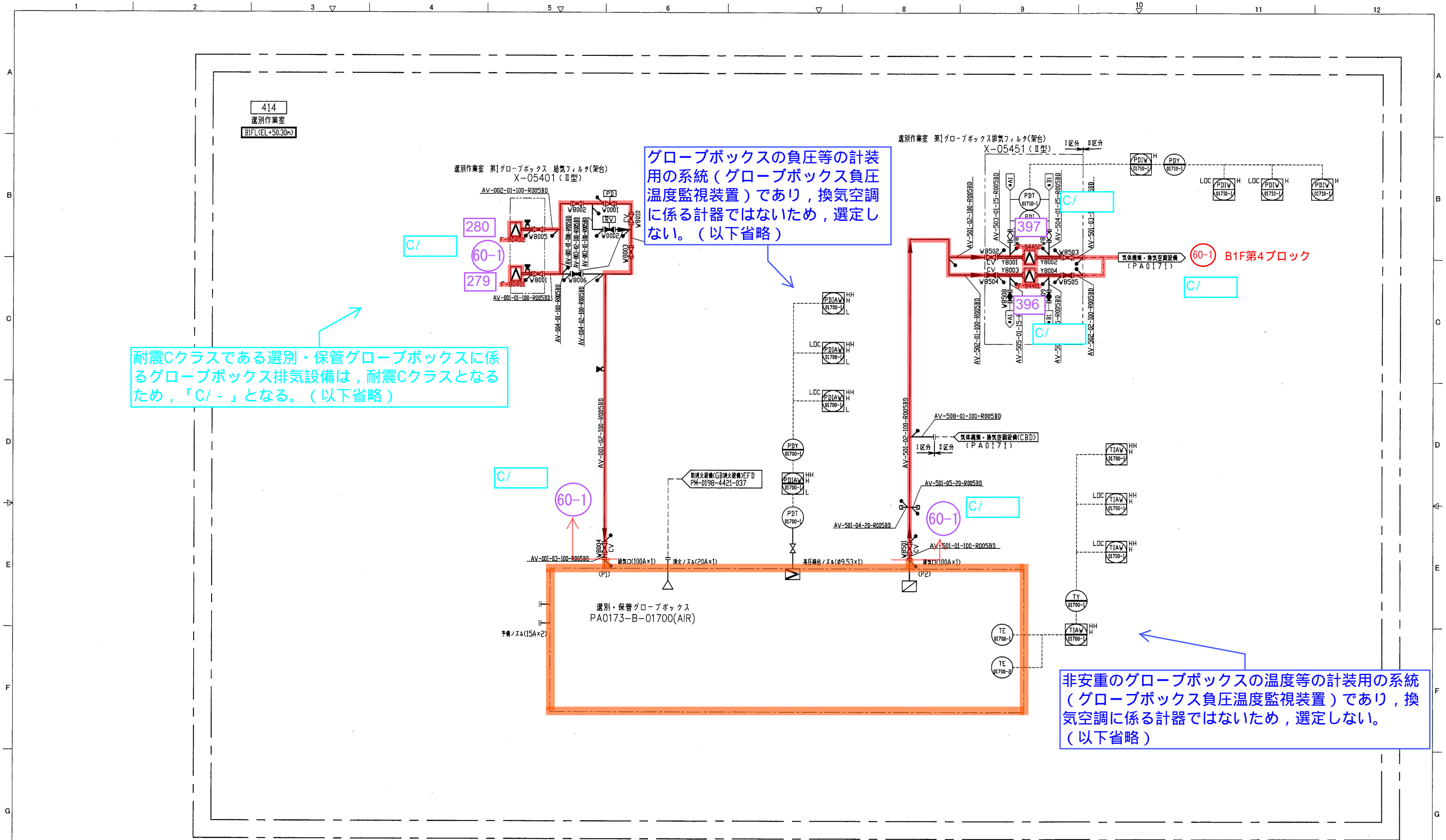
特記事項  
 α: ペレット加工工程搬送設備 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD) PF-0135-4122-001  
 注記) 1.本シートの系統番号は全てPA0130であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。

- 【凡例】
- <配管等>  
 ○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス
- <機器等>  
 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

設計区分	P	客先図書番号	PF-0130-4421-001	改訂	7
------	---	--------	------------------	----	---

尺 N.T.S  
 名 日本原燃株式会社 MOX燃料工場  
 目 ペレット加工工程 グローブボックス給排気系統  
 概 エンジニアリングフローダイヤグラム(EFD)  
 エンジニアリングフローダイヤグラム  
 PA0130-16/16





耐震Cクラスである選別・保管グローブボックスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Cクラスとなるため、「C/-」となる。(以下省略)

グローブボックスの負圧等の計装用の系統(グローブボックス負圧温度監視装置)であり、換気空調に係る計器ではないため、選定しない。(以下省略)

非安重のグローブボックスの温度等の計装用の系統(グローブボックス負圧温度監視装置)であり、換気空調に係る計器ではないため、選定しない。(以下省略)

- 【凡例】
- <配管等>
- 番号：主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- <機器等>
- 番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

関連図書  
選別・保管グローブボックス構造図 PF-0173-4324-101

注記) 1.本サイトの系統番号は全てPA0173であり、配管番号、弁番号等の系統番号は省略する。  
2.仮設計測用ノズル(プラグ止)は、高性能フィルタ(給気 空気)の測定点では1つ、それ以外の測定点は2つとする。

設計区分	P	客先図書番号	PF-0173-4421-001	改訂	4
------	---	--------	------------------	----	---

尺 N.T.S  
名 日本原燃株式会社 燃料工場  
業務 燃料工場 選別・保管装置  
呼称 エンジニアリングフローダイヤグラム (EFD)  
エンジニアリングフローダイヤグラム PA0173-2/2



82F第2ブロックA

耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、給気フィルタ、排気フィルタは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)

試運転時に流量または圧力を測定するための管台であるため、主流路としない。(以下省略)

フィルタの差圧を計測するための計器、計装ラインであるため、主流路としない。(以下省略)

本系統図はグローブボックス単位での系統を示した図面であり、当該箇所は隣接グローブボックスの系統(点線部分)であるため、後段で主経路を設定する。(以下省略)

グローブボックス内の運転パラメータを計測するための計器、計装ラインであり、換気空調設備ではないことから対象外(以下省略)

グローブボックス内の機器に関する系統であるため、換気空調設備ではないことから対象外(以下省略)

耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、ダクトは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)

備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

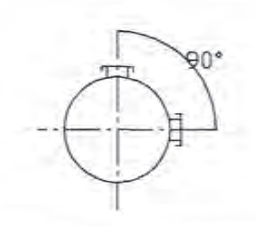
(凡例)

記号	名称
II	貫通口

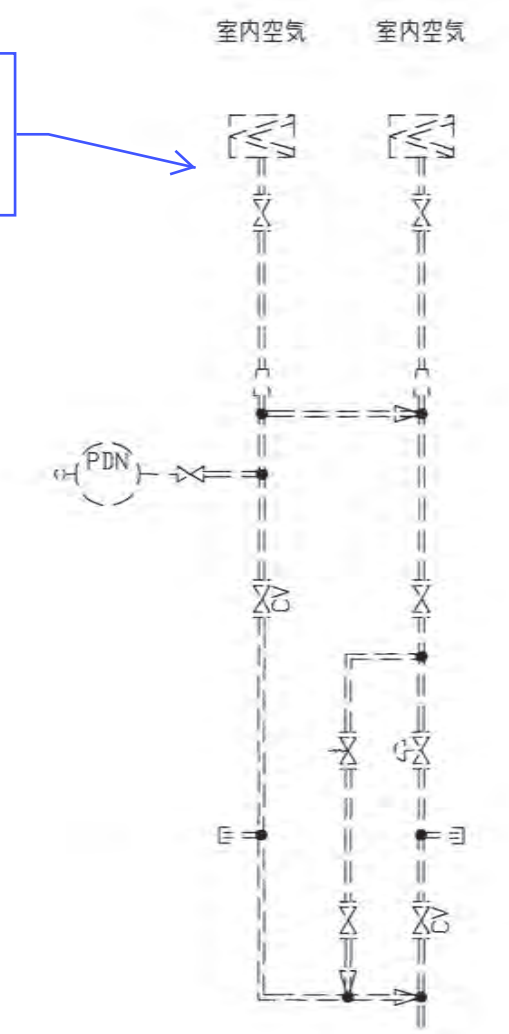
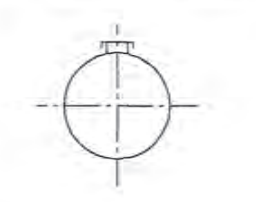
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*2 異径フランジ (8AX10A)。
- \*3 スタック編成設備 (E) 取扱説明書 (PM-0141-4368-002)参照。
- \*4 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後、溶接キャップ止めとする)



\*5 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。



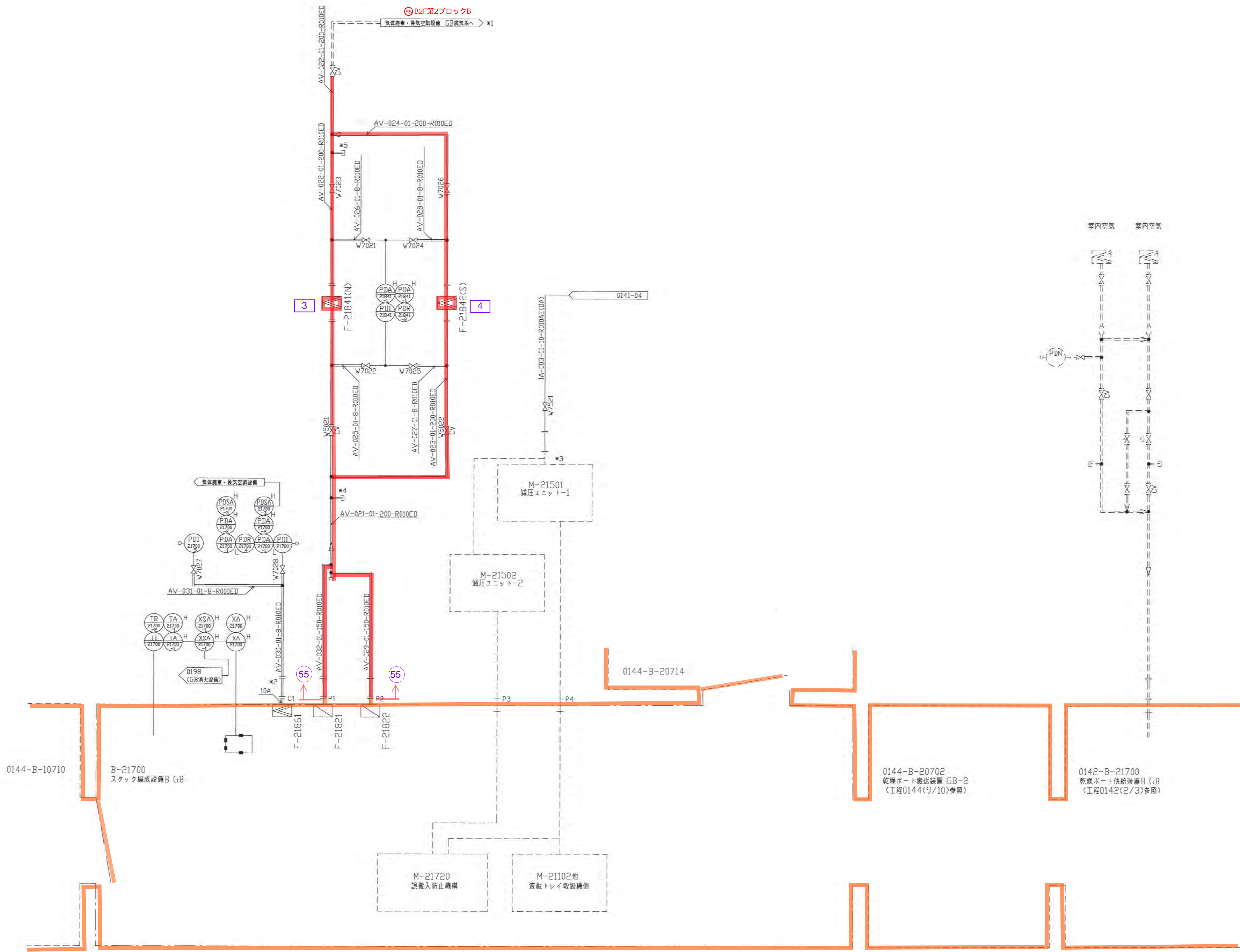
【凡例】

<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線: グローブボックス

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号( [I], [II], . . . . . )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

委託先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋 (PA) - 燃料精加工工程設備 (E) スタック編成設備 エンジニアリングフロー図 (B-11700)		
エンジニアリングフローダイアグラム PA0141-1/4			





<凡例>

記号	名称
⊕	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室にも表示する。

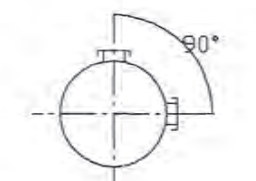
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

\*1 グローブボックス入り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。

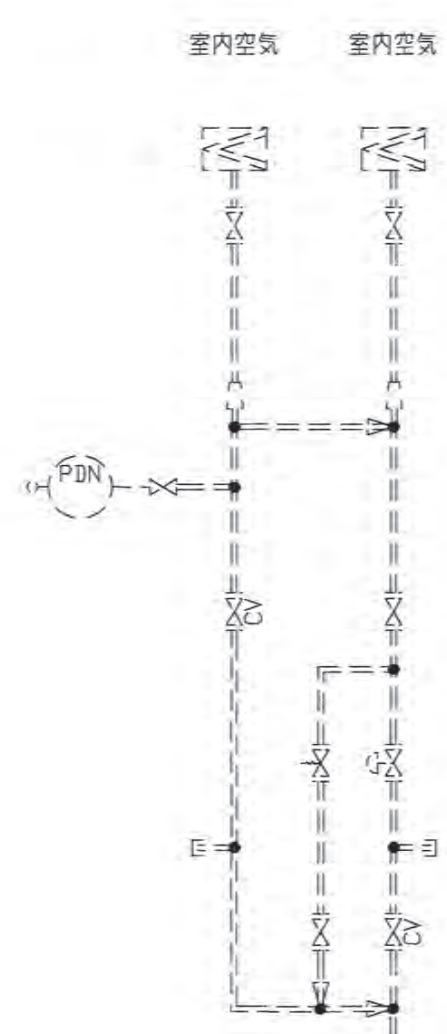
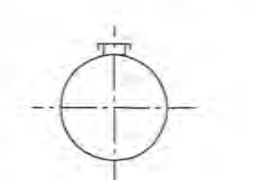
\*2 異径フランジ (8AX10A)。

\*3 スタック編成設備 (E) 取扱説明書 (PM-0141-4368-002)参照。

\*4 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後、溶接キャップ止めとする)



\*5 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。



**<凡例>**  
**<配管等>**  
 ○番号: 主配管との紐付け番号 ( , , . . . )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス  
**<機器等>**  
 番号: 機器等との紐付け番号 (①, ②, . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

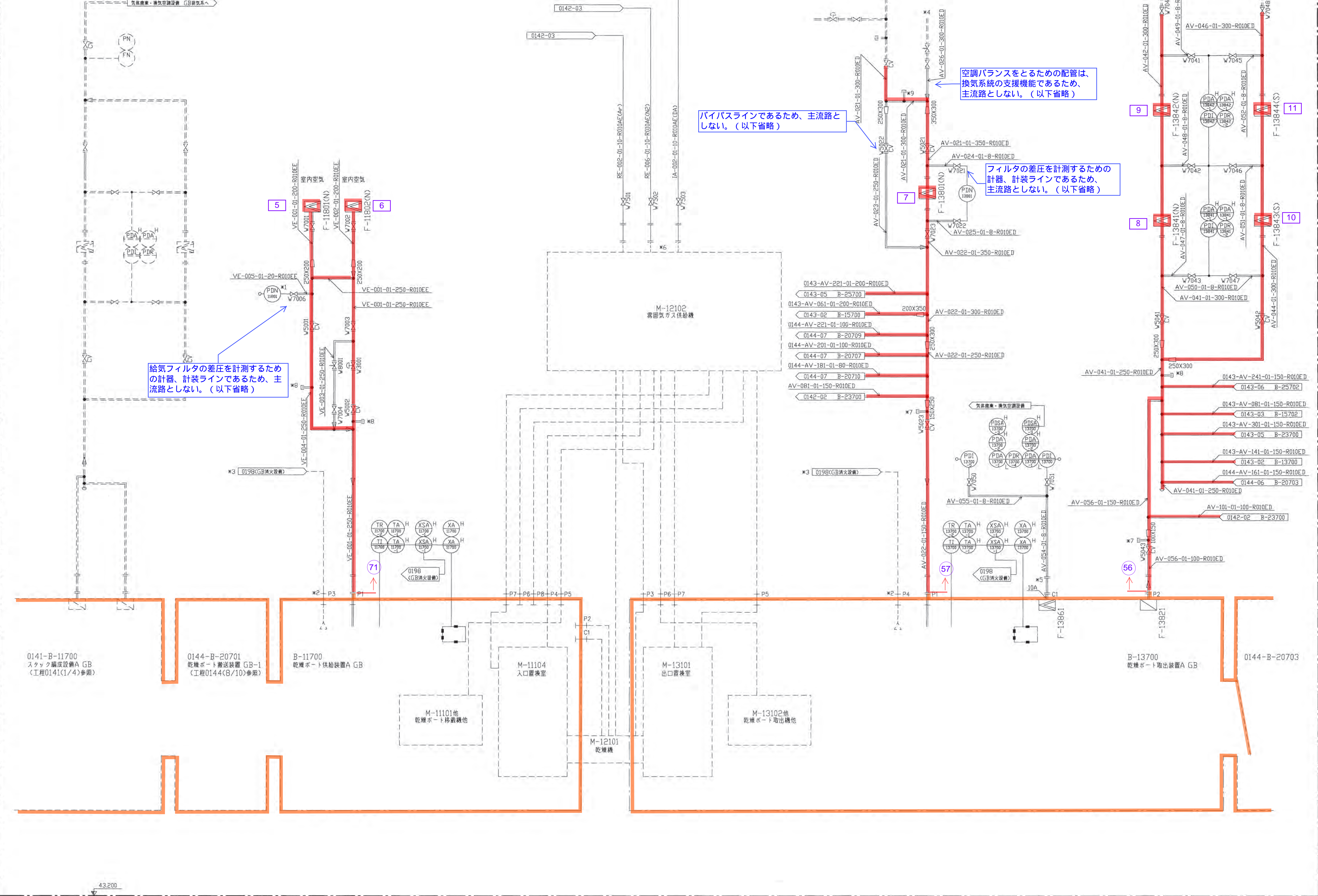
客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 燃料棒加工工程設備 (E) スタック編成設備 エンジニアリングフロー図 (B-21700) 工程:0141 (GB) (2/4)		

エンジニアリングフローダイアグラム  
PA0141-2/4



314燃料加工第1室

**【凡例】**  
**<配管等>**  
 ○番号：主配管との細付け番号( , , . . . . . )  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線：グローブボックス  
**<機器等>**  
 ○番号：機器等との細付け番号( [1], [2], . . . . . )  
 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



給気フィルタの差圧を計測するための計器、計装ラインであるため、主流路とししない。(以下省略)

バイパスラインであるため、主流路とししない。(以下省略)

空調バランスをとるための配管は、換気系統の支援機能であるため、主流路とししない。(以下省略)

フィルタの差圧を計測するための計器、計装ラインであるため、主流路とししない。(以下省略)

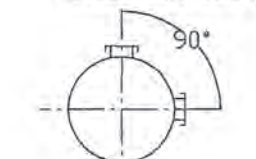
備考  
 1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
⊖	貫通口

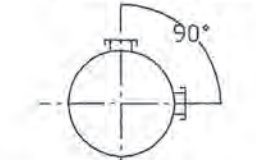
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては別室第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

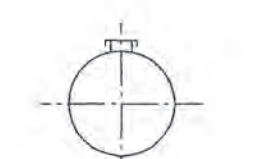
- \*1 仮設計器取外し時、継手部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径ファンジ(BAX10A)。
- \*6 スタック乾燥設備(E)取扱説明書(PM-0142-4368-002)参照。
- \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 継手部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



- \*8 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 継手部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



- \*9 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く) 継手部にねじ込みキャップ処置を施す。

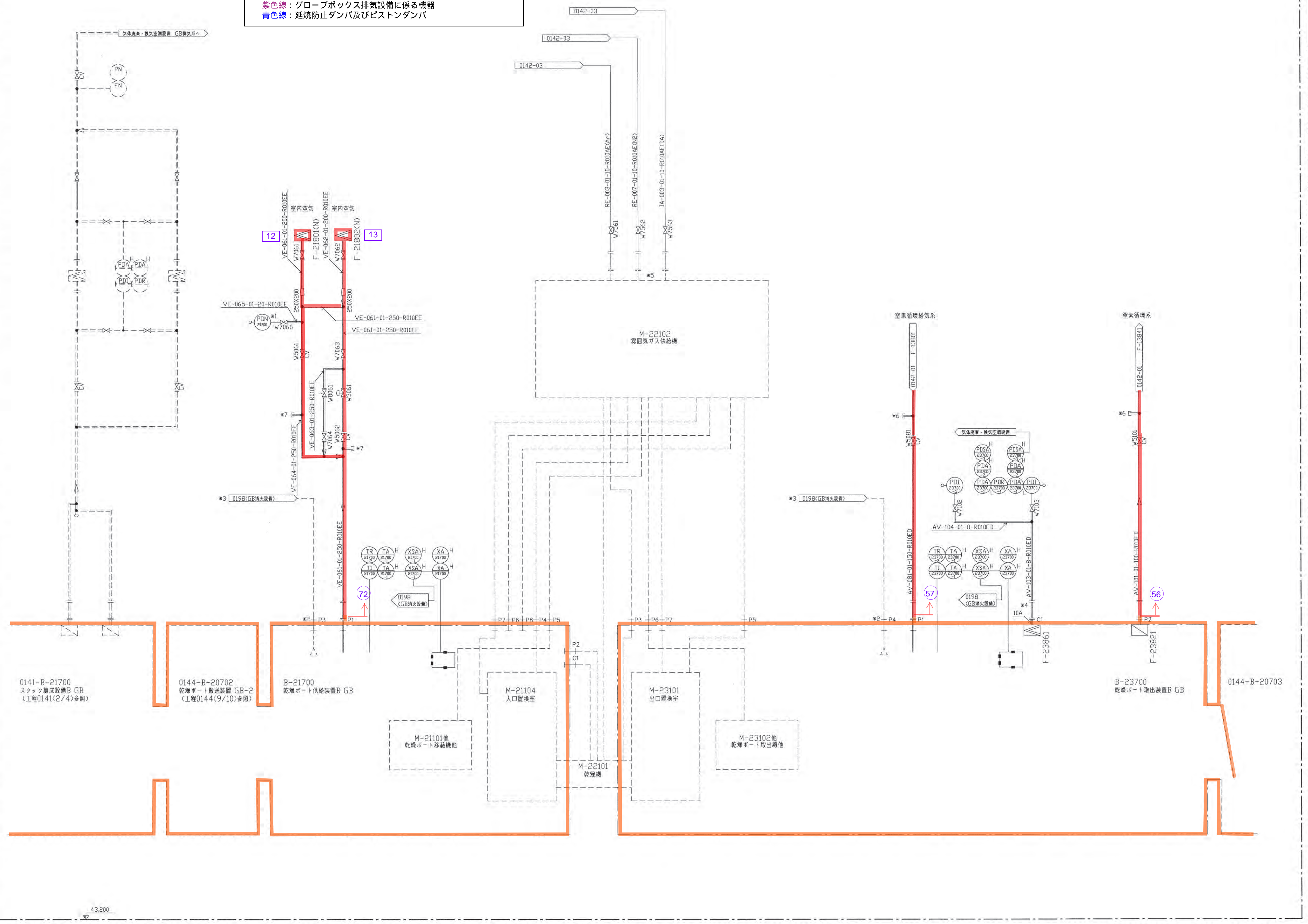


発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料加工工設備(E) スタック乾燥設備 エンジニアリングフロー図 (B-11700,13700) 工程:0142(GB) (1/3)		

エンジニアリングフローダイアグラム  
 PA0142-1/3



- 【凡例】
- <配管等>
- 番号：主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- <機器等>
- 番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



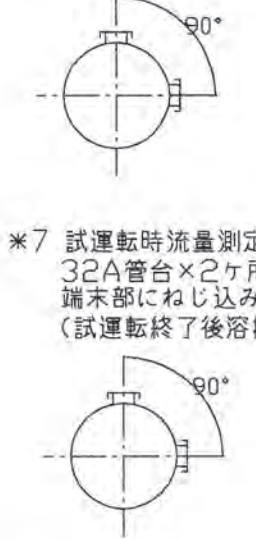
備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
Ⅰ-Ⅰ-Ⅰ	貫通口

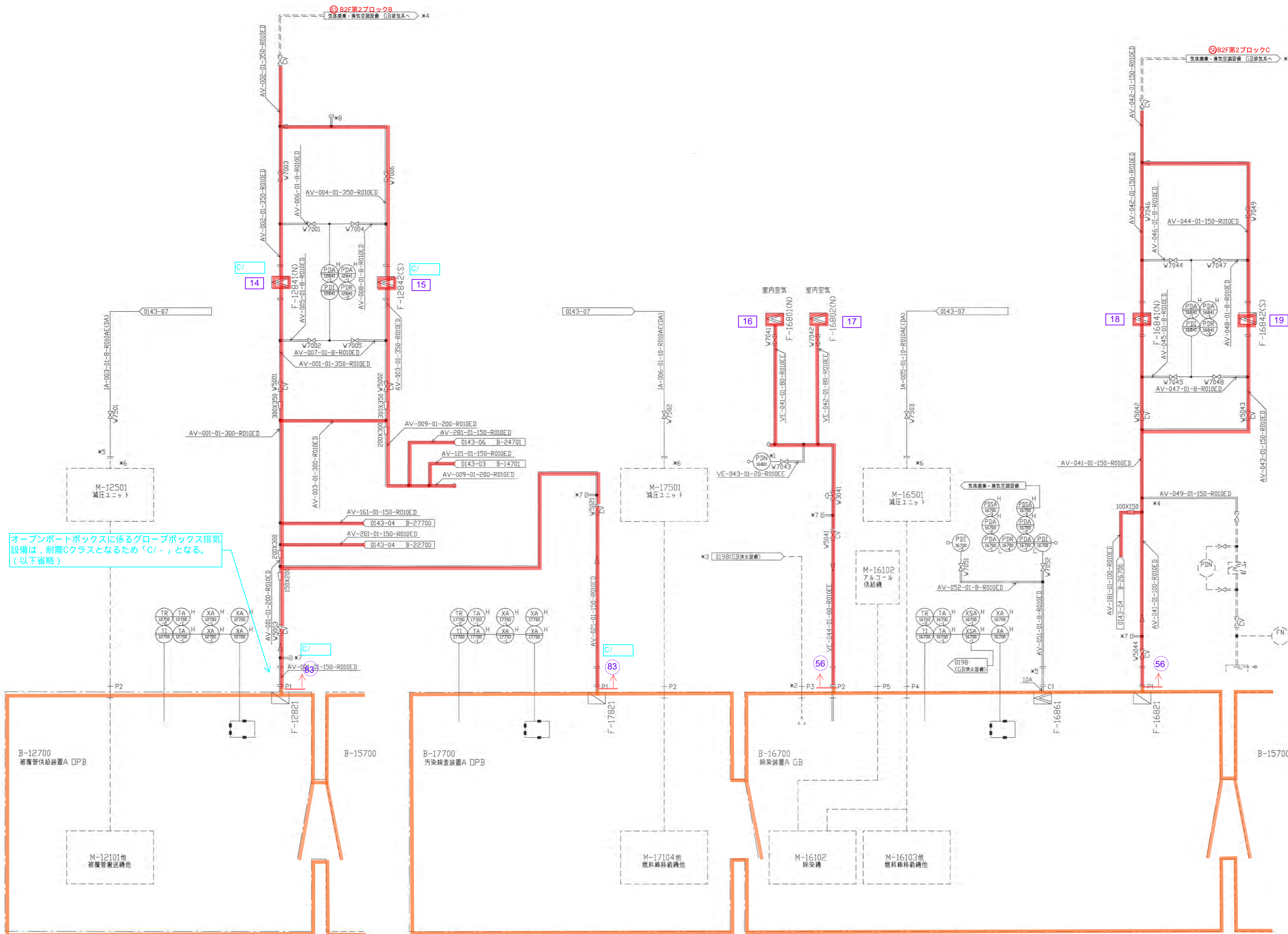
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、積末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
  - \*3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。
  - \*4 異径フレンジ(BAX10A)。
  - \*5 スタック乾燥設備(E)取扱説明書(PM-0142-4368-002)参照。
  - \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 積末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*7 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 積末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料精加工工設備(E) スタック乾燥設備 エンジニアリングフロー図 (B-21700, 23700) 工程: 0142 (GB) (2/3)		

エンジニアリングフローダイアグラム  
PA0142-2/3





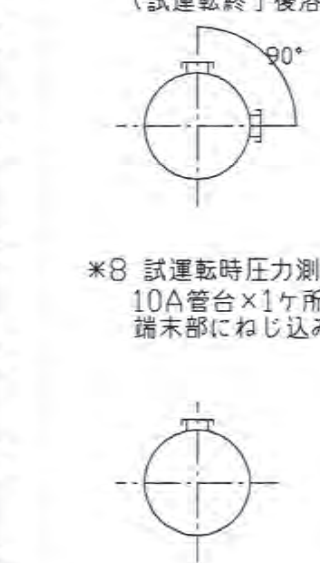
オープンポートボックスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Cクラスとなるため「C/-」となる。  
(以下省略)

備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
(凡例)

記号	名称
⊕	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに關しては、制御室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
  - \*3 防消火設備(GB消火設備)EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 真径フランジ(BAX10A)。
  - \*6 挿入溶接設備(E)取扱説明書(PM-0143-4368-002)参照。
  - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)端部にねじ込みキャップ処置を施す。



【凡例】

<配管等>

- 番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
- 赤色線: 主となる経路
- 青色線: 安全上重要な施設
- 緑色線: 重大事故等対処設備(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線: グローブボックス

<機器等>

- 番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . . .)
- 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	製図区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料加工工程設備(E) 挿入溶接設備 エンジニアリングフロー図 (B-12700,16700,17700) 工程:0143(GB) (1/7)		

エンジニアリングフローダイアグラム  
PA0143-1/7



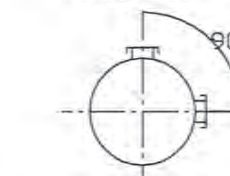
備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
—II—	貫通口

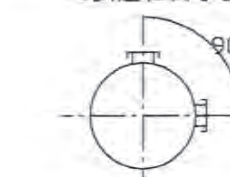
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては別室第2室にも表示する。

3. 注記（本図中の注記は下記に示す通り）

※1 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所（可能な範囲で短く）  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
（試運転終了後溶接キャップ止めとする）



※2 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所（可能な範囲で短く）  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
（試運転終了後溶接キャップ止めとする）



※3 防消火設備（GB消火設備）EFD参照。

※4 真径ファンジ（8AX10A）。

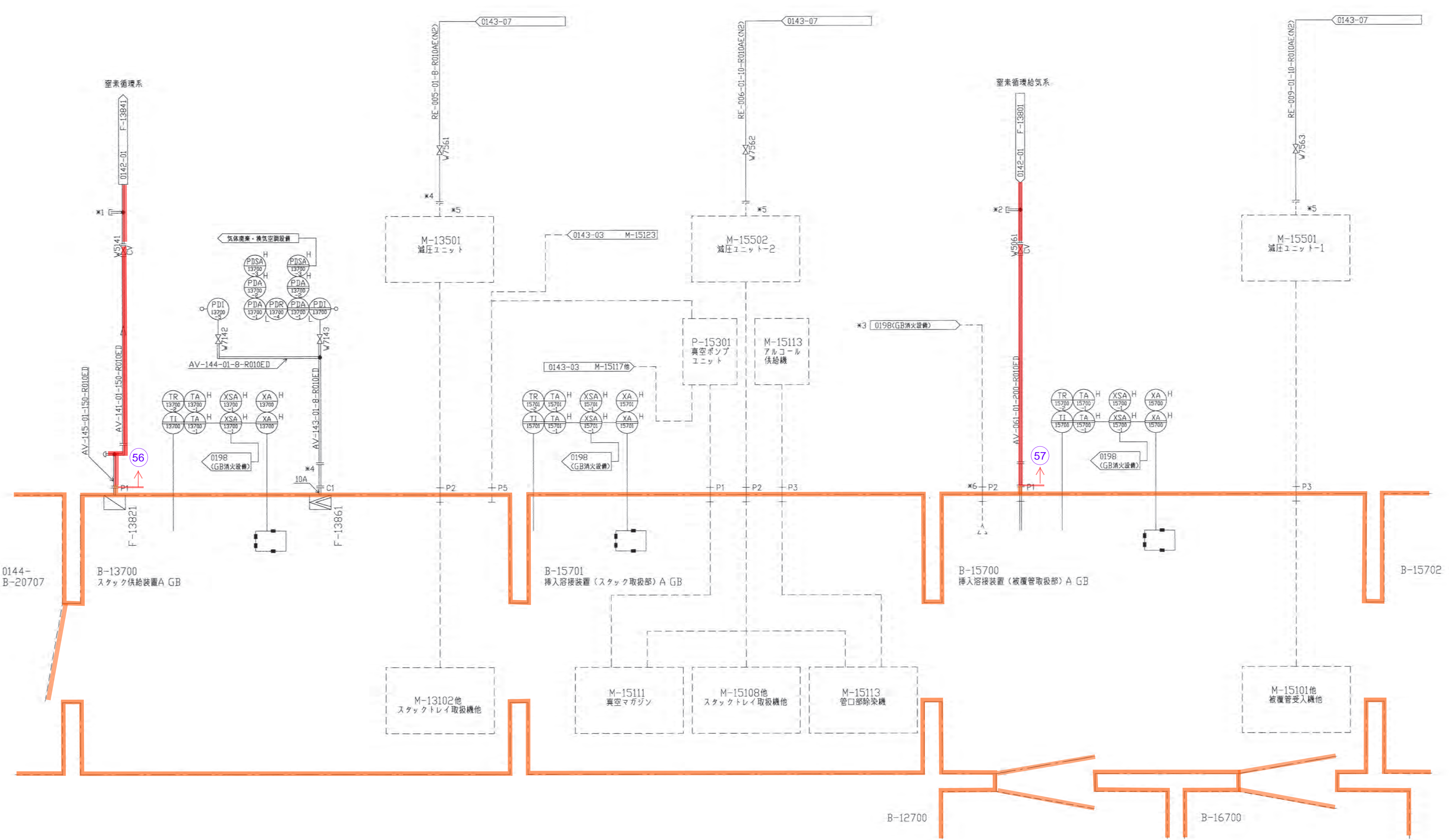
※5 挿入溶接設備（E）取扱説明書（PM-0143-4368-002）参照。

※6 室内空気供給ノズル近傍に設置する。

- 【凡例】
- <配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号（①，②，・・・）  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
（外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備）  
橙色線：グローブボックス
- <機器等>  
番号：機器等との紐付け番号（①，②，・・・）  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋（PA）燃料加工工程設備（E） 挿入溶接設備 エンジニアリングフロア図 （B-13700,15700,15701） 工程：0143（GB）（2/7）		

エンジニアリングフロアダイアグラム  
PA0143-2/7









備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

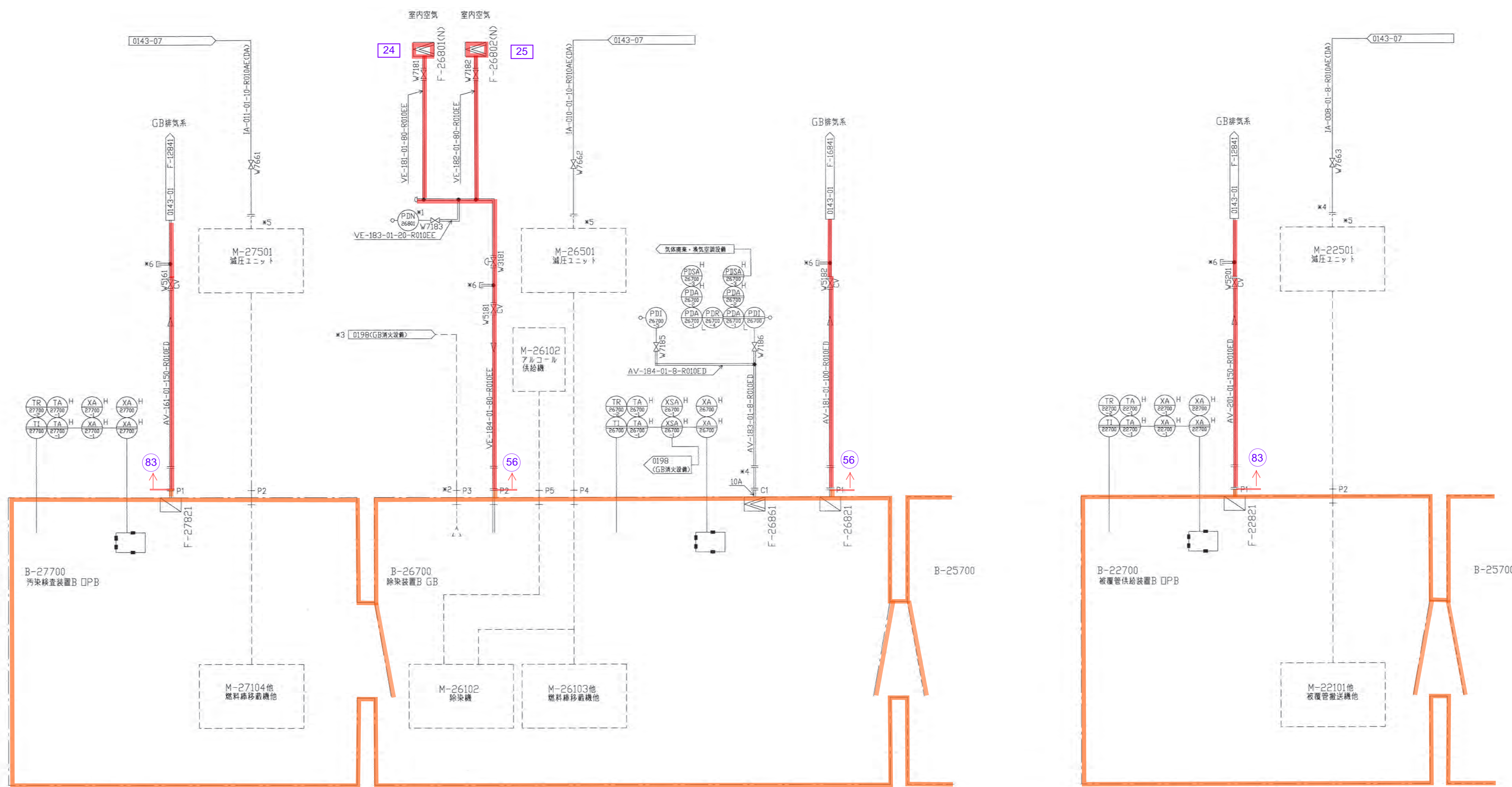
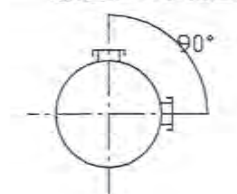
(凡例)

記号	名称
-I-I-I-	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては、制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
- \*4 異径フランジ(8AX10A)。
- \*5 挿入溶接設備(E)取扱説明書(PM-0143-4368-002)参照。
- \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



【凡例】  
 <配管等>  
 ○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス  
 <機器等>  
 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

製先名	日本原燃株式会社	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料添加II工程設備(E) 挿入溶接設備 エンジニアリングフロア図 (B-22700, 26700, 27700) 工程: 0143 (GB) (4/7)		

エンジニアリングフロ-ダイヤグラム  
PA0143-4/7







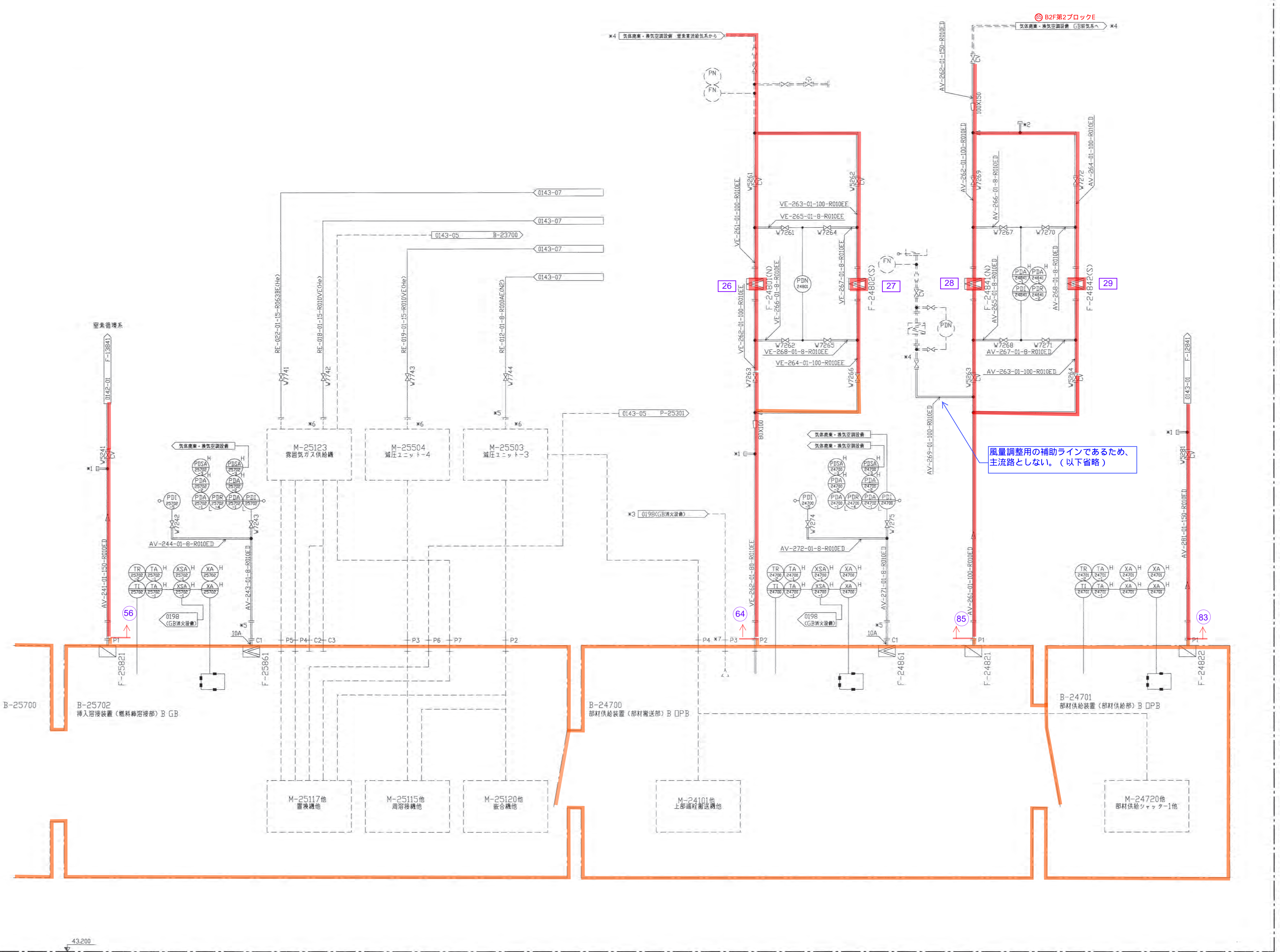
備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
⊕	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては別部第2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ取付を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*2 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ取付を施す。
  - \*3 防火設備(GB消火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ(8AX10A)。
  - \*6 挿入溶接設備(E)取扱説明書 (PM-0143-4368-002)参照。
  - \*7 室内空気供給ノズル近傍に設置する。



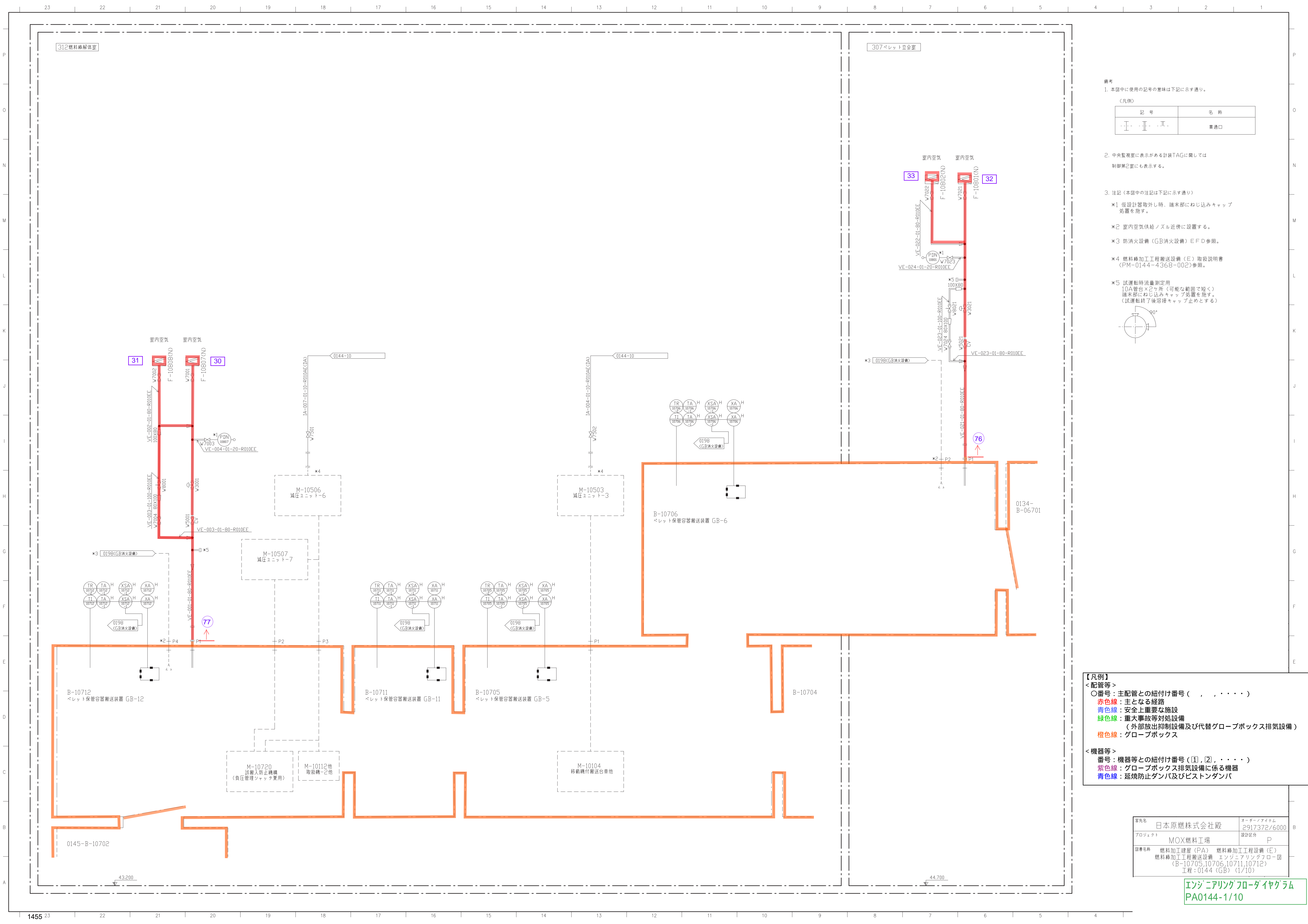
風量調整用の補助ラインであるため、主流路としな。 (以下省略)

- 【凡例】**
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図名	燃料加工建屋 (PA) 燃料補加工工程設備 (E) 挿入溶接設備 エンジェリアリングフロー図 (B-24700,24701,25702) 工程: 0143 (GB) (6/7)		

エンジニアリングフローダイアグラム  
PA0143-6/7



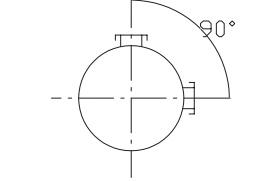


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

【凡例】

記号	名称
┌──┴──┐	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに類しては別階第2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
  - \*3 防火設備 (GB防火設備) EFD参照。
  - \*4 燃料精加工工程搬送設備 (E) 取扱説明書 (PM-0144-4368-002)参照。
  - \*5 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



【凡例】

<配管等>

- 番号：主配管との組付け番号 ( , , . . . )
- 赤色線：主となる経路
- 青色線：安全上重要な施設
- 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線：グローブボックス

<機器等>

- 番号：機器等との組付け番号 (①, ②, . . . )
- 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 燃料精加工工程設備 (E) 燃料精加工工程搬送設備 エンジニアリングフロー図 (B-10705,10706,10711,10712) 工程: 0144 (GB) (1/10)		

エンジニアリングフローダイヤグラム  
PA0144-1/10











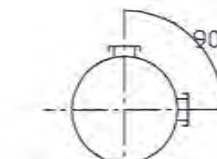
314燃料加工1室

備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

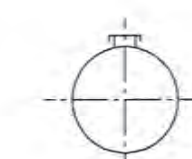
記号	名称
⊖	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。  
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB排気設備) EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランチ(8AX10A)。
- \*6 燃料加工工程搬送設備(E)取扱説明書(PM-0144-4368-002)参照。
- \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後付接キャップ止めとする)



- \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。

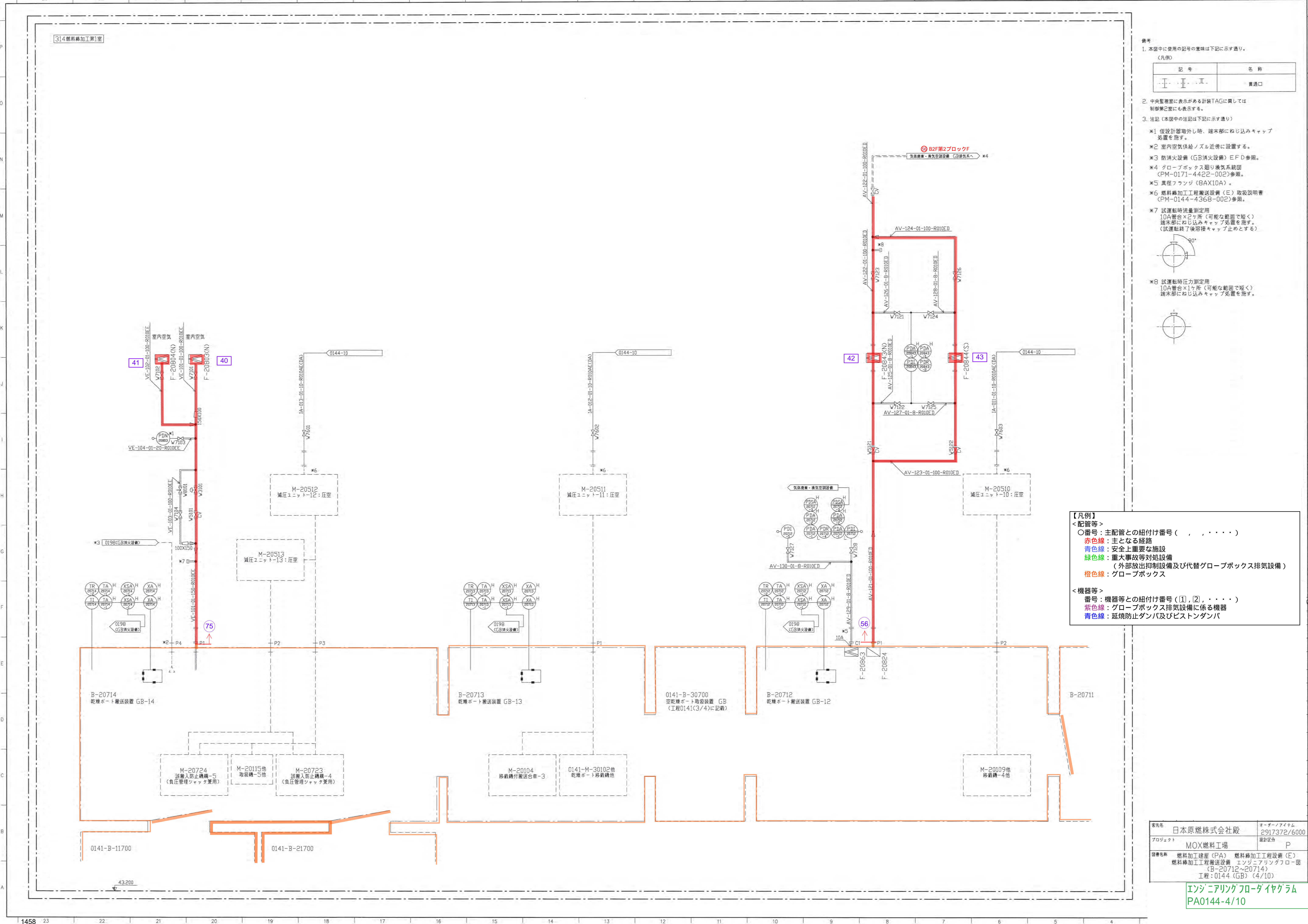


【凡例】

<配管等>  
 ○番号: 主配管との紐付け番号( , , , , , )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス

<機器等>  
 ○番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], , , , )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
設備名称	燃料加工建屋(PA) 燃料加工工程設備(E) 燃料加工工程搬送設備 エンジニアリングフロー図 (B-20712~20714) 工程: 0144 (GB) (4/10)		
エンジニアリングプロ-ダイアグラム PA0144-4/10			









備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

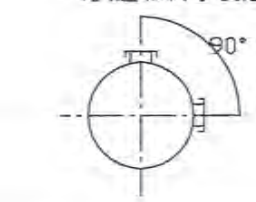
(凡例)

記号	名称
⊥	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

\*1 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
請未図にねじ込みキャップ取付を指示。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



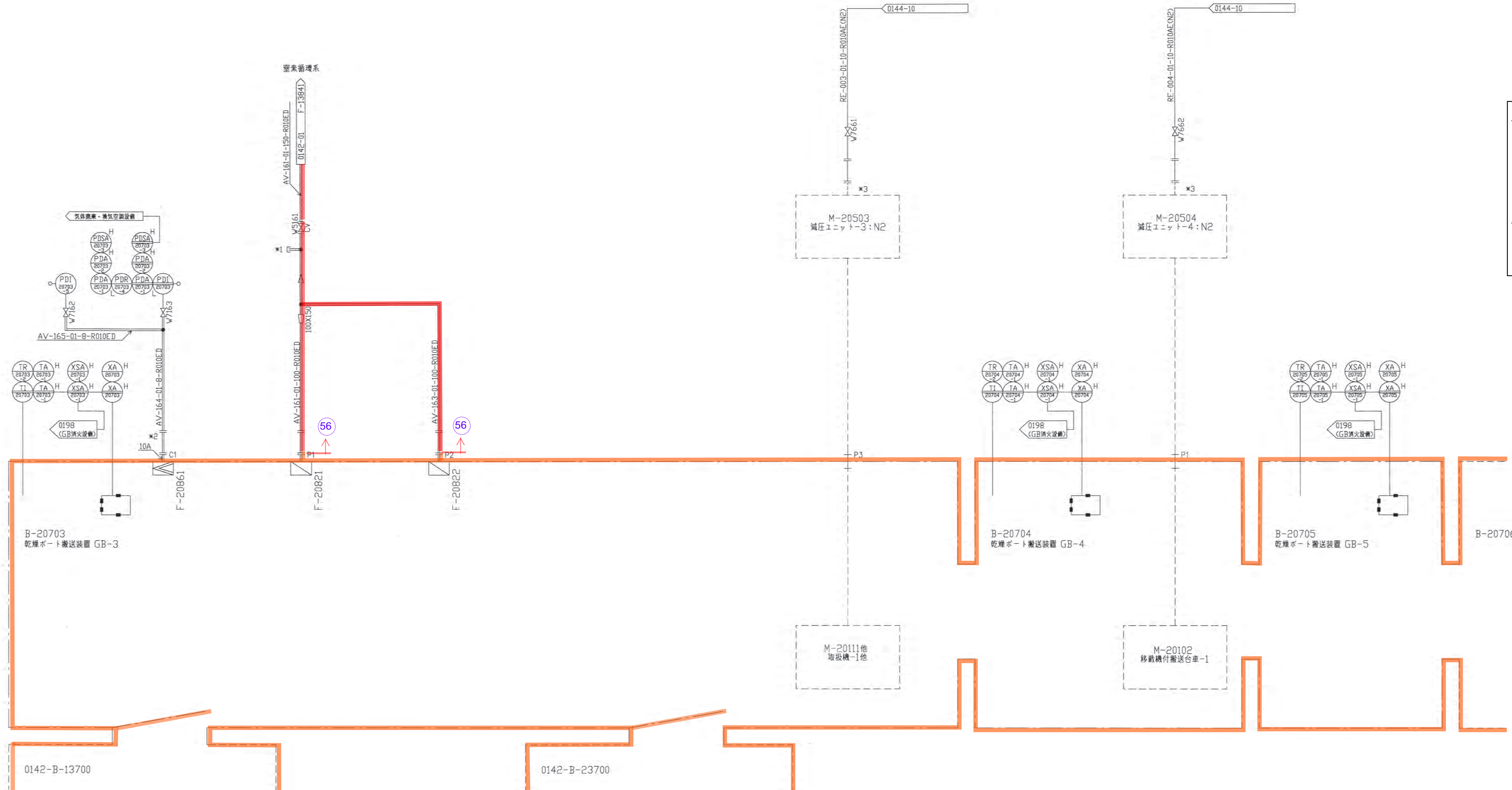
\*2 異径フランジ(8AX10A)。

\*3 燃料精加工工程搬送設備(E)取扱説明書(PM-0144-4368-002)参照。

【凡例】

<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対応施設  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線: グローブボックス

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



会社名	日本原株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料精加工工程設備(E) 燃料精加工工程搬送設備 エンジニアリングフロー図 (B-20703~20705) 工程: 0144 (GB) (6/10)		

エンジニアリングフローダイヤグラム  
PA0144-6/10



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

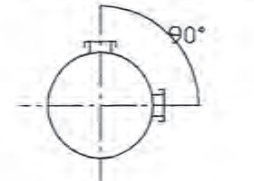
(凡例)

記号	名称
⊥	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては  
制御室2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

※1 試験時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
進捗部にねじ込みキャップ設置を施す。  
(試験終了後キャップ止めとする)



※2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。

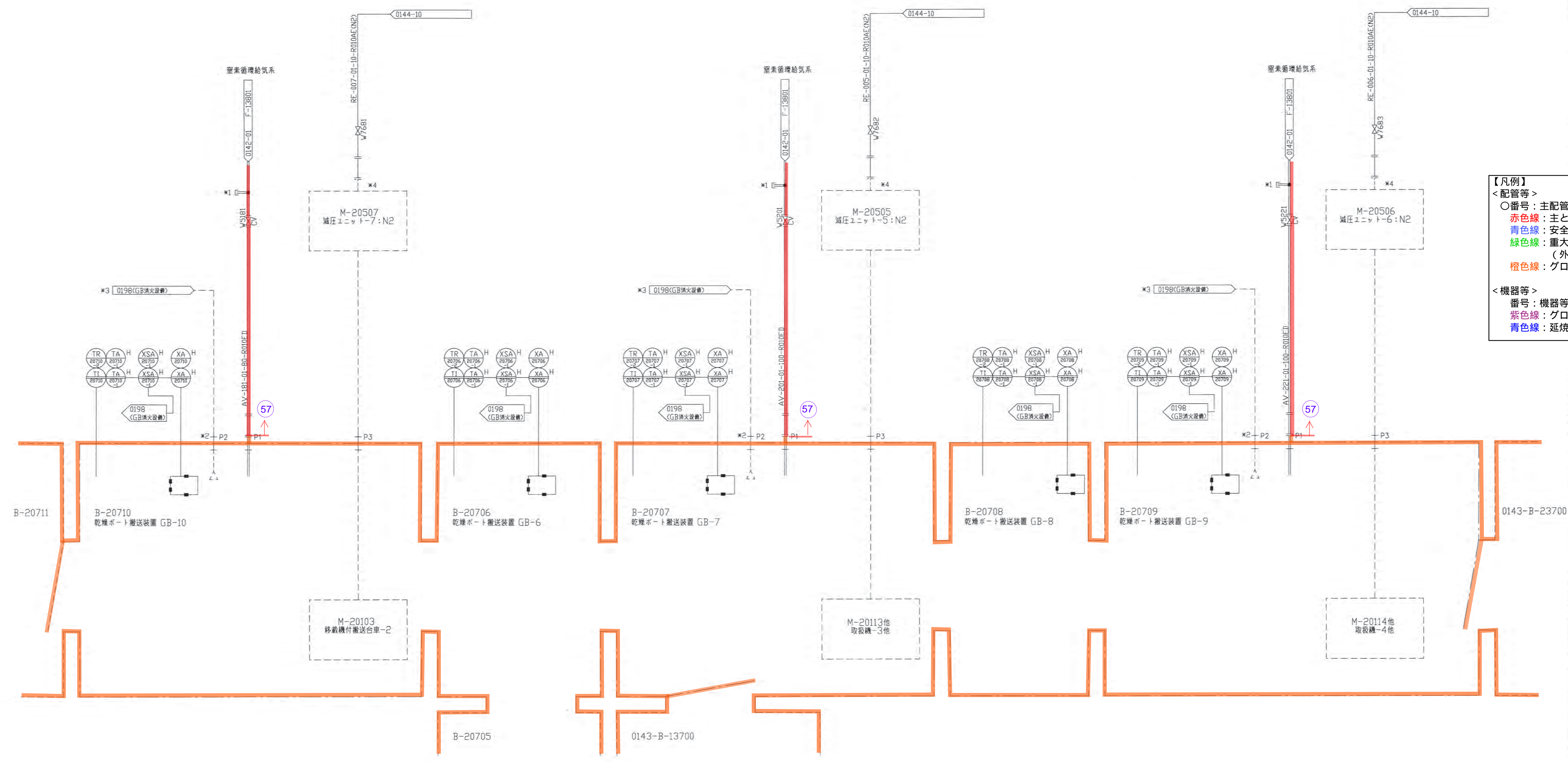
※3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。

※4 燃料加工工程搬送設備(E)取扱説明書  
(PM-0144-4368-002)参照。

**【凡例】**

<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号( , , , , , )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローボックス排気設備)  
橙色線: グローボックス

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, , , , )  
紫色線: グローボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



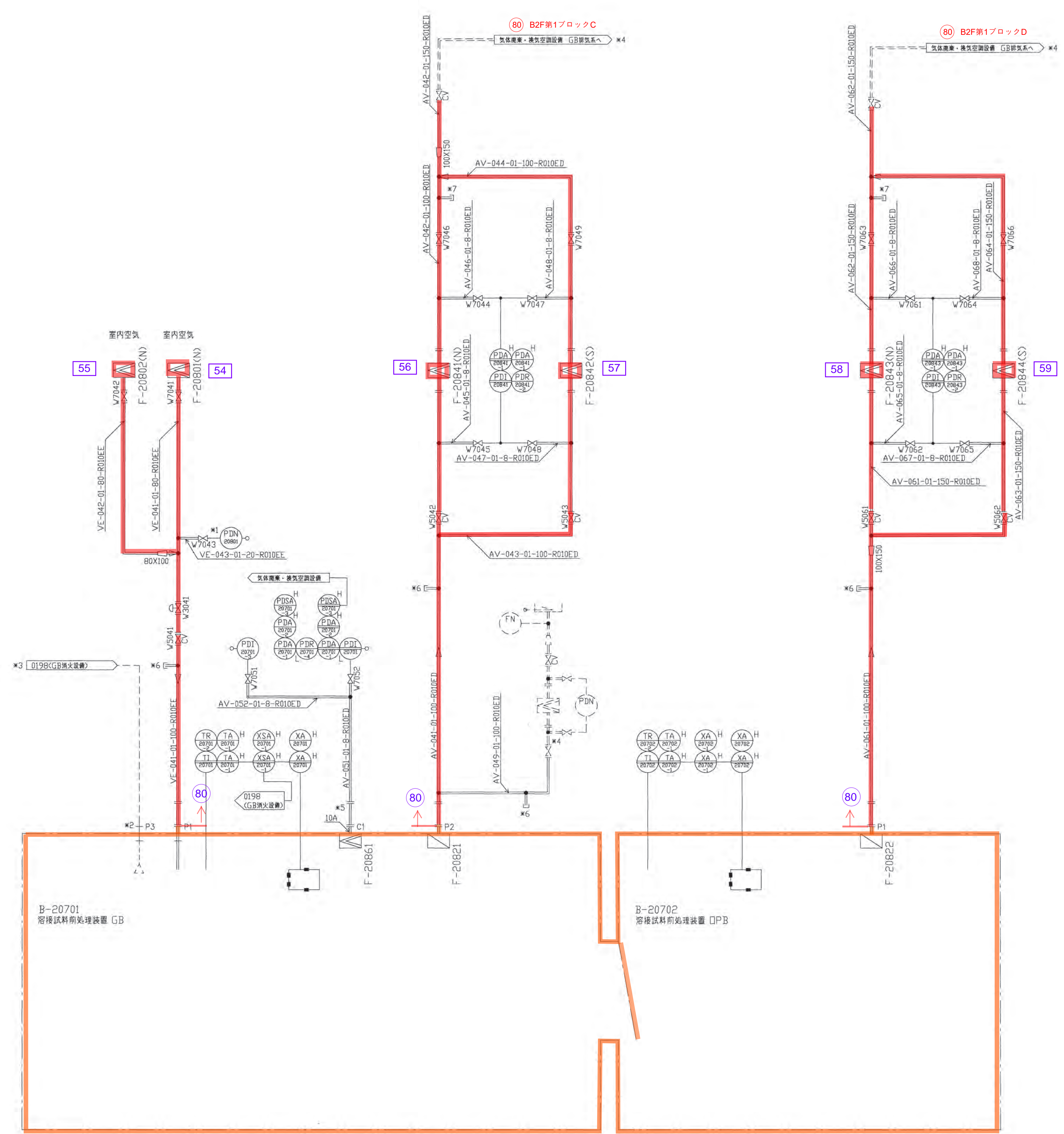
製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図名	燃料加工建屋(PA) 燃料加工工程設備(E) 燃料加工工程搬送設備 エンジニアリングフロー図 (B-20706~20710) 工程: 0144 (GB) (7/10)		

エンジニアリングフローダイヤグラム  
PA0144-7/10









- 備考
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  

記号	名称
⊠	貫通口
  2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては別図第2室にも表示する。
  3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)  
    - \*1 仮設計器取外し時、継末部にねじ込みキャップ処置を施す。
    - \*2 室内空気供給ノズル近傍に設置する。
    - \*3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
    - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
    - \*5 異径ファンジ(BAX10A)。
    - \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)継末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
    - \*7 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)継末部にねじ込みキャップ処置を施す。

- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , , , , )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, , , , )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 燃料格納加工工程設備(E) 燃料格納施設 燃料格納加工工程設備(E) (B-20701, 20702) 工程: 0145 (GB) (2/3)		

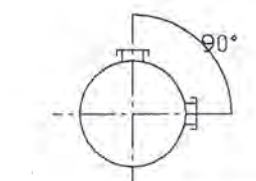


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
(凡例)

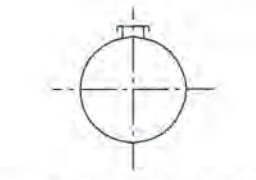
記号	名称
⊕	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室2室にも表示する。  
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

\*1 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



\*2 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。



- \*3 防火設備 (GB防火設備) EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径ファン (8AX10A)。
- \*6 気送設備 EFD (PF-0161-4122-001)参照。
- \*7 受払・分配装置及び搬送装置1・2取扱説明書 (PM-0163-4368-001)参照。
- \*8 分析機器配管図 (PM-0163-4141-001)参照。
- \*9 給気口近傍に設置する。

**【凡例】**

<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号 ( , , , , )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対策設備  
橙色線: グローブボックス及び代替グローブボックス排気設備

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号 (①, ②, , , )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びヒストンダンパ

耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、給気フィルタ、排気フィルタは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)

グローブボックス内の機器に関する系統であるため、換気空調設備ではないことから対象外(以下省略)

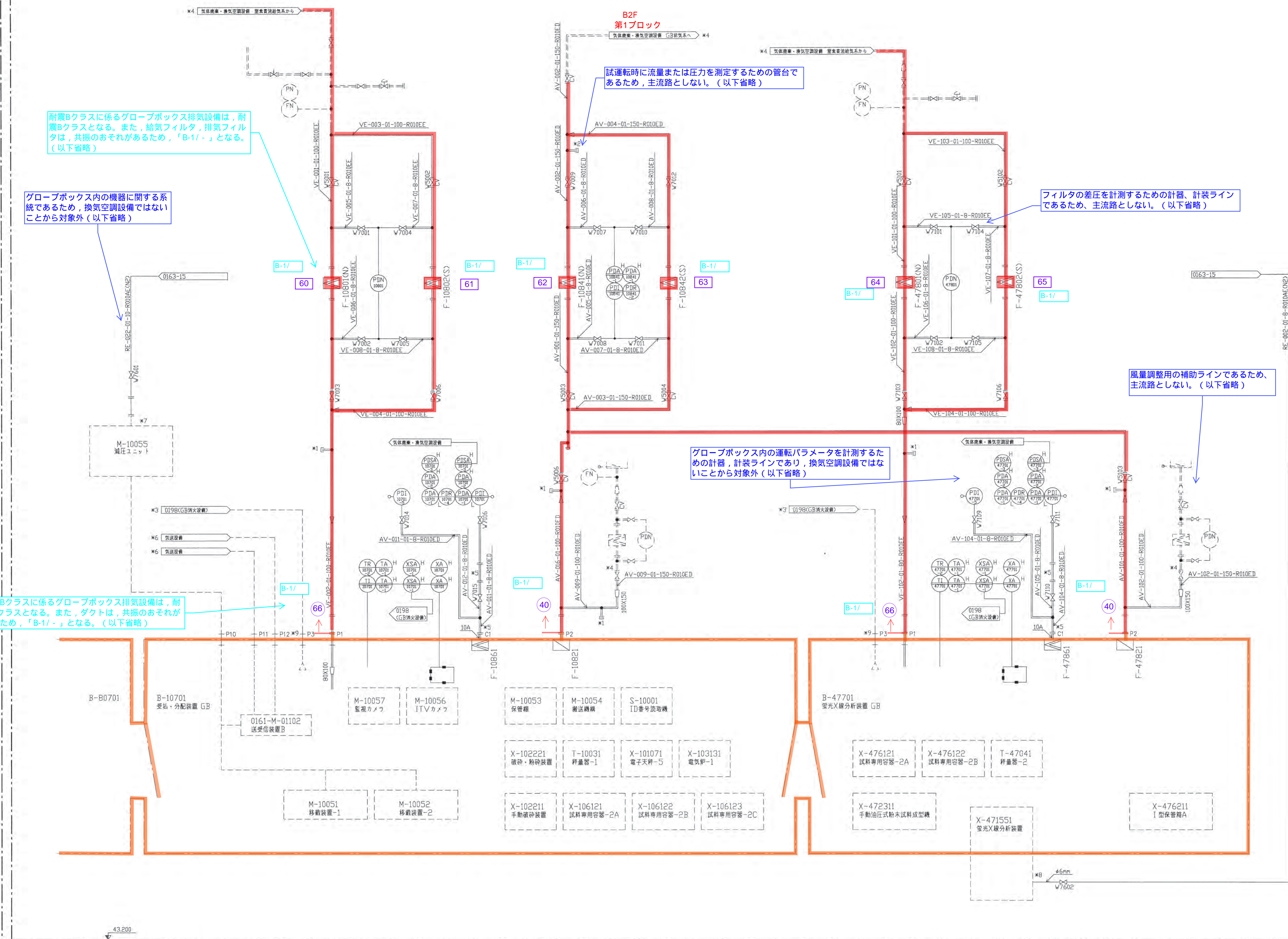
試運転時に流量または圧力を測定するための管台であるため、主流路としない。(以下省略)

フィルタの差圧を計測するための計器、計装ラインであるため、主流路としない。(以下省略)

風量調整用の補助ラインであるため、主流路としない。(以下省略)

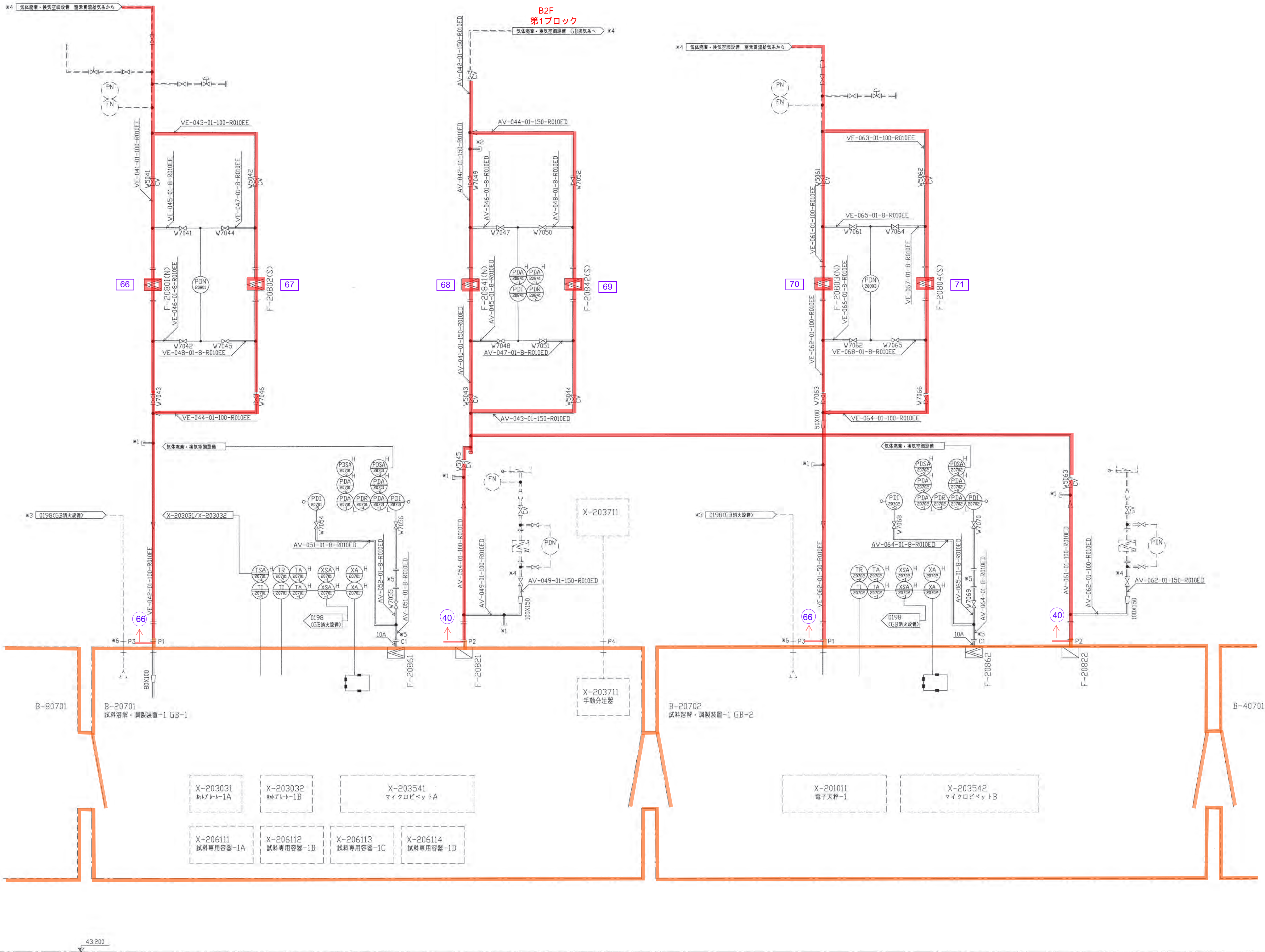
グローブボックス内の運転パラメータを計測するための計器、計装ラインであり、換気空調設備ではないことから対象外(以下省略)

耐震Bクラスに係るグローブボックス排気設備は、耐震Bクラスとなる。また、ダクトは、共振のおそれがあるため、「B-1/-」となる。(以下省略)



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
設備名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) アルミニウム・ワウム分析設備 エンジニアリングフロア (B-10701, B-47701) 工程: 0163 (GB) (1/18)		
	エンジニアリングフロア PA0163-1/18		

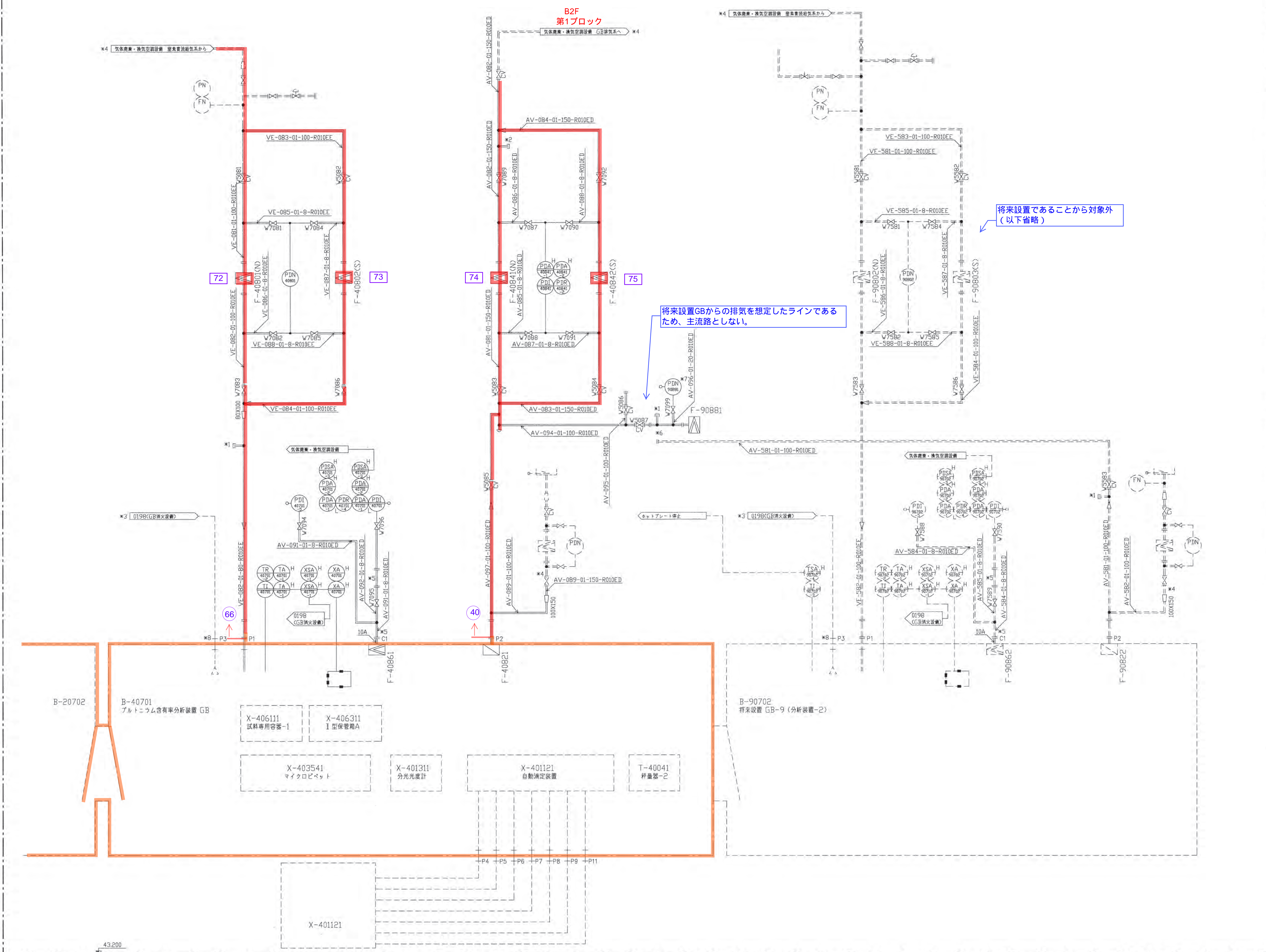




- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , , . . . . .)
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルミニウム・フッ素分析設備 エンジニアリングフロー図 (B-20701, B-20702) 工程: 0163 (GB) (2/18)		
	エンジニアリング70-ダイヤグラム PA0163-2/18		





将来設置であることから対象外(以下省略)

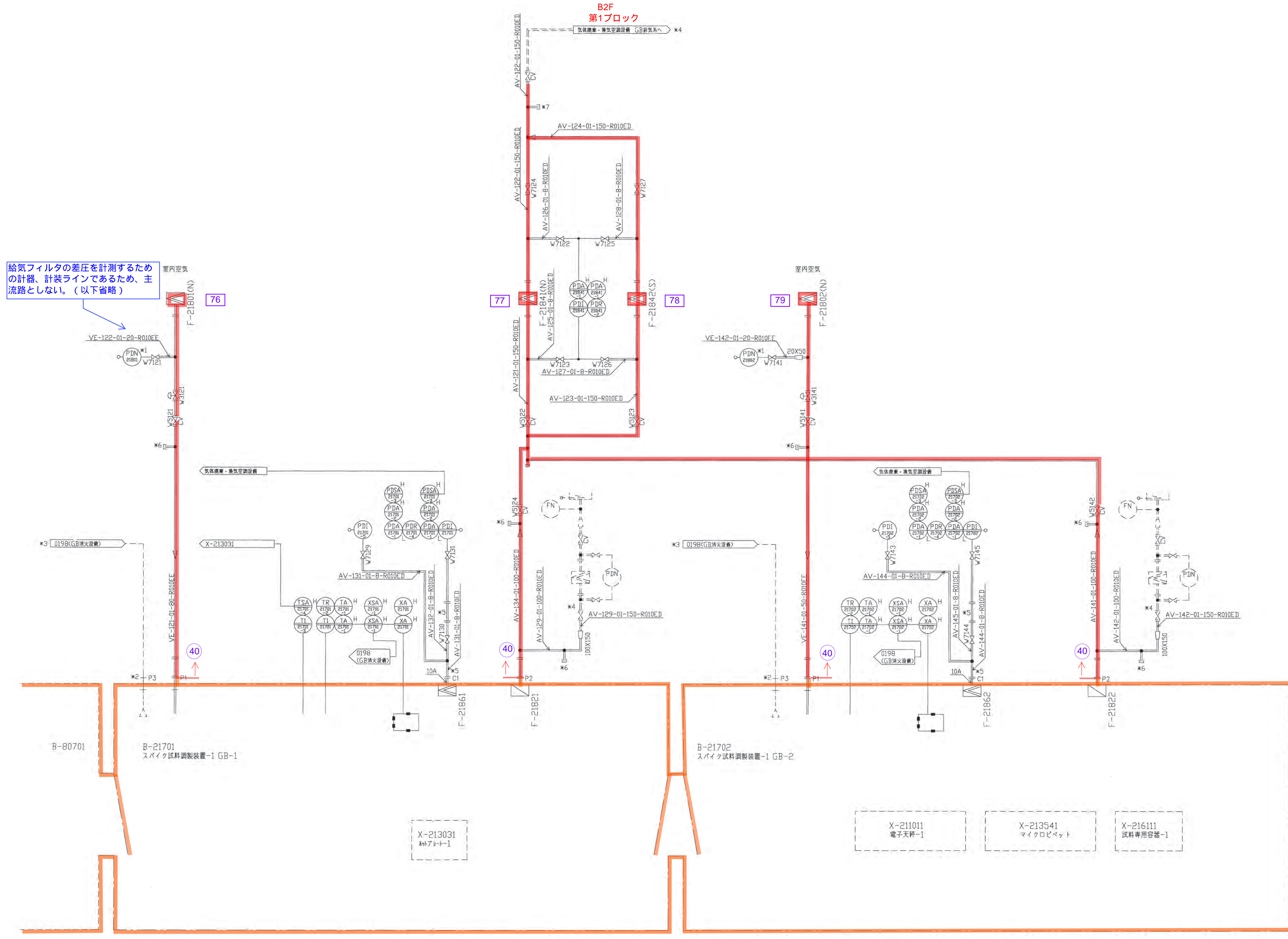
将来設置GBからの排気を想定したラインであるため、主流路としない。

- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , , , , )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, , , , )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA)分析設備(G)アルトニウム・フロン分析設備 エンジニアリングフロア(B-40701,B-90702) 工程:0163(GB)(3/18)		

エンジニアリングフロアダイヤグラム  
PA0163-3/18



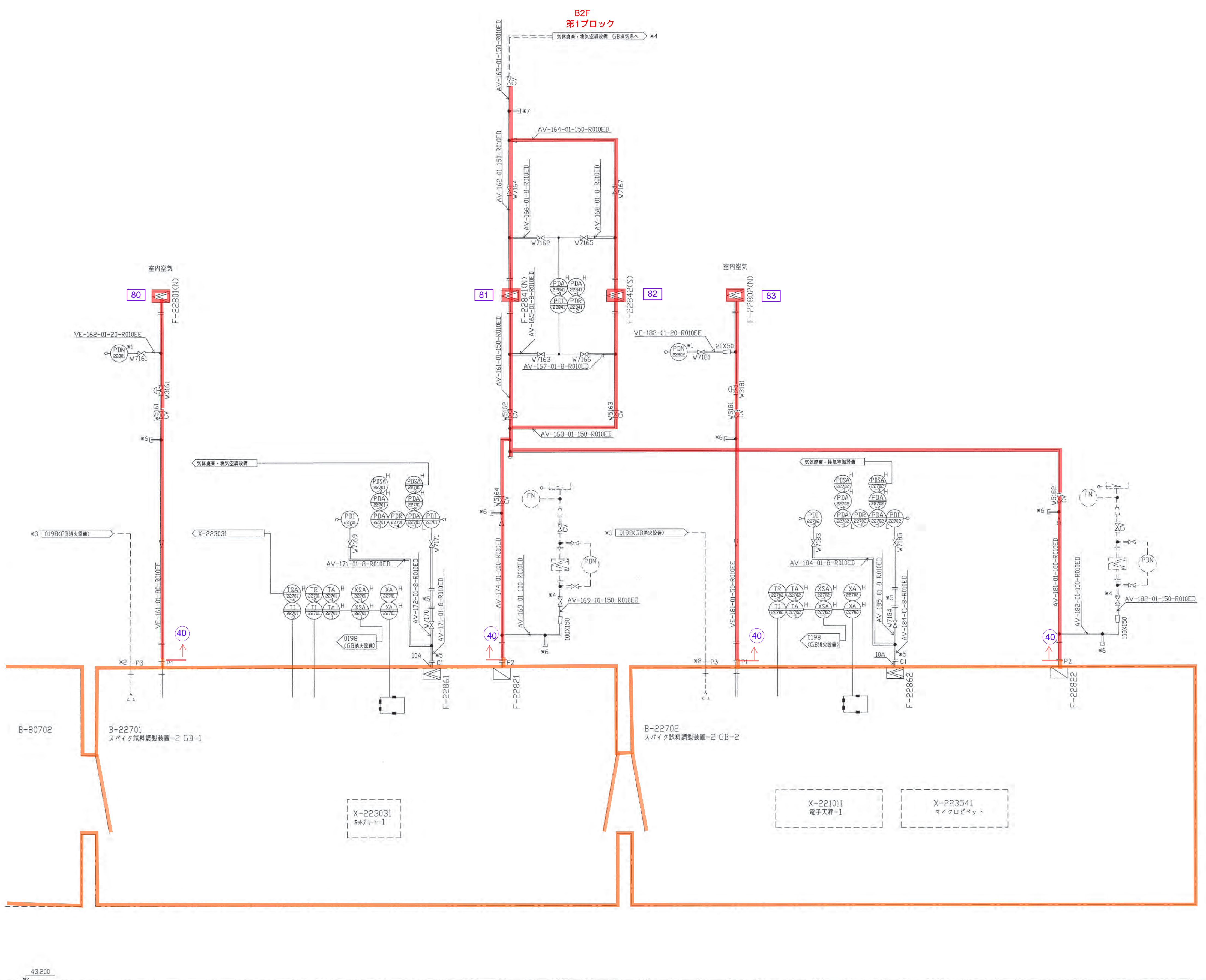


- 備考
- 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
(凡例)
- | 記号 | 名称  |
|----|-----|
| ⊥  | 貫通口 |
- 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室にも表示する。
  - 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
    - \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
    - \*2 給気口近傍に設置する。
    - \*3 防消火設備(GB消火設備)EFD参照。
    - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
    - \*5 異径フランジ(8AX10A)。
  - 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後後継キャップ止めとする)
  - 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)端部にねじ込みキャップ処置を施す。

- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との細付け番号( , , . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処施設 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との細付け番号( [1], [2], . . . )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルトニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフォロー図 (B-21701, B-21702) 工程: 0163 (GB) (4/18)		





- 備考
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  

記号	名称
	貫通口
  2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては、新制第2室にも表示する。
  3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
    - \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
    - \*2 給気口近傍に設置する。
    - \*3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。
    - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
    - \*5 真径ファンジ(8AX10A)。
    - \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
    - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。

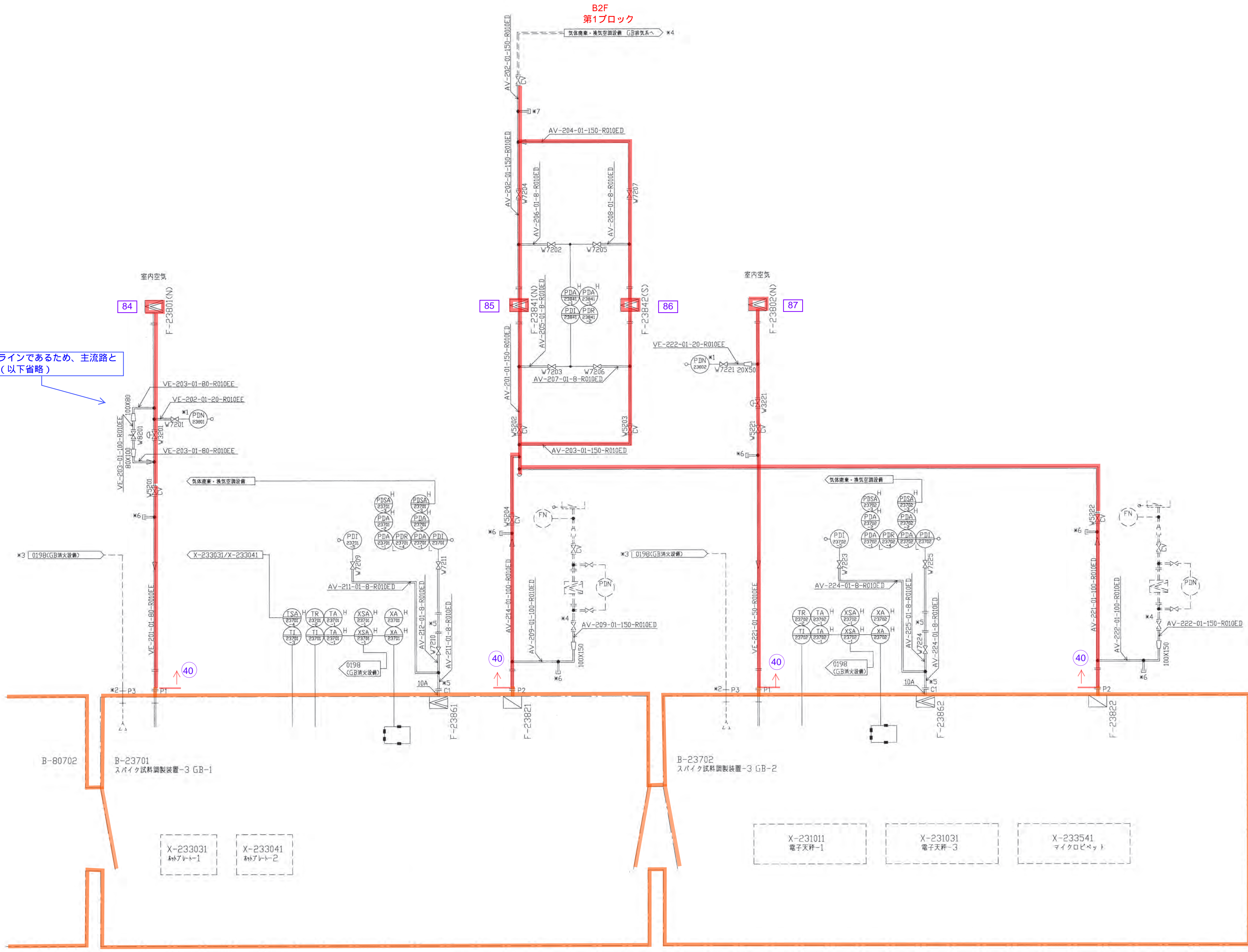
- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との細付け番号 ( , , . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との細付け番号 ( [1], [2], . . . )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルトニウム・フッ素分析設備 エンジニアリングフロア (B-22701, B-22702) 工程: 0163 (GB) (5/18)		

インシニアリングフロア  
PA0163-5/18



バイパスラインであるため、主流路としない。(以下省略)



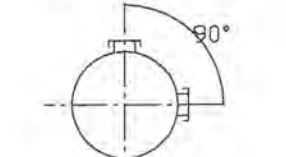
記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに同じでは制御室2室にも表示する。

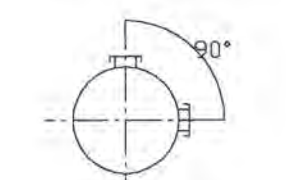
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB消火設備) EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランジ (8AX10A)。

\*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



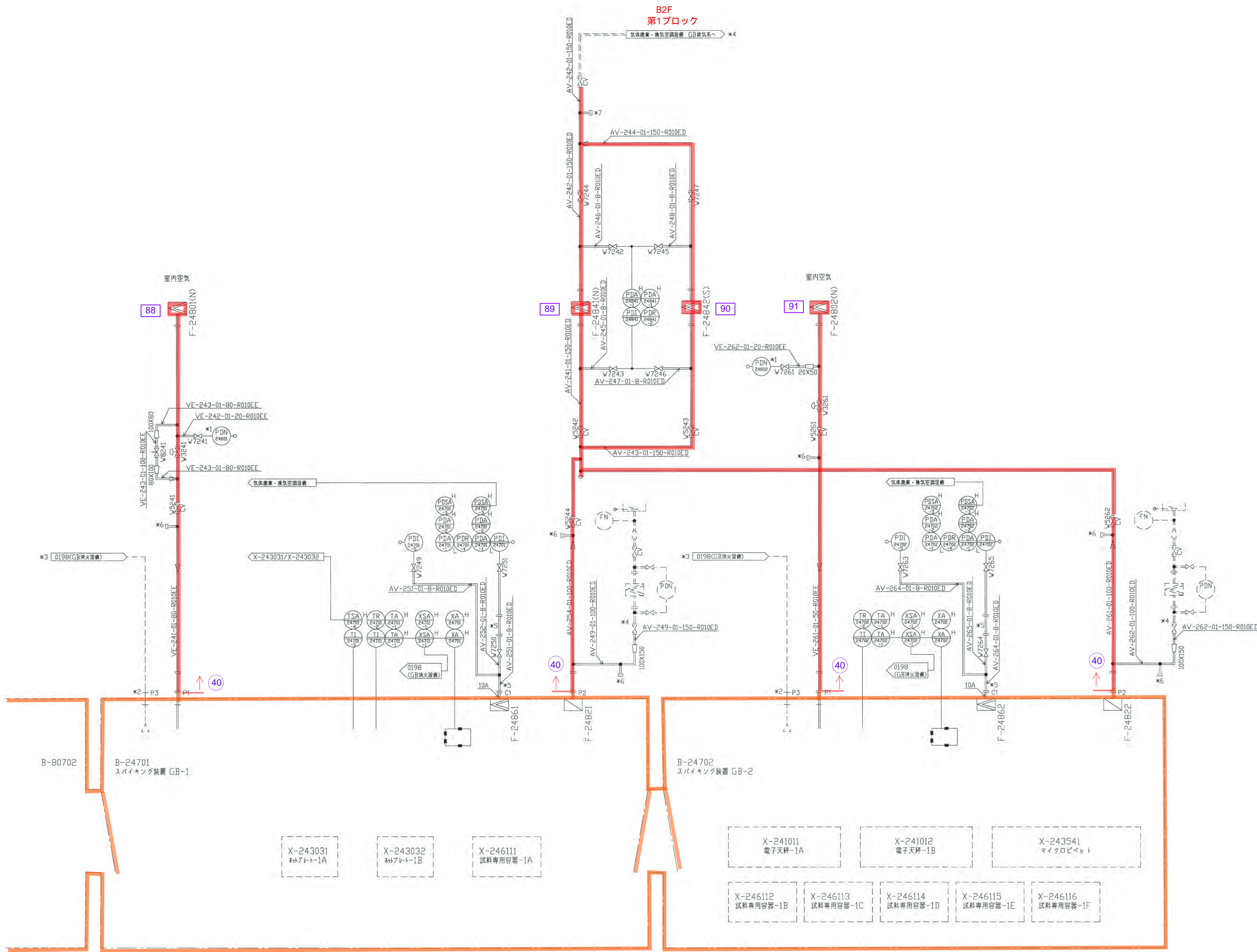
\*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。



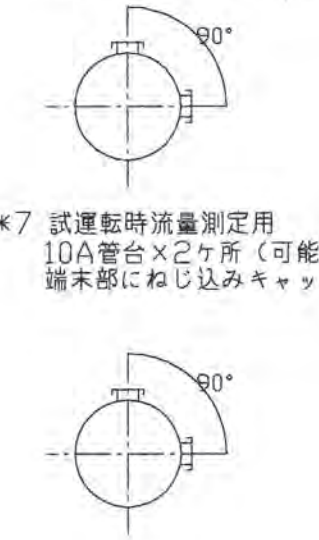
- 【凡例】
- <配管等>
  - 番号: 主管管との組付け番号( , , , , )
  - 赤色線: 主たる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
  - <機器等>
  - 番号: 機器等との組付け番号( [1], [2], , , )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) アルミニウム・フロン分析設備 エンジニアリングフロア図 (B-23701,B-23702) 工程: 0163 (GB) (6/18)		





2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防消火設備(GB消火設備)EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径ファン(8AX10A)。
  - \*6 試験時流量測定用  
10A相当×2ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試験終了後溶接キャップ止めとする)



- \*7 試験時流量測定用  
10A相当×2ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。

- 【凡例】
- <配管等>
- 番号：主配管との細付け番号( , , , . . . )
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- <機器等>
- 番号：機器等との細付け番号(①, ②, . . . )
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
部署名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルミニウム・フロン分析設備 エンジニアリングフロア (B-24701, B-24702) 工程: 0163 (GB) (7/18)		



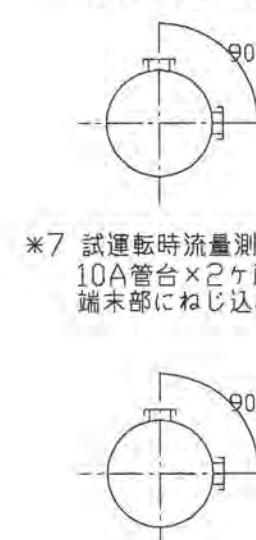
B2F  
第1ブロック

備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

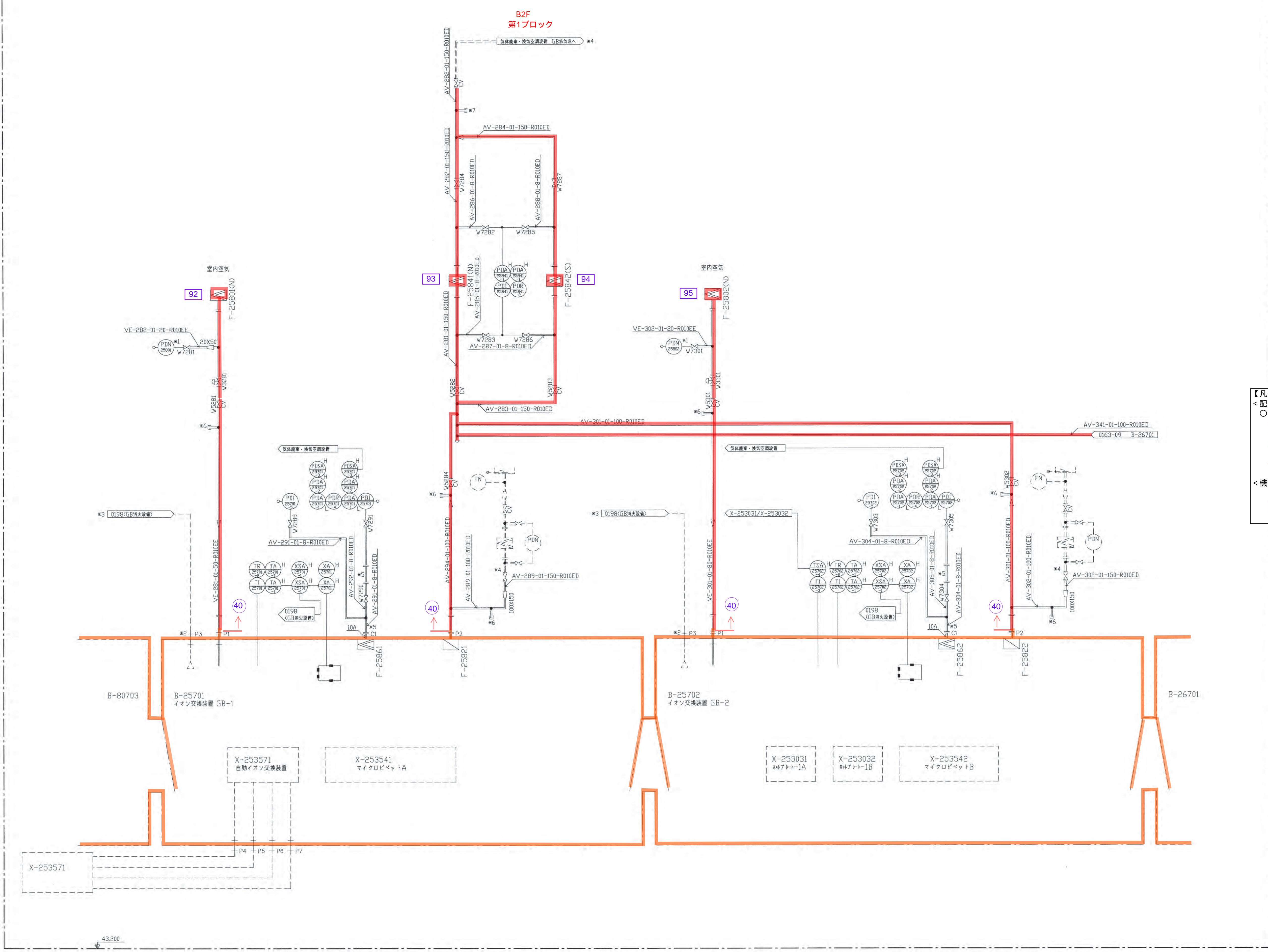
(凡例)

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては  
制御室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、請末部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防消火設備(GB防消火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フレンジ (8AX10A)。
  - \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
請末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
請末部にねじ込みキャップ処置を施す。



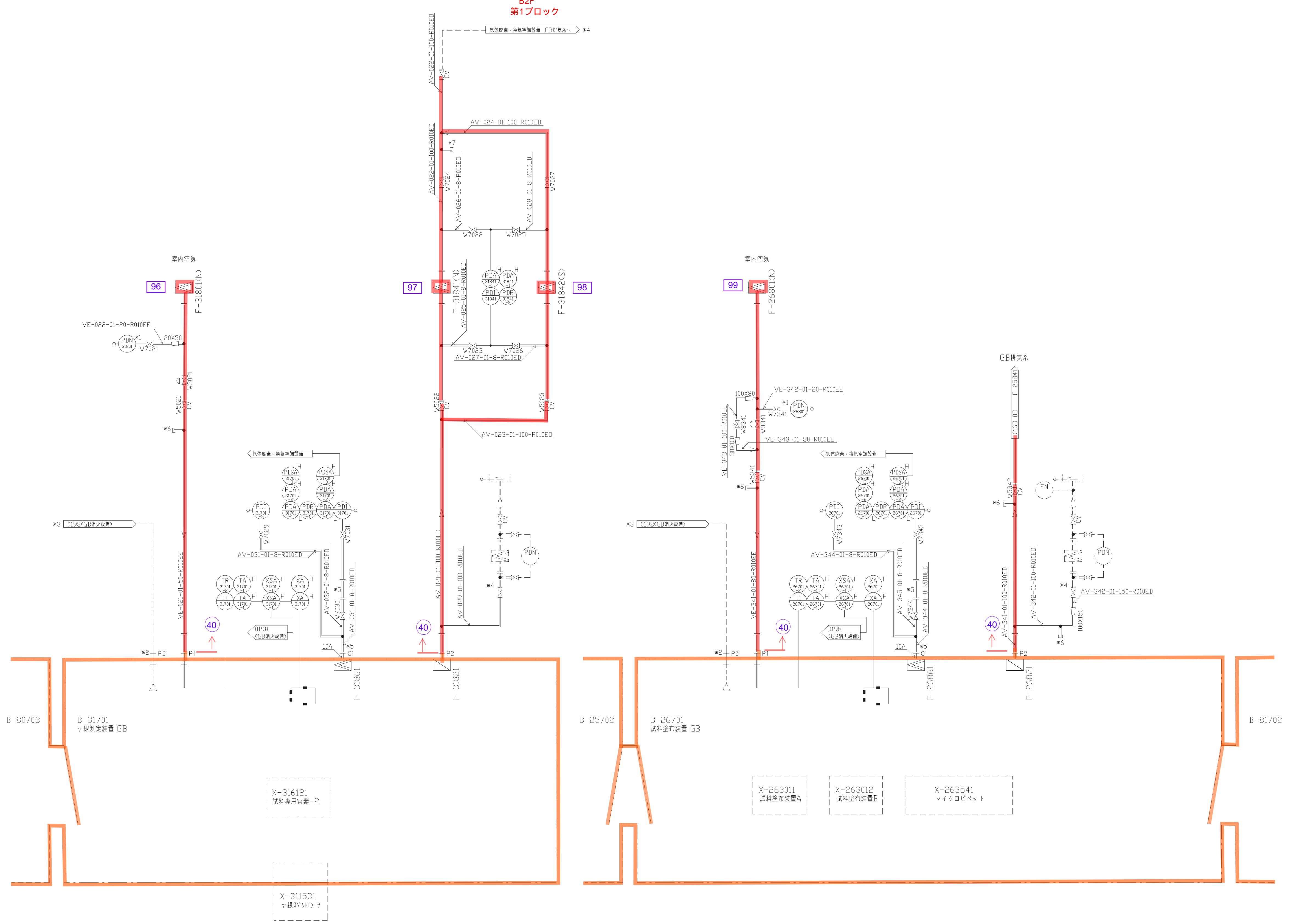
- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , , . . . . .)
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) アルミニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフロア (B-25701, B-25702) 工程: 0163 (GB) (8/18)		



B2F  
第1ブロック



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

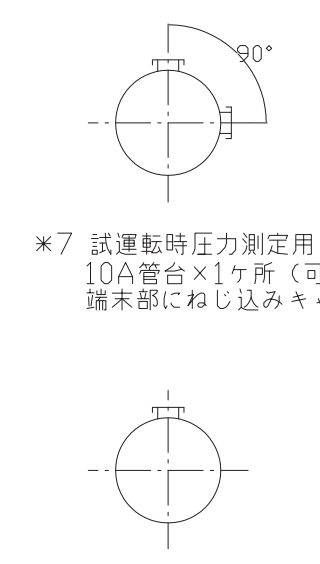
(凡例)

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては別紙第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、諸末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防消火設備 (GB消火設備) EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランジ (8AX10A)。
- \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く)  
諸末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
- \*7 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く)  
諸末部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**

**<配管等>**  
 ○番号: 主配管との紐付け番号 ( , , . . . . . )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス

**<機器等>**  
 番号: 機器等との紐付け番号 ( [1], [2], . . . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) プルトニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフロア (B-31701, B-26701) 工程: 0163 (GB) (9/18)		

エンジニアリングフローダイヤグラム  
PA0163-9/18

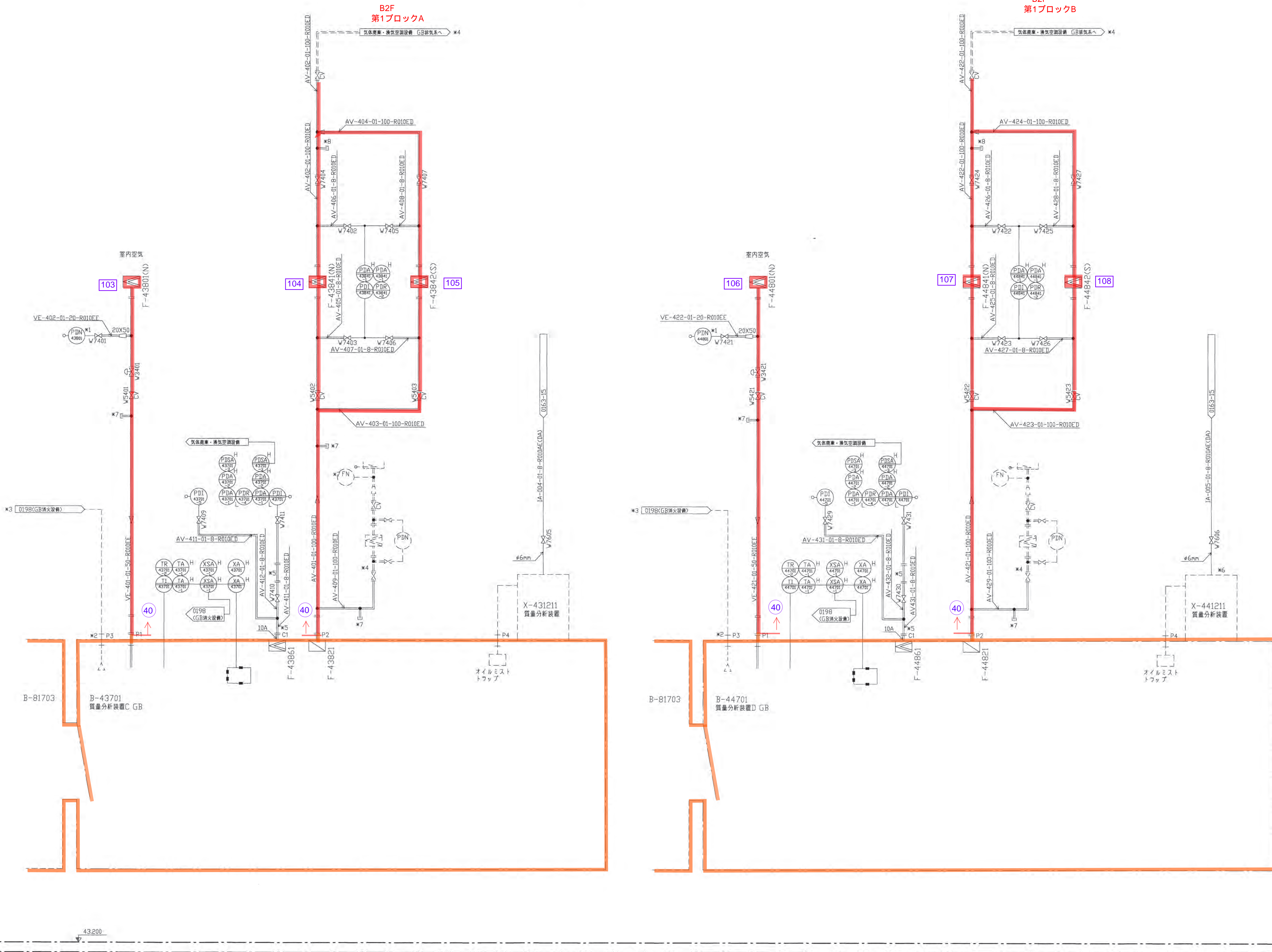






B2F  
第1ブロックA

B2F  
第1ブロックB

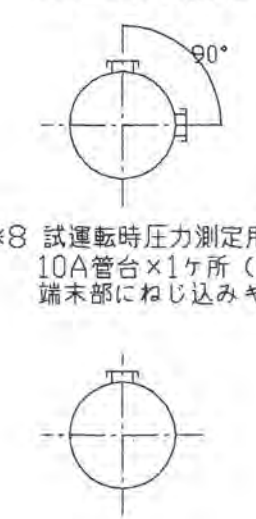


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
○	普通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては制御室2室にも表示する。  
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フレンジ(SAX10A)。
- \*6 分析機器配管配線図(PM-0163-4141-001)参照。
- \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後浴槽キャップ止めとする)
- \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**

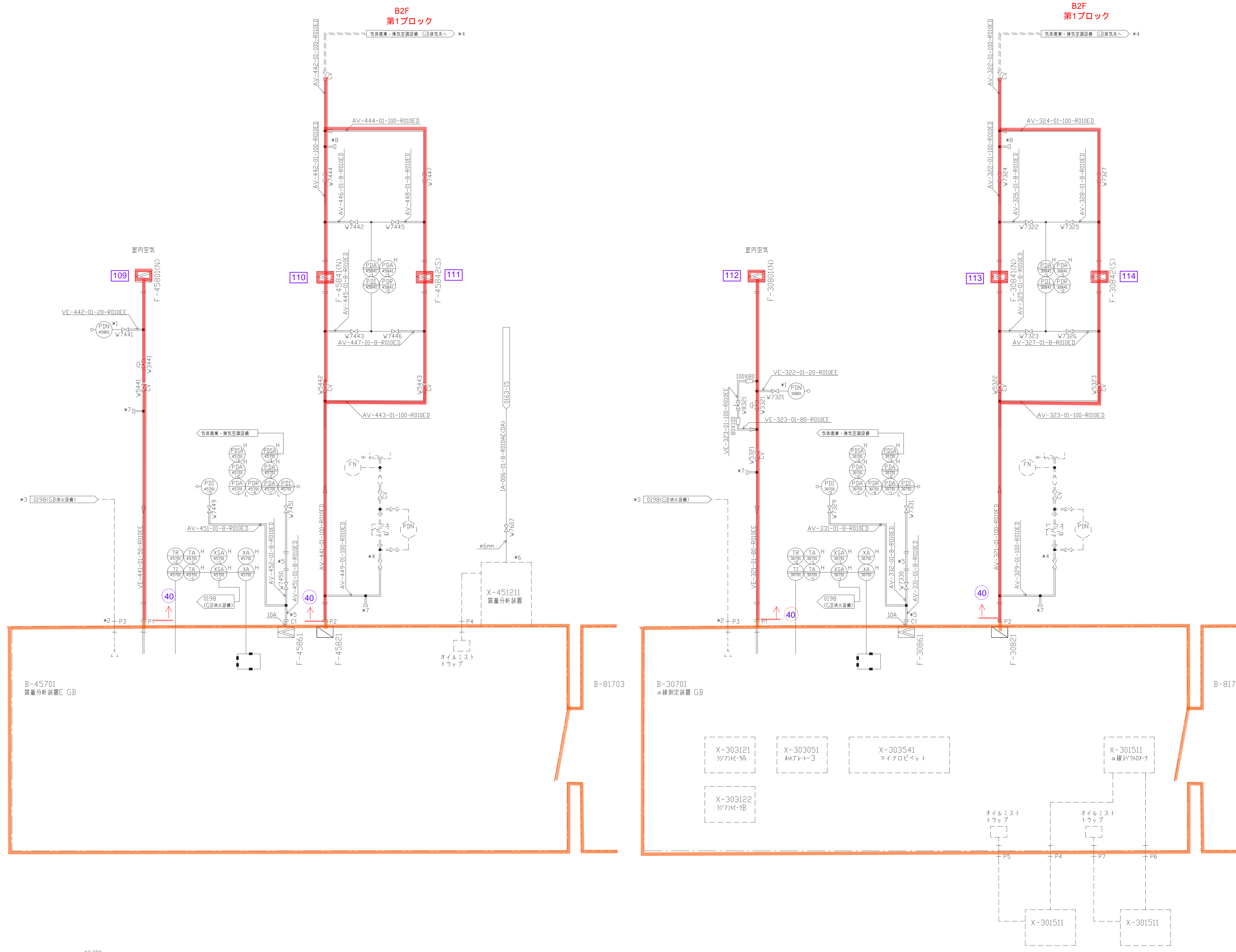
**<配管等>**  
 ○番号：主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線：グローブボックス

**<機器等>**  
 番号：機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . . . )  
 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びビストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルミニウム・ワゴン分析設備 エンジニアリングフロア (B-43701, B-44701) 工程: 0163 (GB) (11/18)		

エンジニアリング アイテム  
PA0163-11/18





- 備考
- 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
 (凡例)
- | 記号 | 名称  |
|----|-----|
| ⊙  | 普通口 |
- 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。
  - 注記(本図中の注記は下記に示す通り)  
 \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ設置を施す。  
 \*2 給気口近傍に設置する。  
 \*3 防消火設備 (GB消火設備) EFD参照。  
 \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。  
 \*5 異径フランジ (8AX10A)。  
 \*6 分析機器配管配線図 (PM-0163-4141-001)参照。  
 \*7 試運転時流量測定用  
 10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ設置を施す。  
 (試運転終了後溶接キャップ止めとする)
- 
- \*8 試運転時圧力測定用  
 10A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ設置を施す。
- 

- 【凡例】
- ＜配管等＞  
 ○番号：主配管との細付け番号 ( , , . . . . . )  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線：グローブボックス
- ＜機器等＞  
 番号：機器等との細付け番号 (①, ②, . . . . . )  
 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) アルミニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフロア (B-45701, B-30701) 工程: 0163 (GB) (12/18)		



302分析第1室

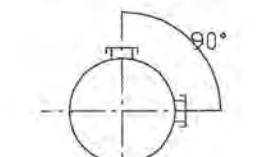
備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
	貫通口

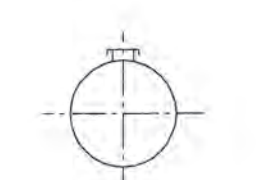
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては  
制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB消火設備) EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランジ (8AX10A)。
- \*6 B-80701と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-10701, B-20701, B-21701
- \*7 B-80702と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-22701, B-23701, B-24701
- \*8 B-80703と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-25701, B-31701, B-90701
- \*9 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後接続キャップ止めとする)



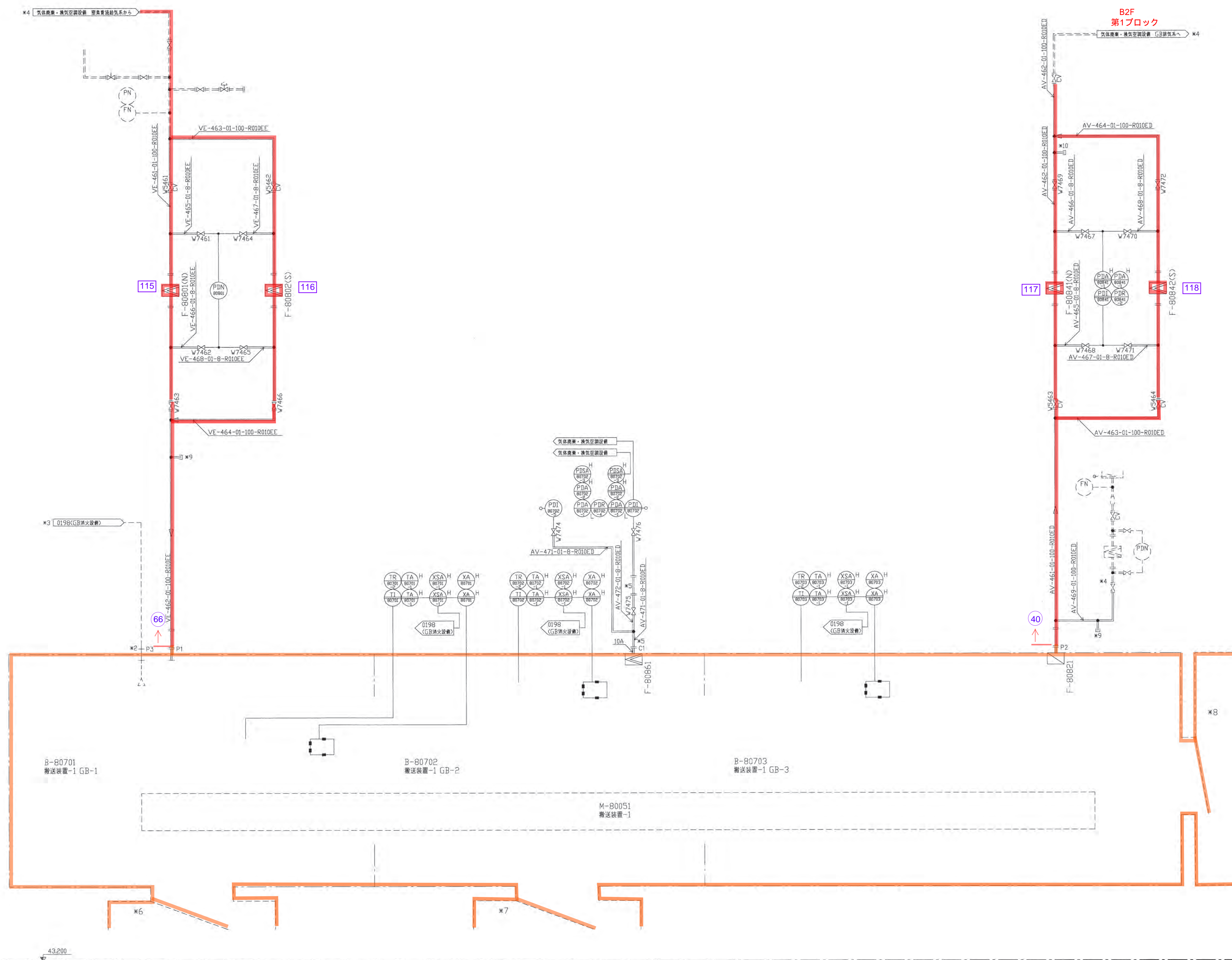
- \*10 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**

<配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号( , , , . . . . . )  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線：グローブボックス

<機器等>  
番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルミニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフロア図 (B-80701, B-80702, B-80703) 工程: 0163 (GB) (13/18)		

エンジニアリング部 0163/18



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

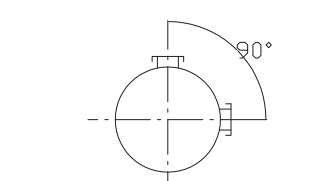
(凡例)

記号	名称
⌊ ー ー ー ー ⌋	貫通口

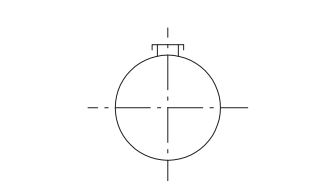
2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては  
別図第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランジ(8AX10A)。
- \*6 B-81701と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-46701
- \*7 B-81702と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-26701, B-41701, B-42701
- \*8 B-81703と隣接するグローブボックスは以下の通り。  
B-30701, B-43701, B-44701, B-45701
- \*9 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)

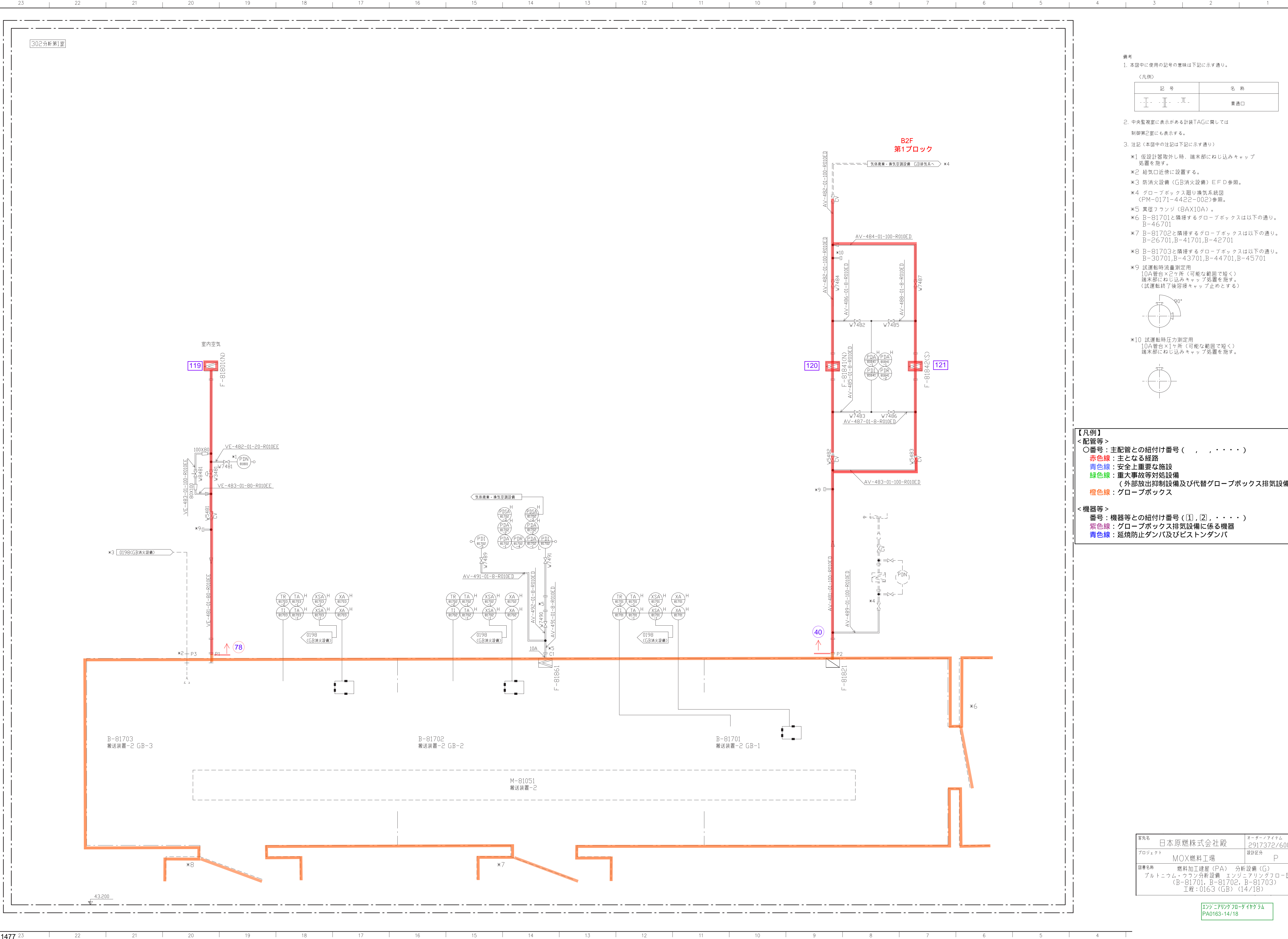


\*10 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**  
**<配管等>**  
 ○番号：主配管との紐付け番号( , , , , , , , , , , )  
**赤色線**：主となる経路  
**青色線**：安全上重要な施設  
**緑色線**：重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
**橙色線**：グローブボックス  
**<機器等>**  
 番号：機器等との紐付け番号( [1], [2], , , , , , , , , , )  
**紫色線**：グローブボックス排気設備に係る機器  
**青色線**：延焼防止ダンバ及びピストンダンバ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) アルトニウム・ウラン分析設備 エンジニアリングフロア (B-81701, B-81702, B-81703) 工程: 0163 (GB) (14/18)		







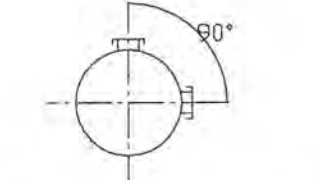


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

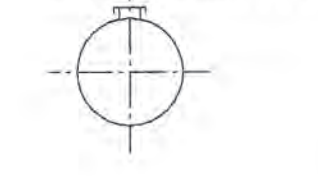
記号	名称
⊕	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに同じでは  
制御室2室にも表示する。  
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

※1 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ設置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



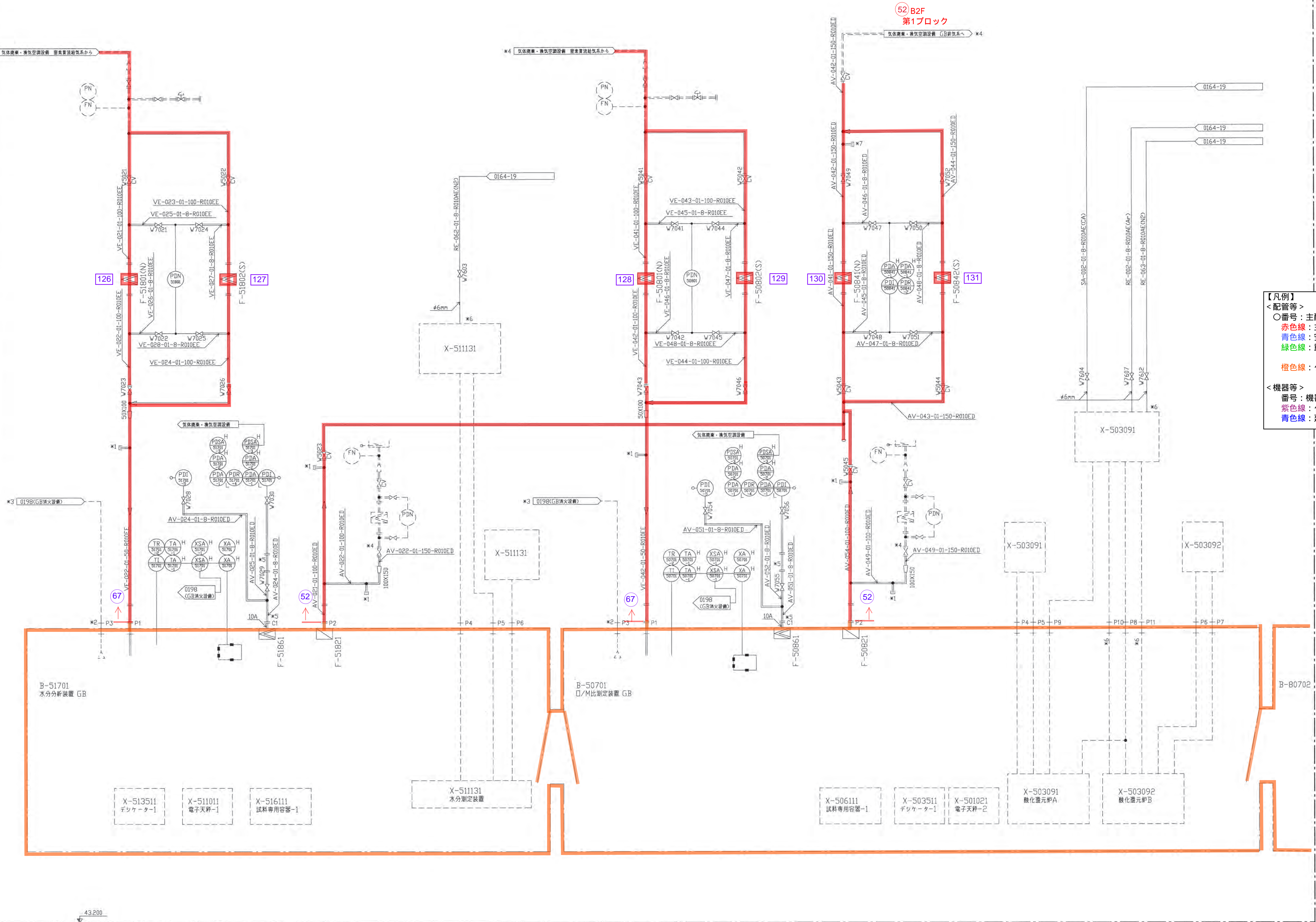
※2 給気口近傍に設置する。  
※3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。  
※4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。  
※5 異径フレンジ(8AX10A)。  
※6 分析機器配管配線図  
(PM-0164-4141-001)参照。  
※7 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ設置を施す。



**【凡例】**

**<配管等>**  
○番号: 主管管との紐付け番号( , , , . . . . . )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線: グローブボックス

**<機器等>**  
番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びヒストンダンパ



著先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロー図 (B-50701, B-51701) 工程: 0164 (GB) (2/22)		

エンジニアリングフロー図  
PA0164-2/22



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

〈凡例〉	
記号	名称
⊙	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。

3. 注記（本図中の注記は下記に示す通り）

\*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ取付を施す。

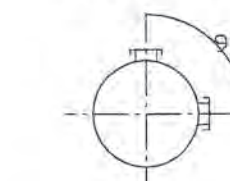
\*2 給気口近傍に設置する。

\*3 防消火設備（GB消火設備）EFD参照。

\*4 グローブボックス廻り換気系統図（PM-0171-4422-002）参照。

\*5 異径フランジ（BAX10A）。

\*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所（可能な範囲で短く）  
端部にねじ込みキャップ取付を施す。  
（試運転終了後溶接キャップ止めとする）



【凡例】

〈配管等〉

○番号：主配管との紐付け番号（ , , , . . . . . ）

赤色線：主たる経路

青色線：安全上重要な施設

緑色線：重大事故等対処設備  
（外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備）

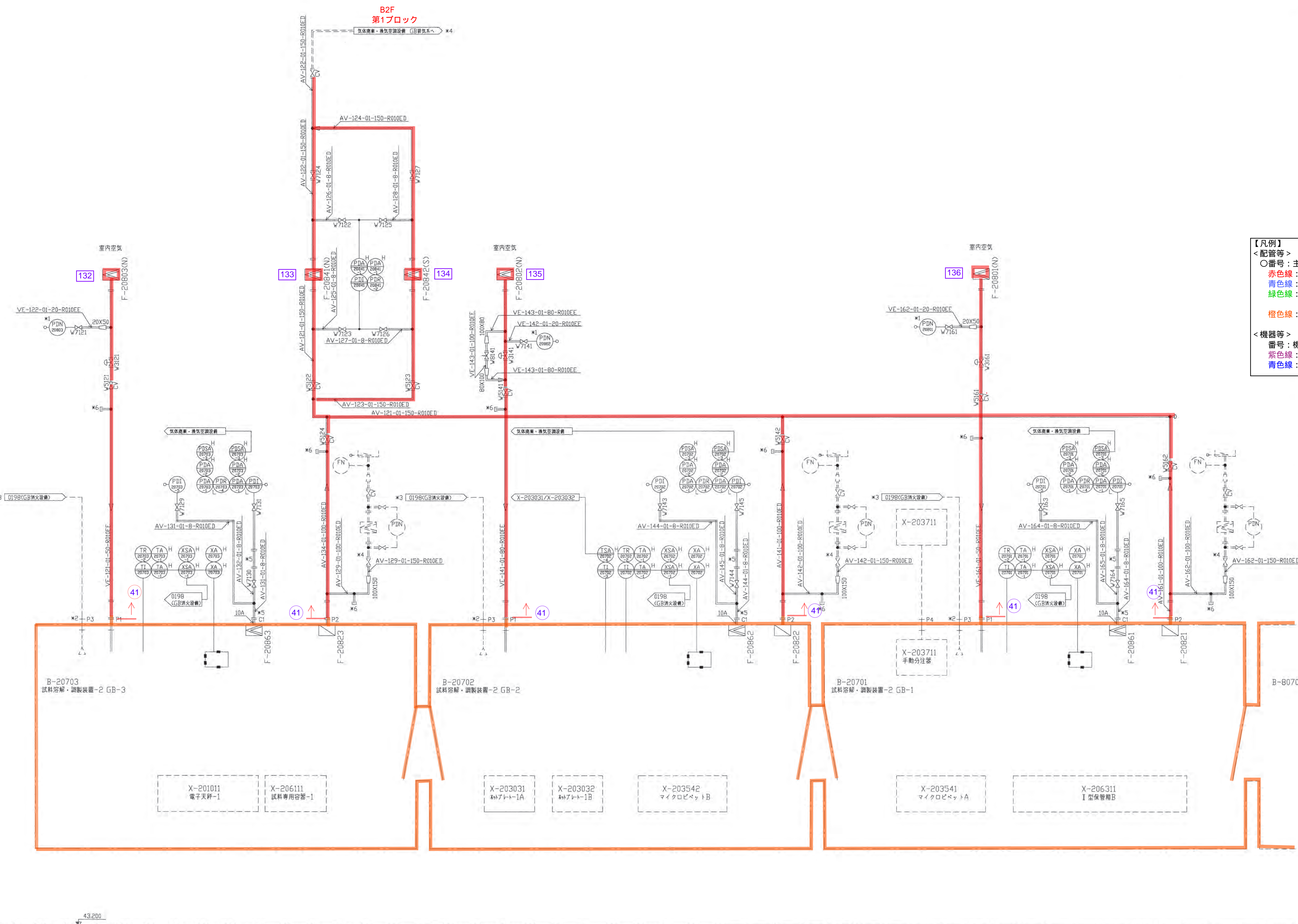
橙色線：グローブボックス

〈機器等〉

番号：機器等との紐付け番号（①, ②, . . . . . ）

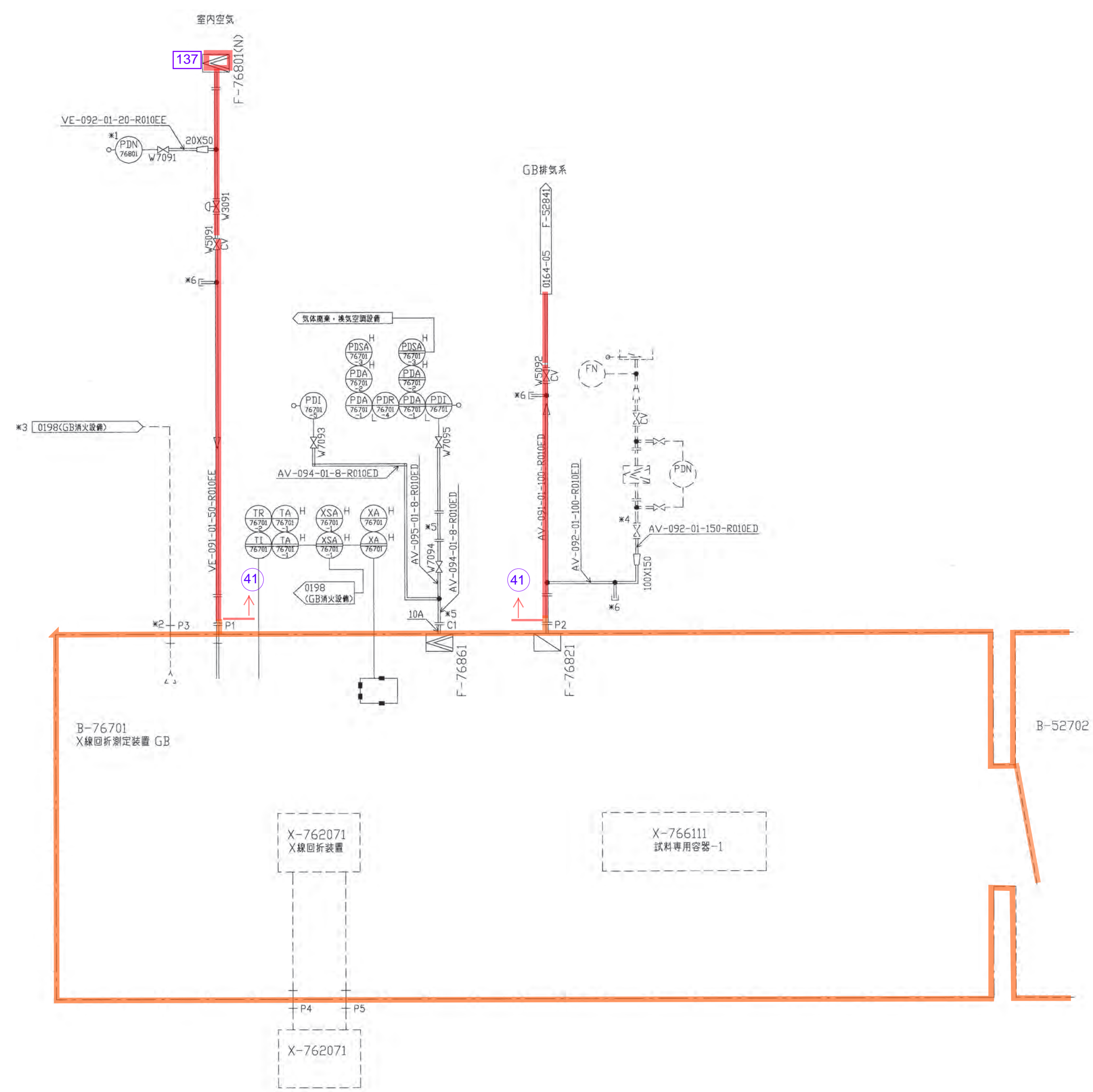
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器

青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-20701, 20702, 20703) 工程: 0164 (GB) (3/22)		





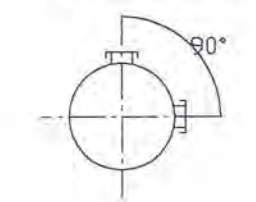
〈凡例〉

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては  
新装第2室にも表示する。

3. 注記 (本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防消火設備 (GB消火設備) EFD参照。
- \*4 グローボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径ファン (8AX10A)。
- \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)

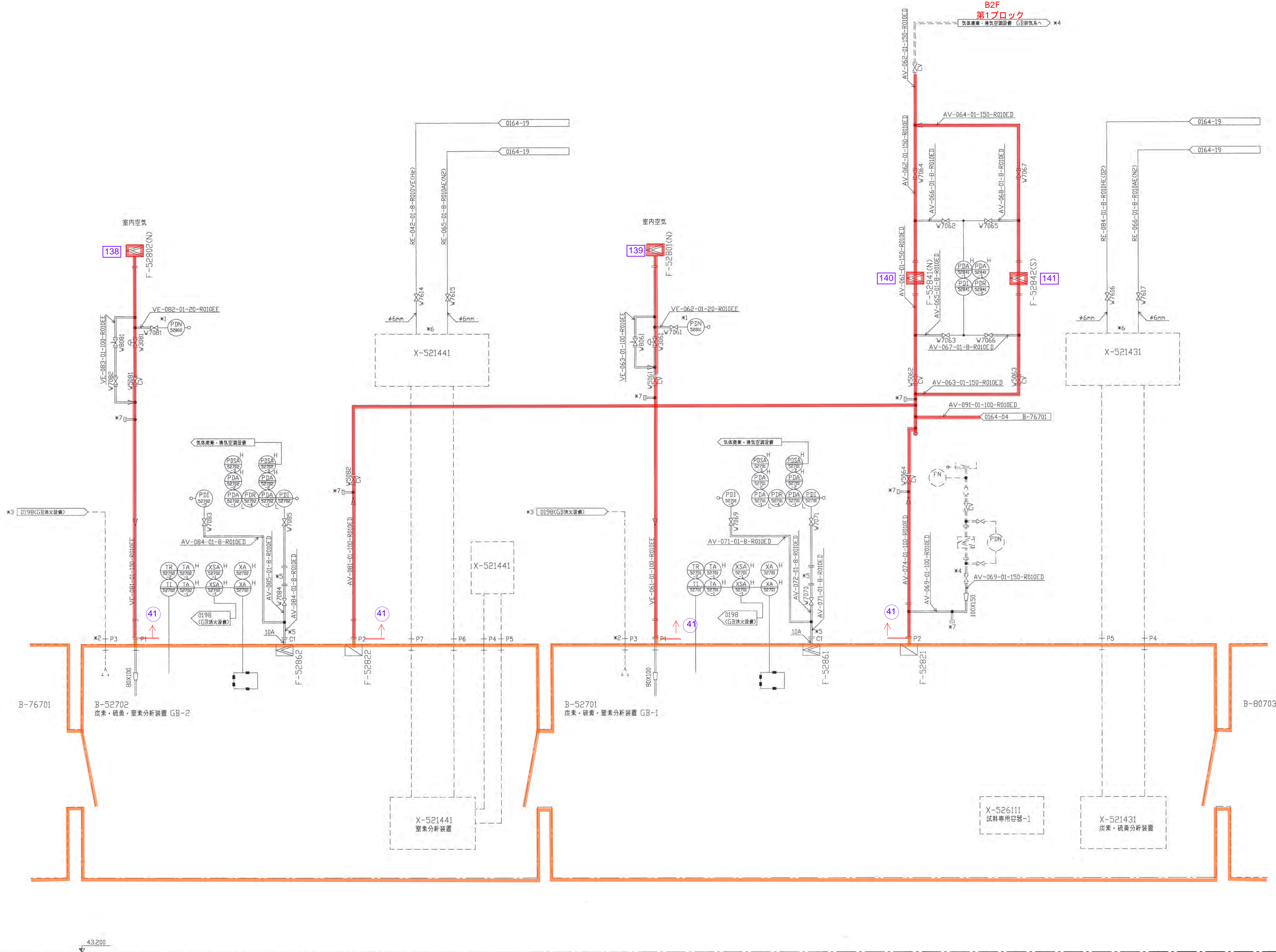


- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号 ( , , . . . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローボックス排気設備)
  - 橙色線: グローボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号 (1), (2), . . . . . )
  - 紫色線: グローボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-76701) 工程: 0164 (GB) (4/22)		

エンジニアリングフローシステム  
PA0164-4/22





- 備考
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
(凡例)
  2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。
  3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
    - \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
    - \*2 給気口近傍に設置する。
    - \*3 防消火設備(GB消火設備)EFD参照。
    - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
    - \*5 異径フレンジ(BAX10A)。
    - \*6 分析機器配管図(PM-0164-4141-001)参照。
    - \*7 試運転時流量測定用10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)

- 【凡例】
- <配管等>
    - 番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
    - 赤色線: 主となる経路
    - 青色線: 安全上重要な施設
    - 緑色線: 重大事故等対処設備(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
    - 橙色線: グローブボックス
  - <機器等>
    - 番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . . . )
    - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
    - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロ-図 (B-52701,52702) 工程:0164 (GB) (5/22)		
エンジニアリングフローダイヤグラム PA0164-5/22			

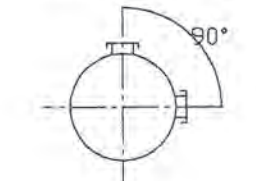


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

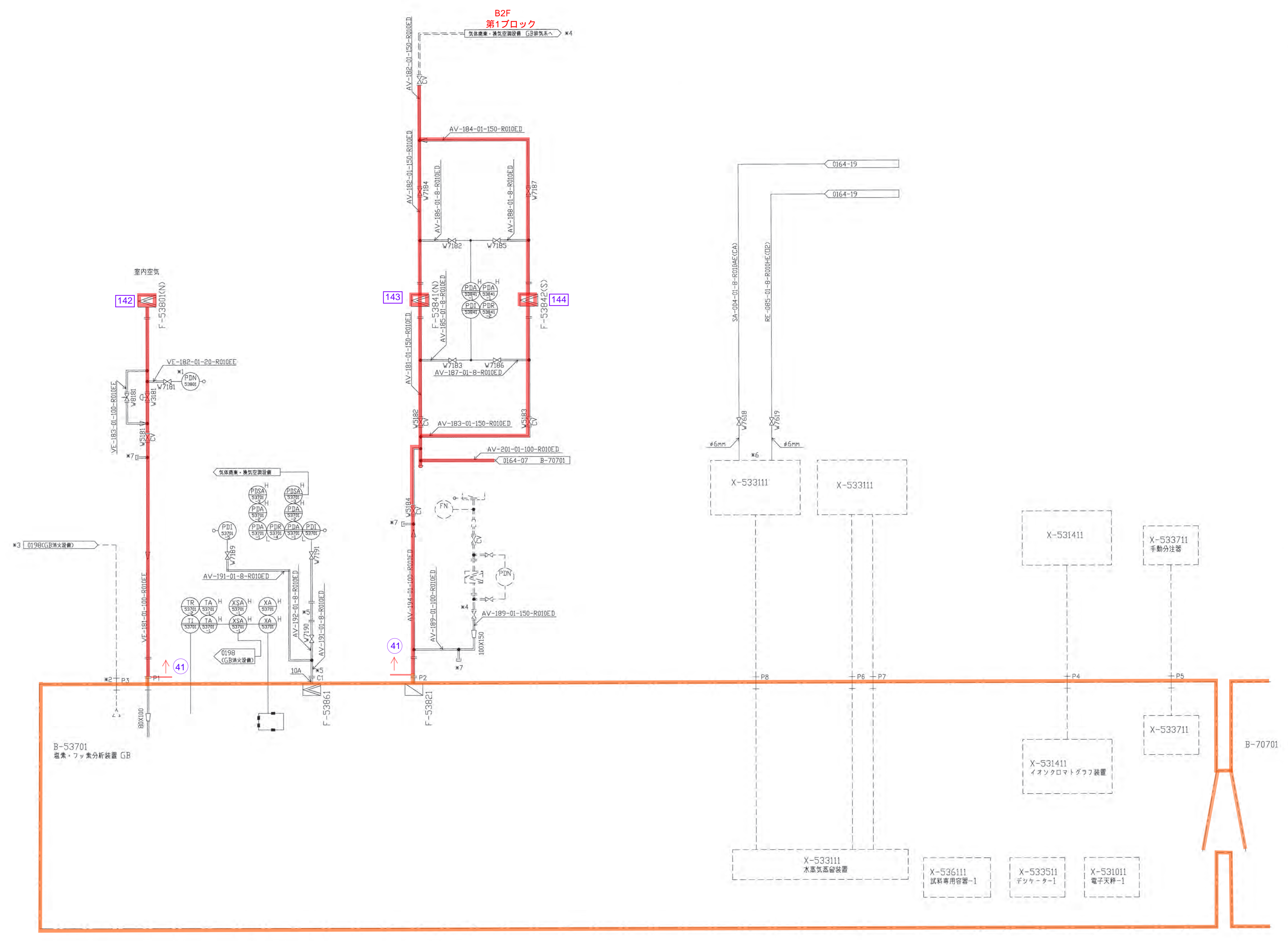
【凡例】

記号	名称
⊖	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御第2室にも表示する。  
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、詰末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ(8AX10A)。
  - \*6 分析機器配管線図(PM-0164-4141-001)参照。
  - \*7 試運転時流量測定用10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)詰末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



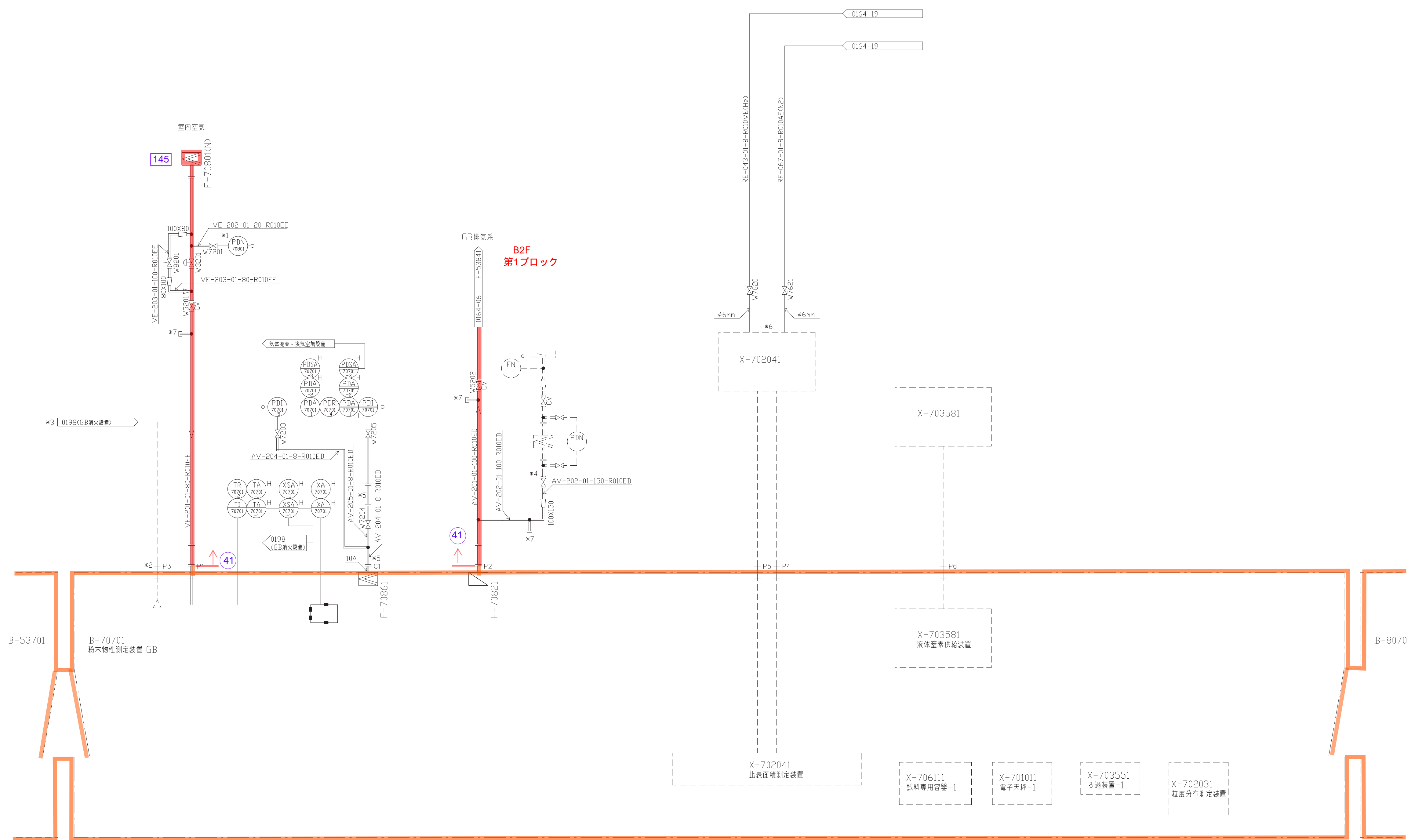
【凡例】  
 <配管等>  
 ○番号：主管管との紐付け番号( . . . . . )  
 赤色線：主たる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 緑色線：重大事故等対処設備(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線：グローブボックス  
 <機器等>  
 番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA)分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-53701) 工程:0164(GB) (6/22)		

エンジニアリングフローグラム  
PA0164-6/22



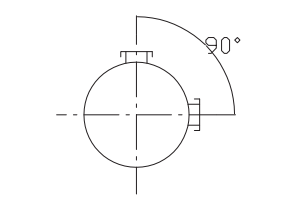


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
⊙	普通口

2. 中央監視室に表示がある計測TAGに関しては  
制御室2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端末部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備(GB排気設備)EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ(8AX10A)。
  - \*6 分析機器配管配線図  
(PM-0164-4141-001)参照。
  - \*7 試験時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試験終了後溶接キャップ止めとする)



**【凡例】**

<配管等>

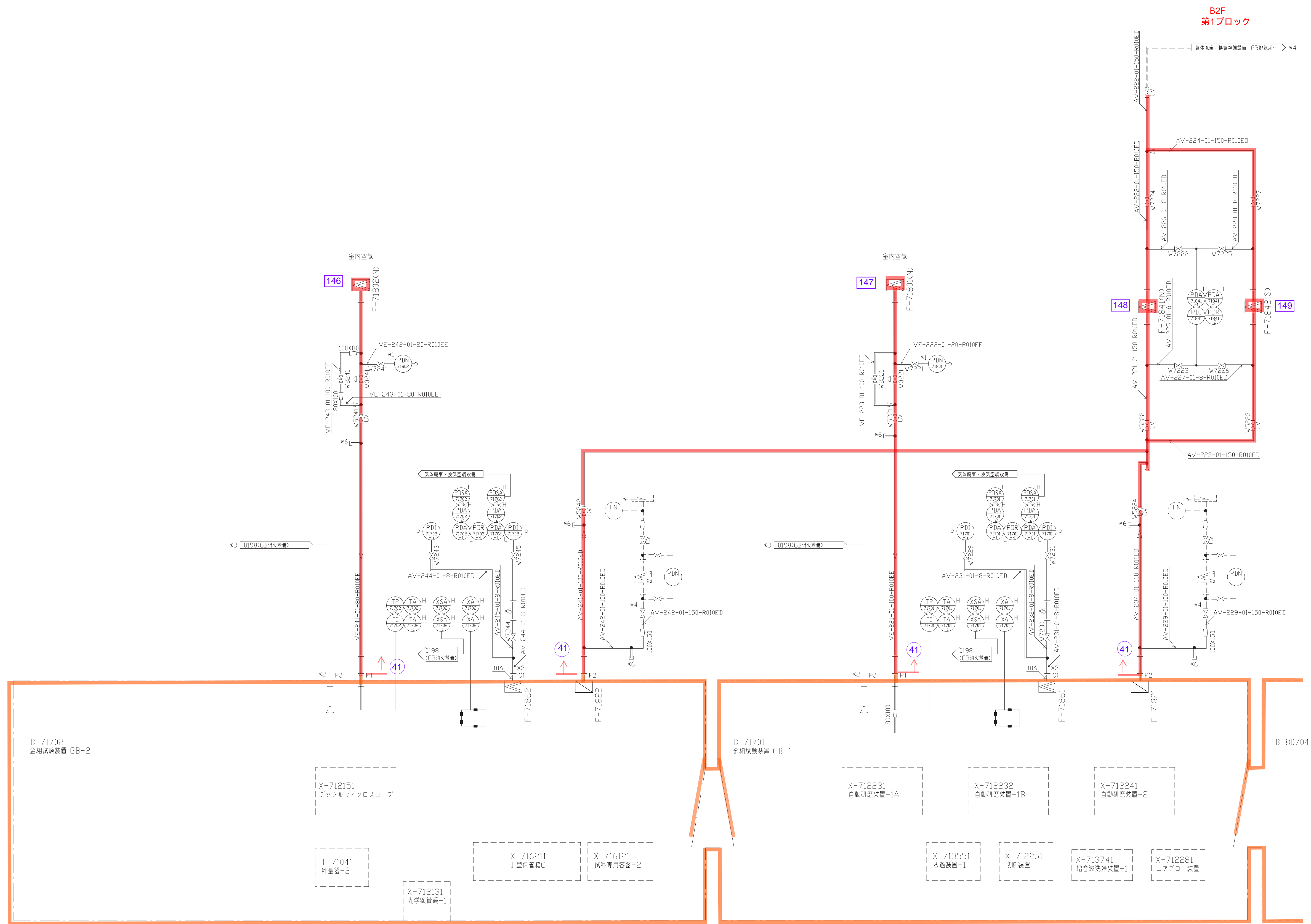
- 番号: 主配管との紐付け番号( , , , . . . . .)
- 赤色線: 主となる経路
- 青色線: 安全上重要な施設
- 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線: グローブボックス

<機器等>

- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
- 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロー図 (B-70701) 工程: 0164 (GB) (7/22)		





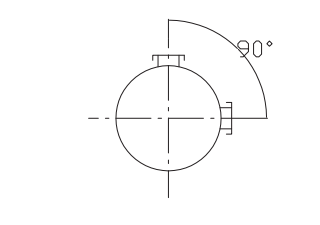
備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。
3. 注記 (本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備 (GB消火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ (8AX10A)。
  - \*6 試運転時流量測定用 10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



**【凡例】**

**< 配管等 >**

- 番号：主配管との紐付け番号 ( , , , , )
- 赤色線：主となる経路
- 青色線：安全上重要な施設
- 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線：グローブボックス

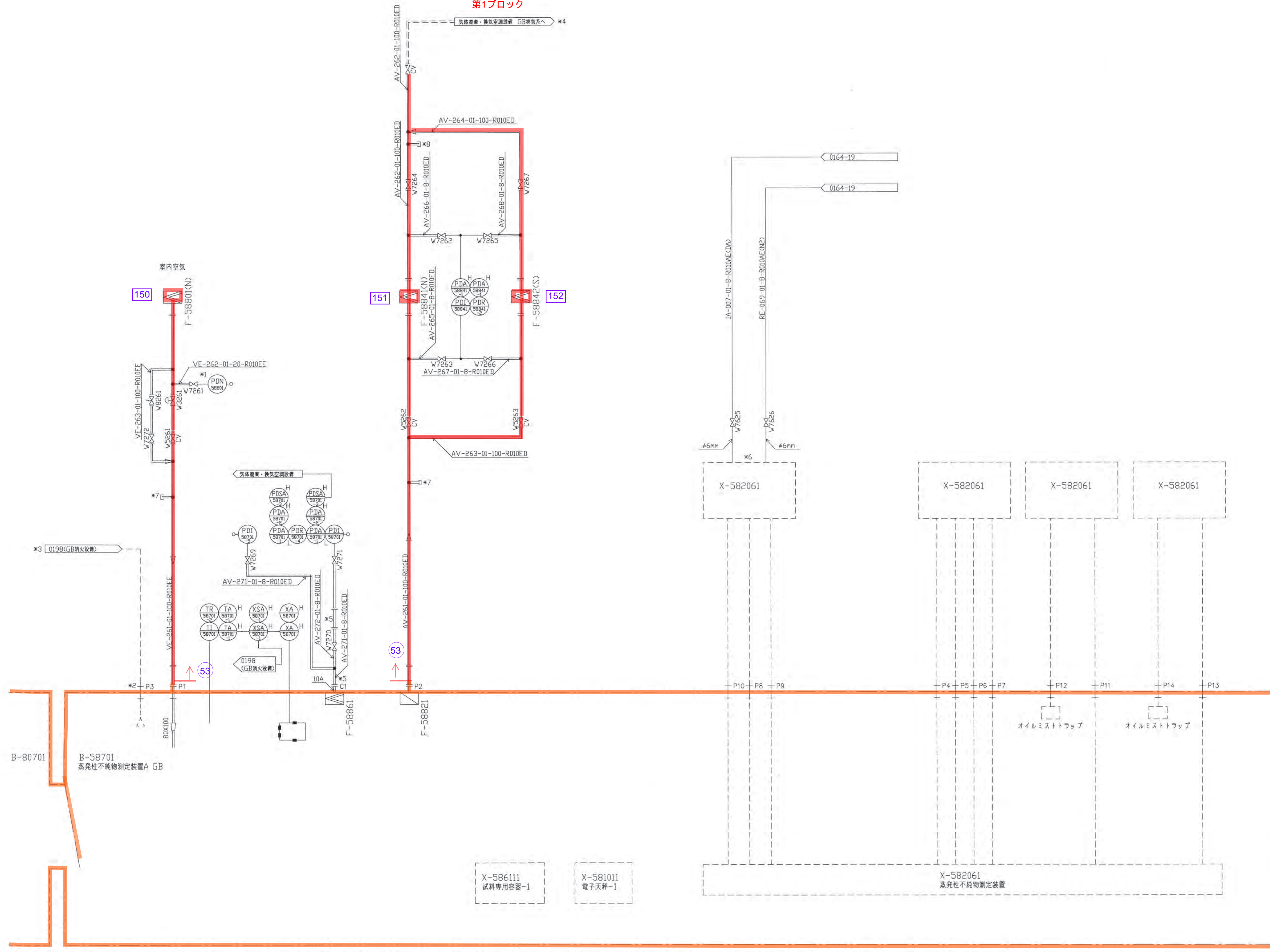
**< 機器等 >**

- 番号：機器等との紐付け番号 (①, ②, , , , )
- 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロー図 (B-71701, 71702) 工程: 0164 (GB) (8/22)		



53 B2F  
第1ブロック

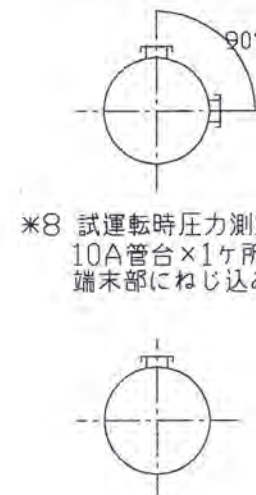


備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
	貫通口

- 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御第2室にも表示する。
- 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
  - \*1 仮設計器取外し時、請末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径ファンジ(BAX10A)。
  - \*6 分析機配管配線図(PM-0164-4141-001)参照。
  - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)請末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)請末部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**

**<配管等>**  
 ○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . )  
 赤色線: 主となる経路  
 青色線: 安全上重要な施設  
 緑色線: 重大事故等対処設備  
 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
 橙色線: グローブボックス

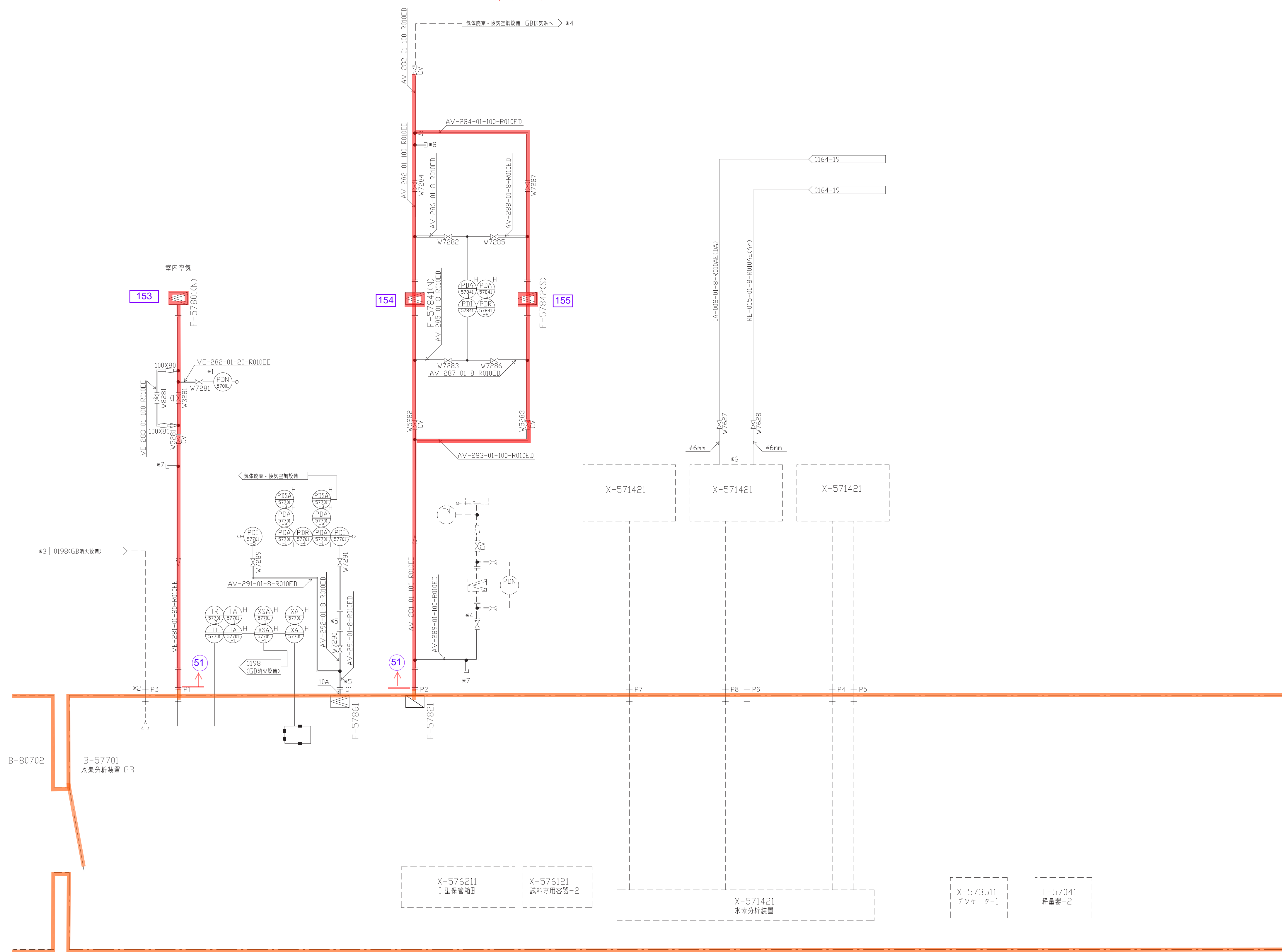
**<機器等>**  
 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . )  
 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-58701) 工程: 0164 (GB) (9/22)		

エンジニアリングフローグラム  
PA0164-9/22



51 B2F  
第1ブロック



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御第2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備 (GB消火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ (8AX10A)。
  - \*6 分析機器配管配線図 (PM-0164-4141-001)参照。
  - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。

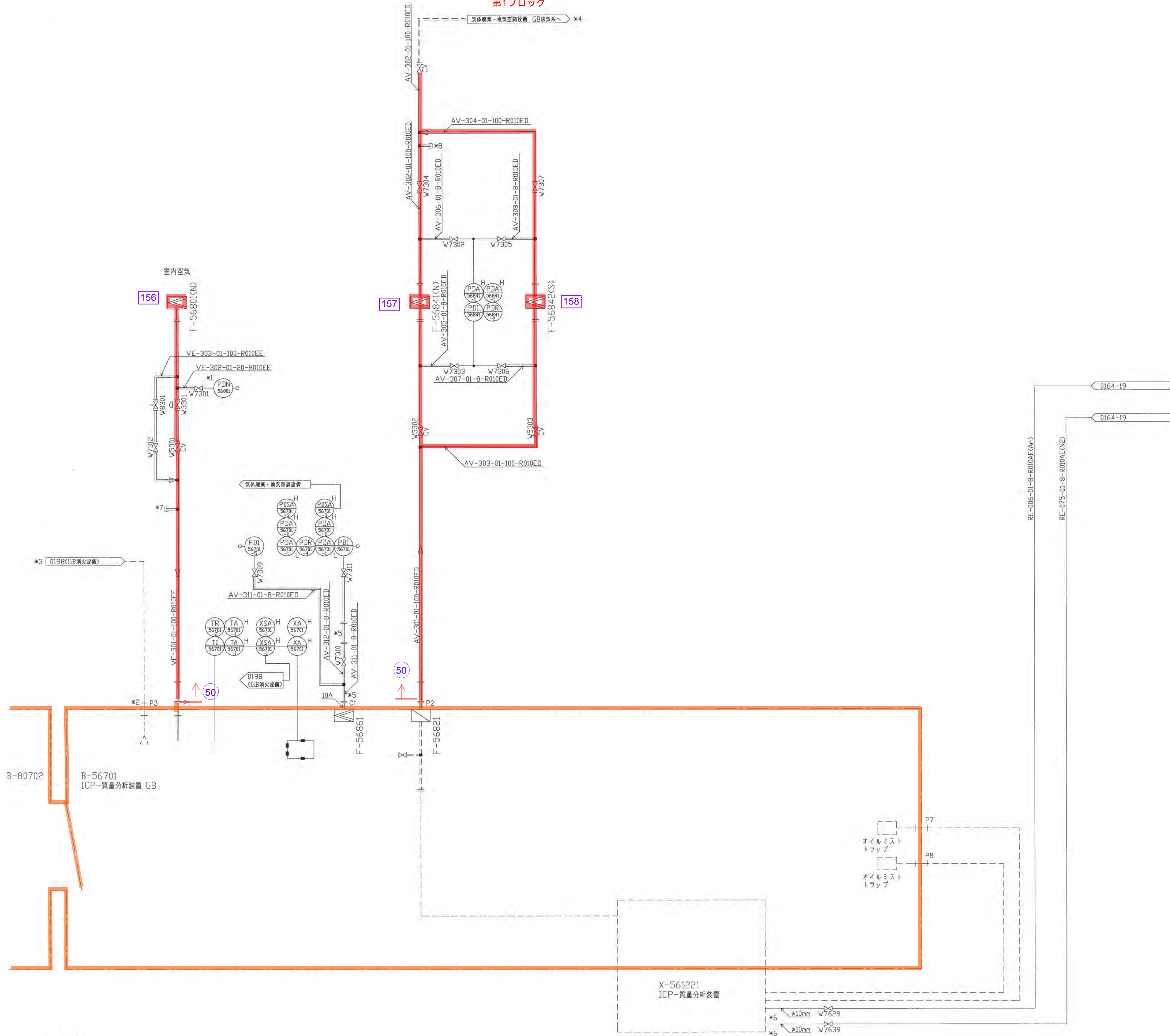


- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号 ( , , , . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等の紐付け番号 (①, ②, . . . )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア図 (B-57701) 工程: 0164 (GB) (10/22)		



B2F  
第1ブロック



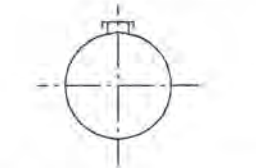
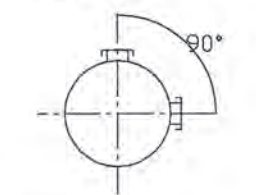
備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
○	普通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては  
制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、請末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備(GB消火設備)EFD参照。
- \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径フランジ (BAX10A)。
- \*6 分析機器配管配線図 (PM-0164-4141-001)参照。
- \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
請末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
- \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
請末部にねじ込みキャップ処置を施す。

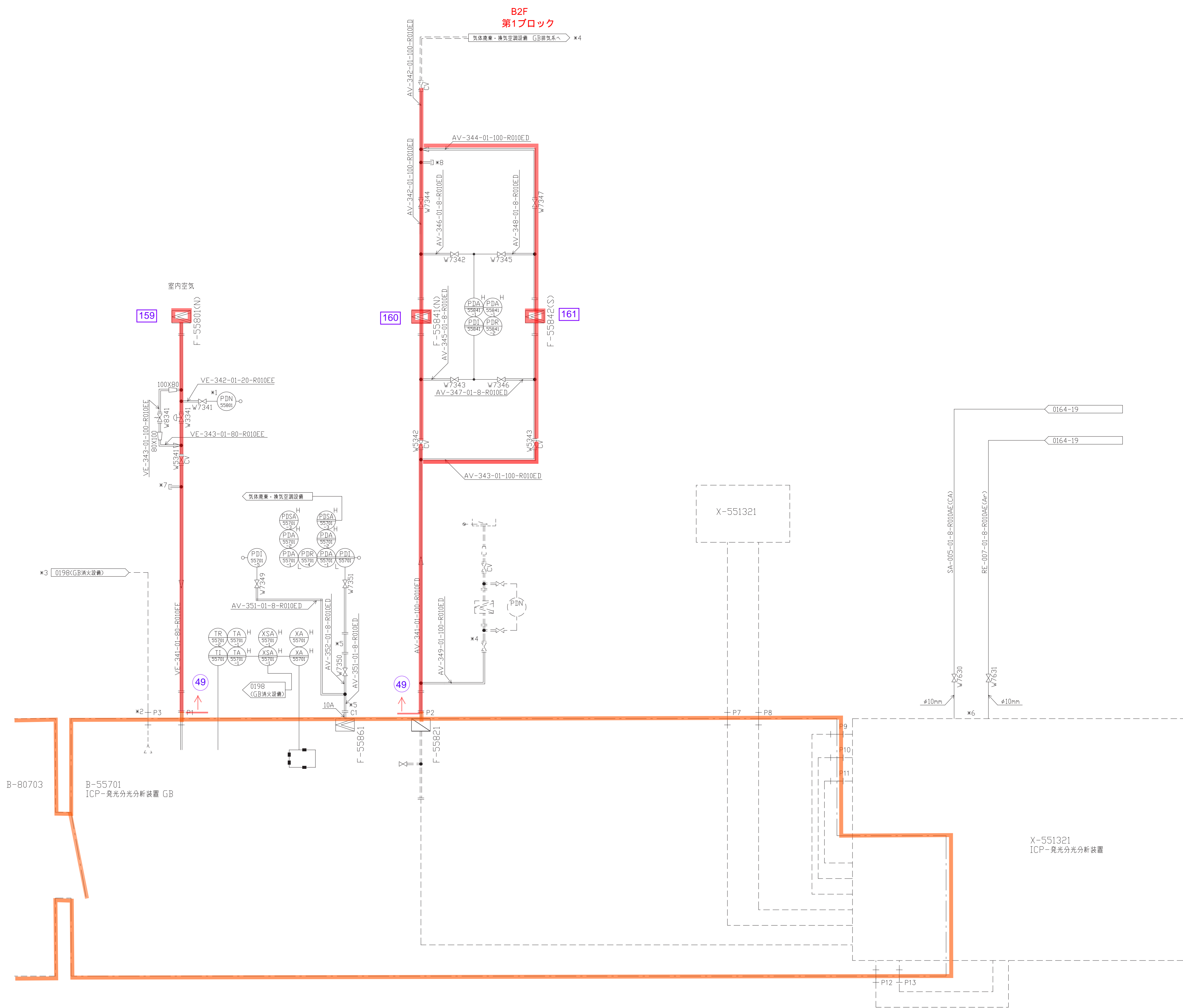


- 【凡例】
- <配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号( , , , , )  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線：グローブボックス
- <機器等>  
番号：機器等との紐付け番号(①, ②, , , )  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-56701) 工程: 0164 (GB) (11/22)		

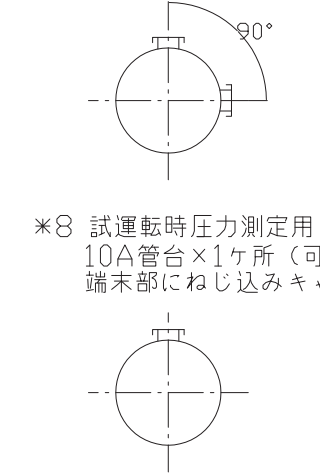
エンジニアリングダイヤグラム  
PA0164-11/22





記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御室2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備 (GB防火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径ファング (8AX10A)。
  - \*6 分析機器配管配線図 (PM-0164-4141-001)参照。
  - \*7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*8 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。



**【凡例】**

<配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号 ( , , , . . . )  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
オレンジ線：グローブボックス

<機器等>  
番号：機器等との紐付け番号 ( [1], [2], . . . )  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

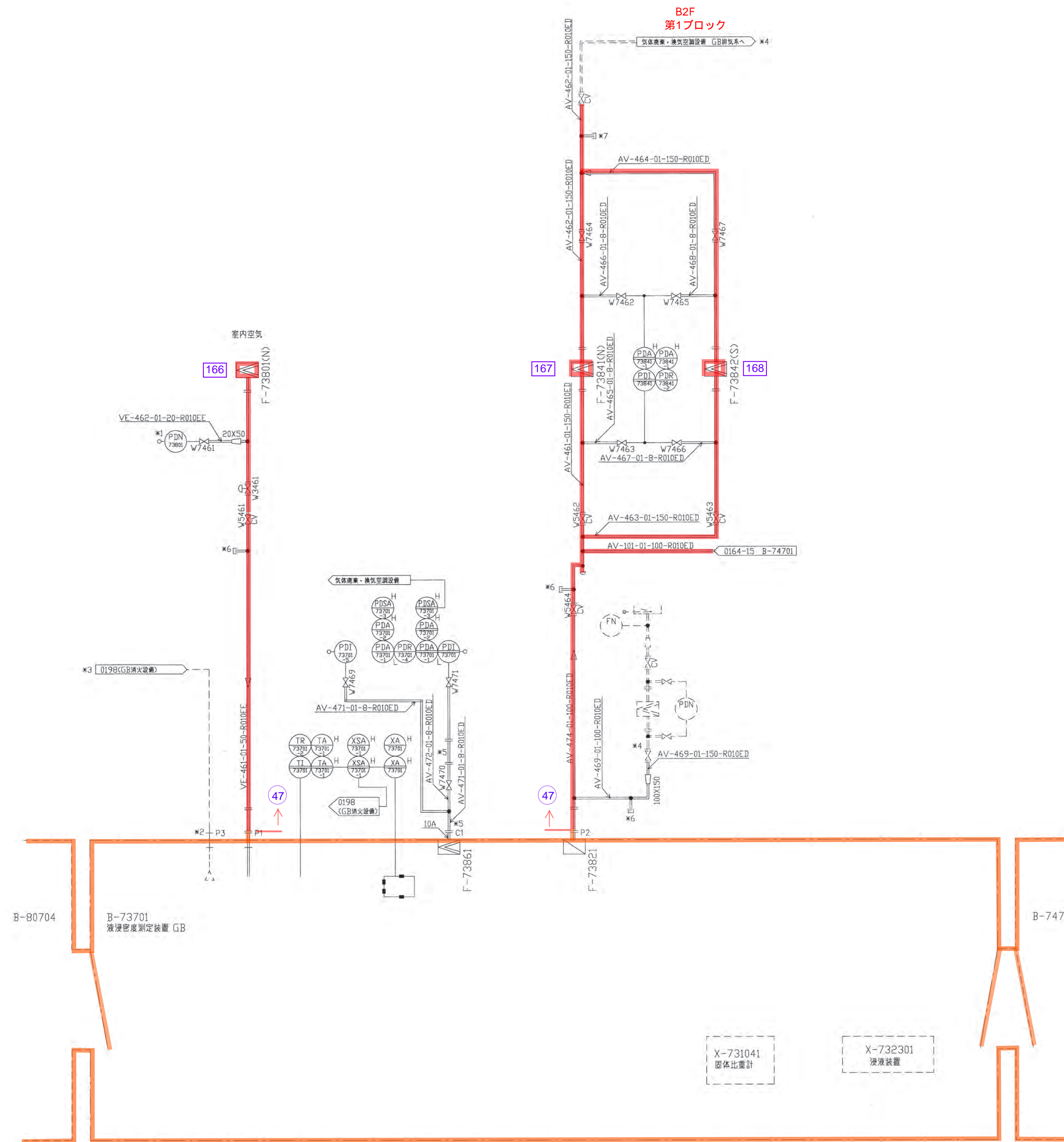
客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロー図 (B-55701) 工程: 0164 (GB) (12/22)		

エンジニアリングフローダイグラム  
PA0164-12/22









備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
(凡例)

記号	名称
	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御第2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
  - \*1 仮設計器取外し時、請末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 給気口近傍に設置する。
  - \*3 防火設備(GB防火設備) EFD参照。
  - \*4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
  - \*5 異径フランジ(BAX10A)。
  - \*6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く) 請末部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
  - \*7 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く) 請末部にねじ込みキャップ処置を施す。

**【凡例】**

<配管等>

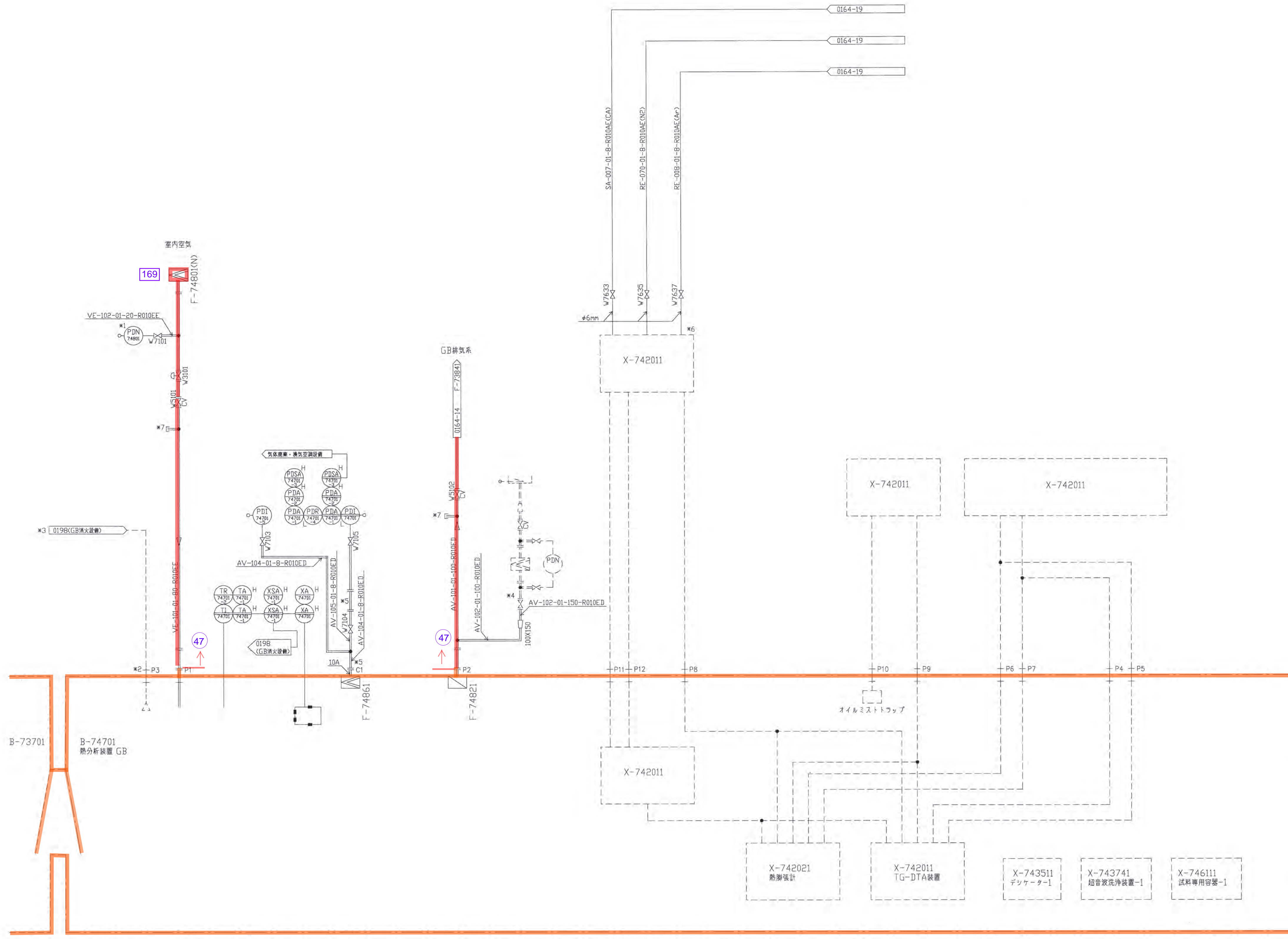
- 番号: 主管管との紐付け番号( , , . . . . .)
- 赤色線: 主となる経路
- 青色線: 安全上重要な施設
- 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- オレンジ線: グローブボックス

<機器等>

- 番号: 機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . .)
- 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

製先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロア (B-73701) 工程: 0164 (GB) (14/22)		





備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

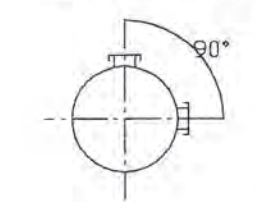
【凡例】

記号	名称
⊥	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては  
制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- ※1 仮設計器取外し時、継末部にねじ込みキャップ  
処置を施す。
- ※2 給気口近傍に設置する。
- ※3 防消火設備(GB消火設備)EFD参照。
- ※4 グローブボックス廻り換気系統図  
(PM-0171-4422-002)参照。
- ※5 異径ファンジ(8AX10A)。
- ※6 分析機器配管配線図  
(PM-0164-4141-001)参照。
- ※7 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
継末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



【凡例】

<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線: グローブボックス

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . . . )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 不純物分析・物性測定設備 エンジニアリングフロ-図 (B-74701) 工程: 0164 (GB) (15/22)		

エンジニアリングフロ-ダイヤグラム  
PA0164-15/22















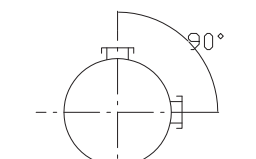
備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

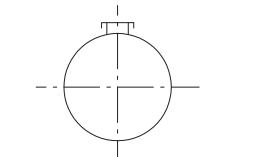
記号	名称
Ⅰ Ⅱ Ⅲ	貫通口

2. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*2 将来設置。
- \*3 分析機器配管配線図 (PM-0165-4141-001)参照。
- \*4 換気系統図 (PM-0171-4422-001)参照。
- \*5 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
流末部におじ込みキャップ設置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
- \*6 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
流末部におじ込みキャップ設置を施す。



\*6 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
流末部におじ込みキャップ設置を施す。



【凡例】

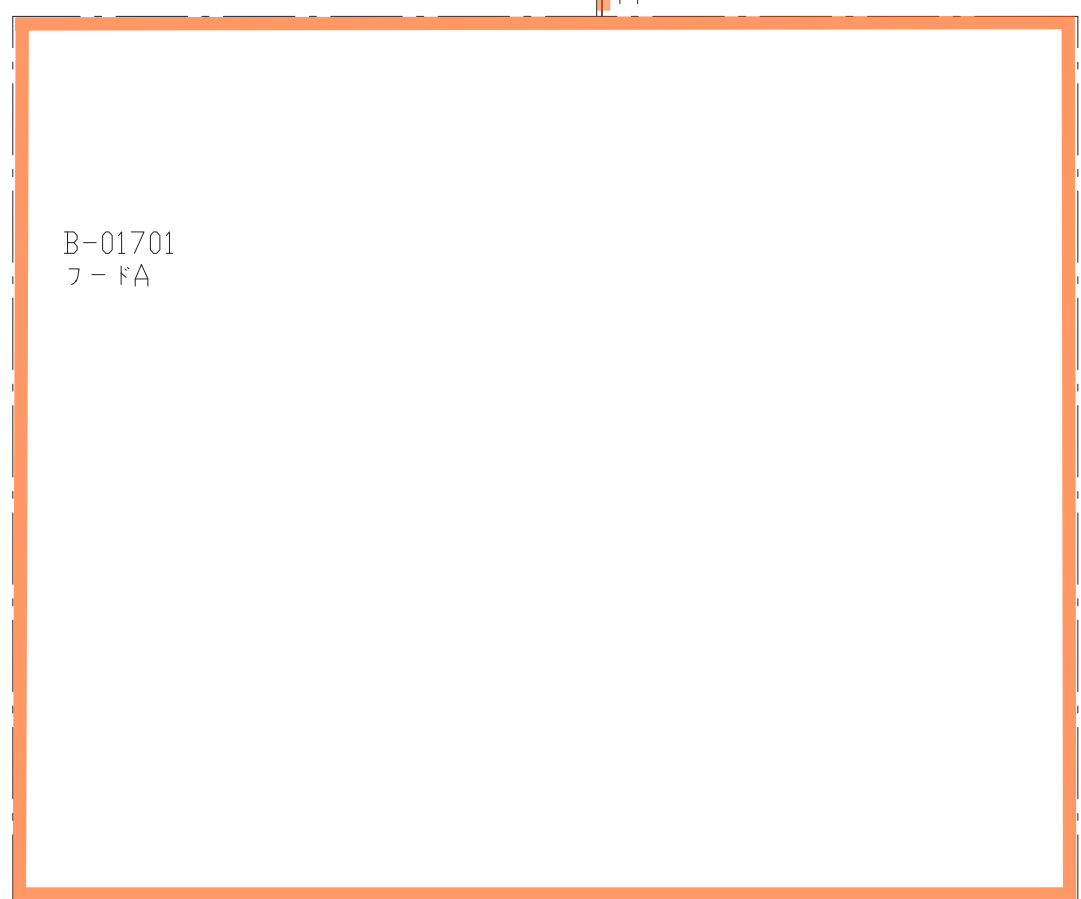
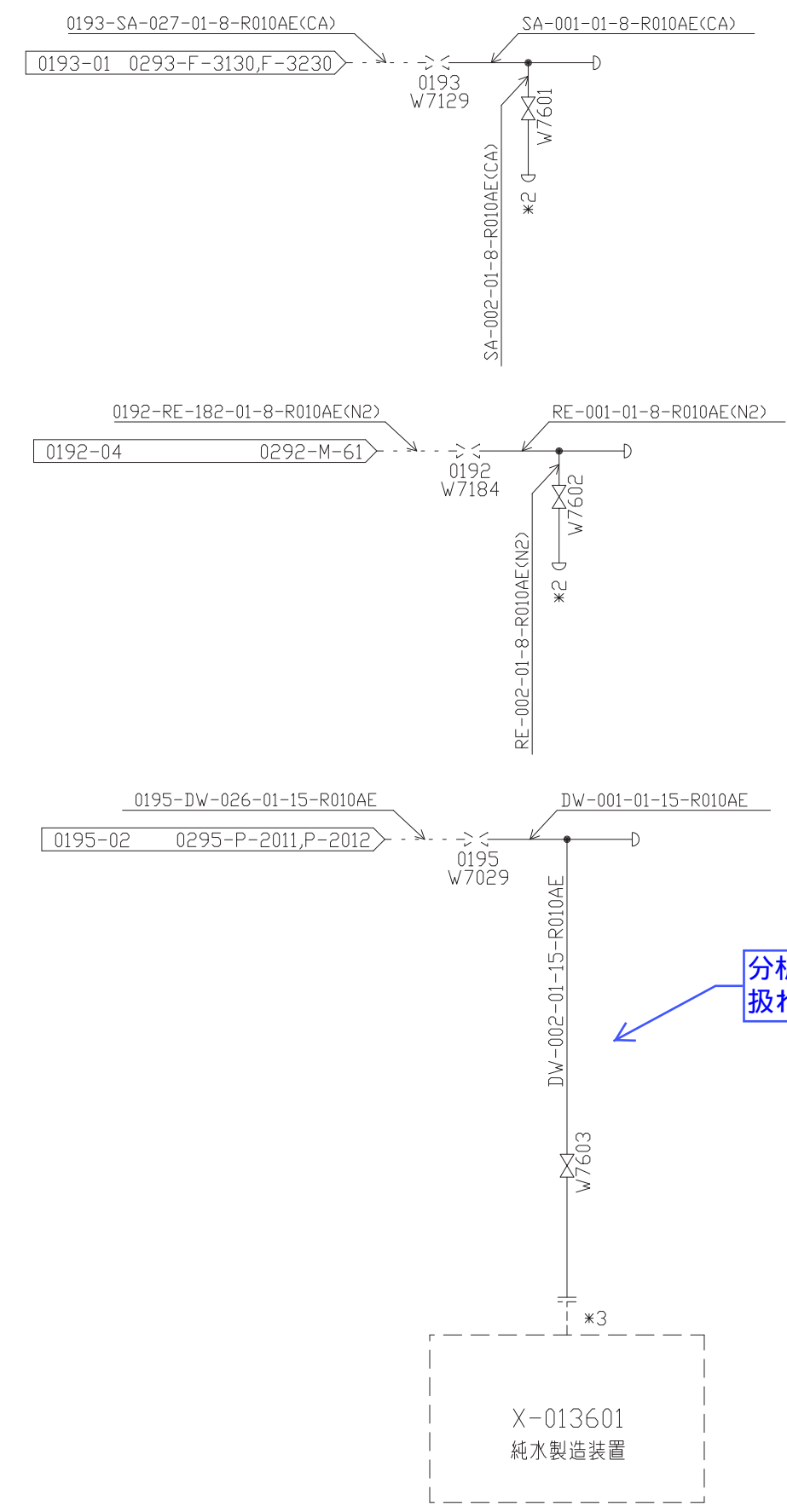
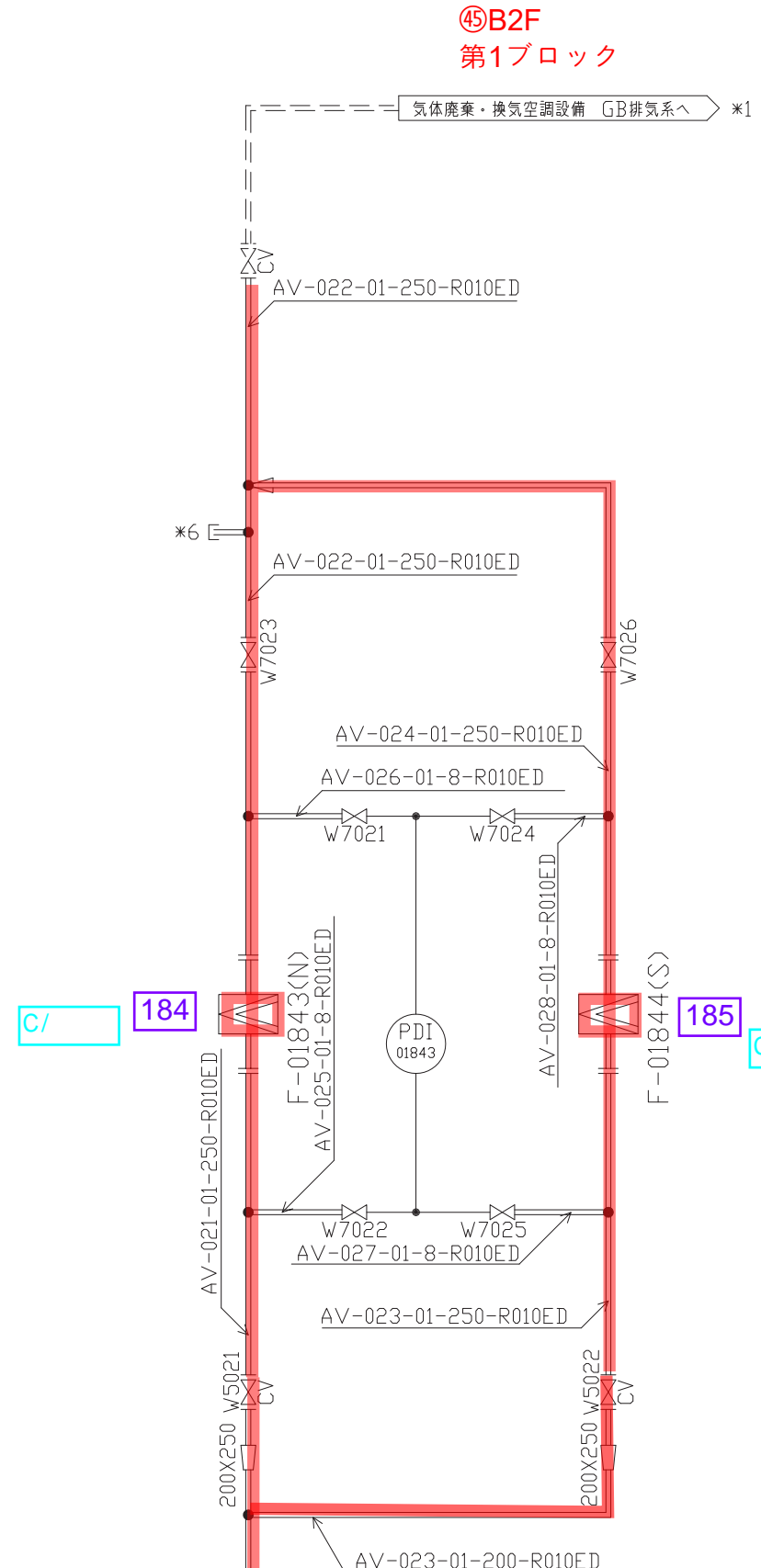
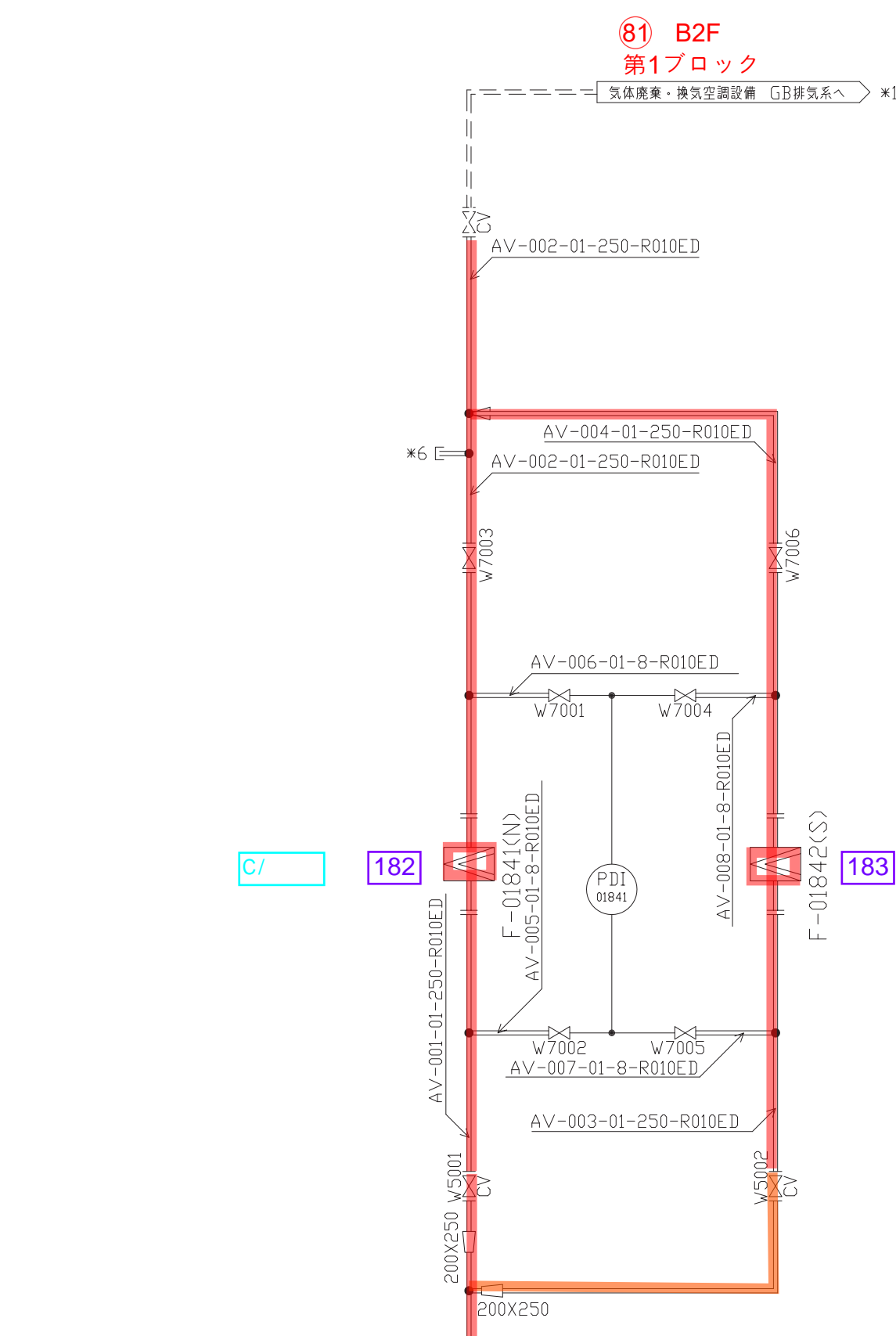
<配管等>  
○番号: 主配管との紐付け番号( , , , . . . )  
赤色線: 主となる経路  
青色線: 安全上重要な施設  
緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線: グローブボックス

<機器等>  
番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . )  
紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

分析用の試薬等を調整するための核燃料物質を取り扱わない機器であるため、対象外

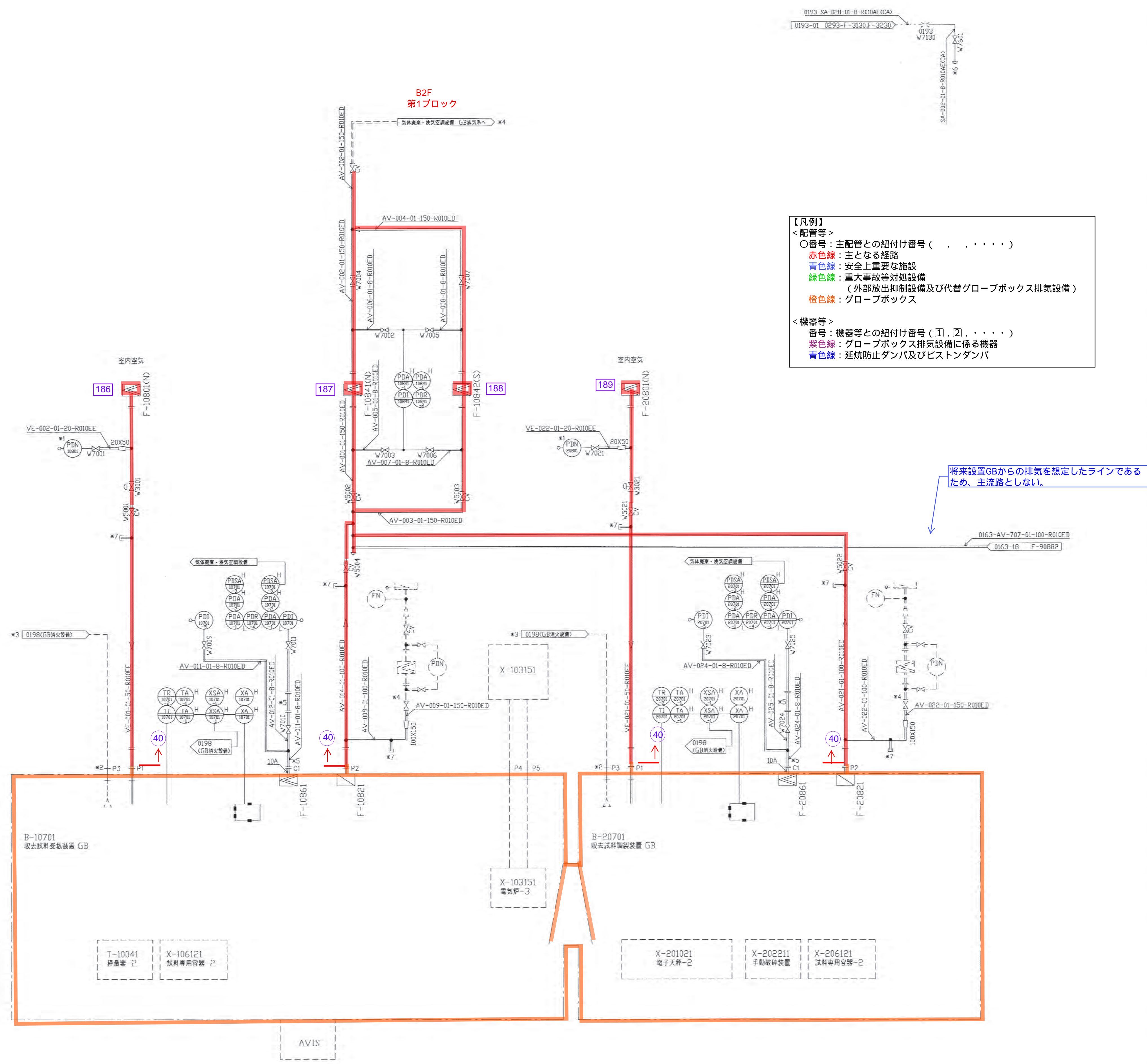
分析用の試薬等を調整するためのドラフトチャンバであり、核燃料物質を取り扱わない機器であるため、対象外

フードに係るグローブボックス排気設備は、耐震クラスとなるため「C/-」となる。(以下省略)



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 分析付属設備 エンジニアリングフロア図 (B-01701,01702,X-016511) 工程: 0165 (GB) (1/1)		
エンジニアリングフロア図 PA0165-1/1			





備考  
 1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。  
 (凡例)

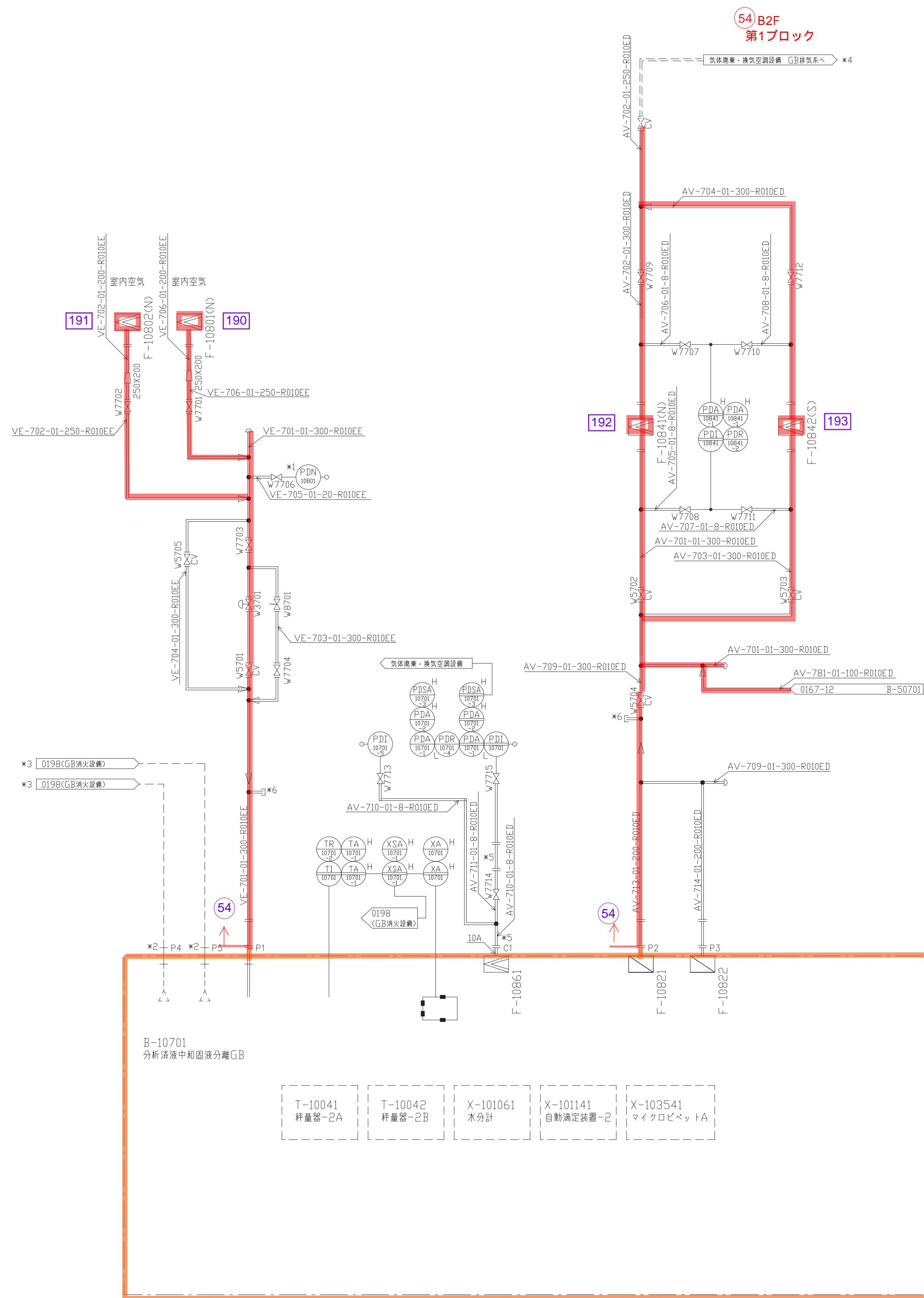
記号	名称
II	貫通口

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに異しては  
 制御室にも表示する。

3. 注記（本図中の注記は下記に示す通り）  
 ＊1 仮設計器取外し時、請末部にねじ込みキャップ  
 処置を施す。  
 ＊2 給気口近傍に設置する。  
 ＊3 防火設備（GB消火設備）EFD参照。  
 ＊4 グローブボックス換気系統図  
 (PM-0171-4422-002)参照。  
 ＊5 異径フランジ (BAX10A)。  
 ＊6 将来設置。  
 ＊7 試験時流量測定用  
 10A管台×2ヶ所（可能な範囲で短く）  
 請末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
 （試験終了後溶接キャップ止めとする）

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
設備名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 査察専用設備 エンジニアリングフロア (B-10701, 20701) 工程: 0166 (GB) (1/1)		
	エンジニアリングフローダイヤグラム PA0166-1/1		





備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

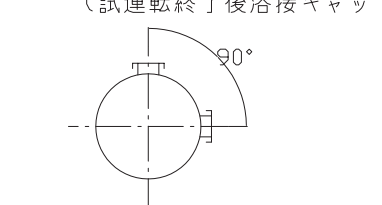
(凡例)

記号	名称
⋯⋯	貫通口
⊠	差動分布型温度上昇検出器

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- \*1 仮設計器取外し時、端部にねじ込みキャップ処置を施す。
- \*2 給気口近傍に設置する。
- \*3 防火設備 (GB防火設備) EFD参照。
- \*4 クロップボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
- \*5 異径ファンジ (8AX10A)。
- \*6 試運転時流量測定用 32A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端部にねじ込みキャップ処置を施す。(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



【凡例】

<配管等>

- 番号：主配管との紐付け番号 ( , , . . . )
- 赤色線：主となる経路
- 青色線：安全上重要な施設
- 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線：グローブボックス

<機器等>

番号：機器等との紐付け番号 ( [1], [2], . . . )

- 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ



客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 分析済液処理設備 エンジニアリングフロー図 (B-10701) 工程: 0167 (9/14)		



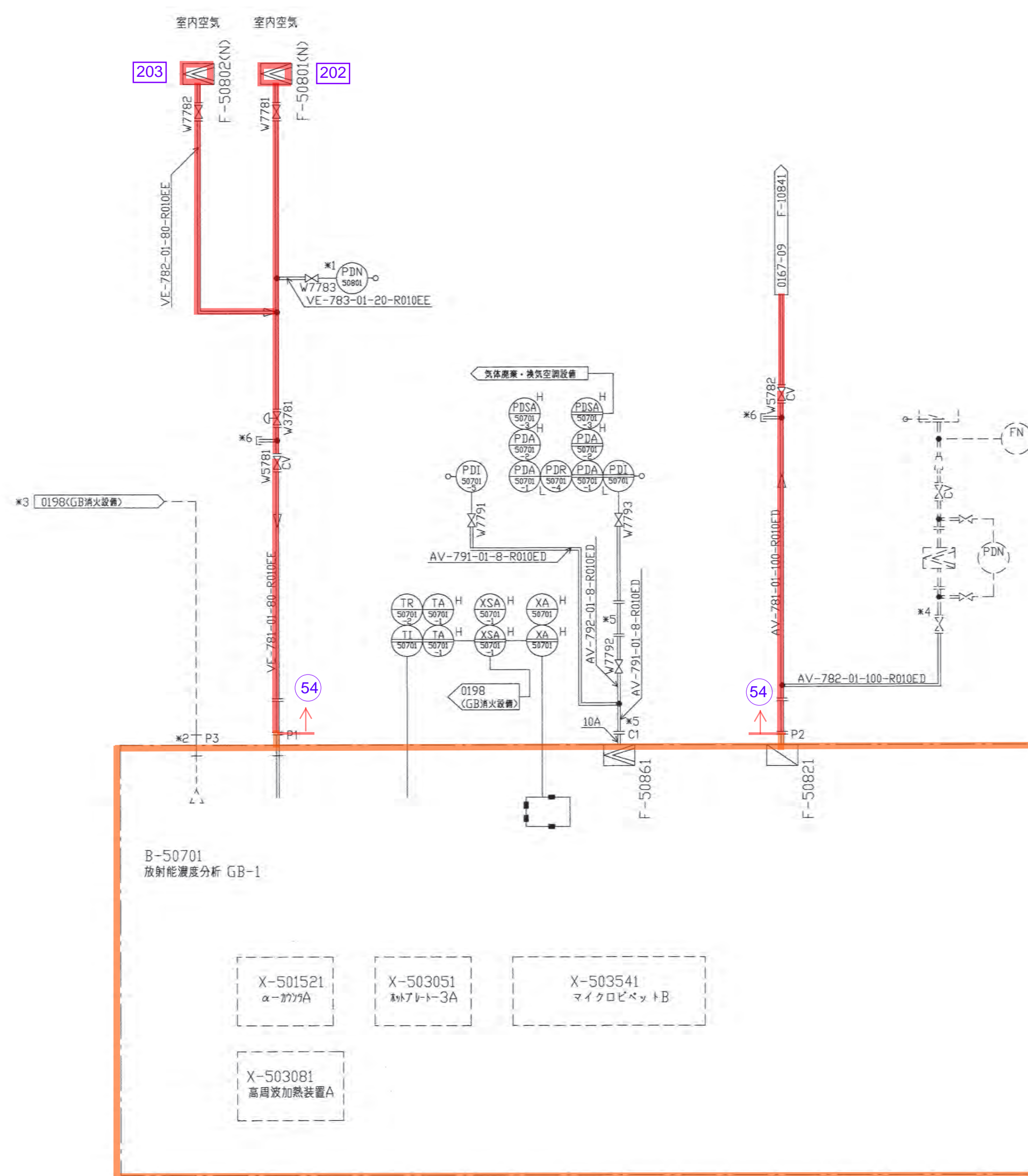








313分析第2室



備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

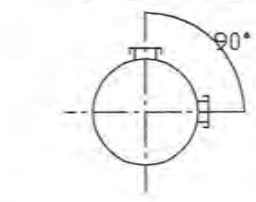
〈凡例〉

記号	名称
	貫通口
	運動分布型速度上昇機出器

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては、制御第2室にも表示する。

3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

- ※1 仮設計器取外し時、精末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- ※2 給気口近傍に設置する。
- ※3 防火設備(GB防火設備)EFD参照。
- ※4 グローブボックス廻り換気系統図(PM-0171-4422-002)参照。
- ※5 異径ファンジ(BAX10A)。
- ※6 試運転時流量測定用  
10A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
精末部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



【凡例】

<配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号( , , . . . . . )  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線：グローブボックス

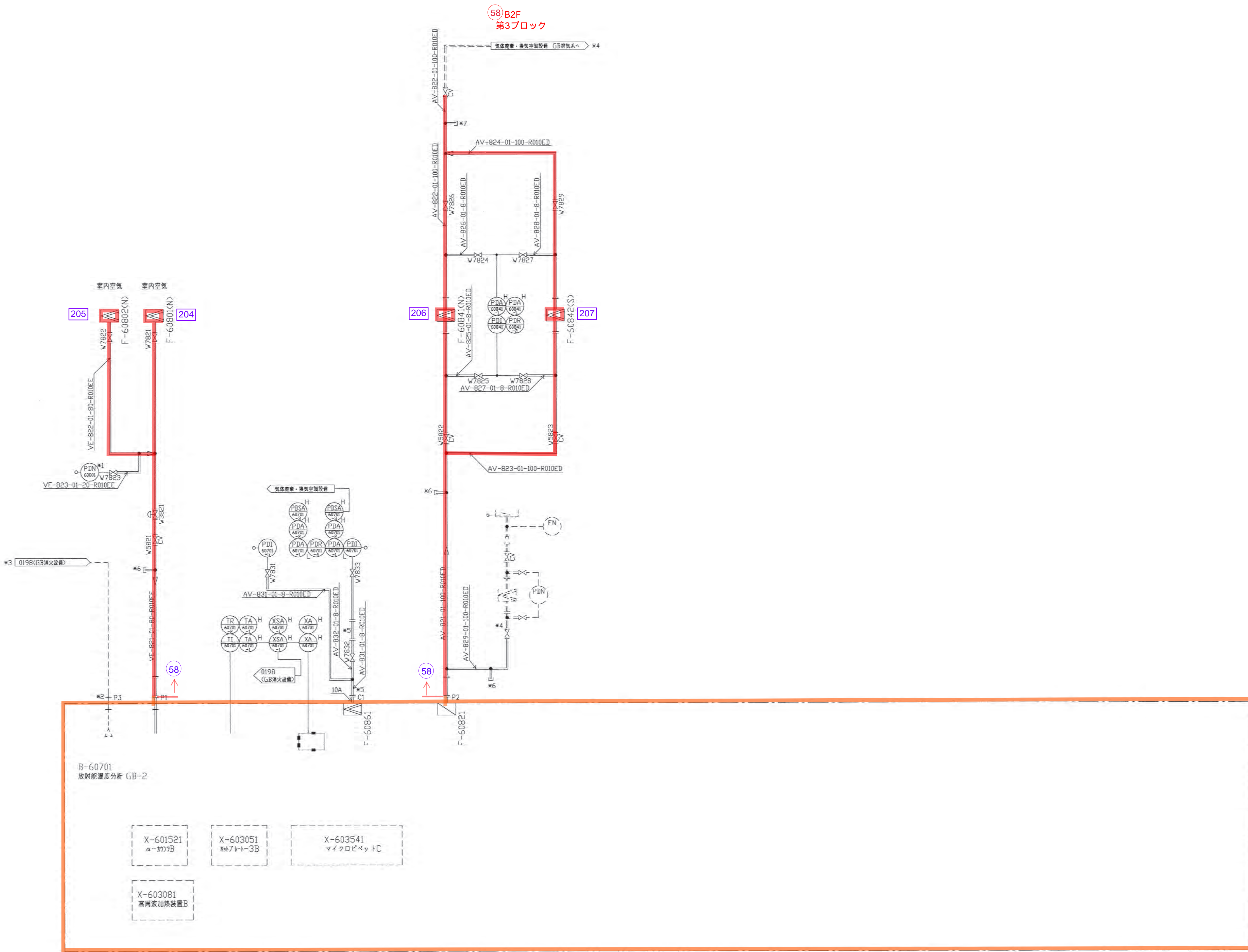
<機器等>  
番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . . . )  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図番名称	燃料加工建屋(PA) 分析設備(G) 分析済液処理設備 エンジニアリングフロー図 (B-50701) 工種: 0167 (12/14)		

エンジニアリングフロー図  
PA0167-12/14



321分析第3室



備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

記号	名称
	貫通口
	差動分布型温度上限検出器

2. 中央監視室に表示がある計装TAGに関しては、制御第2室にも表示する。
3. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- ※1 仮設計器取外し時、積末部にねじ込みキャップ処理を施す。
  - ※2 給気口近傍に設置する。
  - ※3 防火設備(GB防火設備) EFD参照。
  - ※4 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - ※5 異径ファンジ (8AX10A)。
  - ※6 試運転時流量測定用  
10A管径×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
積末部にねじ込みキャップ処理を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)
- 
- ※7 試運転時圧力測定用  
10A管径×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
積末部にねじ込みキャップ処理を施す。
- 

【凡例】

<配管等>

- 番号: 主配管との紐付け番号( , , . . . . .)
- 赤色線: 主となる経路
- 青色線: 安全上重要な施設
- 緑色線: 重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線: グローブボックス

<機器等>

- 番号: 機器等との紐付け番号( [1], [2], . . . . .)
- 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

業先名	日本原燃株式会社	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 分析設備 (G) 分析済液処理設備 エンジニアリングフロー図 (B-60701) 工程: 0167 (13/14)		

エンジニアリングフローダイヤグラム  
PA0167-13/14

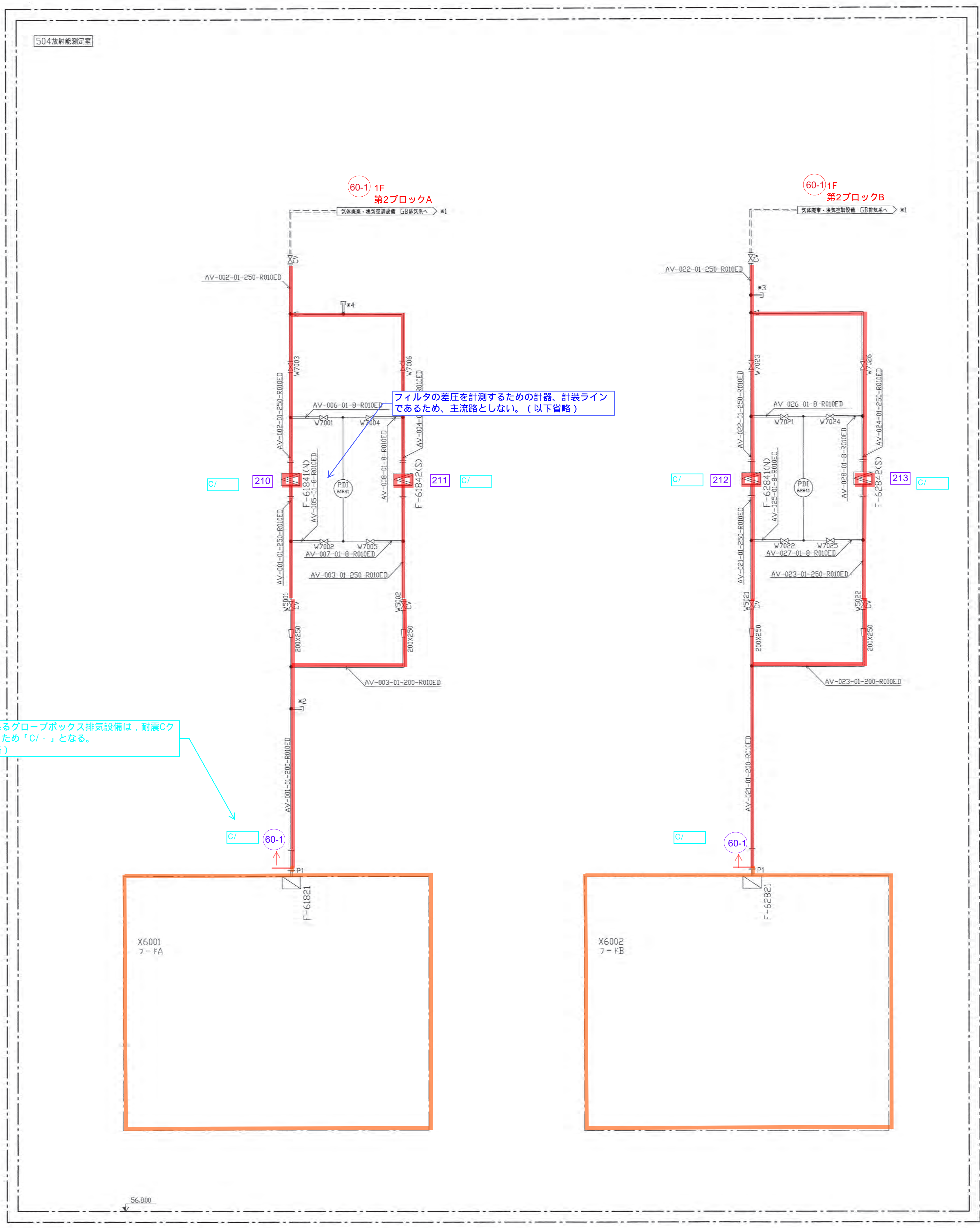












フードに係るグローブボックス排気設備は、耐震Cクラスとなるため「C/-」となる。  
(以下省略)

フィルタの差圧を計測するための計器、計装ラインであるため、主流路としない。(以下省略)

備考  
1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

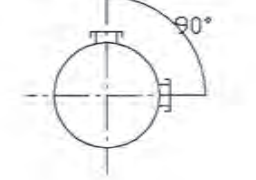
(凡例)

記号	名称
	貫通口

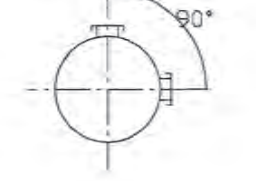
2. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)

\*1 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。

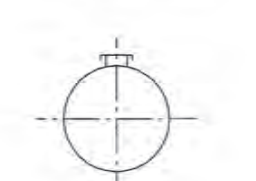
\*2 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。  
(試運転終了後溶接キャップ止めとする)



\*3 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。



\*4 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。



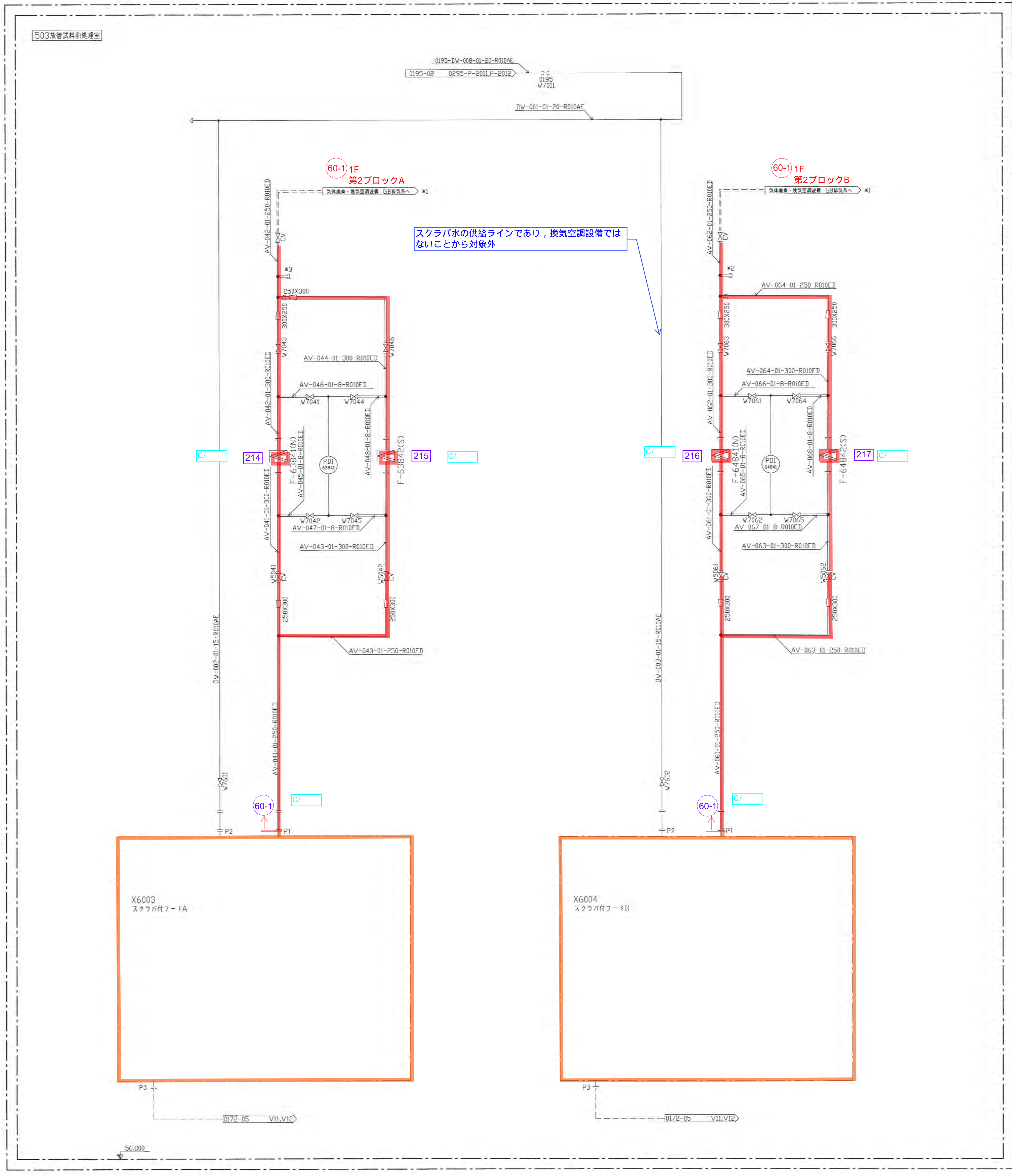
【凡例】

<配管等>  
○番号：主配管との紐付け番号( , , . . . )  
赤色線：主となる経路  
青色線：安全上重要な施設  
緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)  
橙色線：グローブボックス

<機器等>  
番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . )  
紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器  
青色線：延焼防止ダンパ及びヒストンダンパ

発注先	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 放射線管理設備 (L) 放射線管理設備 エンジニアリングフロア図 (X6001,6002)		
エンジニアリングプログラム	PA0182-1/2	工程	0182 (GB) (1/2)





スクラバ水の供給ラインであり、換気空調設備ではないことから対象外

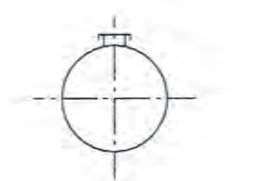
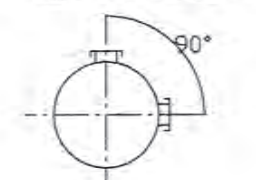
備考

1. 本図中に使用の記号の意味は下記に示す通り。

(凡例)

記号	名称
⊖	貫通口

2. 注記(本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 グローブボックス廻り換気系統図 (PM-0171-4422-002)参照。
  - \*2 試運転時流量測定用  
32A管台×2ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ設置を施す。
  - \*3 試運転時圧力測定用  
10A管台×1ヶ所(可能な範囲で短く)  
端末部にねじ込みキャップ設置を施す。



- 【凡例】
- <配管等>
- 番号: 主配管との紐付け番号 ( , , , . . . )
  - 赤色線: 主となる経路
  - 青色線: 安全上重要な施設
  - 緑色線: 重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線: グローブボックス
- <機器等>
- 番号: 機器等との紐付け番号 ( [1], [2], . . . )
  - 紫色線: グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線: 延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

客先名	日本原燃株式会社	オーダーアイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 放射線管理設備 (L) 放射線管理設備 エンジニアリングフロ-図		
エンジニアリングフロー	(X6003,6004)		
PA0182-2/2	工程: 0182 (GB) (2/2)		



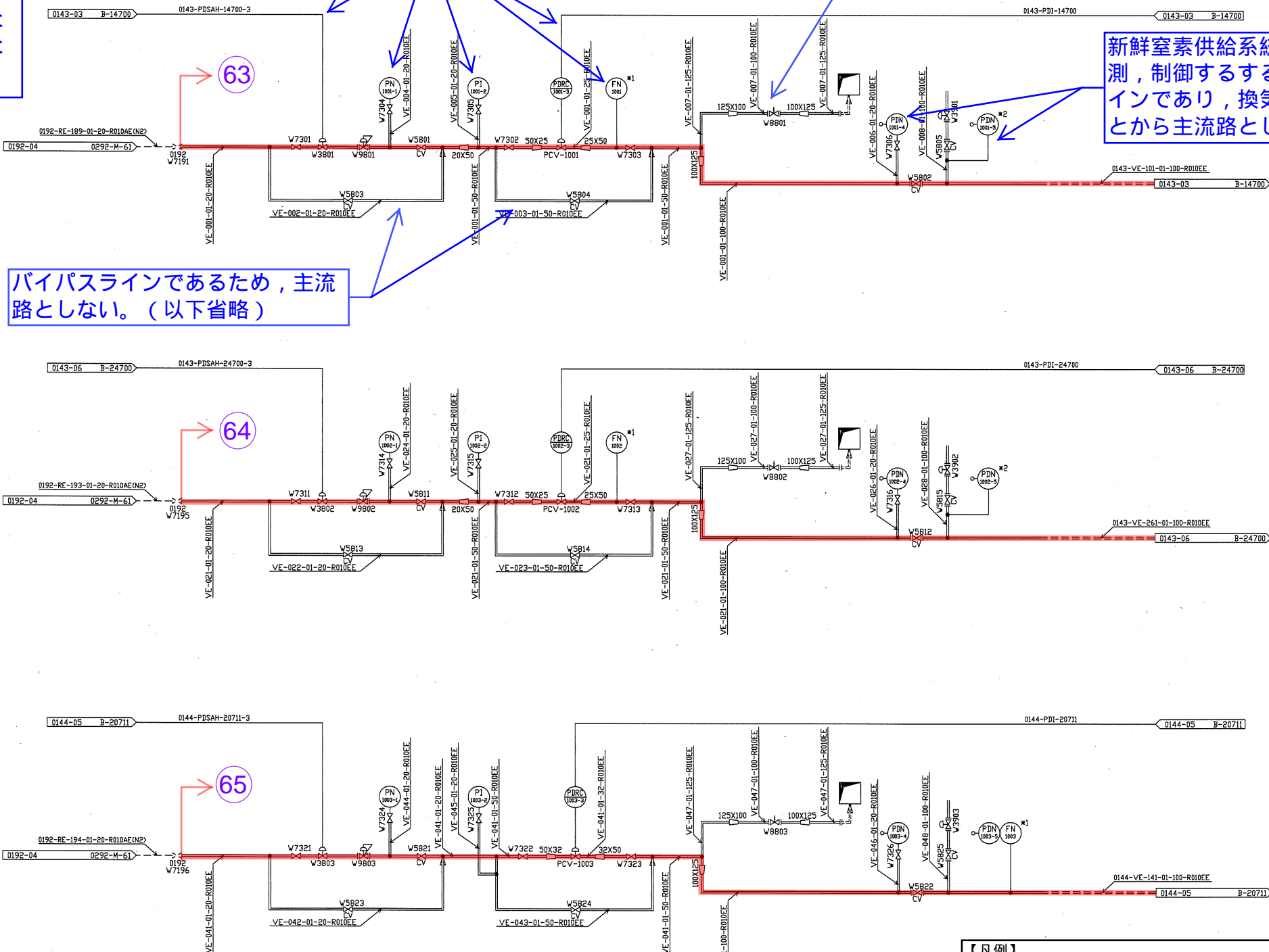
新鮮窒素供給システムの圧力及び風量を計測，制御するための計器，計装ラインであり，換気空調設備ではないことから主流路としない。(以下省略)

窒素ガス供給源となるユーティリティ設備であり，換気空調設備ではないことから主流路としない。(以下省略)

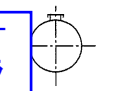
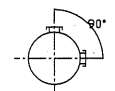
空調バランスをとるための配管は，換気システムの支援機能であるため，主流路としない。(以下省略)

新鮮窒素供給システムの圧力及び流量を計測，制御するための計器，計装ラインであり，換気空調設備ではないことから主流路としない。(以下省略)

バイパスラインであるため，主流路としない。(以下省略)



- 備考
1. 注記 (本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ設置を要す。
  - \*2 20A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ設置を要す。

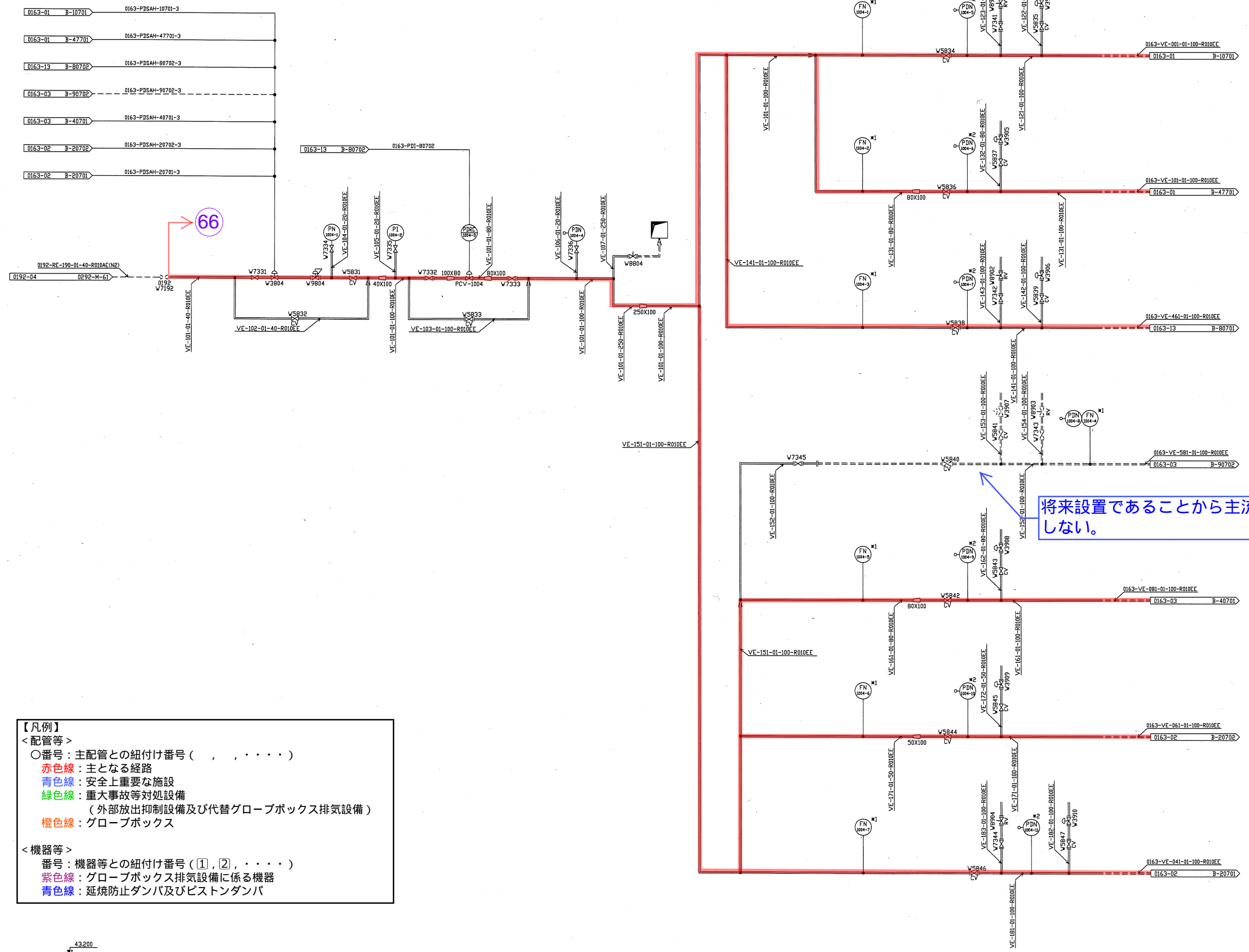


- 【凡例】
- < 配管等 >
- 番号：主配管との紐付け番号 ( , , . . . )
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備 (外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- < 機器等 >
- 番号：機器等との紐付け番号 (①, ②, . . . )
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

エンジニアリングフローダイアグラム PA0171-1/5

燃料加工建屋 (PA) 換気空調設備 (H) (0171) 新鮮窒素供給システム エンジニアリングフロー図 (1/5) E区分 (精加工工程設備) SH-1





**【凡例】**

< 配管等 >

- 番号：主配管との紐付け番号 ( . . . . . )
- 赤色線：主となる経路
- 青色線：安全上重要な施設
- 緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
- 橙色線：グローブボックス

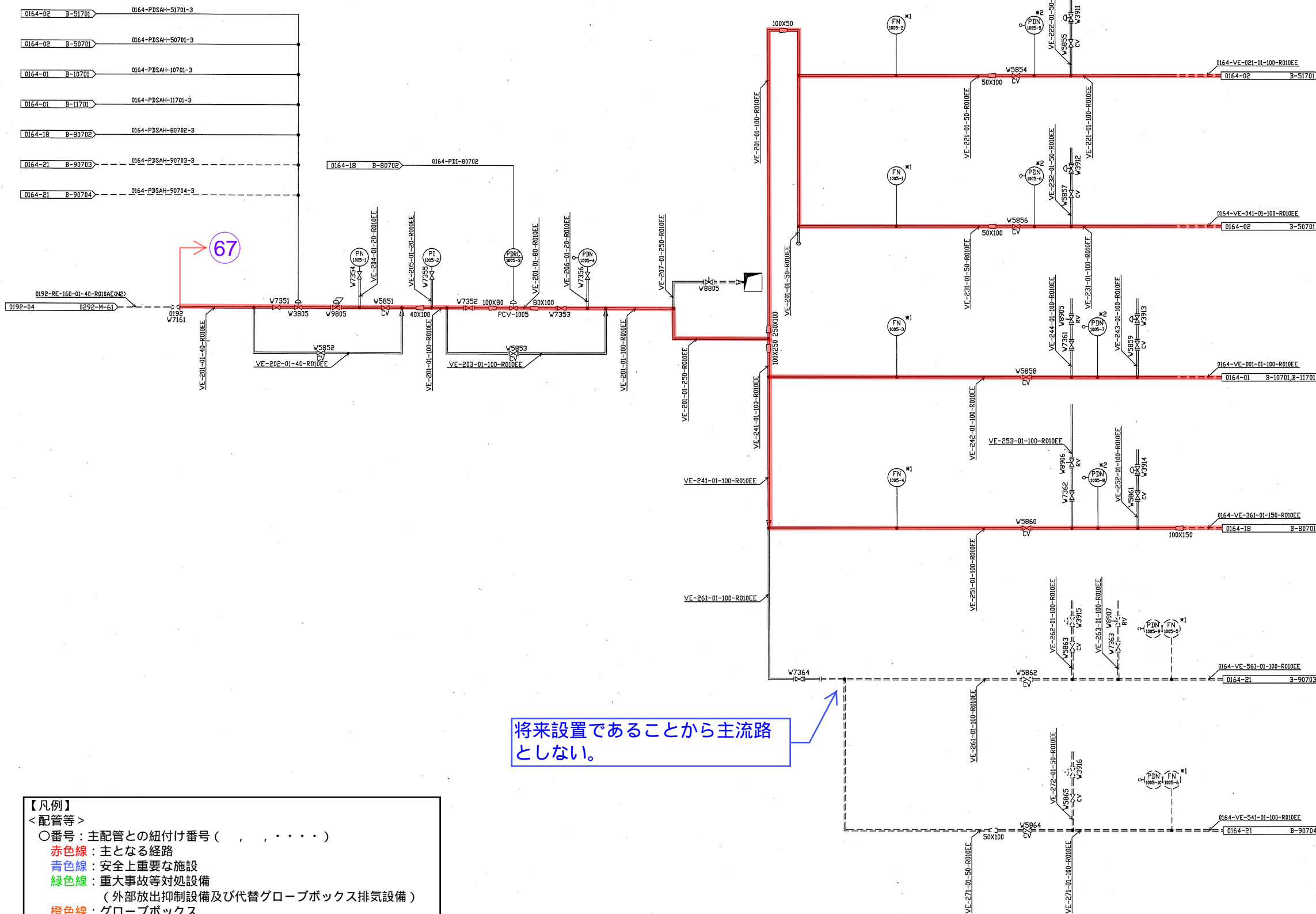
< 機器等 >

- 番号：機器等との紐付け番号 ( ①, ②, . . . . . )
- 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
- 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

- 備考
1. 注記 (本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
  - \*2 20A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ処置を施す。
- 

将来設置であることから主流路としない。



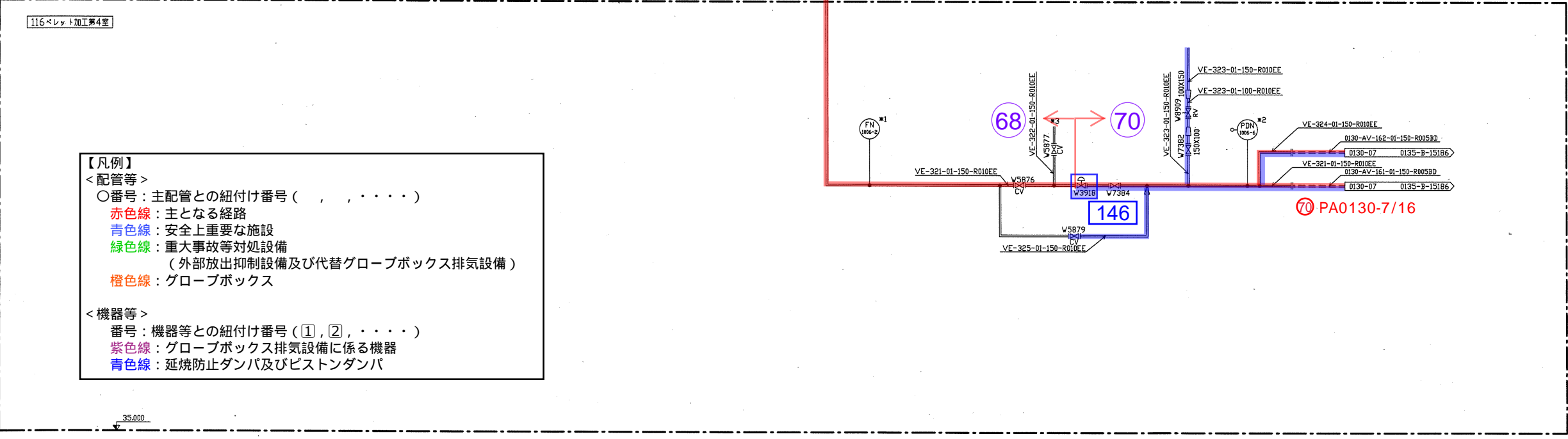
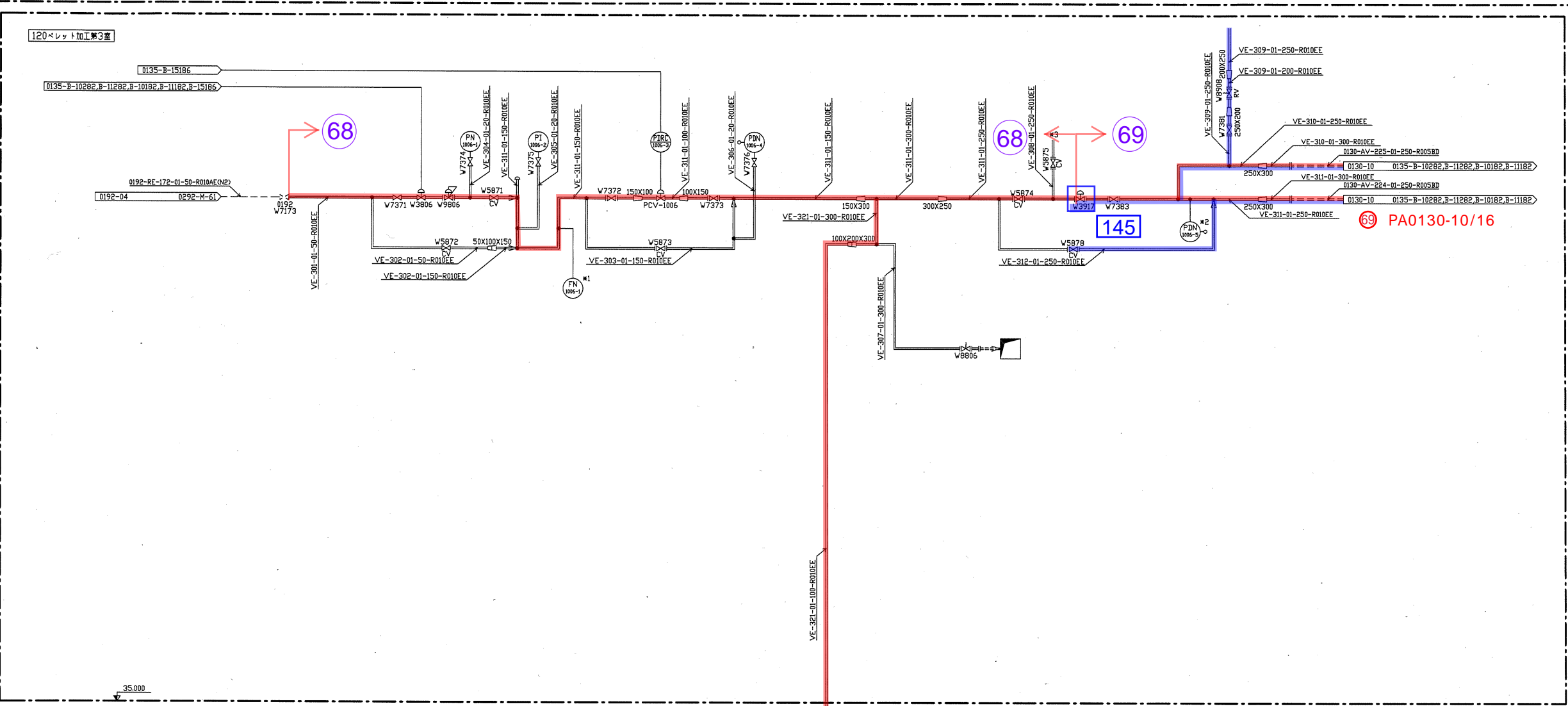


- 【凡例】**
- <配管等>**
- 番号：主配管との紐付け番号( , , . . . )
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
  - 緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローブボックス排気設備)
  - 橙色線：グローブボックス
- <機器等>**
- 番号：機器等との紐付け番号(①, ②, . . . )
  - 紫色線：グローブボックス排気設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

- 備考
1. 注記 (本図中の注記は下記に示す通り)
- \*1 10A管台×2ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ設置を要す。
  - \*2 20A管台×1ヶ所 (可能な範囲で短く) 端末部にねじ込みキャップ設置を要す。







**【凡例】**

<配管等>

○番号：主配管との紐付け番号（ , , . . . . .）

赤色線：主となる経路

青色線：安全上重要な施設

緑色線：重大事故等対処設備  
(外部放出抑制設備及び代替グローボックス排気設備)

橙色線：グローボックス

<機器等>

番号：機器等との紐付け番号（①, ②, . . . . .）

紫色線：グローボックス排気設備に係る機器

青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

備考

1. 注記（本図中の注記は下記に示す通り）

※1 10A管台×2ヶ所（可能な範囲で短く）  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。

※2 20A管台×1ヶ所（可能な範囲で短く）  
端部にねじ込みキャップ処置を施す。

※3 試運転時の風量計測は、仮設治具を設置し実施。

エンジニアリングフロ-ダイヤグラム  
PA0171-4/5

燃料加工建屋 (PA)  
換気空調設備 (H) (0171) 新製燃費供給系統  
エンジニアリングフロ-図 (4/5)  
D区分 (ベレット加工工程) SH-4



#### (4) 窒素循環設備



抽出リスト（機器）（窒素循環設備）  
(1/2)

【機器等の抽出】

紐付け番号	施設区分	設備区分					機器名称（許可）	機器名称	機種	機器番号	設置場所	数量	申請回	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用 (主従)	共用 (主従)	備考
1	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備	設計基準対象の施設	窒素循環設備	—	—	窒素循環ファン	窒素循環ファン	ファン	燃料加工建屋	2	2	新設	安重	—	B-4/-※	—	—	単線ダクトルート図 地下1階1ブロック
2																				0171-K-502 (窒素循環ファンB)
3	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備	設計基準対象の施設	窒素循環設備	—	—	窒素循環冷却機	窒素循環冷却機	機械装置	燃料加工建屋	2	2	新設	安重	—	B-4/-※	—	—	単線ダクトルート図 地下1階1ブロック
4																				0171-C-552 (窒素循環冷却機B)

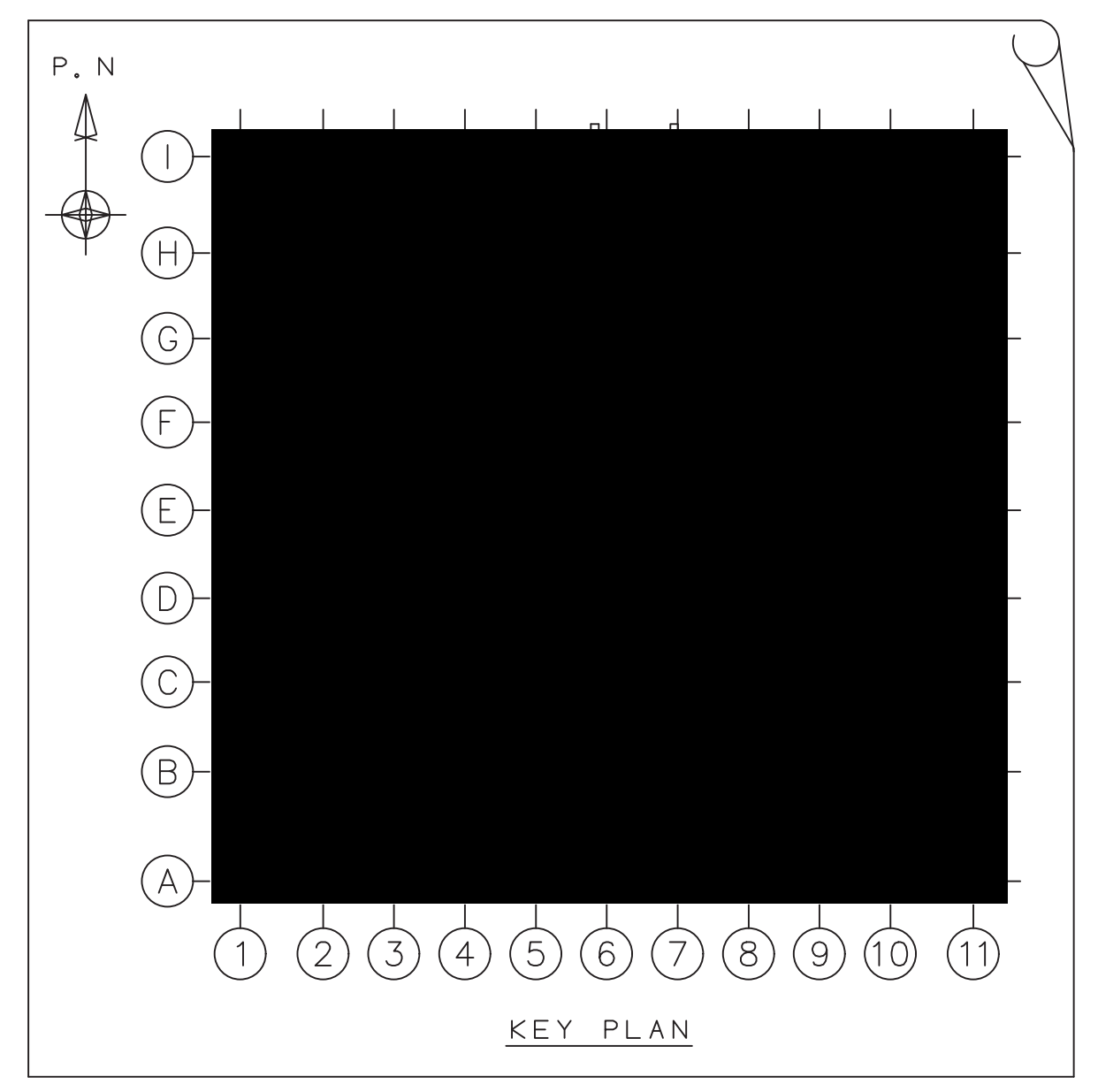
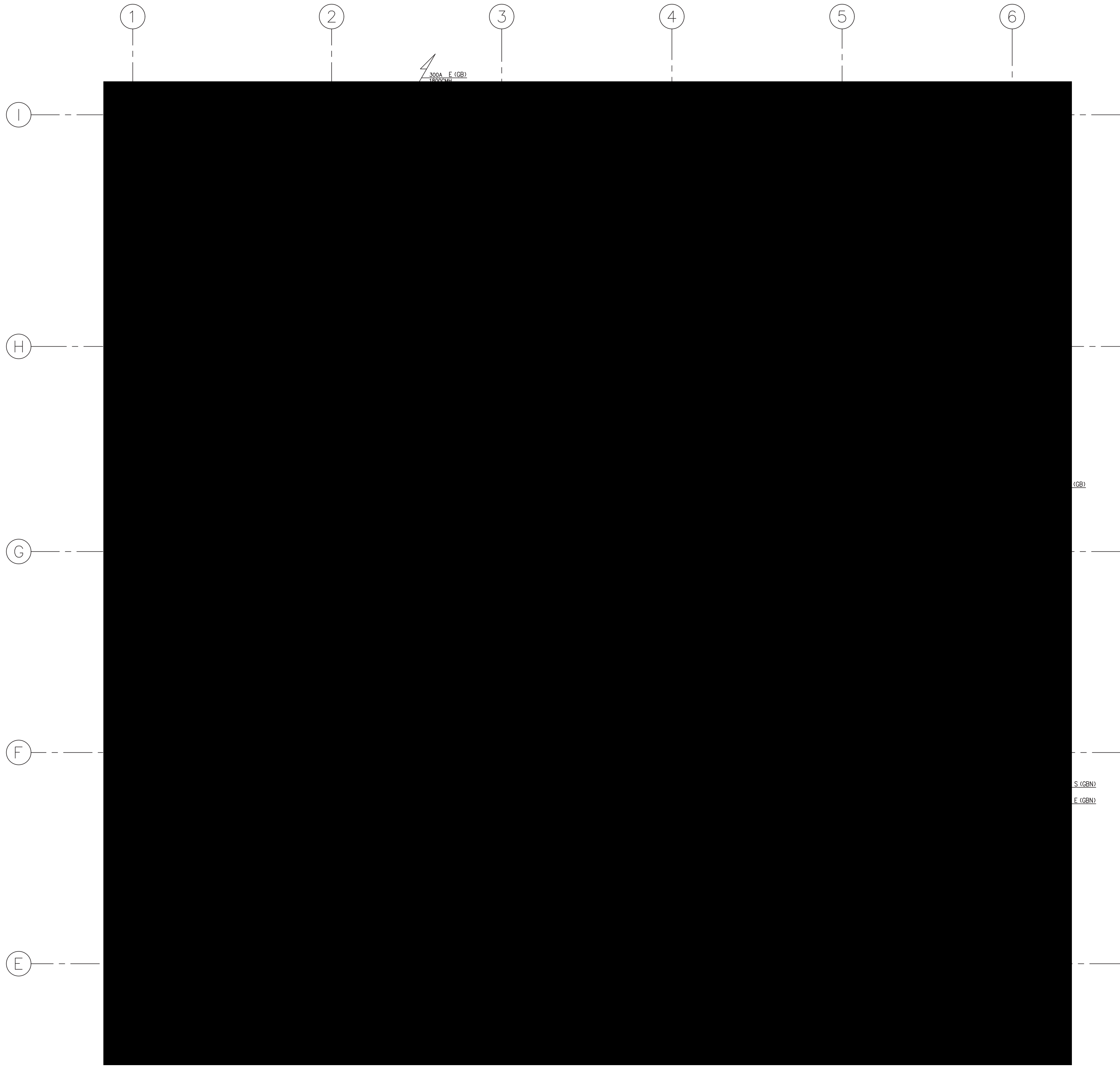
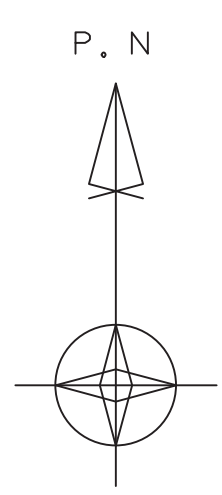


抽出リスト (配管) (窒素循環設備)  
(2/2)

【主配管等の名称整理】

紐付け番号	施設区分	設備区分	機器名称 (許可)	機器名称	機種	設置場所	数量	申請回	変更区分	D/B区分	S/A区分	耐震設計	兼用 (主従)	共用 (主従)	備考			
1-1	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	延焼防止ダンパ(SPD W3107, W3109, W3111, W3113, W3115, W3117, W3118, W3126, W3128, W3130, W3142, W3144, W3146, W3148, W3182, W3184)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-	—	—	
1-2	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	302 分析第一室入口取合点 ～ 窒素循環戻りダクト合流点1(B2F)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-*	—	—	※経路外放出を防止する観点で、基準地震動S <sub>s</sub> の1.2倍の地震力においても、経路が維持できる設計とする。
2-1	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	延焼防止ダンパ(SPD W3197) ～ 気密逆止ダンパ(ATCD W6424)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-	—	—	
2-2	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	気密逆止ダンパ(ATCD W6424) ～ 窒素循環戻りダクト合流点1(B2F)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-*	—	—	※経路外放出を防止する観点で、基準地震動S <sub>s</sub> の1.2倍の地震力においても、経路が維持できる設計とする。
3	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	窒素循環戻りダクト合流点1(B2F) ～ 窒素循環冷却機A, B ～ 窒素循環ファンA, B ～ 窒素循環給気ダクト分岐点1(B2F)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-*	—	—	※経路外放出を防止する観点で、基準地震動S <sub>s</sub> の1.2倍の地震力においても、経路が維持できる設計とする。
4-1	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	窒素循環給気ダクト分岐点1(B2F) ～ ピストンダンパ(PD W3523)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-*	—	—	※経路外放出を防止する観点で、基準地震動S <sub>s</sub> の1.2倍の地震力においても、経路が維持できる設計とする。
4-2	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	ピストンダンパ(PD W3523) ～ 手動ダンパ(W8588)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-	—	—	
5-1	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	窒素循環給気ダクト分岐点1(B2F) ～ 302 分析第一室出口取合点	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-*	—	—	※経路外放出を防止する観点で、基準地震動S <sub>s</sub> の1.2倍の地震力においても、経路が維持できる設計とする。
5-2	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	302 分析第一室出口取合点 ～ 窒素循環設備/グローブボックス排気設備取合ダンパ (W8483, W8484, W8486, W8488, W8489, W8490, W8492, W8493, W8494, W8495, W8496, W8498, W8501, W8502, W8504, W8505)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	安重	—	B-4/-	—	—	
6	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	手動ダンパ(W8579) ～ 窒素循環戻りダクト合流点2(B2F)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	非安重	—	B-1/-	—	—	
7	放射性廃棄物の廃棄施設	—	気体廃棄物の廃棄設備 設計基準対象の施設	窒素循環設備 —	—	窒素循環ダクト	窒素循環給気ダクト分岐点2(B2F) ～ 手動ダンパ(W5230)	主配管	燃料加工建屋	1式	2	新設	非安重	—	B-1/-	—	—	





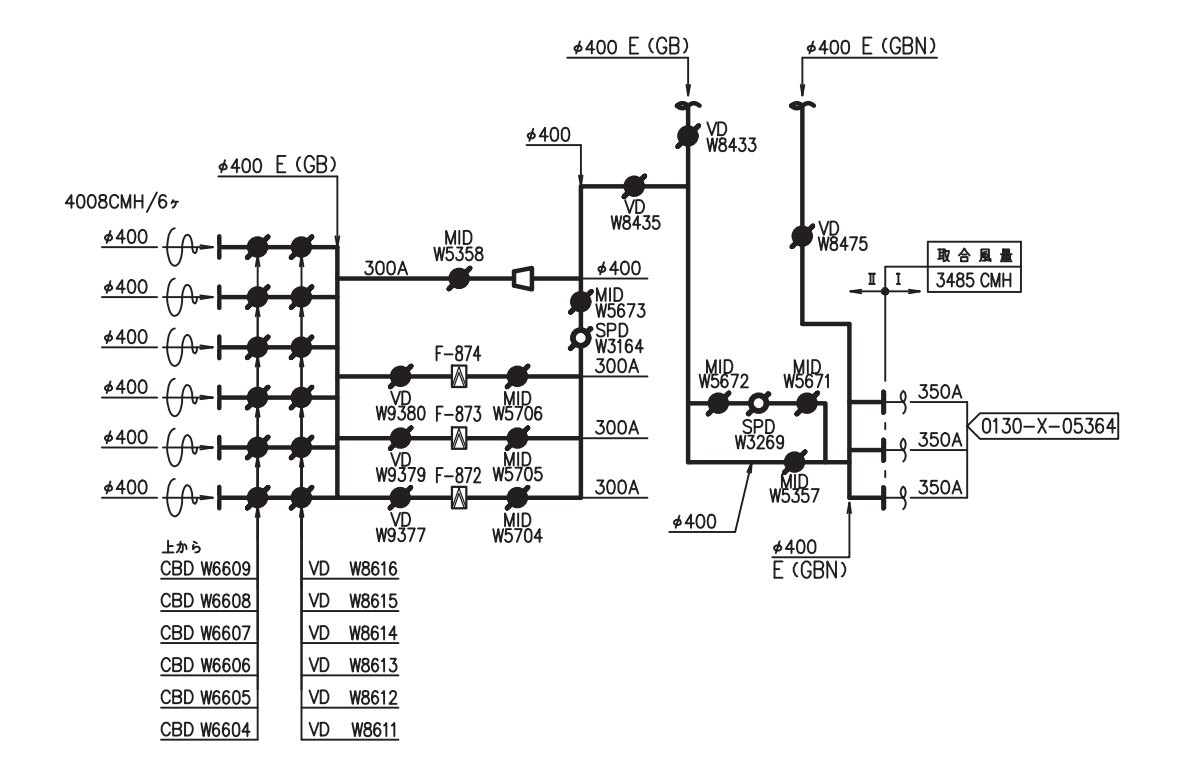
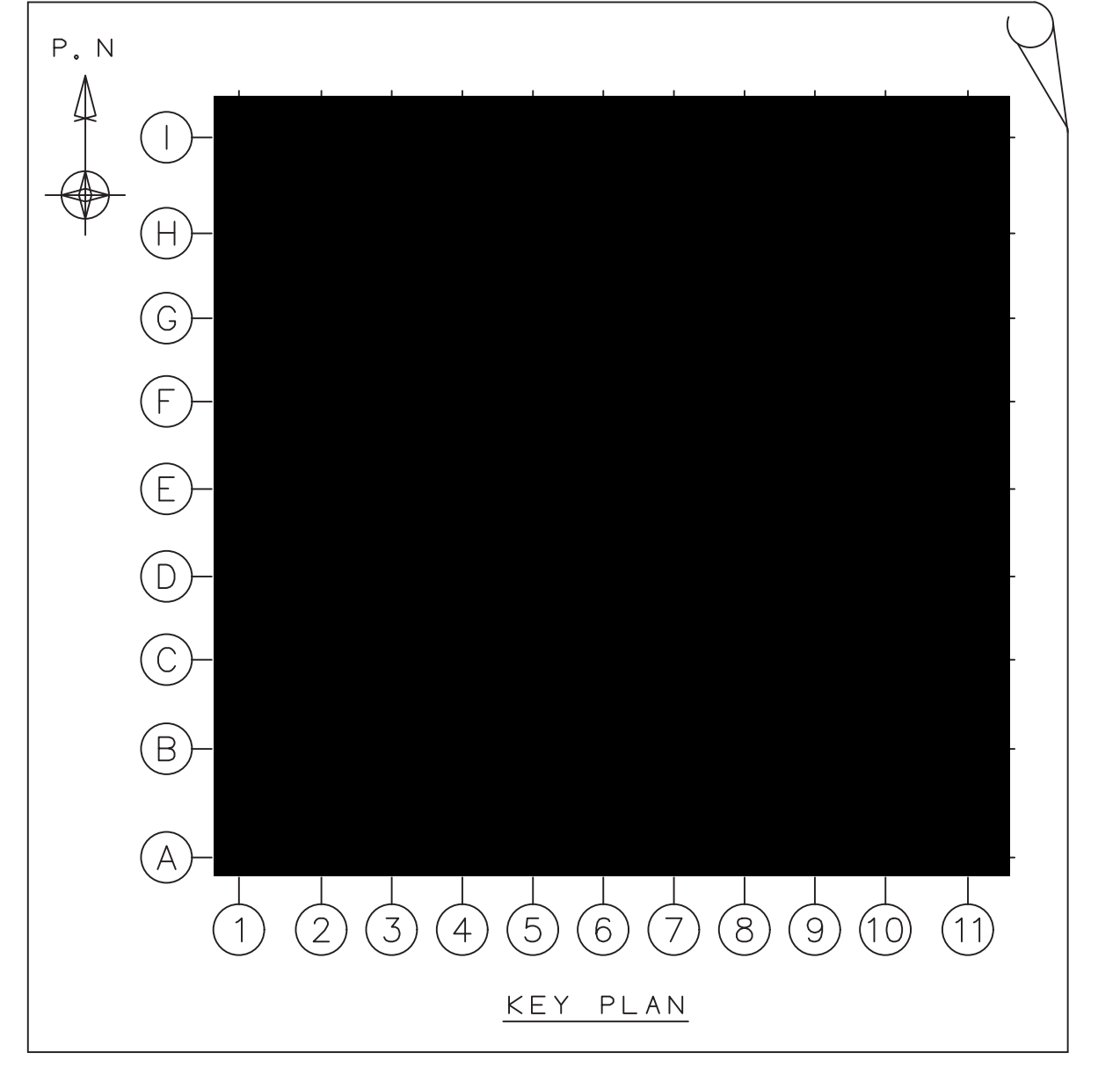
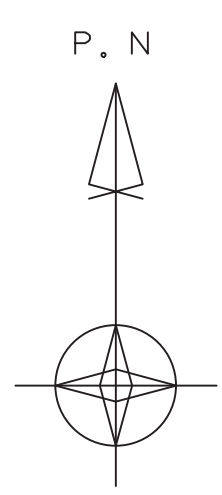
**【凡例】**  
 <配管等>  
 ○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 <機器等>  
 □番号：機器等との紐付け番号 (①② ……)  
 紫色線：窒素循環設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ  
 <引き出し線>  
 赤色：分岐部, 合流部等  
 桃色：主流路とする考え方の補足  
 青色：主流路としない考え方の補足  
 水色：耐震設計の考え方

凡例  
 E (GB)   
 E (GBN)   
 S (GBN)   
 LCS

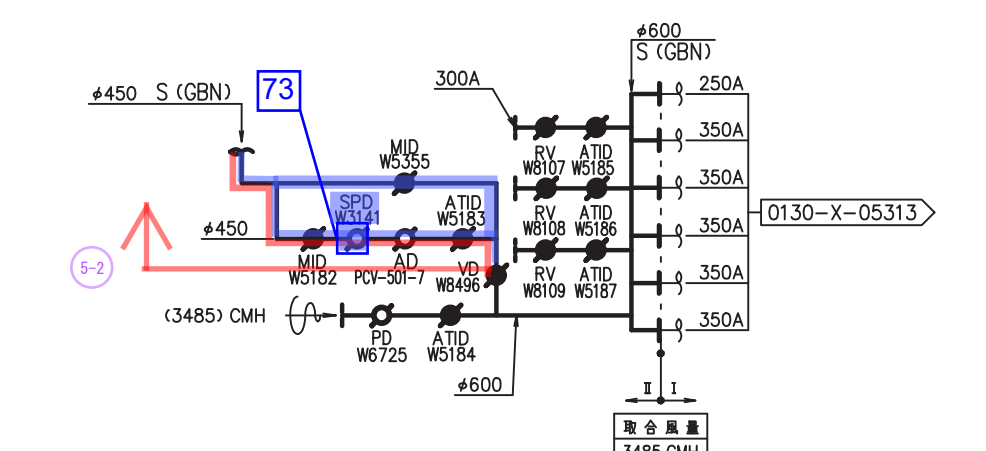
材料	標準	寸法	単位	数量	備考	記事
						日本原燃株式会社
						MOX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)
						気体廃棄・換気空調設備 (H)
						単線ダクトルート図
						地下3階 1ブロック (GB, GBN)

■ については核不拡散の観点から公開できません



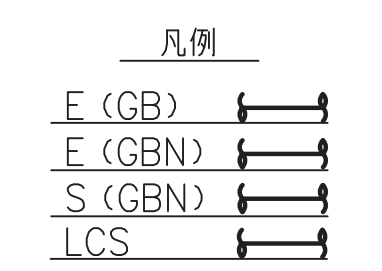


X-05364接続部詳細



X-05313接続部詳細

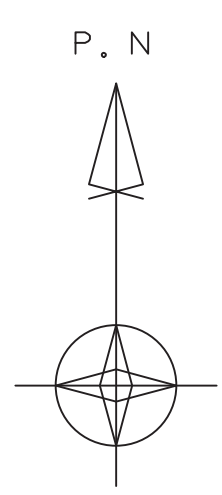
- 【凡例】**
- <配管等>  
 ○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設
- <機器等>  
 □番号：機器等との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 紫色線：窒素循環設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ
- <引き出し線>  
 赤色：分枝部、合流部等  
 桃色：主流路とする考え方の補足  
 青色：主流路としない考え方の補足  
 水色：耐震設計の考え方



■ については核不拡散の観点から公開できません

材料	仕様	数量	単位	計量	記事
日本原燃株式会社 設					
MOX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)					
気体廃棄・換気空調設備 (H)					
単線ダクトルート図					
地下3階 2ブロック (GB, GBN)					





① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

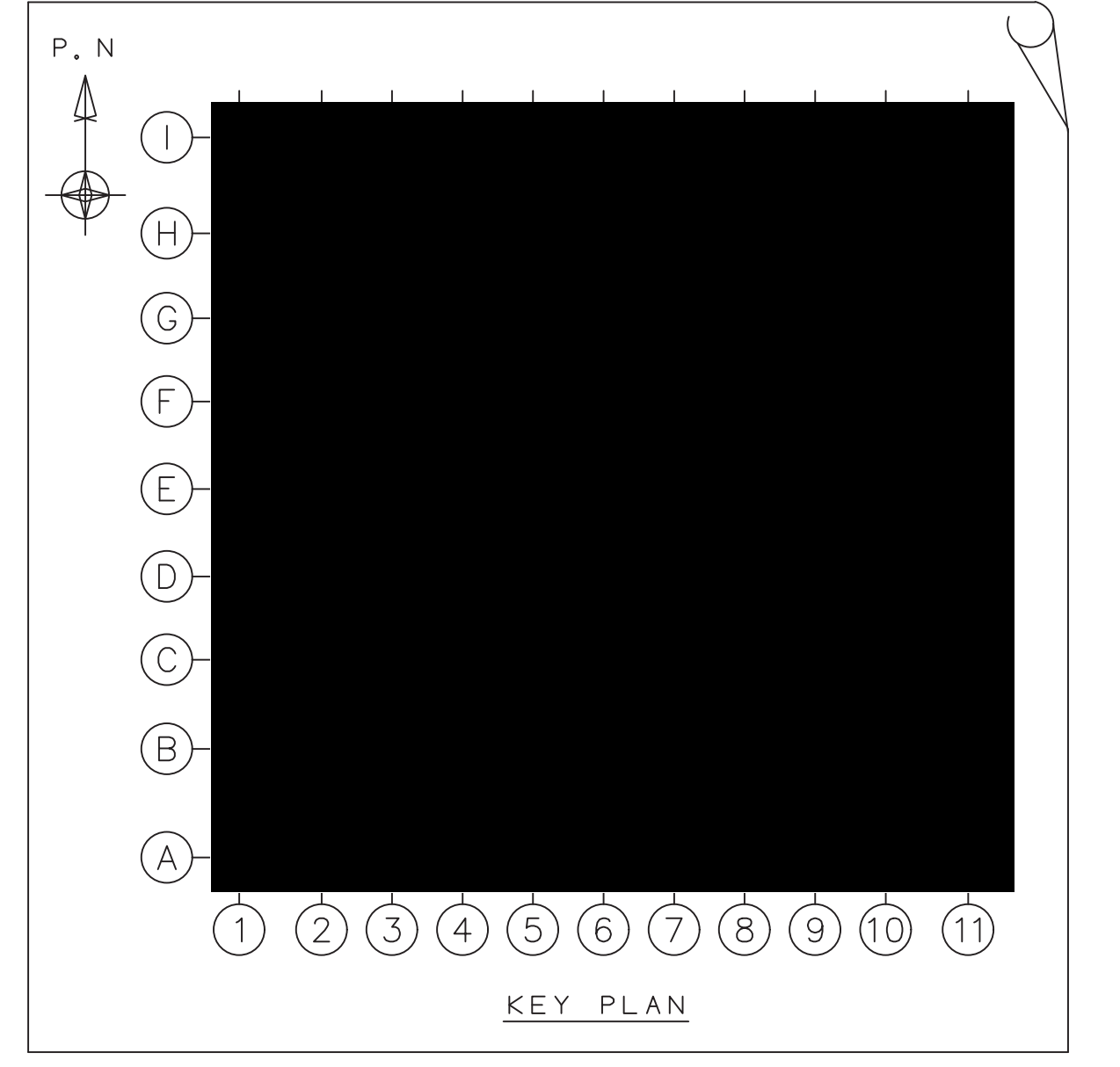
E

D

C

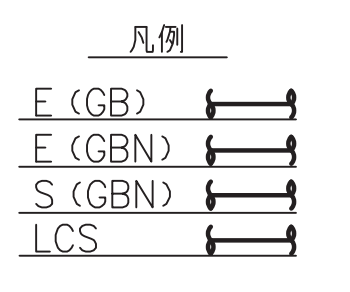
B

A



E (GBN)  
 S (GBN)  
 S (GBN)  
 S (GBN)  
 S (GBN)

20A E (GB)



【凡例】  
 <配管等>  
 ○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設  
 <機器等>  
 □番号：機器等との紐付け番号 (□② ……)  
 紫色線：窒素循環設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ  
 <引き出し線>  
 赤色：分岐部, 合流部等  
 桃色：主流路とする考え方の補足  
 青色：主流路としない考え方の補足  
 水色：耐震設計の考え方

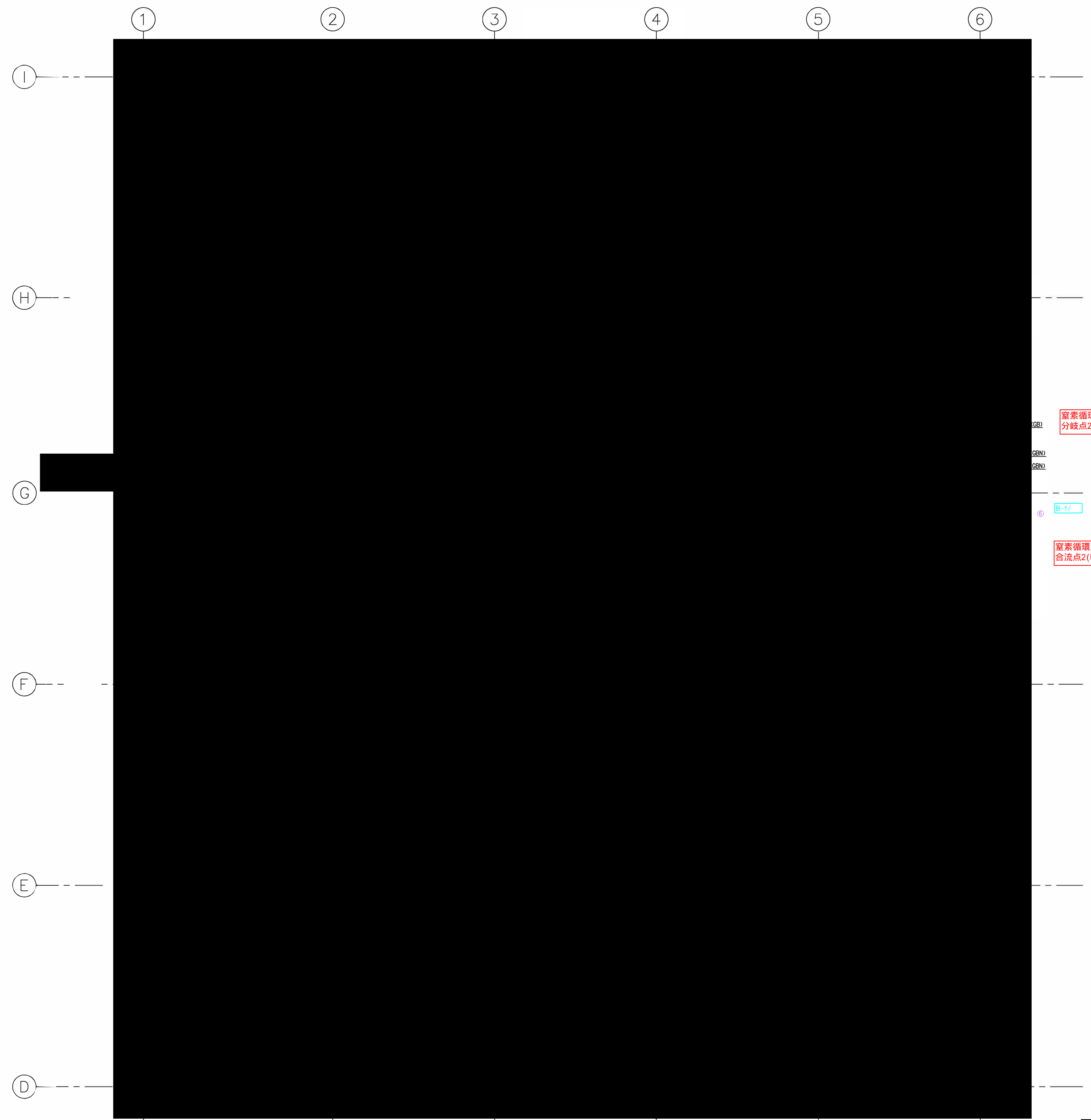
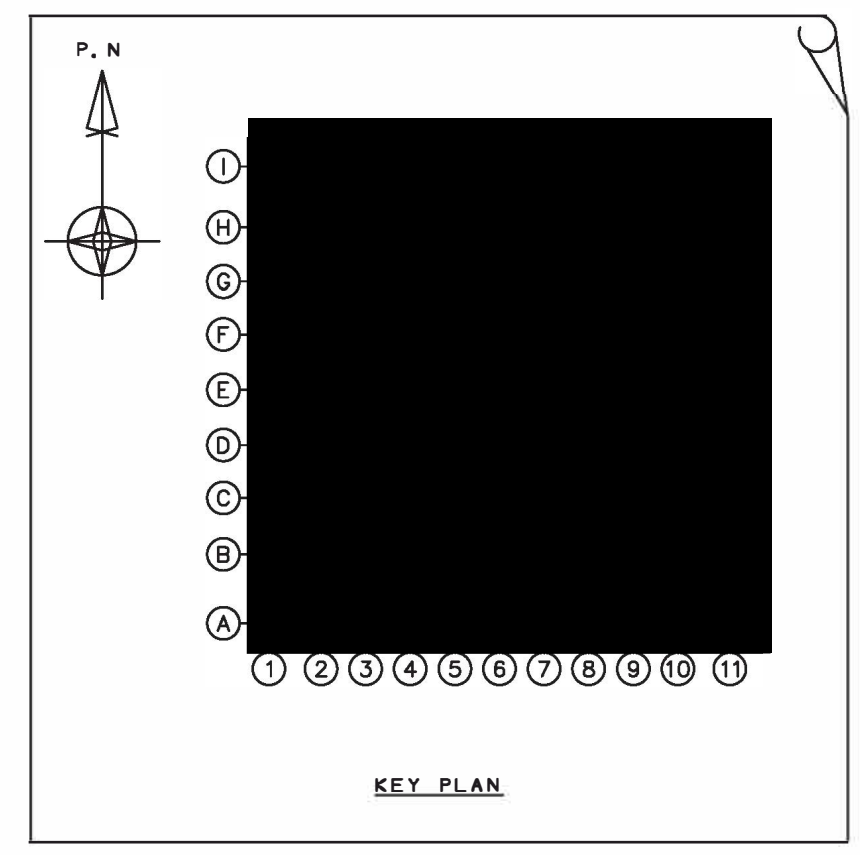
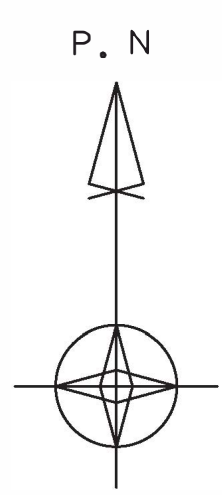
■については核不拡散の観点から公開できません

材料	規格	標準	単位	数量	質量 (kg)	記事
日本原燃株式会社 設						
MOX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)						
気体廃棄・換気空調設備 (H)						
単線ダクトルート図						
地下3階 3ブロック (GB, GBN)						





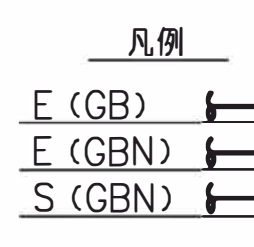




居室循環給気ダクト  
 分岐点2(B2F)

居室循環戻りダクト  
 合流点2(B2F)

B-17



【凡例】

< 配管等 >  
 ○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設

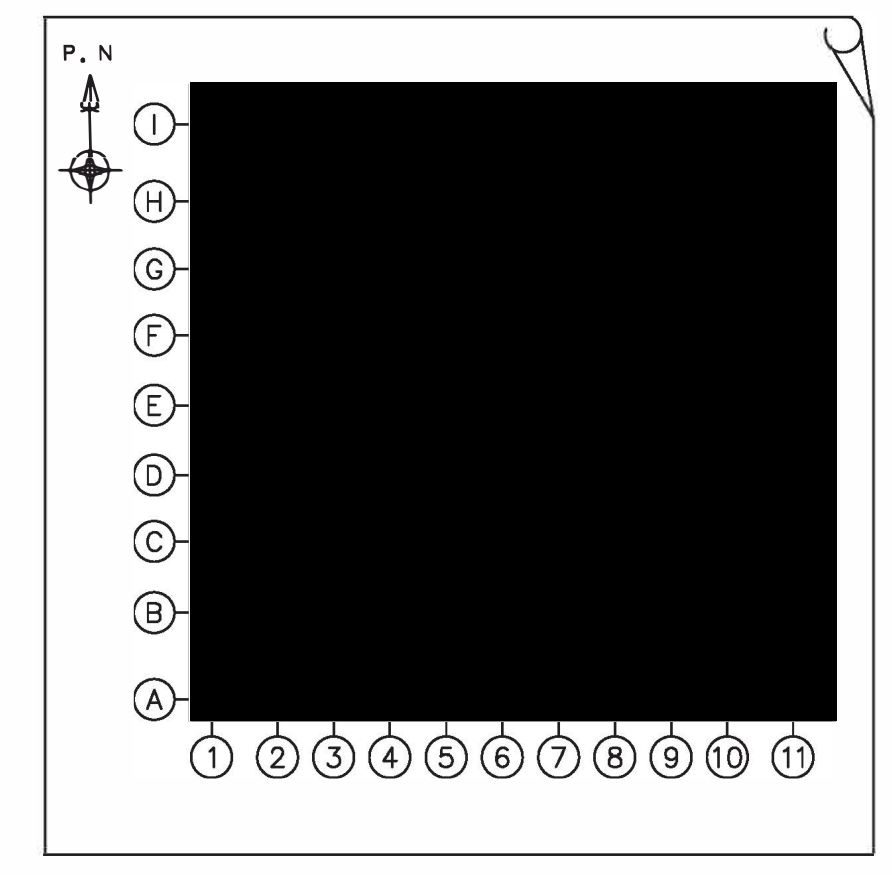
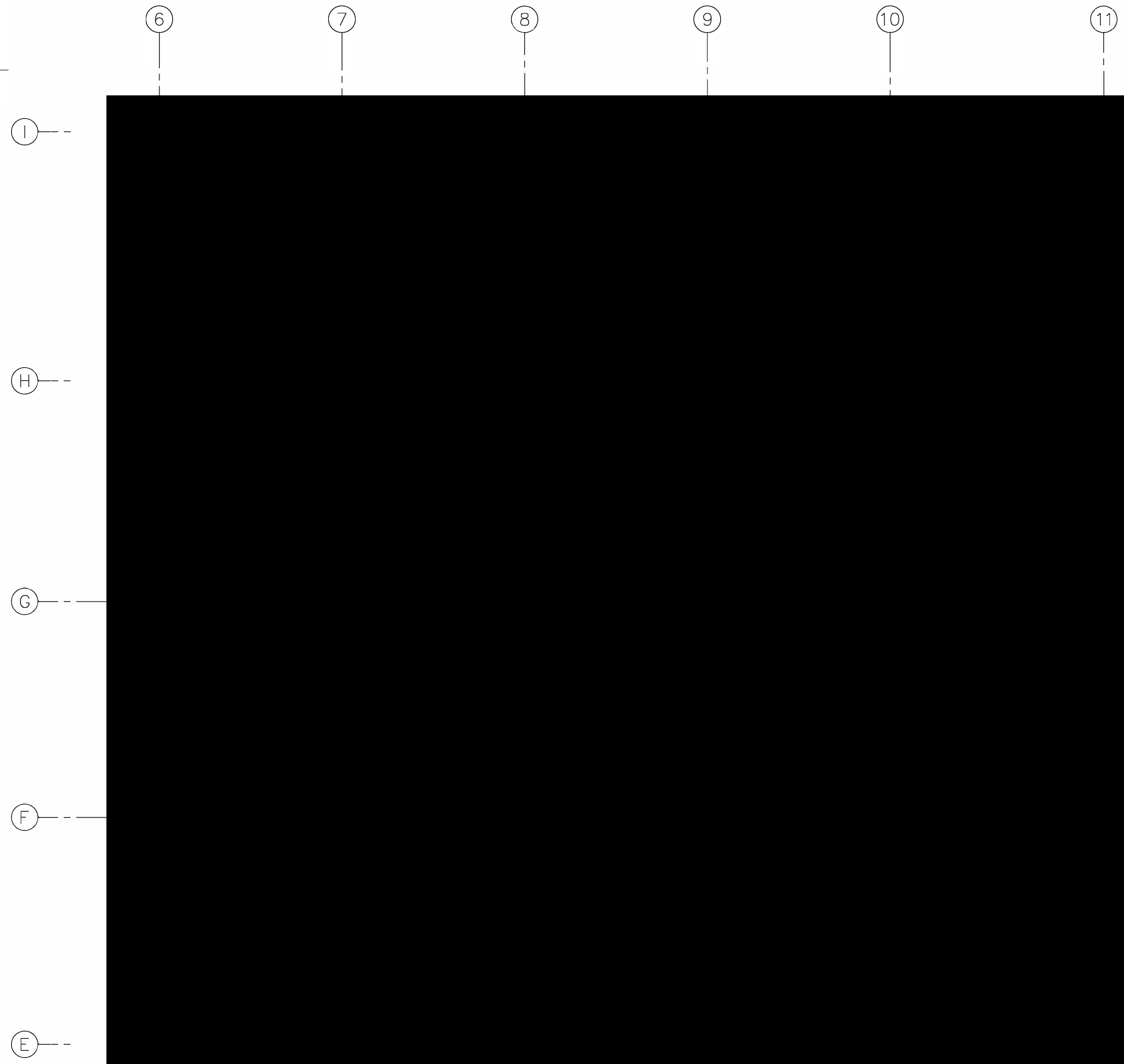
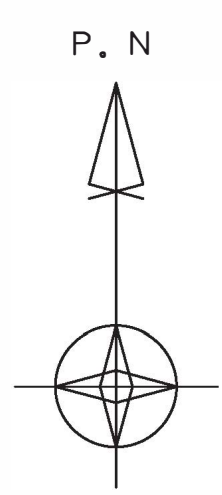
< 機器等 >  
 □番号：機器等との紐付け番号 (□ 2) ……  
 紫色線：居室循環設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

< 引き出し線 >  
 赤色：分岐部, 合流部等  
 桃色：主流路とする考え方の補足  
 青色：主流路としない考え方の補足  
 水色：耐震設計の考え方

材料	数量	単位	重量 (kg)	記事
日本原燃株式会社				
MIX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)				
気体廃棄・換気空調設備 (H)				
単線ダクトルート図				
地下2階 1ブロック (GB, GBN)				

■については核不拡散の観点から公開できません





【凡例】

<配管等>

○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)

赤色線：主となる経路

青色線：安全上重要な施設

<機器等>

□番号：機器等との紐付け番号 (□② ……)

紫色線：窒素循環設備に係る機器

青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

<引き出し線>

赤色：分岐部，合流部等

桃色：主流路とする考え方の補足

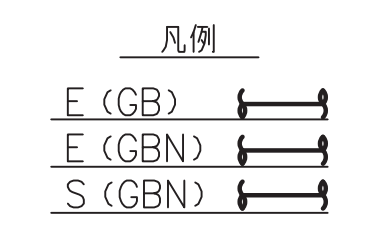
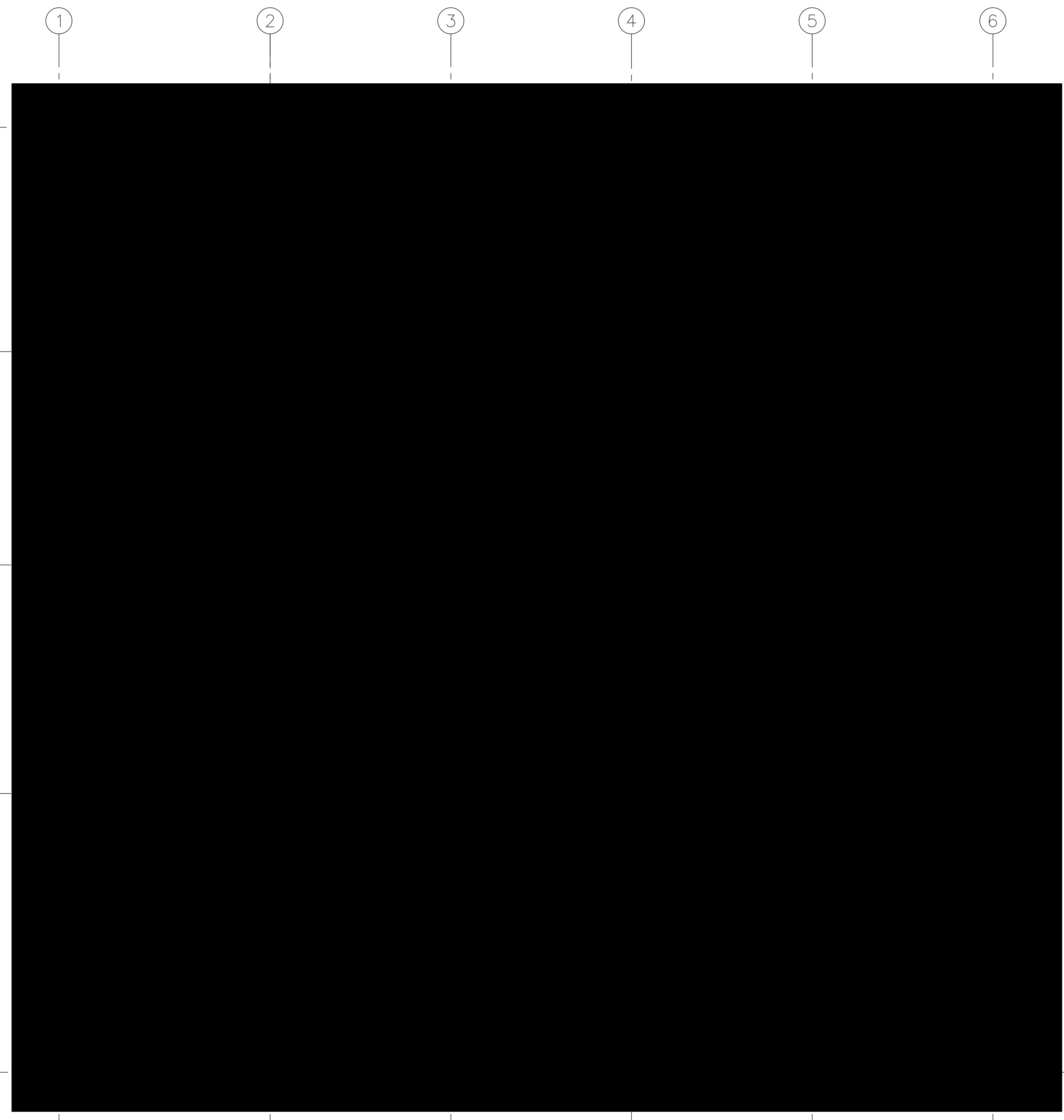
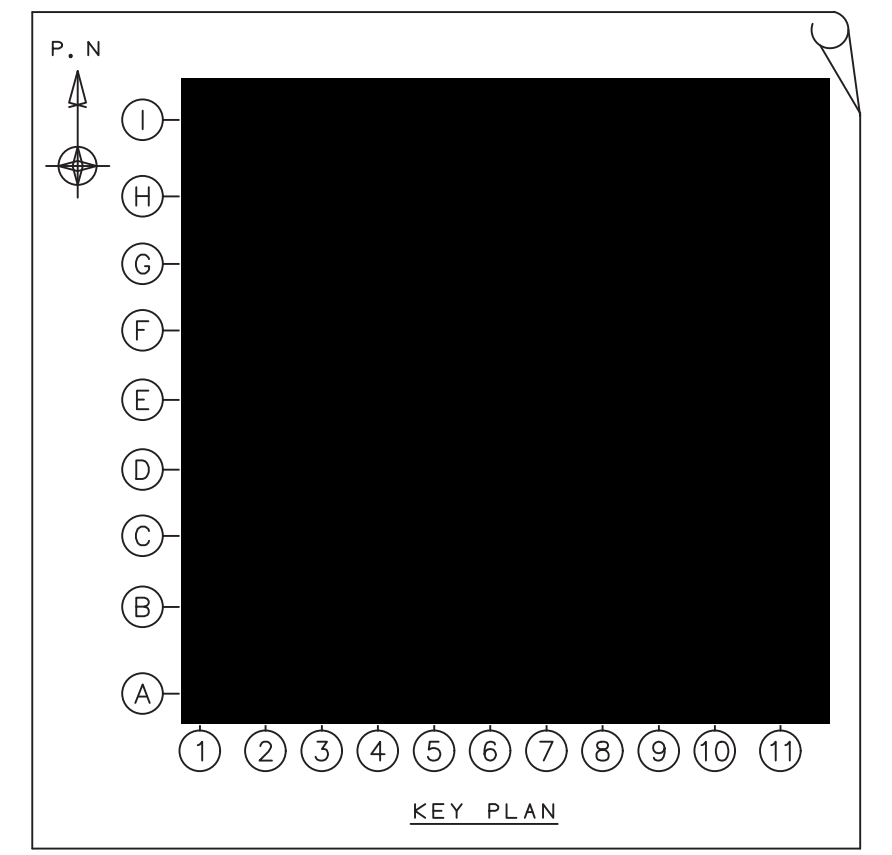
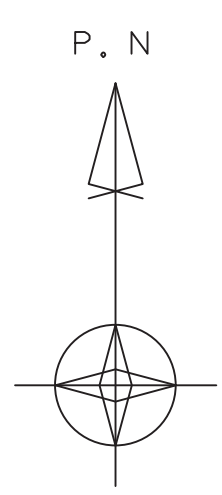
青色：主流路としない考え方の補足

水色：耐震設計の考え方

■については核不拡散の観点から公開できません

材料	数量	単位	備考	記事
日本原燃株式会社				
MIX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)				
気体廃棄・換気空調設備 (H)				
単線ダクトルート図				
地下2階 2ブロック (GB, GBN)				





**【凡例】**  
 <配管等>  
 ○番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 赤色線：主となる経路  
 青色線：安全上重要な施設

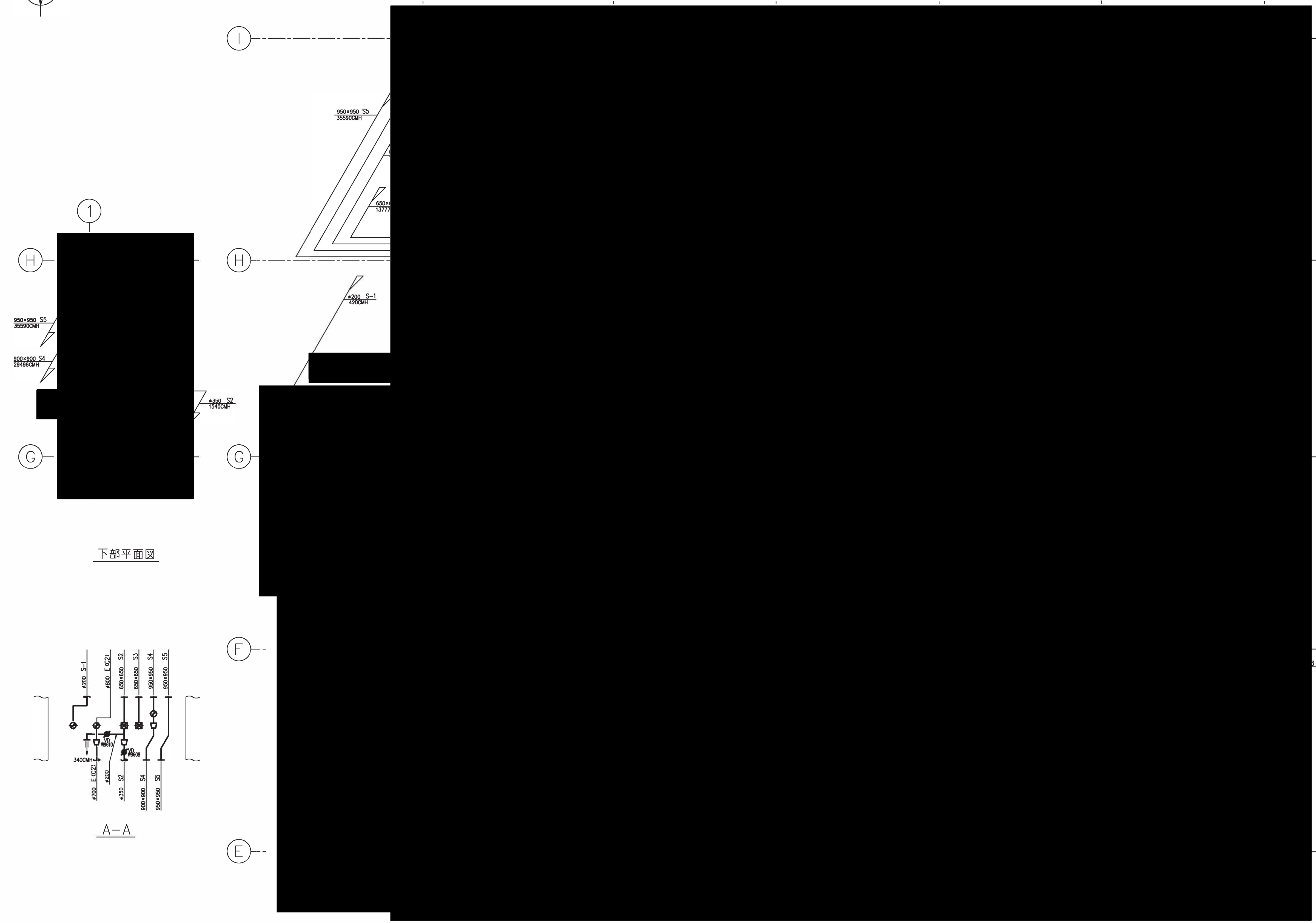
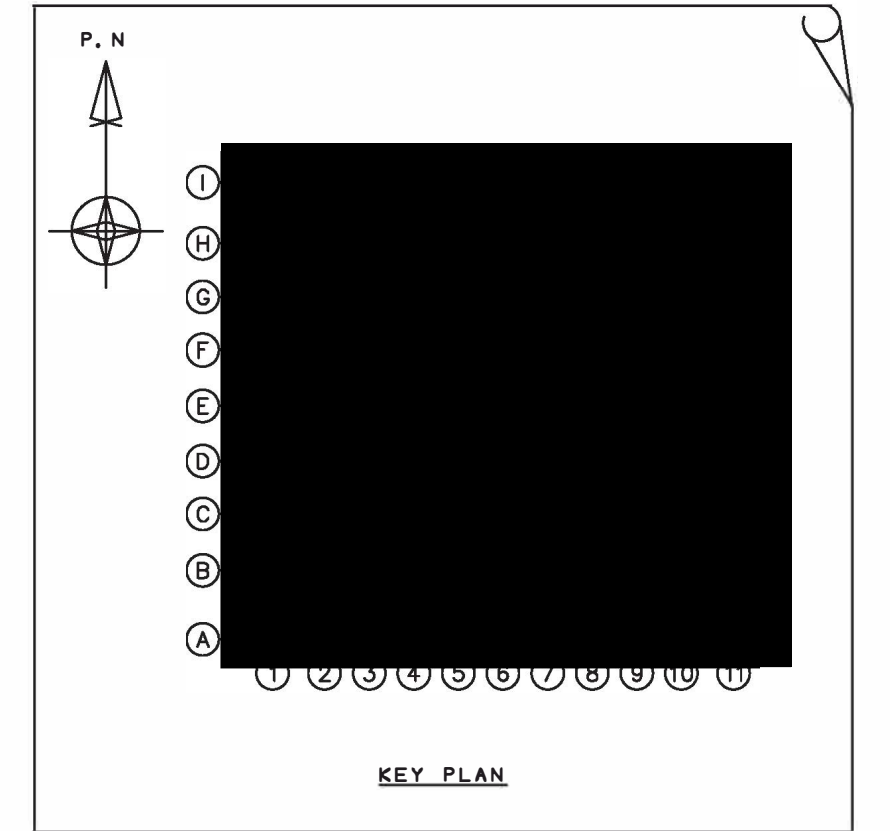
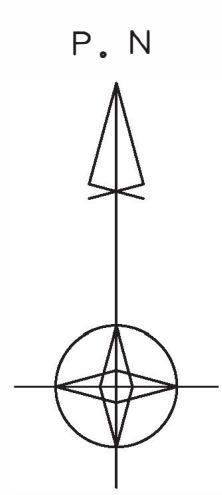
<機器等>  
 □番号：機器等との紐付け番号 (①, ②, ……)  
 紫色線：窒素循環設備に係る機器  
 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ

<引き出し線>  
 赤色：分岐部, 合流部等  
 桃色：主流路とする考え方の補足  
 青色：主流路としない考え方の補足  
 水色：耐震設計の考え方

材料	規格	単位	数量	備考	記事
日本原燃株式会社 殿					
MOX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)					
気体廃棄・換気空調設備 (H)					
単線ダクトルート図					
地下2階 3ブロック (GB, GBN)					

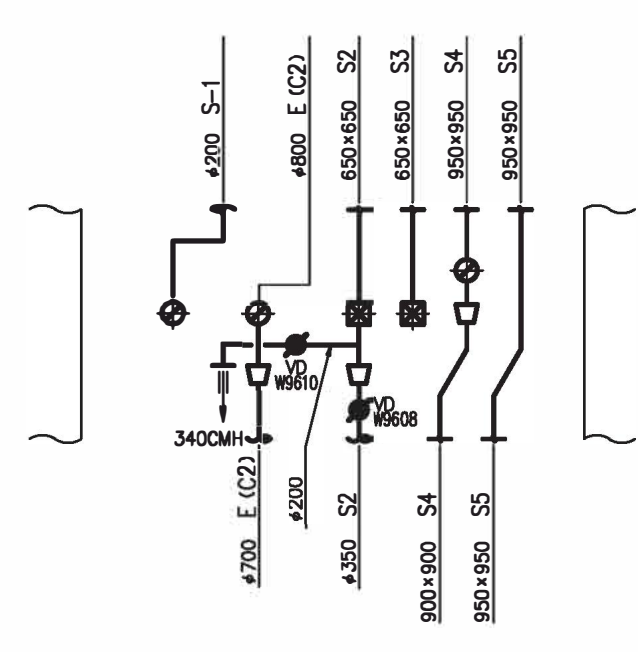
■については核不拡散の観点から公開できません





- 【凡例】
- <配管等>
- 番号：主配管との紐付け番号 (①, ②, ……)
  - 赤色線：主となる経路
  - 青色線：安全上重要な施設
- <機器等>
- 番号：機器等との紐付け番号 (① ② ……)
  - 紫色線：窒素循環設備に係る機器
  - 青色線：延焼防止ダンパ及びピストンダンパ
- <引き出し線>
- 赤色：分岐部，合流部等
  - 桃色：主流路とする考え方の補足
  - 青色：主流路としない考え方の補足
  - 水色：耐震設計の考え方

下部平面図



- 凡例
- S1~5
  - E (C1)
  - E (C2)
  - E (C3)
  - S-1
  - E-1
  - R-1
  - E (GBN)
  - S (GBN)

上部平面図

材料	数量	単位	重量 (kg)	記事
日本原燃株式会社				
MOX燃料工場 燃料加工建屋 (PA)				
気体廃棄・換気空調設備 (H)				
単線ダクトルート図				
地下1階 1ブロック				

■については核不拡散の観点から公開できません



## 設計図書の記載に係る留意事項

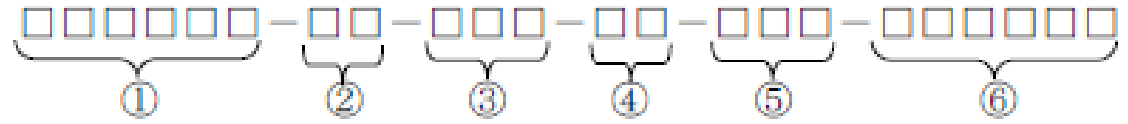
1. 配管番号
2. 機器番号
3. 設計図書の記載に係る留意事項
4. 系統図に用いるポンプ等の凡例
5. 計装関係記号
6. 主配管の名称の付け方の例

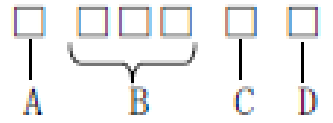


# 1. 配管番号

配管番号は以下のルールに従い、設定している。

なお、設計図書の系統図においては、系統番号は明確であるため、②の流体記号から記載している。



番号	種別	説明
①	系統番号	各設備に系統番号を設定する。PA○○○○
②	流体記号	第 1 表参照
③	配管連番	②の流体ごとに001~999の連番とする。機器，合流点及び分岐点を経るごとに番号を進める。ただし母管については合流点及び合流点で必ずしも番号を進める必要はない。
④	セクション番号	③の配管連番ごとに01~99の連番とし，以下の場合に附番する。 a. 配管の途中で配管クラスが変わるとき。 ただし，建屋・施設間にまたがる配管については，その限りではない。 b. 配管がいくつかのGBまたは装置を経由して元のGB又は装置に戻るとき。 c. 配管途中で配管口径が変わるときは必要に応じ附番してよい。
⑤	配管口径	呼び径，JIS(A)表記とする。ただし“A”は記載不要
⑥	配管クラス	配管クラスは以下の表記とする。  A：配管材質（第 2 表）， B：呼び圧力（第 3 表）， C：配管厚さ及び仕様による区分， D：配管区分（第 4 表）



1. 配管番号

第1表 流体記号

記号	種類	参考
PR	プロセスの流れ (核燃料物質を含む流れ)	<u>Process Fluid</u>
AV	ベント (放射性)	<u>Active Vent</u>
VE	ベント (非放射性)	<u>Non-active Vent</u>
DF	除染液 (供給)	<u>Decontamination Fluid</u>
TW	工業用水	<u>Treated Water</u>
DW	飲料水	<u>Drinking Water</u>
DM	純水	<u>Demineralized Water</u>
CW	冷却水	<u>Cooling Water</u>
HW	温水	<u>Hot Water</u>
SH	過熱水	<u>Super Heated Water</u>
CH	冷水	<u>Chilled Water</u>
FW	消火水	<u>Fire Service Water</u>
SC	凝縮水	<u>Steam Condensation</u>
AS	蒸気	<u>Auxiliary Steam</u>
HF	熱媒 (除 AS, SH)	<u>Heating Fluid</u>
CL	冷媒	<u>Coolant</u>
SA	雑用圧縮空気	<u>Service Air</u>
IA	計装用圧縮空気	<u>Instrumentation Air</u>
OA	制御用空気 (油潤滑)	<u>Oiled Control Air</u>
BA	呼吸用圧縮空気	<u>Breathing Air</u>
GA	空気一般 (エアスニファ, 排気 モニタのサンプリング空気)	
FN	N <sub>2</sub> 消火	
FC	CO <sub>2</sub> 消火	
VM	真空	<u>Vacuum</u>
WH	水圧系	<u>Water in Hydraulic Circuit</u>
OH	油圧系	<u>Oil in Hydraulic Circuit</u>

記号	種類	参考
FO	燃料油	<u>Fuel Oil</u>
FG	燃料ガス	<u>Fuel Gas</u>
HV	換気空調 (除プロセス換気:AV または VE)	<u>Heating and Ventilation</u>
MA	中放射性廃液	<u>Medium Active Liquid Waste</u>
LA	低放射性廃液	<u>Low Active Liquid Waste</u>
VA	極低放射性廃液	<u>Very Low Active Liquid Waste</u>
VV	極々低放射性廃液	<u>Very Very Low Active Liquid Waste</u>
IW	非放射性廃液	<u>In-active Liquid Waste</u>
RD	雨水	<u>Rain Water Drain</u>
RE	試薬 (ガスを含む) *	<u>Reagent</u>
GW	湧水	<u>Grounding Water</u>
ED	機器ドレン (非放射性)	<u>Non-active Equipment Drain</u>
FD	床ドレン (非放射性)	<u>Non-active Floor Drain</u>
SD	衛生 (生活) 排水	<u>Sanitary Drain</u>
WW	一般排水	<u>General Waste Water</u>
SS	試料採取	<u>Sampling System Piping</u>
PV	気送用空気供給 / 排気	<u>Pneumatic Ventilation</u>
PT	気送	<u>Pneumatic Transport</u>
GP	検出端挿入	<u>Guide Pipe</u> (サーモカップル, 中性 子検出器用等, 含予備挿入管)
FH	消火用ハロゲン化物	<u>Fire Service Halides</u>
WP	予備プロセス 将来設置 / 増設用の 予備的措置	<u>Waiting Pipe</u>
XX	その他 (二重管配管を含む)	

(\*) 試薬系の主ラインについては、その化学記号 (HNO<sub>3</sub>, N<sub>2</sub> 等) を当該ラインの両端等の主な配管番号の右余白に付記する。

(例) RE-○○○-○○-○○○-○○○○○○ (HNO<sub>3</sub>)



# 1. 配管番号

## 第2表 配管材質

記号	配管材質	記号	配管材質
G	SGP	Z	ジルコニウム
T	STPG & STPT	C	銅
X	上記以外の炭素鋼&STPA	P	PVC (塩化ビニール)
D	SUS316L	F	鋳鉄
S	SUS304L	B	コンクリート
K	R・SUS316 ULC	J	被覆鋼
L	R・SUS304 ULC	M	強化樹脂
H	SUS316	N	高密度ポリエチレン
R	SUS304	A	アルミニウム
U	ウラナス	E	鉛
V	高Cr高Moステンレス鋼	W	GNCF1
Y	テフロン		

## 第3表 呼び圧力

記号	呼び圧力	記号	呼び圧力
002	2K	030	30K
005	5K	040	40K
010	10K (含真空)	063	63K
016	16K	106	ANSI 1500 <sup>#</sup>
020	20K	176	ANSI 2500 <sup>#</sup>

## 第4表 配管区分

記号	区分	定義	備考
A	加工第1種管	加工施設の化学処理施設、核燃料物質の貯蔵施設または放射性廃棄物の廃棄施設に属する管のうち、プルトニウムの放射能濃度が 37kBq/cm <sup>3</sup> 以上の液体（以下、プルトニウム溶液）を内包する管。	第一条の2 第一項
B	加工第2種管	加工施設に属する管のうち、加工第1種管および次項に規定する加工第3種管以外の管。	第一条の2 第四項
C	加工第3種管	加工施設に属する管のうち、次に掲げるもの。 イ プルトニウム溶液の漏えいの拡大防止のために設置されるドリフトレイその他の容器 ロ 六ふっ化ウランの加熱容器 ハ ダクト	第一条の2 第七項
D	放射性流体配管	加工施設に属する管のうち、放射性物質を内包する管をいう。（ただし、上記A～Cを除く。）	
E	非放射性流体配管	加工施設に属する管のうち、上記A～D以外の管をいう。	

（注）該当する溶接の技術基準の条項番号は備考欄に記載してある。

（「加工施設、再処理施設及び特定廃棄物管理施設の溶接の技術基準に関する規則」より）



## 1. 配管番号

例) PA0198 - FN - 211 - 01 - 50 - R063AE  
①            ②            ③            ④            ⑤            ⑥

①：「PA0198」⇒系統番号「燃料加工建屋の工程番号0198（ユーティリティ設備 防消火設備（窒素消火装置）」

②：「FN」⇒流体記号「FN：N<sub>2</sub>消火」（第1表参照）

③：「211」⇒配管連番「004」

④：「01」⇒セクション番号「02」

⑤：「50」⇒配管口径「50A」

⑥：「R063AE」

R 063 A E  
A    B    C    D

A：“R” ⇒配管材質「SUS304」（第2表参照）

B：“063” ⇒呼び圧力「63K」（第3表参照）

C：“A” ⇒配管厚さ及び仕様による区分（配管材質，呼び圧力で複数同様のスペックがある場合に使用する）

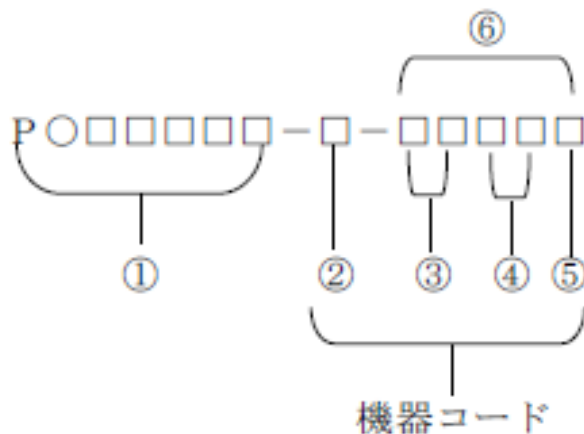
D：“E” ⇒配管区分「非放射性流体配管」（第4表参照）



## 2. 機器番号

機器番号は以下のルールに従い，設定する。

なお，設計図書の系統図においては，系統番号は明確であるため，②の流体記号から記載している。



番号	種別	説明
①	系統番号	各設備に系統番号を設定する。
②	識別番号	第5表参照
③	主要機器番号	系統番号ごとに主要機器の番号を設定。並列機器等を考慮して設定する。
④	付属機器番号	主要機器ごとに付属機器の番号を設定。
⑤	追番	分析設備に関して，グローブボックス，分析機種ごとに追番を取る。
⑥	弁・アクセサリ等の番号	弁・アクセサリがある場合に使用する。



## 2. 機器番号

第5表 機器識別番号

記号	機器	備考
A		
B	グローブボックス, フード, オープンポートボックス	
C	冷却装置・冷凍機	
D	除湿器, 空気分離器, ミスト・セパレータ, 分配器	
E		
F	フィルタ	
G		
H	熱交換器, 加熱装置	
I	—	使用しない
J		
K	圧縮機, 排風機, 送風機	
L		
M	機械装置一般	
N		
O	—	使用しない
P	ポンプ	含真空ポンプ
Q	消火栓	
R		
S	I D読取装置	
T	秤量装置	
U		
V	槽類, 空調機器全般	C, D, F, H, K, W および X を除く
W	弁・ダンパ等	全形式, 機能(*1)
X	その他	
Y	配管アクセサリ	トラップ, ストレーナ, オリフ イス, クイックコネクタ等の配 管アクセサリ (計装用を除く) および床ドレンファンネル等 を含む。
Z		

(\*1)機能区分は弁・ダンパ等の番号によって行う。

弁・ダンパ等の番号	機能区分
100番台 (または1000番台)	遠隔手動調節弁・遠隔手動調節ダンパ
300番台 (または3000番台)	遠隔オン・オフ弁・遠隔オン・オフダンパ
500番台 (または5000番台)	手動弁 (現場操作弁・現場操作ダンパ, 含逆止弁)
700番台 (または7000番台)	
800番台 (または8000番台)	安全弁, 逃がし弁 (含真空破壊弁)
900番台 (または9000番台)	その他の弁およびダンパ (含自力式調整弁)

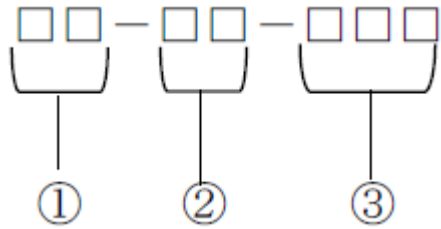
なお、遠隔自動調整弁・遠隔自動調整ダンパについては、付属書-3 計装  
関係記号表示・番号設定基準によるものとする。



## 2. 機器番号

消火ガスの貯蔵容器ユニット番号については、以下のとおりとする。

当該図書で設置する建物は明確であるため、設計図書上は②からの記載となる。



番号	種別	説明
①	建屋記号	燃料加工建屋“PA”となる。
②	識別番号	“GU”とする。
③	連番号	当該設備の連番号となる。







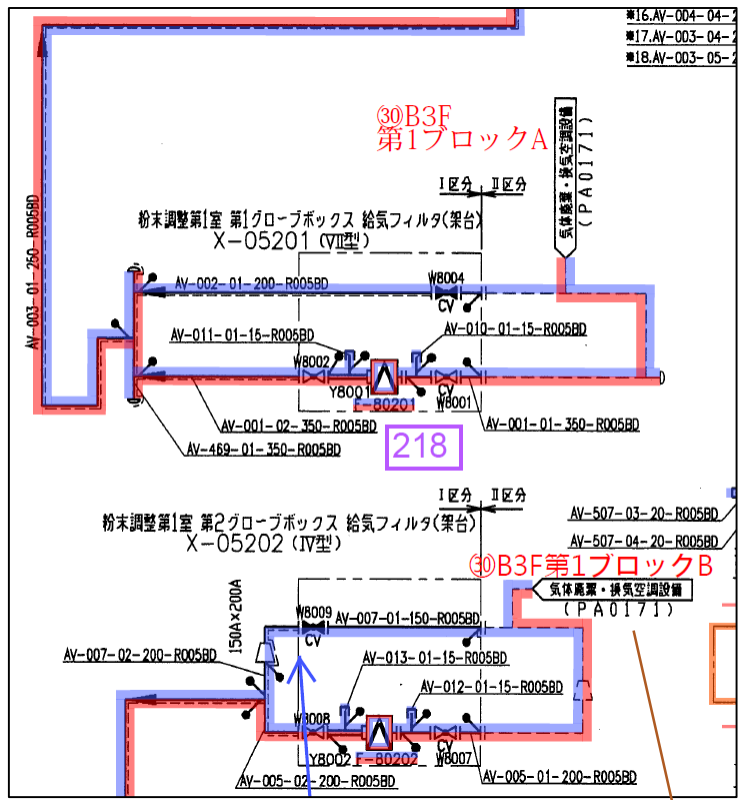
3. 設計図書の記載に係る留意事項

- ② 単線ダクトルート図とエンジニアリングフローダイアグラムの異なる図書でのシステムの繋がりについて  
 単線ダクトルート図では、エンジニアリングフローダイアグラムとの取り合いの矢羽根は、フィルタ架台の段番号を記載している。  
 一方、エンジニアリングフローダイアグラムにおける単線ダクトルート図との取り合いの矢羽根は、取り合う設備の工程番号を記載している。

両者に記載しているフィルタ架台番号や矢羽根の他記載している配管番号で、どの配管が取り合っているのかわかるが、どのシートに繋がっているのか識別するのが難しいことから、取り合いがわかるようシート番号を注記で記載する。

単線ダクトルート図 記載例

エンジニアリングフローダイアグラム 記載例













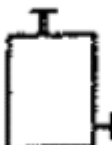



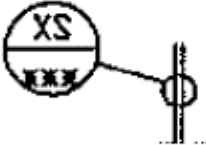
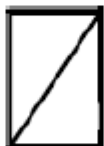









エンジニアリングフローダイアグラムの対象となる工程番号、シート番号を記載する。  
 同一の主配管の範囲のうち、エンジニアリングフローダイアグラムの先が同じ場合は、識別として、シート番号の末にA, B等を記載して、識別できるようにする。

単線ダクトルート図の対象となるフロア、ブロック名を記載する。  
 同一の主配管の範囲のうち、単線ダクトルート図の先が同じ場合は、識別として、ブロック名の末にA, B等を記載して、識別できるようにする。































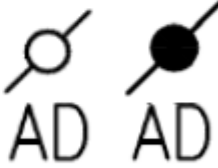








4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

1. 機器							
 グローブボックス又は オープンボートボックス 金属筐体		 フィルタ(架台)	 電気盤	 負圧管理シャッター	 雰囲気管理シャッター	 粉末移行防止シャッター	 防火シャッター
 可搬型消火ガスボンベ	 遠隔消火装置 (ファイヤキャビネット)	 オイルパン	 高性能エアフィルタ	 送受信装置	 中継ステーション	 サクションポート	 合流転換器
 GB貫通座	 通過検知器	 プレフィルタ	 グローブボックス内 内部装置	 ローカルラ	 PAC室内ユニット	 送排風機 (遠心ファン)	 空調ユニット /フィルタユニット
 再熱ヒータ	 ドレンアップポンプ						



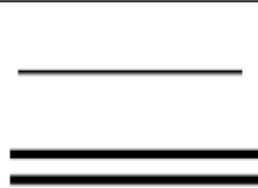




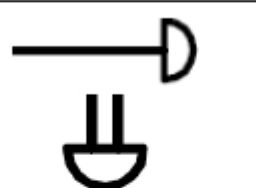

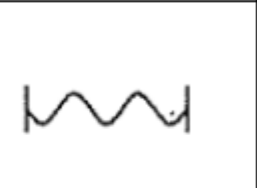
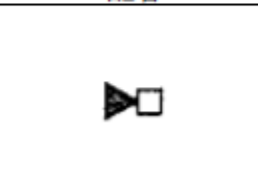
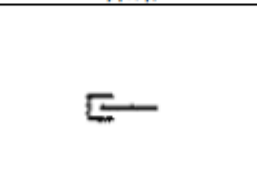
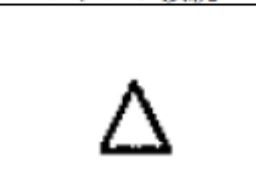

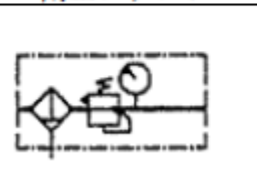
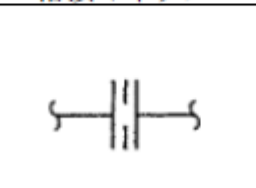
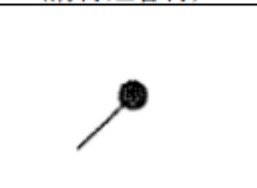
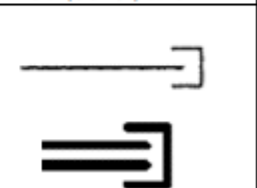

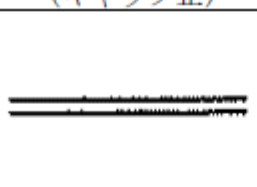
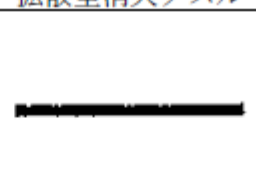
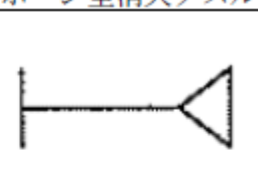
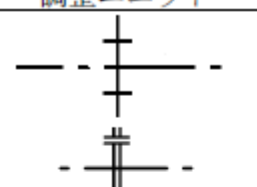
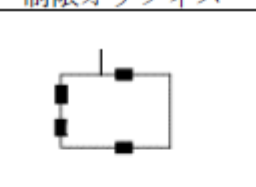
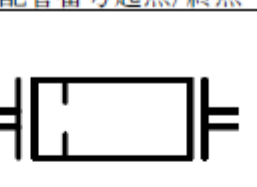

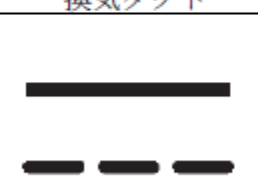
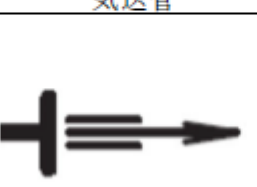
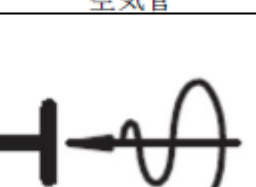
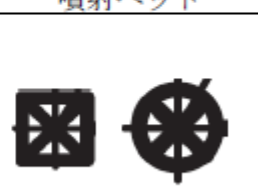
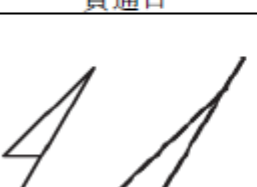
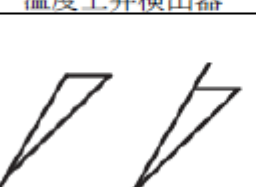
4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

2. 弁類							
							
ボール弁(開)	ボール弁(閉)	バタフライ弁(開)	バタフライ弁(閉)	ピストンダンパ	延焼防止ダンパ	リーフ弁	手動隔離ダンパ (系外3時間耐火)
							
手動隔離ダンパ (系外および 系内3時間耐火)	グローブ弁(開)	グローブ弁(閉)	安全弁	逆止弁	電磁弁(開)	電磁弁(閉)	二方弁一般
							
CV弁	遠隔操作(弁)一般	インライン逃し弁	自力式減圧弁 (内部検出)	自力式減圧弁 (外部検出)	リーフ弁	インライン逃し弁	手動ダンパ
							
一般隔離ダンパ	気密逆止ダンパ	気密隔離ダンパ	カウンターバランスダンパ	避圧ダンパ	リーフ弁	空気作動ダンパ	延焼防止ダンパ
							
ピストンダンパ	防火ダンパ	防煙防火ダンパ	延焼防止ダンパ (温度ヒューズ付き)	逆止ダンパ			

1533




4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

3. 配管アクセサリー							
							
配管	保冷	フランジ接続	レジュース	閉止フランジ	溶接キャップ	スライドスリーブ (溝付短管付)	フレキシブルチューブ
							
仮設計測用ノズル (プラグ止)	仮設計測用ノズル (キャップ止)	拡散型消火ノズル	ホーン型消火ノズル	調整ユニット	制限オリフィス	配管番号起点/終点	ネジ込みキャップ
							
換気ダクト	気送管	空気管	噴射ヘッド	貫通口	差動分布型 温度上昇検出器	流量検出器 (オリフィス)	スペック境界
							
ダクト	吹出口	吸込口	ダクト断面	立上りダクト	立下りダクト		















#### 4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

4. 建物関係							
							
室, 洞道, 建屋境界							



5. 計装関係記号  
計装関係の記号は以下の通り。

計装品記号表

記号			区分
一般	コンピュータまたは コンピュータ入出力	CRTまたは マルチループコントローラ	
			中央監視室設置計装品
LOC 	LOC 	LOC 	個別制御室設置計装品
			現場盤設置計装品 (計装ラック内設置計装品含む)
			現場設置計装品 (現場圧力計・現場温度計等 現場直付計装品を示す)

例) 差圧指示であれば以下のとおり。



計装品記号中の余白に計器番号を，上部に計器記号，下部に測定または制御対象機器番号，ループ連番および機器識別番号と分けて記入する。  
温度等の「高」又は「低」などの機能修飾がある場合は，記号の右上に機能修飾に該当する文字を記載する。  
差圧などの変量を計測する計器の場合は，被計測変量の後に続けて用いる。



## 5. 計装関係記号

計器記号表

	第1記号		第2記号	
	被計測変量	変量修飾	計測機能	機能修飾
A	分析	—	警報	—
B	予備	—	—	—
C	電導度	—	調節	閉
D	密度	差	—	—
E	電圧	—	検出器	—
F	流量	—	—	—
G	寸法	—	グラスサイトフ ローまたはガラス	—
H	手動	—	—	高
I	電流	—	指示	—
J	電力	—	表示灯	—
K	時間	—	—	—
L	液位	—	—	低
M	湿度	境界	—	—
N	振動	—	試料採取点または 測定点	—
O	濁度	—	—	開
P	圧力	—	保護系作動	—
Q	濃度	—	積算	—
R	放射能濃度	—	記録	起動
S	速度	—	接点または指令	停止
T	温度	—	発信	—
U	多種の変量	—	多機能計器	—
V	粘度	—	バルブ・ダンパ等 の調節部	—
W	重量, 力	—	注意報	—
X	不特定の変量	—	その他の機能	—
Y	トルク	—	演算器, 変換器, リレー	—
Z	位置	—	—	—



## 6. 主配管の名称の付け方の例

主配管、ダクトは、用途（機能）、使用範囲等を明確にするため、設計基準対象施設のための境界、重大事故等対処設備のための境界、兼用設備の境界等がわかるように色塗り等を行い、主配管の名称を設定する。

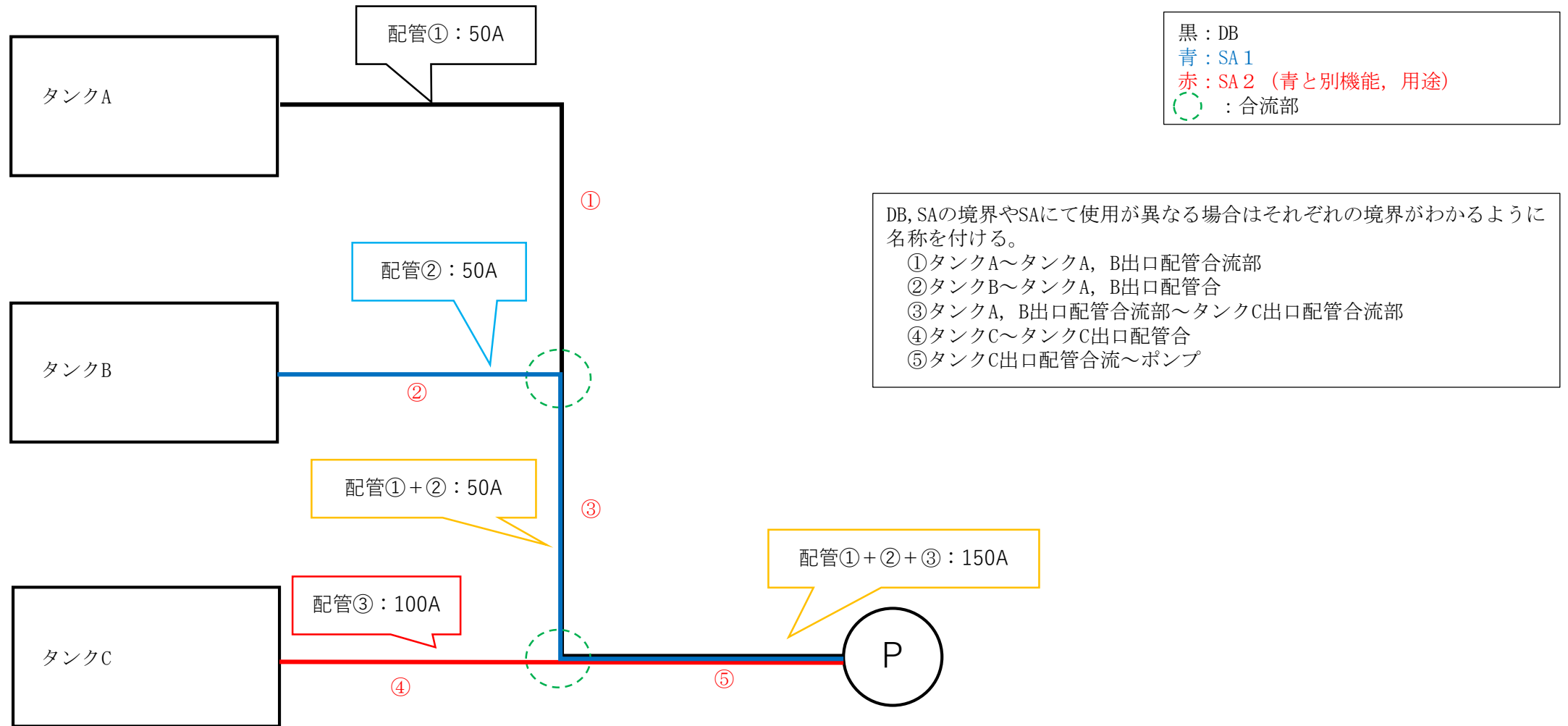
### [用途、仕様範囲等に係る境界]

- a. 設計基準対象施設のための境界
- b. 重大事故等対処設備のための境界
- c. 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので、設計基準対象施設としての仕様から変更がない境界
- d. 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので、設計基準対象施設としての仕様から変更がある境界
- e. 兼用設備の境界
- f. 安全上重要な施設の境界
- g. 耐震重要度分類 S クラスの境界, 1.2Ssの境界
- h. 主配管と非主配管の境界



## 6. 主配管の名称の付け方の例

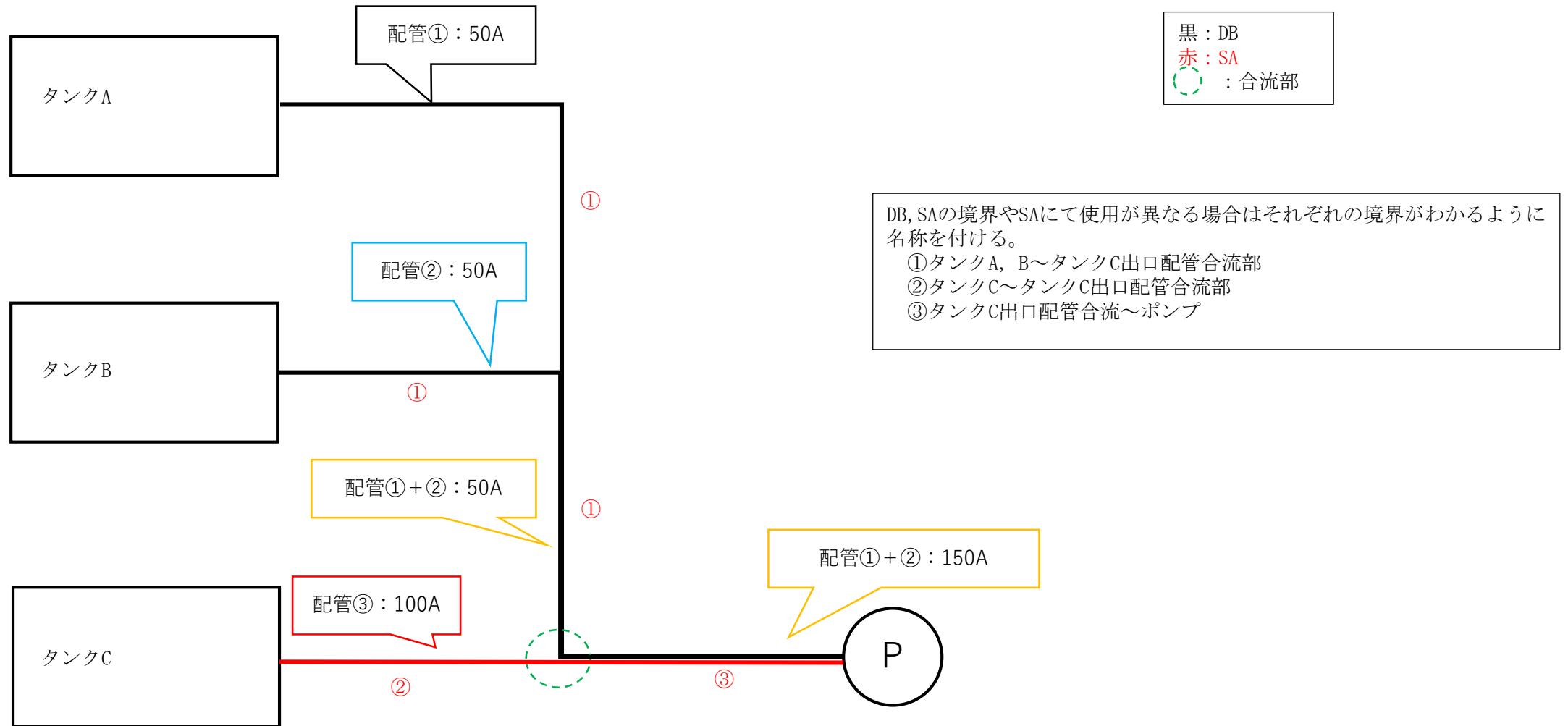
例1) 主配管等の名称の設定 (それぞれに境界が設定されている場合)





## 6. 主配管の名称の付け方の例

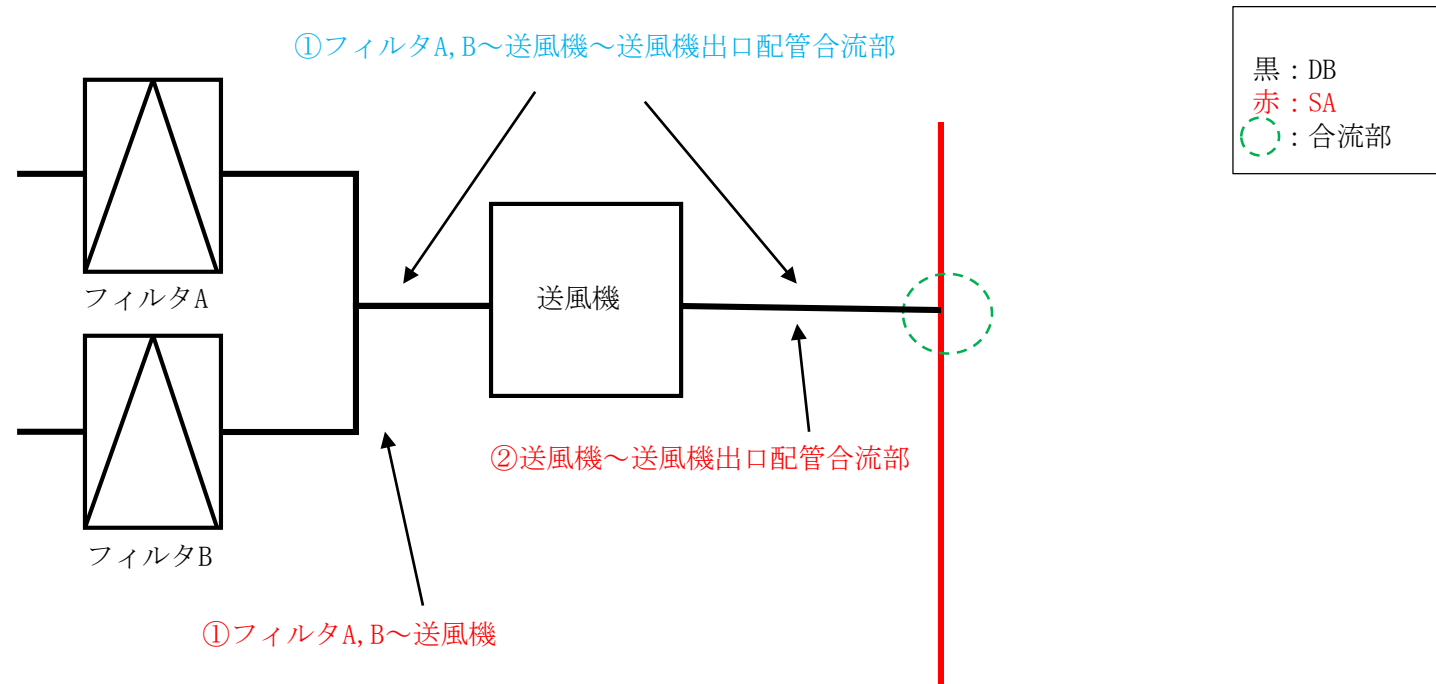
例2) 主配管等の名称の設定 (使用用途等が同一の場合)





## 6. 主配管の名称の付け方の例

例3) 主配管等の名称の設定 (使用用途等が同一の場合で機器を跨ぐ場合)



「フィルタA, B~送風機」及び「送風機~送風機出口配管合流部」において、仕様等が同様であれば、○○装置~△△装置~□□合流部などまとめることも可とする。

①フィルタA, B~送風機~送風機出口配管合流部

or

①フィルタA, B~送風機      ②送風機~送風機出口配管合流部



別紙 2-2-4 系統として機能、性能を  
達成する設備  
(非常用電源設備)



## 目 次

1. 概要 .....	1
2. 要求される機能、性能と主流路設定、機器抽出の考え方 .....	1
(1) 要求される機能、性能について .....	1
a. 設計基準対象の施設に係る機能、性能 .....	1
b. 重大事故等対処設備に係る機能、性能 .....	1
(2) 非常用発電機に係る主流路及び機器抽出の考え方 .....	1
(3) 主流路範囲の設定の考え方 .....	2
(4) 主流路として設定しない範囲及びその考え方 .....	3
a. 起動用圧縮空気の配管 .....	3
3. 要求される耐震クラスの考え方 .....	4
(1) 耐震クラスの設定 .....	4
(2) 下位クラス接続等の留意すべき設備 .....	4
4. 抽出結果 .....	6

添付1：別紙2 機能要求②抜粋（非常用発電機）

    (1) 24条：非常用電源設備

添付2：申請対象設備リスト（非常用発電機）

添付3：申請対象設備抽出結果（非常用発電機）

    (1) 非常用発電機

参考：設計図書の記載に係る留意事項



## 1. 概要

本資料は、共通09 補足説明資料 別紙「各条における申請対象設備」にて整理した系統として機能、性能を達成する設備について、設計図書等に対して色塗りを行い、安全機能に関する対象範囲や対象機器を抽出したプロセス及び抽出結果を示すものである。

## 2. 要求される機能、性能と主流路設定、機器抽出の考え方

### (1) 要求される機能、性能について

非常用発電機に要求される機能、性能のうち、系統として達成する機能、性能は、以下のとおりであり、要求される機能、性能を踏まえて、非常用発電機の設計図書等の系統図を色塗りし、機能が要求される対象範囲や対象機器を抽出する。

非常用発電機に係る機能要求②が要求される条文の別紙2抜粋版を添付1に示す。

#### a. 設計基準対象の施設に係る機能、性能

条文	系統機能名	基本設計方針
第24条 非常用電源設備	非常用発電機の発電機能	24条-6

#### b. 重大事故等対処設備に係る機能、性能

非常用発電機に重大事故等対処設備に係る機能、性能の要求はない。

上記の機能を踏まえ、非常用発電機に関して設計図書の色塗りにより、対象範囲及び対象機器を抽出する。

### (2) 非常用発電機に係る主流路及び機器抽出の考え方

基本設計方針の要求を踏まえ、非常用発電機の発電機能に係る主流路を設定する。

非常用発電機の発電機能として必要な系統として、発電するために必要となる燃料を供給する系統を主流路として設定する。なお、配電系統については、基本設計方針として示し、添付書類にて配電先を示すこととする。

また、非常用発電機の給気及び排気に係る系統は、基本設計方針として示し、竜巻の気圧差荷重等による発電機本体への波及的影響については、竜巻影響評価等を実施し、添付書類にて示すこととする。

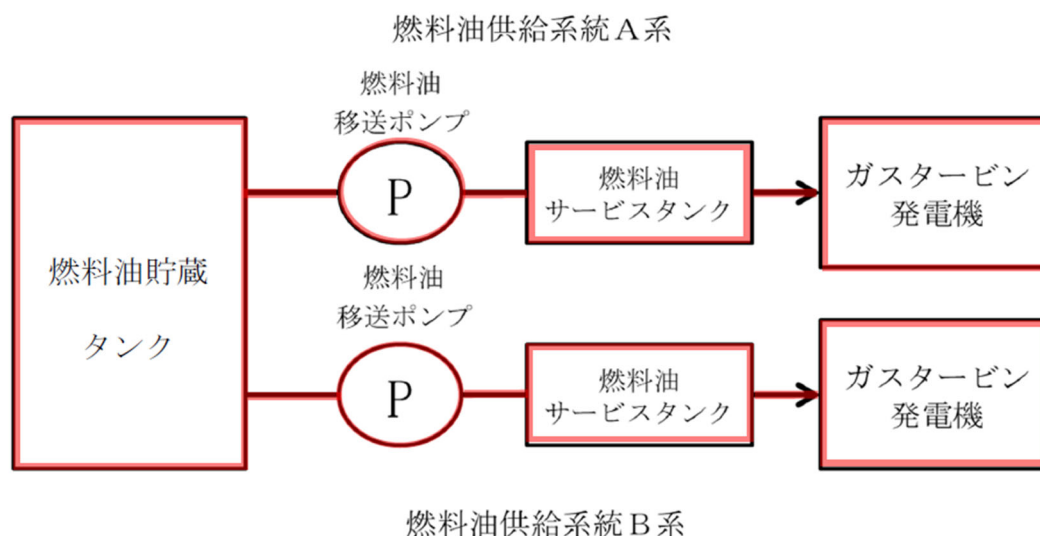
事業許可申請書における非常用発電機の系統図を用いて対象となる範囲を示す。

なお、非常用発電機の発電機能に係る技術基準要求は、発電炉の第四十五条1項と同様の要求であり、上記で設定した非常用発電機の主流路の範囲は、発電炉の非



常用発電機の主流路と同様の対応となっている。

## 非常用発電機



第 1 図 事業変更許可申請書 添付書類五 添 5 第67図 抜粋

「発電用原子炉施設の工事計画に係る手続きガイド」P26 抜粋

### a. 非常用電源設備

重大事故の発生防止等のために設置する設備は常設又は可搬型を問わず含むものとする。また、外部からの電源供給を受けるまでの間の電源供給を確保するための燃料タンク等についても常設又は可搬型を問わず本設備に含める。基本設計方針としては配電系統も含めることとする。

内燃機関に附属する冷却水設備については、内燃機関（シリンダー部）を直接冷却するシリンダー冷却系とする。

冷却設備については、原子炉補機冷却設備を除き、内燃機関及び発電機等から発生する熱を最終的な熱の逃がし場へ輸送する設備とし、重大事故の発生防止等のために設置する設備を含め、常設又は可搬型を問わず含むものとする。

### (3) 主流路範囲の設定の考え方

非常用発電機の主配管名称を設定するにあたり、非常用発電機は 2 系統あることから、系統毎の単位で主流路範囲を設定する。

主配管名称の付け方については、添付する「設計図書の記載に係る留意事項」に従い主配管名称を設定し、抽出リストに記載する。



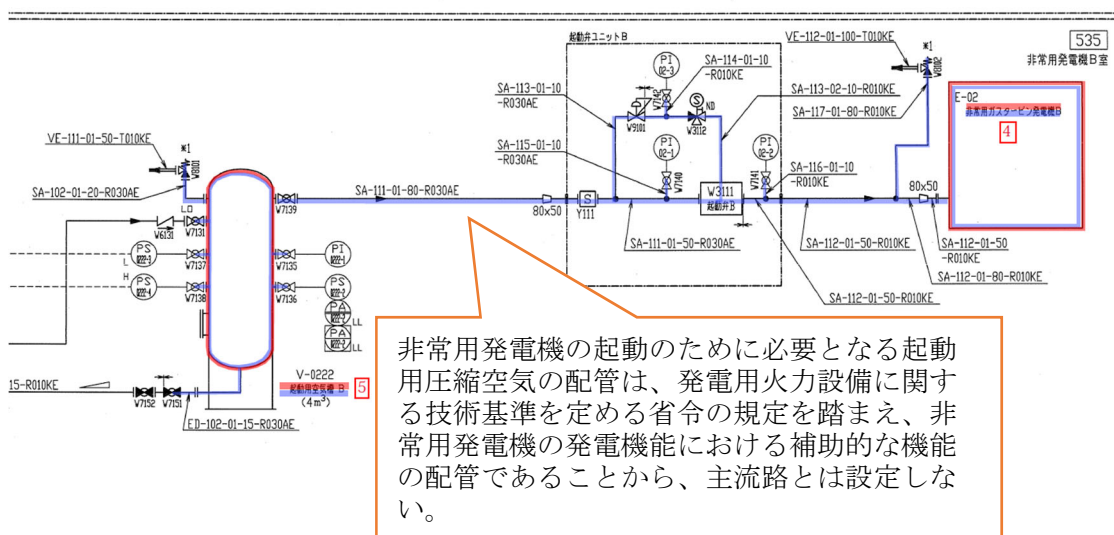
(4) 主流路として設定しない範囲及びその考え方

共通09本文に基づき、テストライン、バイパスライン、ベント・ドレンライン等については、主流路の対象としない。また、主流路上に設置される弁等についても、当該設備に要求される系統として機能、性能を達成するために必要な弁等については、主要機器として抽出し、それ以外の弁等については、主要機器としては抽出しない。

非常用発電機の特徴を踏まえた主流路を設定する上での主流路として設定しない範囲及びその考え方について、以下に示す。

a. 起動用圧縮空気の配管

起動用空気槽から非常用発電機までの起動用圧縮空気の配管は、以下の理由から主流路とは設定しない。





### 3. 要求される耐震クラスの考え方

事業変更許可申請書にて要求される耐震クラスを踏まえ、非常用発電機の耐震クラスを整理する。要求される耐震クラスを整理するにあたって、事業変更許可申請書の「添付書類五 添5 第11表 クラス別施設」及び「添付書類五 添5 第12表 重大事故等対処設備（主要設備）の設備区分」を踏まえて、対象範囲が明確になるよう、耐震クラスを整理する。

#### (1) 耐震クラスの設定

非常用発電機は、耐震Sクラスである。なお、非常用発電機に重大事故等対処設備の要求はない。

#### (2) 下位クラス接続等の留意すべき設備

非常用発電機の特徴を踏まえた主流路の耐震設計範囲の留意事項（下位クラス設備との接続）について以下に示す。

- ・耐震クラスの境界は、弁を境界とする。



添5第11表 クラス別施設 (2/16)

耐震クラス	クラス別施設	主要設備等 <sup>(注1)</sup>			補助設備 <sup>(注2)</sup>		直接支持構造物 <sup>(注3)</sup>		間接支持構造物 <sup>(注4)(注5)</sup>		波及的影響を考慮すべき設備 <sup>(注6)</sup>
		施設名	適用範囲	耐震クラス <sup>(注7)</sup>	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	
S	1) MOXを非密封で取り扱う設備・機器を収納するグループボックス及びグループボックスと同等の閉じ込め機能を必要とする設備・機器であって、その発振による公衆への放射線の影響が大きい施設 (つづき)	成形施設	ペレット加工工程のグループボックス	S	非常用所内電源設備 <sup>(注8)</sup>	S	設備・機器の支持構造物	S	燃料加工建屋	プレス装置 (粉末戻成部) プレス装置 (プレス部) グリーンペレット搬入装置 空機部ポート戻成装置 機部ポート供給装置 機部ポート取出装置 排ガス処理装置 機部ペレット供給装置 研削装置 研削部回収装置 ペレット検査装置 機部ポート取出装置 ペレット保管容器搬送装置 <sup>(注9)</sup> 回収粉末回収装置	
			プレス装置 (粉末戻成部) グroupボックス	S							
プレス装置 (プレス部) グroupボックス	S										
グリーンペレット搬入装置 グroupボックス	S										
空機部ポート戻成装置 グroupボックス	S										
機部ポート供給装置 グroupボックス	S										
機部ポート取出装置 グroupボックス	S										
排ガス処理装置 グroupボックス (上部)	S										
機部ペレット供給装置 グroupボックス	S										
研削装置 グroupボックス	S										
研削部回収装置 グroupボックス	S										
ペレット検査装置 グroupボックス	S										
機部ポート取出装置 グroupボックス	S										
ペレット保管容器搬送装置 グroupボックス <sup>(注9)</sup>	S										
回収粉末回収装置 グroupボックス	S										
機部設備 <sup>(注10)</sup>	S										
機部設備 <sup>(注10)</sup>	S										
排ガス処理装置	S										
耐震施設	耐震施設のグループボックス	S									
	原料MOX粉末一時保管装置 グroupボックス	S									
	粉末一時保管装置 グroupボックス	S									
	ペレット一時保管装置 グroupボックス	S									
	機部ポート受渡装置 グroupボックス	S									
	スクラップ耐震装置 グroupボックス	S									
	スクラップ保管容器受渡装置 グroupボックス	S									
	製品ペレット耐震装置 グroupボックス	S									
	ペレット保管容器受渡装置 グroupボックス	S									
	製品ペレット耐震装置 グroupボックス	S									

添5第11表 クラス別施設 (3/16)

耐震クラス	クラス別施設	主要設備等 <sup>(注1)</sup>			補助設備 <sup>(注2)</sup>		直接支持構造物 <sup>(注3)</sup>		間接支持構造物 <sup>(注4)(注5)</sup>		波及的影響を考慮すべき設備 <sup>(注6)</sup>				
		施設名	適用範囲	耐震クラス <sup>(注7)</sup>	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス					
S	1) MOXを非密封で取り扱う設備・機器を収納するグループボックス及びグループボックスと同等の閉じ込め機能を必要とする設備・機器であって、その発振による公衆への放射線の影響が大きい施設 (つづき)	その他加工設備の附属施設	小規模貯蔵設備のグループボックス	S	非常用所内電源設備 <sup>(注8)</sup>	S	設備・機器の支持構造物	S	燃料加工建屋	小規模貯蔵混合装置 小規模プレス装置 小規模貯蔵貯蔵装置 小規模貯蔵貯蔵装置 小規模貯蔵貯蔵装置 資材貯蔵装置					
			小規模貯蔵貯蔵設備のグループボックス	S											
小規模貯蔵貯蔵貯蔵装置のグループボックス	S														
小規模貯蔵貯蔵貯蔵貯蔵装置のグループボックス	S														
小規模貯蔵貯蔵貯蔵貯蔵貯蔵装置のグループボックス	S														
資材貯蔵装置のグループボックス	S														
小規模貯蔵貯蔵設備	S														
小規模貯蔵貯蔵貯蔵設備 <sup>(注10)</sup>	S														
小規模貯蔵貯蔵貯蔵貯蔵貯蔵設備	S														
2) 上記1) に関連する設備・機器から放射線物質が漏えいした場合に、その影響の拡大を防止するための施設	—		安全上重要な施設として選定する構築物	S											
3) 上記1) に関連する設備・機器で放射線物質の外部への放射を抑制するための設備・機器	放射性廃棄物の処理施設	グループボックス排気設備	S	非常用所内電源設備 <sup>(注8)</sup>	S	設備・機器の支持構造物	S	燃料加工建屋							
		グループボックス排気機 <sup>(注10)</sup>	S												
		工程排気設備	S												
		工程排気設備のうち、安全上重要な施設 <sup>(注10)</sup> のグループボックス等を設置する工程室から工程室排気フィルタユニットまでの範囲	S												
		工程排気フィルタユニット	S												
グループボックス排気設備	S														
グループボックス排気設備のうち、安全上重要な施設 <sup>(注10)</sup> のグループボックスからグループボックス排気機までの範囲及び安全上重要な施設 <sup>(注10)</sup> のグループボックスの給気室のうち、グループボックスの閉じ込め機能維持に必要な範囲	S														
グループボックス排気フィルタ <sup>(注10)</sup>	S														
グループボックス排気フィルタユニット	S														

添5第11表 クラス別施設 (4/16)

耐震クラス	クラス別施設	主要設備等 <sup>(注1)</sup>			補助設備 <sup>(注2)</sup>		直接支持構造物 <sup>(注3)</sup>		間接支持構造物 <sup>(注4)(注5)</sup>		波及的影響を考慮すべき設備 <sup>(注6)</sup>
		施設名	適用範囲	耐震クラス <sup>(注7)</sup>	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	
S	4) その他の施設	その他加工設備の附属施設	火災防設備	S	非常用所内電源設備 <sup>(注8)</sup>	S	設備・機器の支持構造物	S	燃料加工建屋		
			グループボックス直列監視装置	S							
			グループボックス消火装置 <sup>(注10)</sup>	S							
			延焼防止ダンパ <sup>(注10)</sup>	S							
			ピストンダンパ <sup>(注10)</sup>	S							
			水素・アルゴン混合ガス設備 <sup>(注10)</sup>	S							

注10 非常用所内電源設備は、非常用発電機、非常用直流電源設備、非常用無停電電源装置、高圧母線及び低圧母線で構成する。非常用発電機は、発電機能を維持するために必要な範囲をSクラスとする。

第3図 事業変更許可申請書 添5第11表抜粋



#### 4. 抽出結果

色塗りにて抽出した機器等のリスト(抽出リスト)、色塗り結果を添付3に示す。  
抽出結果を反映した申請対象設備リストを添付2に示す。

設計図書等を確認するにあたり、設計図書の記載に係る留意事項を参考に示す。

設計図書等の色塗りについては、主流路となる部分を明確にし、且つ、設備区分(安全上重要な施設、重大事故等対処設備)を識別できるよう着色する。



添付 1

別紙 2 機能要求②抜粋

(非常用発電機)



(1) 24条：非常用電源設備



項目番号	基本設計方針	要求種別	主な設備	展開事項	第1回申請			第2回申請			第3回申請			第4回申請				
					説明対象	申請対象設備 (2項変更①)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更②)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更③)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更④)	仕様表		
6	MOX燃料加工施設の非常用内電源設備のうち燃料加工建屋の非常用発電機及び再処理施設の第1非常用ディーゼル発電機等は、停電等の外部電源系統の機能喪失時に、グループボックス排風機、放射線監視設備、火災の警報設備、通信連絡設備及び非常用照明、並びに熱的制限値を維持するために必要な設備の安全機能の確保を確保を行うために、十分な容量、機能及び信頼性を有する設計とする。	機能要求②	非常用発電機 燃料油貯蔵タンク 燃料油サービスタック 起動用空気槽 燃料油移送ポンプ 主配管 第1非常用ディーゼル発電機 重油タンク	設計方針	—	—	—	—	—	—	○	—	非常用発電機 燃料油貯蔵タンク 燃料油サービスタック 起動用空気槽 燃料油移送ポンプ 主配管	（発電機） ・容量 ・燃料 ・力率 ・電圧 ・周波数 （容器） ・容量 （ポンプ） ・容量 ・吐出圧力 ・原動機 （主配管） ・外径・厚さ	○	—	第1非常用ディーゼル発電機 重油タンク	（発電機） ・容量 ・燃料 ・力率 ・電圧 ・周波数 （容器） ・容量
8	非常用無停電電源装置は、外部電源喪失時に必要な電力の供給が非常用発電機から開始されるまでの間においても、非常用直流電源設備である蓄電池（非常用）から直流電源が供給されることにより、電力供給が可能な設計とする。	機能要求②	非常用直流電源設備（蓄電池） 非常用無停電電源装置（蓄電池）	設計方針	—	—	—	—	—	—	○	—	非常用直流電源設備（蓄電池） 非常用無停電電源装置（蓄電池）	（電力貯蔵装置 （蓄電池）） ・容量 ・電圧	—	—	—	—

凡例  
 ・「説明対象」について  
 ○：当該申請回次で新規に記載する項目又は当該申請回次で記載を追記する項目  
 △：当該申請回次以前から記載しており、記載内容に変更がない項目  
 —：当該申請回次で記載しない項目



添付 2

申請対象設備リスト

(非常用発電機)



申請対象設備リスト（系統設備）（非常用発電機）  
(1/1)

番号	施設区分	設備区分	機器（許可）	機器	機種	基本設計方針 紐付け番号	エビデンス 紐付け番号	別紙番号	設置場所	数量	申請時期	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用 (主従)	共用 (主従)	備考				
659	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	燃料油移送ポンプ	ポンプ	24条-6	系統_非常用発電機_機器_2	別紙2-2-4	燃料加工建屋	2	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—
660	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	燃料油サービスタンク	容器	24条-6	系統_非常用発電機_機器_3	別紙2-2-4	燃料加工建屋	2	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—
661	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	非常用ガスタービン発電機	発電機	24条-6	系統_非常用発電機_機器_4	別紙2-2-4	燃料加工建屋	2	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—
662	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	起動用空気槽	容器	24条-6	系統_非常用発電機_機器_5	別紙2-2-4	燃料加工建屋	2	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—
663	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	主配管（非常用発電機燃料供給系）	主配管	24条-6	系統_非常用発電機_配管_1 系統_非常用発電機_配管_2	別紙2-2-4	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—
668	その他加工設備の附属施設	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	燃料油貯蔵タンク	燃料油貯蔵タンク	24条-6	系統_非常用発電機_機器_1	別紙2-2-4	燃料加工建屋	1	3	新設	安重	—	S/—	—	—	—



### 添付 3

申請対象設備抽出結果（非常用発電機）



## (1) 非常用発電機



【機器等の抽出】

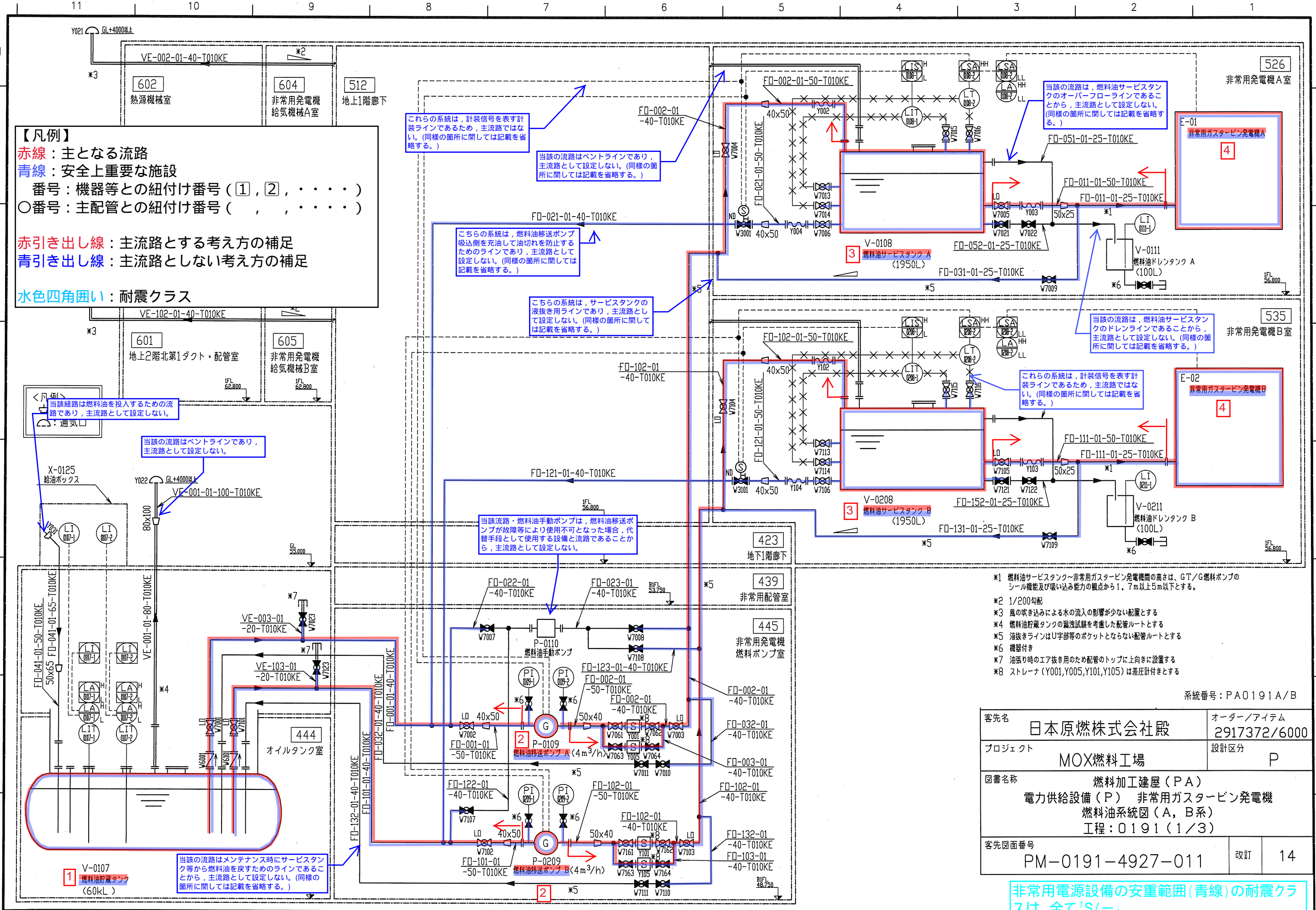
紐付け番号	施設区分		設備区分				機器名称 (許可)	機器名称	機種	機器番号	設置場所	数量	申請回	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用 (主従)	共用 (主従)	備考
1	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備 (電気設備)	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	燃料油貯蔵タンク	燃料油貯蔵タンク	容器	V-0107	1	3	新設	安重	—	S/-	—	—	工程0191 (1/3)
2	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備 (電気設備)	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	燃料油移送ポンプ	ポンプ	P-0109 (燃料油移送ポンプA) P-0209 (燃料油移送ポンプB)	2	3	新設	安重	—	S/-	—	—	工程0191 (1/3)
3	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備 (電気設備)	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	燃料油サービスタンク	容器	V-0108 (燃料油サービスタンクA) V-0208 (燃料油サービスタンクB)	2	3	新設	安重	—	S/-	—	—	工程0191 (1/3)
4	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備 (電気設備)	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	非常用ガスタービン発電機	発電機	E-01 (非常用ガスタービン発電機A) E-02 (非常用ガスタービン発電機B)	2	3	新設	安重	—	S/-	—	—	工程0191 (1/3) 工程0191 (2/3) 工程0191 (3/3)
5	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備 (電気設備)	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	起動用空気槽	容器	V-0122 (起動用空気槽A) V-0222 (起動用空気槽B)	2	3	新設	安重	—	S/-	—	—	工程0191 (2/3) 工程0191 (3/3)



【主配管等の名称整理】

紐付け番号	施設区分		設備区分				機器名称（許可）	機器名称	機種	設置場所	数量	申請回	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用 （主従）	共用 （主従）	備考
1	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	S/—	—	—	
2	その他加工設備の附属施設	—	非常用設備	所内電源設備（電気設備）	設計基準対象の施設	非常用所内電源設備	—	非常用発電機	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	S/—	—	—	





**【凡例】**  
**赤線**：主となる流路  
**青線**：安全上重要な施設  
 番号：機器等の紐付け番号 ( ①, ②, … )  
 ○番号：主配管との紐付け番号 ( , … )

**赤引き出し線**：主流路とする考え方の補足  
**青引き出し線**：主流路としない考え方の補足

**水色四角囲い**：耐震クラス

これらの系統は、計装信号を表す計装ラインであるため、主流路ではない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

当該の流路はベントラインであり、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

こちらの系統は、燃料油移送ポンプ吸込側を充油して油切れを防止するためのラインであり、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

こちらの系統は、サービスタンクの液抜き用ラインであり、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

当該の流路はベントラインであり、主流路として設定しない。

当該流路・燃料油手動ポンプは、燃料油移送ポンプが故障等により使用不可となった場合、代替手段として使用する設備と流路であることから、主流路として設定しない。

当該の流路はメンテナンス時にサービスタンク等から燃料油を戻すためのラインであることから、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

当該の流路は、燃料油サービスタンクのオーバーフローラインであることから、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

当該の流路は、燃料油サービスタンクのドレンラインであることから、主流路として設定しない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

これらの系統は、計装信号を表す計装ラインであるため、主流路ではない。 (同様の箇所については記載を省略する。)

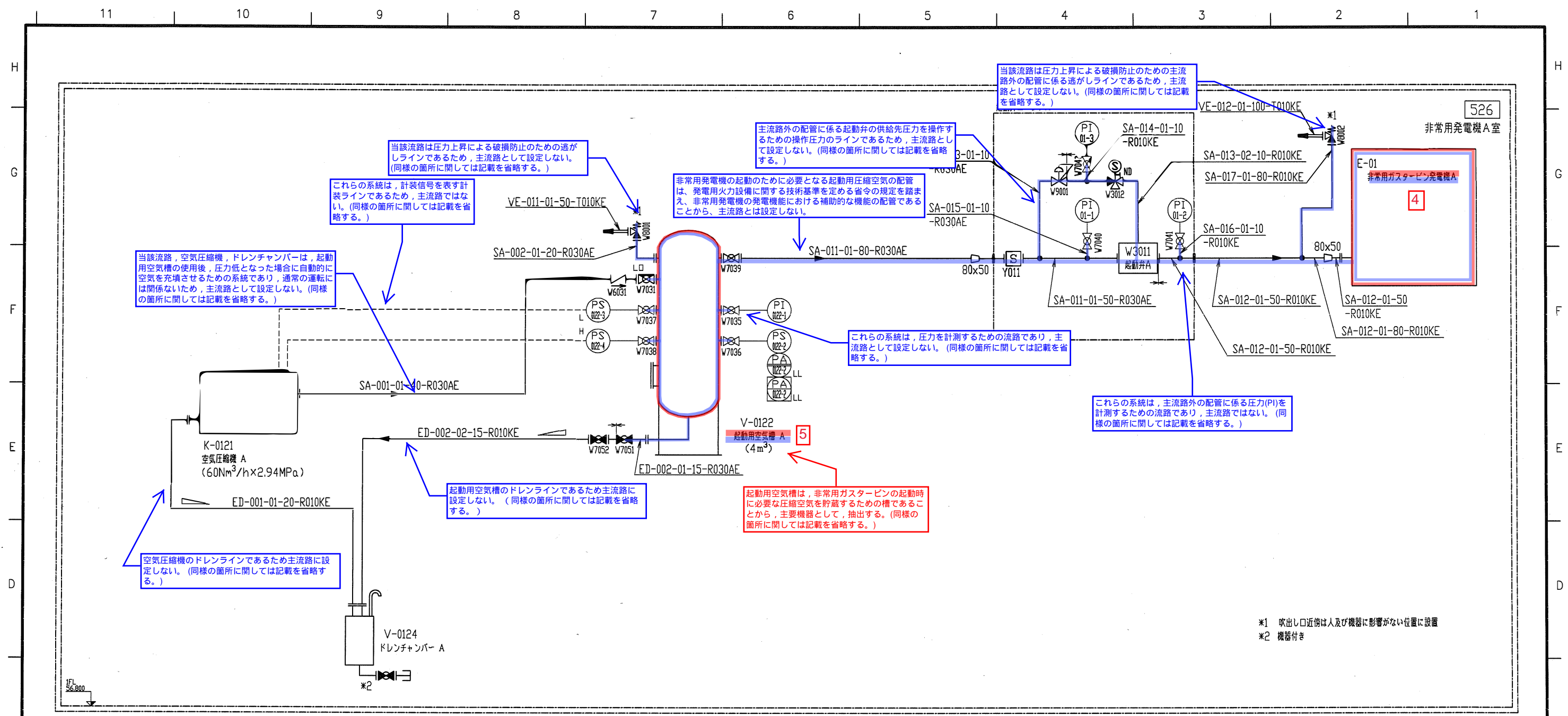
- \*1 燃料油サービスタンク～非常用ガスタービン発電機の高さは、GT/G燃料ポンプのシール機能及び吸い込み能力の観点から1.7m以上5m以下とする。
- \*2 1/200勾配
- \*3 風の吹き込みによる水の流入の影響が少ない配置とする
- \*4 燃料油貯蔵タンクの漏洩試験を考慮した配管ルートとする
- \*5 液抜きラインはU字部等のポケットとならない配管ルートとする
- \*6 機器付き
- \*7 油張り時のエア抜き用のため配管のトップに上向きに設置する
- \*8 ストレーナ (Y001, Y005, Y101, Y105) は差圧計付きとする

系統番号：PA0191A/B

客先名	日本原燃株式会社殿	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 電力供給設備 (P) 非常用ガスタービン発電機 燃料油系統図 (A, B系) 工程：0191 (1/3)		
客先図面番号	PM-0191-4927-011	改訂	14

非常用電源設備の安重範囲 (青線) の耐震クラスは、全て「S/ー」  
 それ以外は「C/ー」





当該流路、空気圧縮機、ドレンチャンバーは、起動用空気槽の使用後、圧力低となった場合に自動的に空気を充填させるための系統であり、通常の運転には関係ないため、主流路として設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

当該流路は圧力上昇による破損防止のための逃がしラインであるため、主流路として設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

これらの系統は、計装信号を表す計装ラインであるため、主流路ではない。(同様の箇所については記載を省略する。)

当該流路は圧力上昇による破損防止のための主流路外の配管に係る逃がしラインであるため、主流路として設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

主流路外の配管に係る起動弁の供給先圧力を操作するための操作圧力のラインであるため、主流路として設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

非常用発電機の起動のために必要となる起動用圧縮空気の配管は、発電用火力設備に関する技術基準を定める省令の規定を踏まえ、非常用発電機の発電機能における補助的な機能の配管であることから、主流路とは設定しない。

これらの系統は、圧力を計測するための流路であり、主流路として設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

これらの系統は、主流路外の配管に係る圧力(PI)を計測するための流路であり、主流路ではない。(同様の箇所については記載を省略する。)

起動用空気槽のドレンラインであるため主流路に設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

起動用空気槽は、非常用ガスタービンの起動時に必要な圧縮空気を貯蔵するための槽であることから、主要機器として、抽出する。(同様の箇所については記載を省略する。)

空気圧縮機のドレンラインであるため主流路に設定しない。(同様の箇所については記載を省略する。)

\*1 吹出し口近傍は人及び機器に影響がない位置に設置  
\*2 機器付き

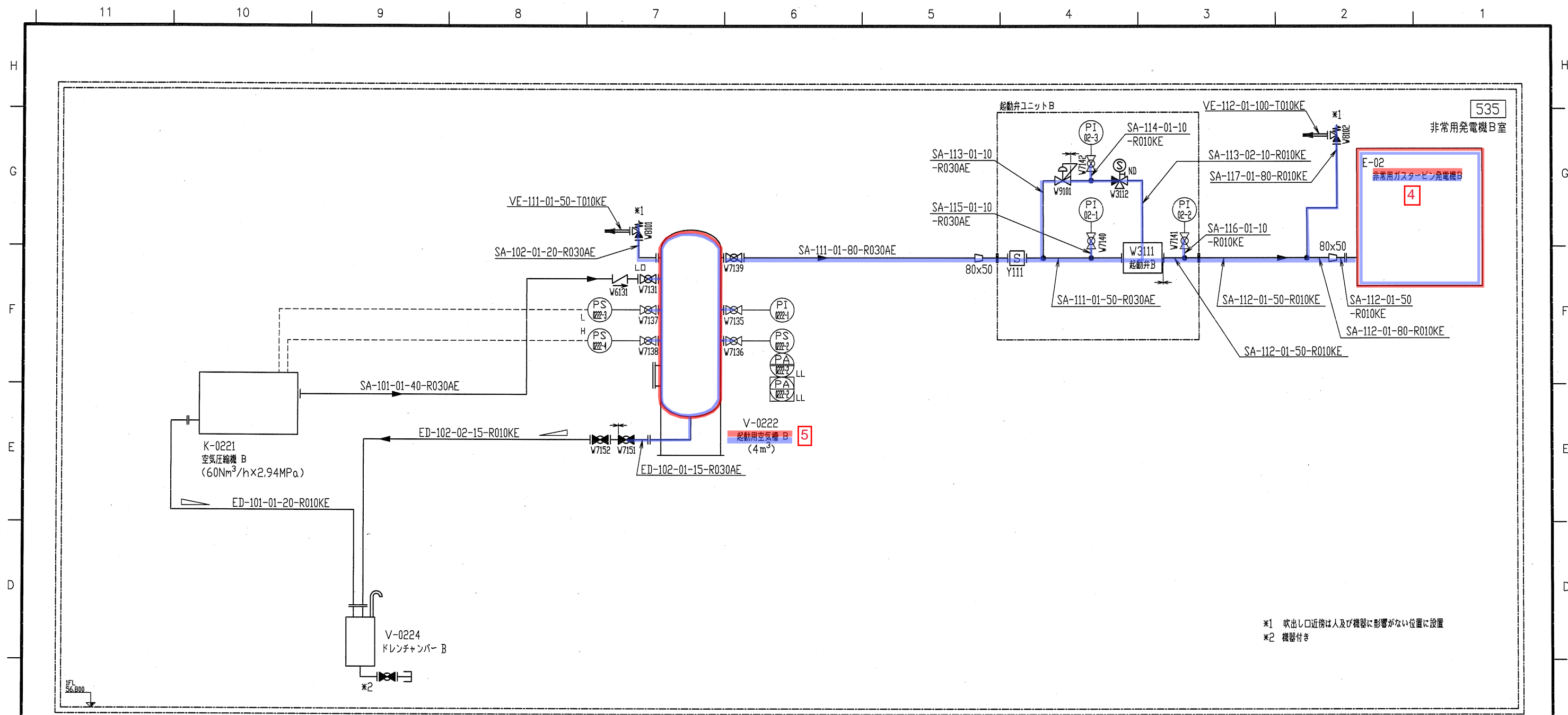
**【凡例】**  
**赤線**：主となる流路  
**青線**：安全上重要な施設  
 番号：機器等との紐付け番号 ( ① , ② , . . . . . )  
 ○番号：主配管との紐付け番号 ( , , . . . . . )  
**青引き出し線**：主流路としない考え方の補足  
**水色四角囲い**：耐震クラス

非常用電源設備の安重範囲(青線)の耐震クラスは、全て「S/ー」  
それ以外は「C/ー」

系統番号：PA0191A

客先名	日本原燃株式会社殿	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋(PA) 電力供給設備(P) 非常用ガスタービン発電機 起動圧縮空気系統図(A系) 工程：0191(2/3)		
客先図面番号	PM-0191-4927-011	改訂	14





\*1 吹き出し口近傍は人及び機器に影響がない位置に設置  
 \*2 機器付き

**【凡例】**  
 赤線：主となる流路  
 青線：安全上重要な施設  
 番号：機器等との紐付け番号 ( ① , ② , . . . . . )  
 ○番号：主配管との紐付け番号 ( , . . . . . )  
 水色四角囲い：耐震クラス

非常用電源設備の安重範囲(青線)の耐震クラスは、全て「S/ー」  
 それ以外は「C/ー」

系統番号：PA0191B

客先名	日本原燃株式会社殿	オーダー/アイテム	2917372/6000
プロジェクト	MOX燃料工場	設計区分	P
図書名称	燃料加工建屋 (PA) 電力供給設備 (P) 非常用ガスタービン発電機 起動圧縮空気系統図 (B系) 工程：0191 (3/3)		
客先図面番号	PM-0191-4927-011	改訂	14



### 設計図書の記載に係る留意事項

1. 配管番号
2. 機器番号
3. 設計図書の記載に係る留意事項
4. 系統図に用いるポンプ等の凡例
5. 計装関係記号
6. 主配管の名称の付け方の例







1. 配管番号

第1表 流体記号

記号	種類	参考
PR	プロセスの流れ (核燃料物質を含む流れ)	<u>P</u> rocess <u>F</u> luid
AV	ベント (放射性)	<u>A</u> ctive <u>V</u> ent
VE	ベント (非放射性)	<u>N</u> on-active <u>V</u> ent
DF	除染液 (供給)	<u>D</u> econtamination <u>F</u> luid
TW	工業用水	<u>T</u> reated <u>W</u> ater
DW	飲料水	<u>D</u> rinking <u>W</u> ater
DM	純水	<u>D</u> emineralized <u>W</u> ater
CW	冷却水	<u>C</u> ooling <u>W</u> ater
HW	温水	<u>H</u> ot <u>W</u> ater
SH	過熱水	<u>S</u> uper <u>H</u> eated <u>W</u> ater
CH	冷水	<u>C</u> hilled <u>W</u> ater
FW	消火水	<u>F</u> ire <u>S</u> ervice <u>W</u> ater
SC	凝縮水	<u>S</u> team <u>C</u> ondensation
AS	蒸気	<u>A</u> uxiliary <u>S</u> team
HF	熱媒 (除 AS, SH)	<u>H</u> eating <u>F</u> luid
CL	冷媒	<u>C</u> oolant
SA	雑用圧縮空気	<u>S</u> ervice <u>A</u> ir
IA	計装用圧縮空気	<u>I</u> nstrumentation <u>A</u> ir
OA	制御用空気 (油潤滑)	<u>O</u> iled <u>C</u> ontrol <u>A</u> ir
BA	呼吸用圧縮空気	<u>B</u> reathing <u>A</u> ir
GA	空気一般 (エアスニファ、排気 モニタのサンプリング空気)	
FN	N <sub>2</sub> 消火	
FC	CO <sub>2</sub> 消火	
VM	真空	<u>V</u> acuum
WH	水圧系	<u>W</u> ater in <u>H</u> ydraulic <u>C</u> ircuit
OH	油圧系	<u>O</u> il in <u>H</u> ydraulic <u>C</u> ircuit

記号	種類	参考
FO	燃料油	<u>F</u> uel <u>O</u> il
FG	燃料ガス	<u>F</u> uel <u>G</u> as
HV	換気空調 (除プロセス換気:AV または VE)	<u>H</u> eating and <u>V</u> entilation
MA	中放射性廃液	<u>M</u> edium <u>A</u> ctive <u>L</u> iquid <u>W</u> aste
LA	低放射性廃液	<u>L</u> ow <u>A</u> ctive <u>L</u> iquid <u>W</u> aste
VA	極低放射性廃液	<u>V</u> ery <u>L</u> ow <u>A</u> ctive <u>L</u> iquid <u>W</u> aste
VV	極々低放射性廃液	<u>V</u> ery <u>V</u> ery <u>L</u> ow <u>A</u> ctive <u>L</u> iquid <u>W</u> aste
IW	非放射性廃液	<u>I</u> n-active <u>L</u> iquid <u>W</u> aste
RD	雨水	<u>R</u> ain <u>W</u> ater <u>D</u> rain
RE	試薬 (ガスを含む) *	<u>R</u> eagent
GW	湧水	<u>G</u> rounding <u>W</u> ater
ED	機器ドレン (非放射性)	<u>N</u> on-active <u>E</u> quipment <u>D</u> rain
FD	床ドレン (非放射性)	<u>N</u> on-active <u>F</u> loor <u>D</u> rain
SD	衛生 (生活) 排水	<u>S</u> anitary <u>D</u> rain
WW	一般排水	<u>G</u> eneral <u>W</u> aste <u>W</u> ater
SS	試料採取	<u>S</u> ampling <u>S</u> ystem <u>P</u> iping
PV	気送用空気供給/排気	<u>P</u> neumatic <u>V</u> entilation
PT	気送	<u>P</u> neumatic <u>T</u> ransport
GP	検出端挿入	<u>G</u> uide <u>P</u> ipe (サーモカップル, 中性 子検出器用等, 含予備挿入管)
FH	消火用ハロゲン化物	<u>F</u> ire <u>S</u> ervice <u>H</u> alides
WP	予備プロセス 将来設置/増設用の 予備的措施	<u>W</u> aiting <u>P</u> ipe
XX	その他 (二重管配管を含む)	

(\* ) 試薬系の主ラインについては、その化学記号 (HNO<sub>3</sub>, N<sub>2</sub>等) を当該ラインの両端等の主な配管番号の右余白に付記する。

(例) RE-○○○-○○-○○○-○○○○○○ (HNO<sub>3</sub>)



1. 配管番号

第2表 配管材質

記号	配管材質	記号	配管材質
G	SGP	Z	ジルコニウム
T	STPG & STPT	C	銅
X	上記以外の炭素鋼&STPA	P	PVC (塩化ビニール)
D	SUS316L	F	鋳鉄
S	SUS304L	B	コンクリート
K	R・SUS316 ULC	J	被覆鋼
L	R・SUS304 ULC	M	強化樹脂
H	SUS316	N	高密度ポリエチレン
R	SUS304	A	アルミニウム
U	ウラナス	E	鉛
V	高Cr高Moステンレス鋼	W	GNCF1
Y	テフロン		

第3表 呼び圧力

記号	呼び圧力	記号	呼び圧力
002	2K	030	30K
005	5K	040	40K
010	10K (含真空)	063	63K
016	16K	106	ANSI 1500 <sup>2</sup>
020	20K	176	ANSI 2500 <sup>2</sup>

第4表 配管区分

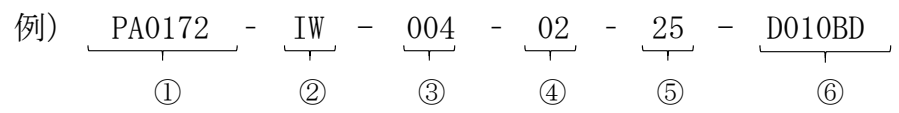
記号	区分	定義	備考
A	加工第1種管	加工施設の化学処理施設、核燃料物質の貯蔵施設または放射性廃棄物の廃棄施設に属する管のうち、プルトニウムの放射能濃度が 37kBq/cm <sup>3</sup> 以上の液体（以下、プルトニウム溶液）を内包する管。	第一条の2 第一項
B	加工第2種管	加工施設に属する管のうち、加工第1種管および次項に規定する加工第3種管以外の管。	第一条の2 第四項
C	加工第3種管	加工施設に属する管のうち、次に掲げるもの。 イ プルトニウム溶液の漏えいの拡大防止のために設置されるドリフトレイその他の容器 ロ 六ふっ化ウランの加熱容器 ハ ダクト	第一条の2 第七項
D	放射性流体配管	加工施設に属する管のうち、放射性物質を内包する管をいう。（ただし、上記A～Cを除く。）	
E	非放射性流体配管	加工施設に属する管のうち、上記A～D以外の管をいう。	

(注) 該当する溶接の技術基準の条項番号は備考欄に記載してある。

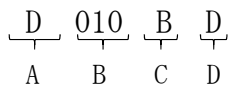
(「加工施設、再処理施設及び特定廃棄物管理施設の溶接の技術基準に関する規則」より)



1. 配管番号



- ① : 「PA0172」 ⇒ 系統番号「燃料加工建屋の工程番号0172 (低レベル廃液処理設備)」
- ② : 「IW」 ⇒ 流体記号「IW : 非放射性廃液」 (第1表参照)
- ③ : 「004」 ⇒ 配管連番「004」
- ④ : 「02」 ⇒ セクション番号「02」
- ⑤ : 「25」 ⇒ 配管口径「25A」
- ⑥ : 「D010BD」



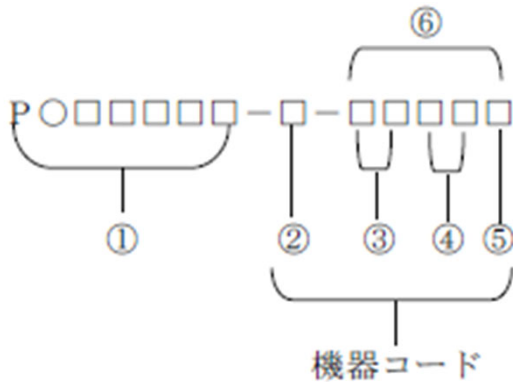
- A : “D” ⇒ 配管材質「SUS316L」 (第2表参照)
- B : “010” ⇒ 呼び圧力「10K (含真空)」 (第3表参照)
- C : “B” ⇒ 配管厚さ及び仕様による区分 (配管材質, 呼び圧力で複数同様のスペックがある場合に使用する)
- D : “D” ⇒ 配管区分「放射性流体配管」 (第4表参照)



2. 機器番号

機器番号は以下のルールに従い、設定する。

なお、設計図書の系統図においては、系統番号は明確であるため、②の流体記号から記載している。



番号	種別	説明
①	系統番号	各設備に系統番号を設定する。
②	識別番号	第5表参照
③	主要機器番号	系統番号ごとに主要機器の番号を設定。並列機器等を考慮して設定する。
④	付属機器番号	主要機器ごとに付属機器の番号を設定。
⑤	追番	分析設備に関して、グローブボックス、分析機種ごとに追番を取る。
⑥	弁・アクセサリ等の番号	弁・アクセサリがある場合に使用する。



2. 機器番号

第5表 機器識別番号

記号	機器	備考
A		
B	グローブボックス, フード, オープンポートボックス	
C	冷却装置・冷凍機	
D	除湿器, 空気分離器, ミスト・セパレータ, 分配器	
E		
F	フィルタ	
G		
H	熱交換器, 加熱装置	
I	—	使用しない
J		
K	圧縮機, 排風機, 送風機	
L		
M	機械装置一般	
N		
O	—	使用しない
P	ポンプ	含真空ポンプ
Q	消火栓	
R		
S	I D 読取装置	
T	秤量装置	
U		
V	槽類, 空調機器全般	C, D, F, H, K, W および X を除く
W	弁・ダンパ等	全形式, 機能(*1)
X	その他	
Y	配管アクセサリ	トラップ, ストレーナ, オリフ イス, クイックコネクタ等の配 管アクセサリ (計装用を除く) および床ドレンファンネル等 を含む。
Z		

(\*1)機能区分は弁・ダンパ等の番号によって行う。

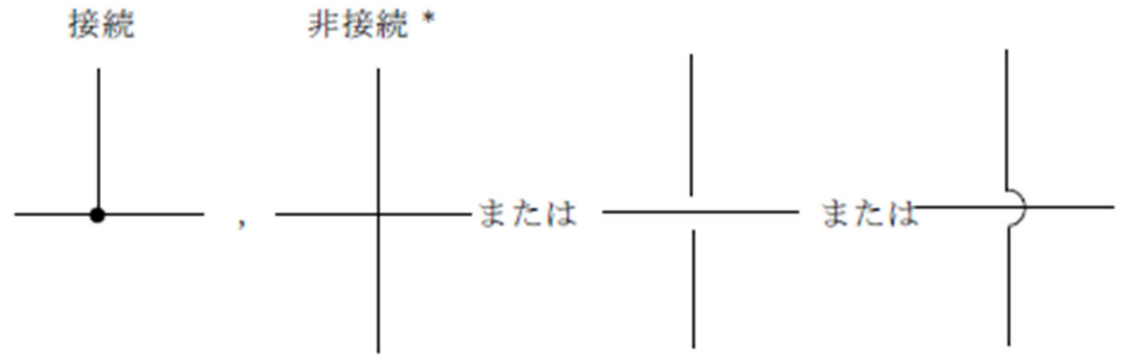
弁・ダンパ等の番号	機能区分
100番台 (または1000番台)	遠隔手動調節弁・遠隔手動調節ダンパ
300番台 (または3000番台)	遠隔オン・オフ弁・遠隔オン・オフダンパ
500番台 (または5000番台)	手動弁 (現場操作弁・現場操作ダンパ, 含逆止弁)
700番台 (または7000番台)	
800番台 (または8000番台)	安全弁, 逃がし弁 (含真空破壊弁)
900番台 (または9000番台)	その他の弁およびダンパ (含自力式調整弁)

なお、遠隔自動調整弁・遠隔自動調整ダンパについては、付属書-3 計装  
関係記号表示・番号設定基準によるものとする。



3. 設計図書の記載に係る留意事項

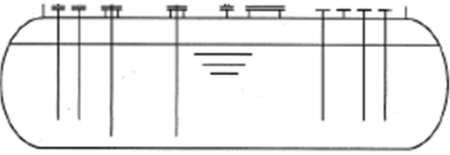

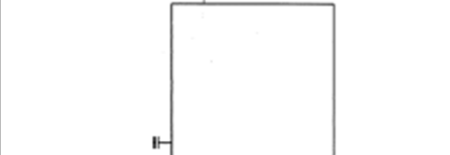
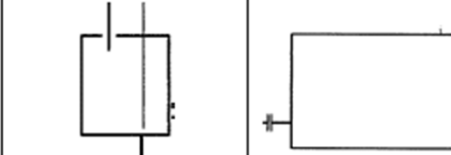
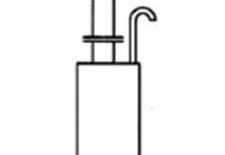


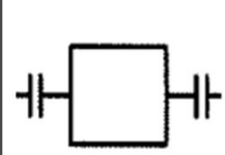
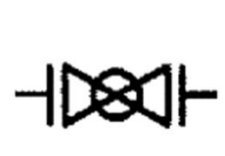
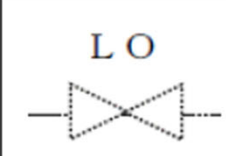
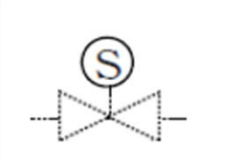

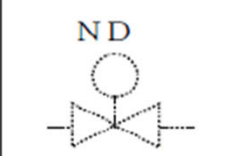




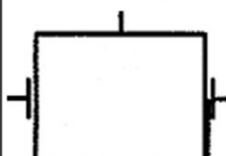

① 配管等の接続有無については以下のとおり記載する。



\*いずれかを混用せず用いる。

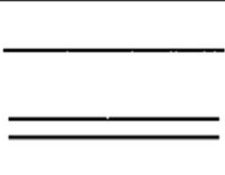

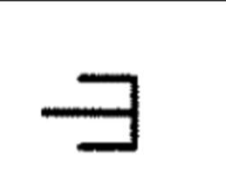



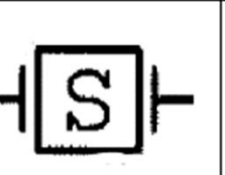


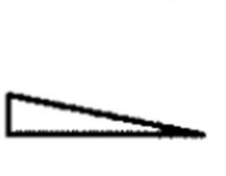



4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

1. 機器							
							
燃料油貯蔵タンク		燃料油サービスタンク		非常用ガスタービン発電機		燃料油ドレンタンク	
							
ドレンチャンバー	起動用空気槽	燃料油移送ポンプ	燃料油手動ポンプ				
2. 弁類							
							
玉形弁	鎖錠「開」	電磁(弁)	現場手動操作器付	通常「無励磁」	安全弁, 逃し弁	逆止弁	三方弁
							
自力式減圧弁	起動弁	スペック境界					



4. 系統図に用いるポンプ等の凡例

3. 配管アクセサリー							
							
配管	フランジ接続	ネジ込みキャップ	レジュース	通気口	給油口	ストレーナー一般	フレキシブルホース
							
ベント	配管勾配						

4. 建物関係							
							
室, 洞道, 建屋境界							



5. 計装関係記号

計装関係の記号は以下の通り。

計装品記号表

記号			区分
一般	コンピュータまたは コンピュータ入出力	CRTまたは マルチプルコントローラ	
			中央監視室設置計装品
LOC	LOC	LOC	個別制御室設置計装品
			現場盤設置計装品 (計装ラック内設置計装品含む)
			現場設置計装品 (現場圧力計・現場温度計等 現場直付計装品を示す)

計装品記号中の余白に計器番号を、上部に計器記号、下部に測定または制御対象機器番号、ループ連番および機器識別番号と分けて記入する。温度等の「高」又は「低」などの機能修飾がある場合は、記号の右上に機能修飾に該当する文字を記載する。

差圧などの変量を計測する計器の場合は、被計測変量の後に続けて用いる。

DCS, PLC入出力記号

記号	説明
	デジタル入力

計器用電源記号

記号	説明
	現場計器で直接電源供給が必要なもの

警報, 注意報, 表示灯記号

記号	説明
	警報

計器信号線

記号	説明
	電気信号

例) 漏えい検知の場合は、液位が一定の高さになった場合に警報を発報する計器であれば、以下の通りとなる。(現場設置に係る計器)



例) 差圧発信であれば以下のとおり。(現場設置に係る計器)





## 5. 計装関係記号

計器記号表

	第1記号		第2記号	
	被計測変量	変量修飾	計測機能	機能修飾
A	分析	—	警報	—
B	予備	—	—	—
C	電導度	—	調節	閉
D	密度	差	—	—
E	電圧	—	検出器	—
F	流量	—	—	—
G	寸法	—	ガラスサイトフ ローまたはガラス	—
H	手動	—	—	高
I	電流	—	指示	—
J	電力	—	表示灯	—
K	時間	—	—	—
L	液位	—	—	低
M	湿度	境界	—	—
N	振動	—	試料採取点または 測定点	—
O	濁度	—	—	開
P	圧力	—	保護系作動	—
Q	濃度	—	積算	—
R	放射能濃度	—	記録	起動
S	速度	—	接点または指令	停止
T	温度	—	発信	—
U	多種の変量	—	多機能計器	—
V	粘度	—	バルブ・ダンパ等 の調節部	—
W	重量, 力	—	注意報	—
X	不特定の変量	—	その他の機能	—
Y	トルク	—	演算器, 変換器, リレー	—
Z	位置	—	—	—



## 6. 主配管の名称の付け方の例

主配管、ダクトは、用途（機能）、使用範囲等を明確にするため、設計基準対象施設のための境界、重大事故等対処設備のための境界、兼用設備の境界等がわかるように色塗り等を行い、主配管の名称を設定する。

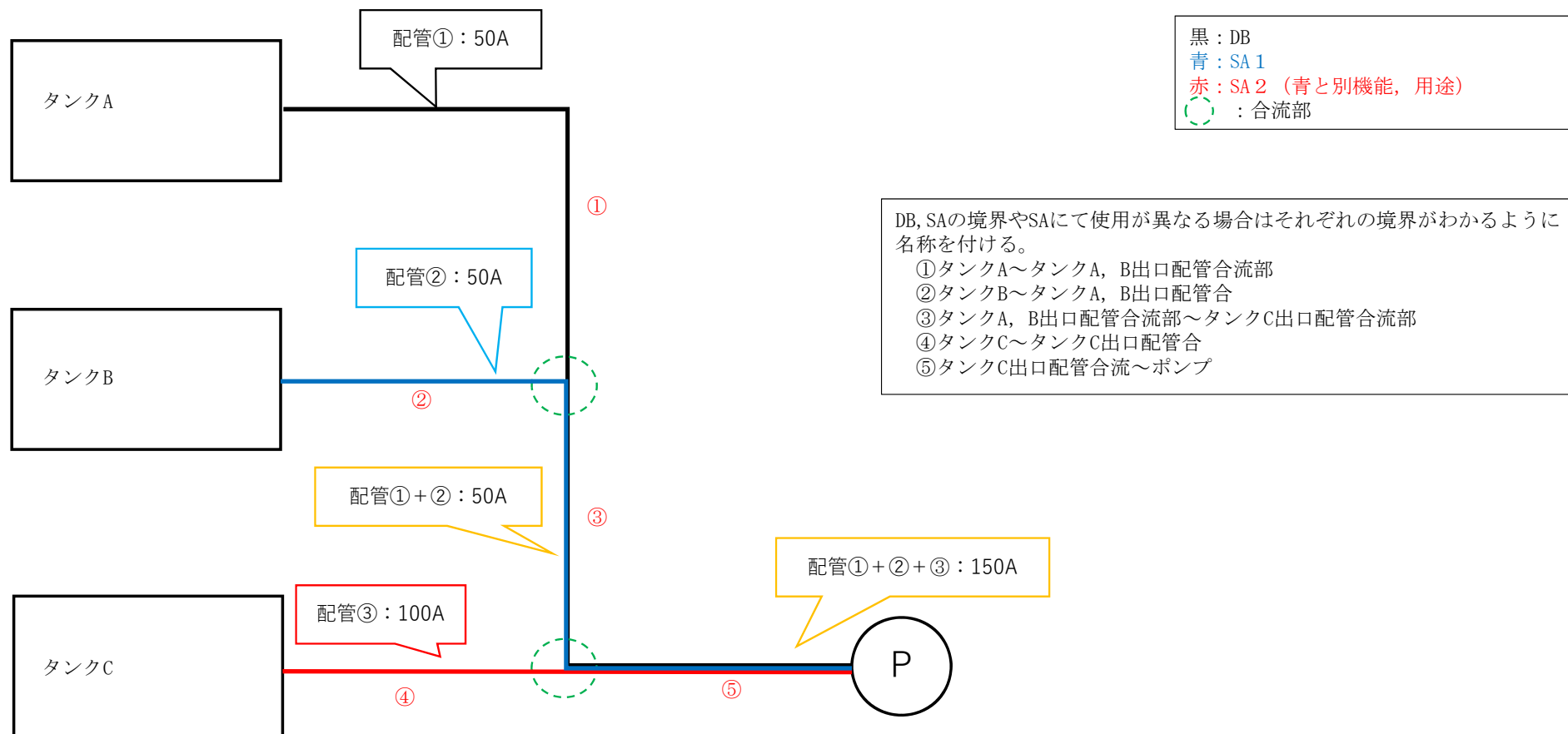
### [用途、仕様範囲等に係る境界]

- a. 設計基準対象施設のための境界
- b. 重大事故等対処設備のための境界
- c. 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので、設計基準対象施設としての仕様から変更がない境界
- d. 重大事故等対処設備として既設の設計基準対象施設を使用するもので、設計基準対象施設としての仕様から変更がある境界
- e. 兼用設備の境界
- f. 安全上重要な施設の境界
- g. 耐震重要度分類 S クラスの境界, 1.2Ssの境界
- h. 主配管と非主配管の境界



## 6. 主配管の名称の付け方の例

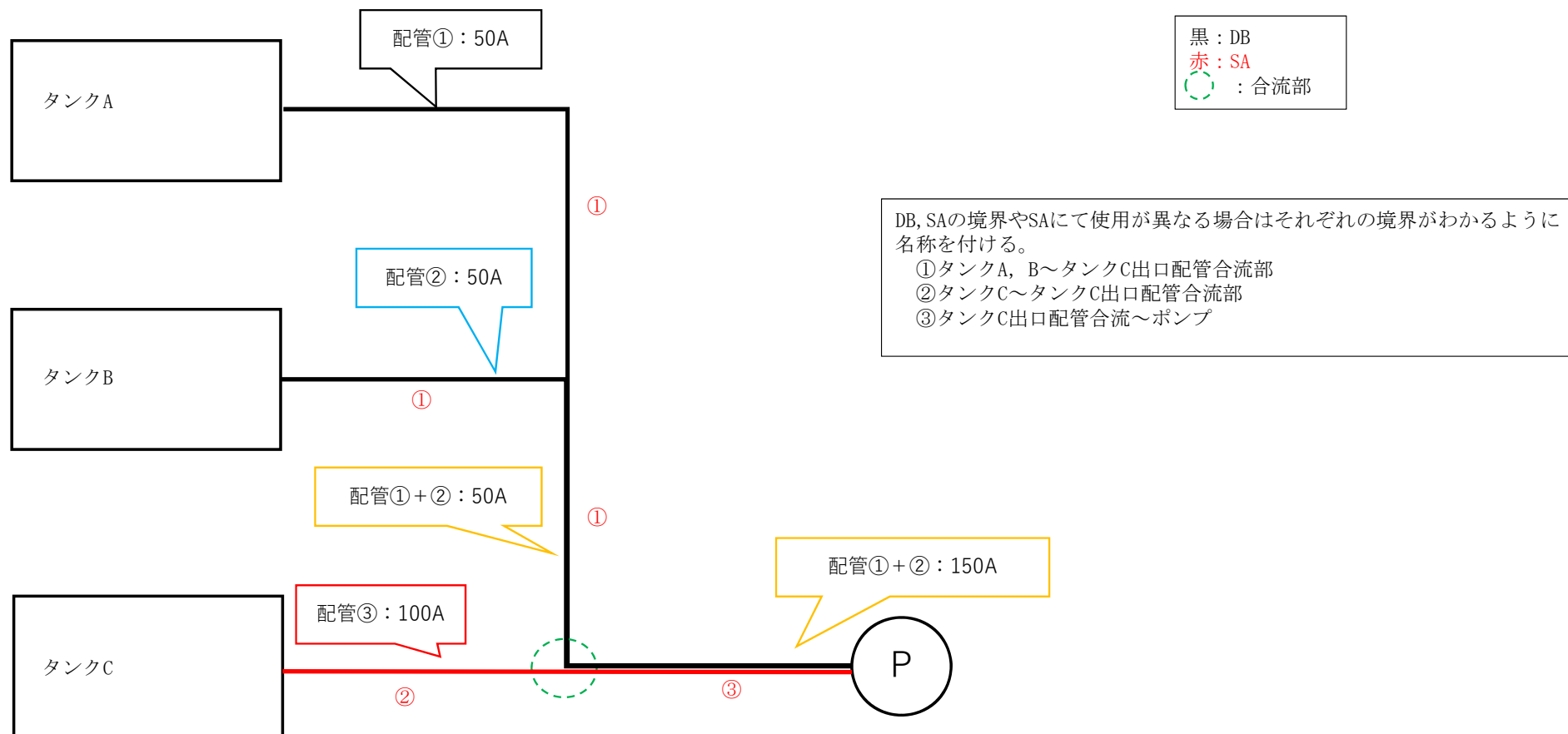
例1) 主配管等の名称の設定 (それぞれに境界が設定されている場合)





## 6. 主配管の名称の付け方の例

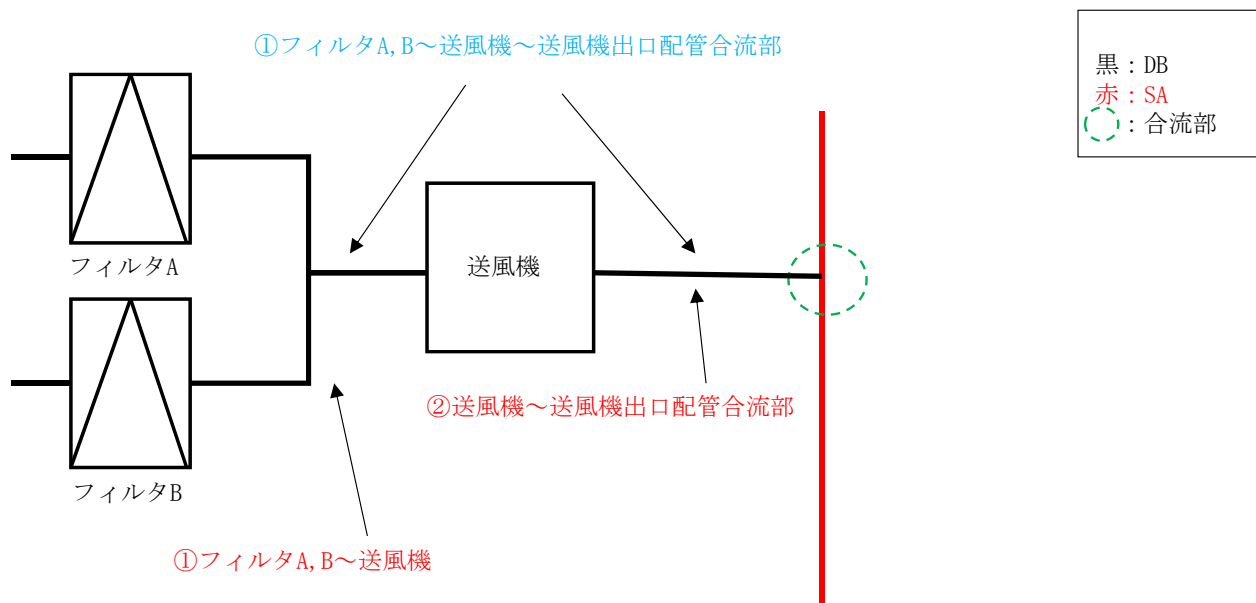
例2) 主配管等の名称の設定 (使用用途等が同一の場合)





## 6. 主配管の名称の付け方の例

例3) 主配管等の名称の設定 (使用用途等が同一の場合で機器を跨ぐ場合)



「フィルタA, B～送風機」及び「送風機～送風機出口配管合流部」において、仕様等が同様であれば、○○装置～△△装置～□□合流部などまとめることも可とする。

① フィルタA, B～送風機～送風機出口配管合流部

or

① フィルタA, B～送風機      ② 送風機～送風機出口配管合流部



別紙 2-2-5 系統として機能、性能を  
達成する設備  
(分析済液処理装置)



## 目 次

1. 概要.....	1
2. 要求される機能、性能と主流路設定、機器抽出の考え方.....	1
(1) 要求される機能、性能について.....	1
a. 設計基準対象の施設に係る機能、性能.....	1
b. 重大事故等対処設備に係る機能、性能.....	1
(2) 分析済液処理装置に係る主流路及び機器抽出の考え方.....	2
a. 分析済液の処理機能.....	2
b. 液体状の放射性物質の漏えい検知機能及び警報機能.....	3
(3) 主流路範囲の設定の考え方.....	3
(4) 主流路として設定しない範囲及びその考え方.....	3
a. メンテナンス用の系統、機器等.....	4
b. 第1活性炭処理第1プレフィルタ、第1活性炭処理第2プレフィルタ、吸着処理アフタフィルタ.....	4
3. 要求される耐震クラスの考え方.....	6
(1) 耐震クラスの設定.....	6
(2) 下位クラス接続等の留意すべき設備.....	6
4. 抽出結果.....	7

添付1：別紙2 機能要求②抜粋(分析済液処理装置)

- (1) 10条：閉じ込めの機能
- (2) 14条：安全機能を有する施設

添付2：申請対象設備リスト(分析済液処理装置)

添付3：申請対象設備抽出結果(分析済液処理装置)

- (1) 分析済液処理装置
- (2) 分析済液処理装置（漏えい検知）

参考：設計図書の記載に係る留意事項



## 1. 概要

本資料は、共通09 補足説明資料 別紙「各条における申請対象設備」にて整理した系統として機能、性能を達成する設備について、設計図書等に対して色塗りを行い、安全機能に関する対象範囲や対象機器を抽出したプロセス及び抽出結果を示すものである。

## 2. 要求される機能、性能と主流路設定、機器抽出の考え方

### (1) 要求される機能、性能について

分析済液処理装置に要求される機能、性能のうち、系統として達成する機能、性能は、以下のとおりであり、要求される機能、性能を踏まえて、分析済液処理装置の設計図書等の系統図を色塗りし、機能が要求される対象範囲や対象機器を抽出する。

分析済液処理装置に係る機能要求②が要求される条文の別紙2 抜粋版を添付1に示す。

#### a. 設計基準対象の施設に係る機能、性能

条文	系統機能名	基本設計方針
第10条 閉じ込めの機能	液体状の放射性物質の漏えい検知機能及び警報機能	10条-11 10条-17
第14条 安全機能を有する施設	分析済液の処理機能	14条(個別)-113

#### b. 重大事故等対処設備に係る機能、性能

分析済液処理装置に重大事故等対処設備に係る機能、性能の要求はない。

上記の機能を踏まえ、分析済液処理装置に関して設計図書の色塗りにより、対象範囲及び対象機器を抽出する。

なお、10条閉じ込めの機能において、「核燃料物質を取り扱う設備の腐食対策」の要求があるが、これは核燃料物質を取り扱う設備の主要材料の材質に対する要求（機器単体に要求される機能）であり、色塗りにより機器が抽出されるものではない。



(2) 分析済液処理装置に係る主流路及び機器抽出の考え方

a. 分析済液の処理機能

基本設計方針の要求を踏まえ、分析済液の処理機能に係る主流路を設定する。

分析済液は以下のプロセスで処理されるが、このうち系統として液体状及び固体状の放射性物質を処理するための機能、性能を達成するために必要な設備構成を主流路と設定する。

(a) 中和固液分離装置、乾燥・煨焼処理装置にて、分析済液を固体と液体に分離し、固体の含水率を低減する処理を行う。

○ 中和固液分離装置は、系統により液体状の放射性物質の中和処理及び固液分離処理を行う装置であり、主流路と設定する。

○ 乾燥・煨焼処理装置は、固液分離処理で分離した中和沈殿物である残渣を乾燥、煨焼して、含水率を低減させるための装置であり、系統により機能を達成する機器ではないため、主流路とは設定しない。

○ 系統上に遠心分離機を設置しているが、固液分離処理において不具合が生じた場合に利用する装置であり、通常の処理で使用する機器でないことから、主流路とは設定しない。

(b) ろ過処理装置、第1活性炭処理装置にて、(a)が終了した液体の放射能濃度を低減する処理を行う。

○ ろ過処理装置、第1活性炭処理装置は、系統により液体状の放射性物質のろ過処理を行うことから、主流路と設定する。

(c) 第2活性炭処理装置、吸着処理装置にて、(b)が終了した液体の放射能濃度を低減する処理を行う。

○ 第2活性炭処理装置、吸着処理装置は、系統により液体状の放射性物質の吸着処理を行うことから主流路と設定する。

(d) 放射能濃度測定装置にて、分析済液の処理における放射能濃度の分析を行う。

○ 放射能濃度測定装置は、分析済液の放射能濃度を分析するための装置であり、系統としての機能、性能を達成する装置ではないため、主流路とは設定しない。

以上のとおり、分析済液処理装置の系統としての機能・性能は、分析済液中和槽から中和固液分離処理、ろ過処理、第1活性炭処理、第2活性炭処理、吸着処理及び分析済液処理後に低レベル廃液処理設備に払い出す流路から構成され達成されることから、これらの設備を主流路として設定する。



b. 液体状の放射性物質の漏えい検知機能及び警報機能

基本設計方針の要求を踏まえ、液体状の放射性物質の漏えい検知機能に係る計装機器を抽出する。

分析済液処理装置の槽等から液体状の放射性物質の漏えい及びグローブボックス内の漏えい液受皿への漏えいは、漏えい液受皿液位により漏えいを検知する。

液体状の放射性物質の漏えい検知機能として、漏えいを検知する計器を申請対象設備として抽出し、警報機能として、中央監視室へ警報を発する系統になっていることを確認する。

(3) 主流路範囲の設定の考え方

分析済液処理装置の主配管名称を設定するにあたり、各処理工程及び処理設備の接続状況を考慮し、主となる処理間を結ぶ単位で主流路範囲を設定する。

主配管名称の付け方については、添付する「設計図書の記載に係る留意事項」に従い主配管名称を設定し、抽出リストに記載する。

(4) 主流路として設定しない範囲及びその考え方

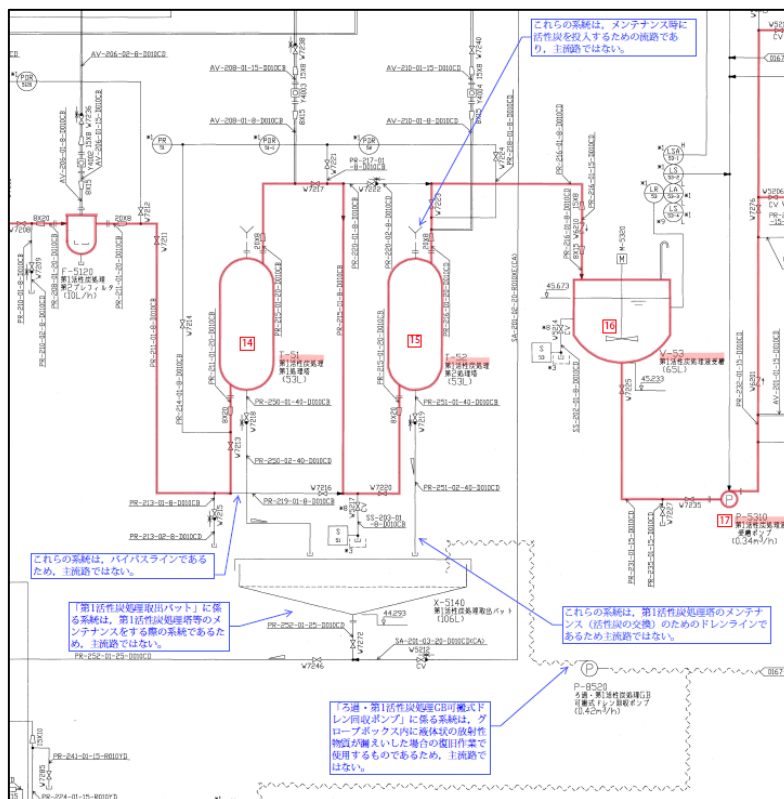
共通09本文に基づき、テストライン、バイパスライン、ベント・ドレンライン等については、主流路の対象としない。また、主流路上に設置される弁、フィルタ等についても、当該設備に要求される系統として機能、性能を達成するために必要な弁、フィルタ等については、主要機器として抽出し、それ以外の弁、フィルタ等については、主要機器としては抽出しない。

分析済液処理装置の特徴を踏まえた主流路を設定する上での主流路として設定しない範囲及びその考え方について、以下に示す。



a. メンテナンス用の系統、機器等

活性炭処理に用いる活性炭等の交換時に用いる第1活性炭処理取出バット等のメンテナンス用の機器については、主流路として設定しない。



第1図 メンテナンス用の機器、配管等の例

b. 第1活性炭処理第1プレフィルタ、第1活性炭処理第2プレフィルタ、吸着処理アフタフィルタ

第1活性炭処理第1プレフィルタ及び第1活性炭処理第2プレフィルタは、ろ過材の交換の際に、第1活性炭処理取出バットで捕集できなかった活性炭（約0.2～0.8mm）やリワーク処理で下流から送水されたるろ過材・吸着剤（約0.2～1.2mm）を捕集するためのフィルタであり、分析済液処理の処理能力として機能を期待するフィルタではないため、主要機器としては抽出しない。

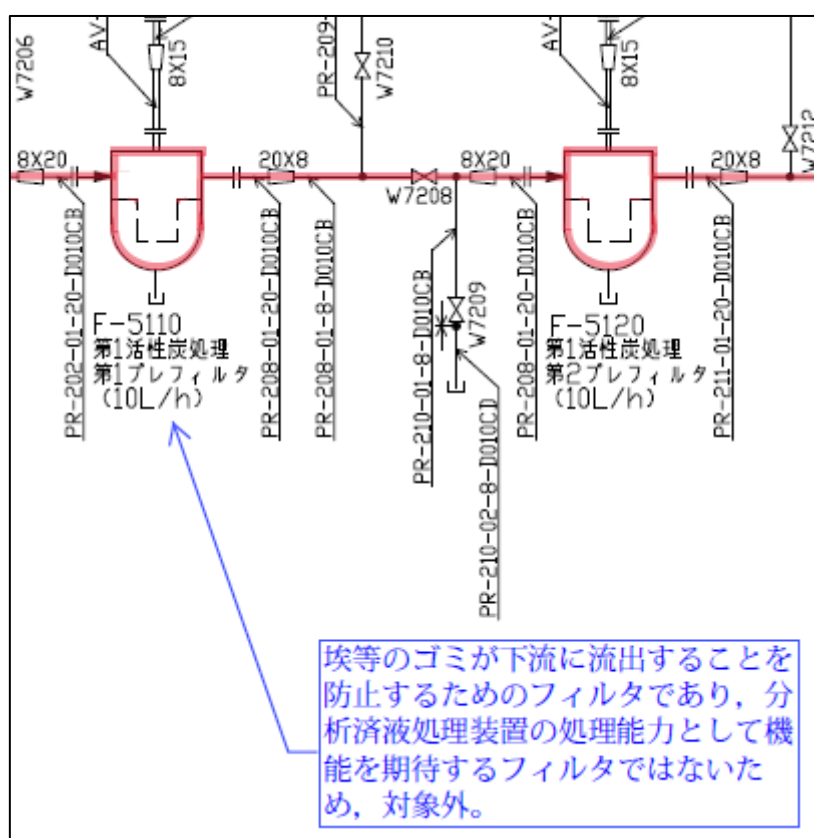
第1活性炭処理第1プレフィルタ及び第1活性炭処理第2プレフィルタの孔径は第1活性炭処理第1プレフィルタが30 $\mu$ m、第1活性炭処理第2プレフィルタが10 $\mu$ mとなっており、第1活性炭処理にて想定している液体に含まれる核燃料物質の形状としては、5 $\mu$ m程度以下の粒子であることから、第1活性炭処理第1プレフィルタ及び第1活性炭処理第2プレフィルタによる核燃料物質の捕集は期待していない。第1活性炭処理第1プレフィルタで30 $\mu$ m以上の大まかな活性炭及び吸着剤、第1活性炭処理第2プレフィルタで10 $\mu$ m～30 $\mu$ mのより細



かな活性炭及び吸着剤などを捕集する目的で設置するものである。

吸着処理アフタフィルタは、下流側に吸着剤（約0.5～1.2mm）が流出することを防止するためのフィルタであり、分析済液処理の処理機能として、機能を期待しているフィルタではないため、主要機器としては抽出しない。

なお、吸着処理アフタフィルタの孔径は、1 $\mu$ mであり、吸着処理にて想定している液体に含まれる核燃料物質はイオン形態のため、吸着処理アフタフィルタによる核燃料物質の捕集は期待していない。吸着処理アフタフィルタは、水流で舞い上がった吸着剤粒子0.5～1.2mm程度を捕集する目的で設置するものである。



第2図 第1活性炭第1プレフィルタ等の例



### 3. 要求される耐震クラスの見方

事業変更許可申請書にて要求される耐震クラスを踏まえ、分析済液処理装置の耐震クラスを整理する。要求される耐震クラスを整理するにあたって、事業変更許可申請書の「添付書類五 添5 第11表 クラス別施設」及び「添付書類五 添5 第12表 重大事故等対処設備（主要設備）の設備区分」を踏まえて、対象範囲が明確になるよう、耐震クラスを整理する。

#### (1) 耐震クラスの設定

分析済液処理装置のうち、分析済液処理装置グローブボックス及び二重配管の外管は耐震Bクラスである。それ以外の分析済液処理装置は耐震Cクラスである。液体状の放射性物質が流れる主流路上の機器は耐震Cクラスとなる。

なお、分析済液処理装置に重大事故等対処設備の要求はない。

#### (2) 下位クラス接続等の留意すべき設備

分析済液処理装置のうち、分析済液処理装置グローブボックス及び二重配管の外管は耐震Bクラス、それ以外の分析済液処理装置は耐震Cクラスであり、上位クラスとの接続はない。



添5第11表 クラス別施設 (10/16)

耐震クラス	クラス別施設	主要設備等 <sup>注21</sup>			補助設備 <sup>注22</sup>		直接支持構造物 <sup>注23</sup>		間接支持構造物 <sup>注24,注25</sup>		波及的影響を考慮すべき設備 <sup>注26</sup>	
		施設名	適用範囲	耐震クラス <sup>注27</sup>	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	適用範囲
B	1) 核燃料物質を取り扱う設備・機器又はMOXを非密封で取り扱う設備・機器を収容するグローブボックス及びグローブボックスと同等の閉じ込め機能を必要とする設備・機器であって、その破損による公衆への放射線の影響が十分小さいもの(ただし、核燃料物質が十分な又は回収方式によりその破損による公衆への放射線の影響が十分小さいものは除く。) (つづき)	貯蔵施設	スクラップ貯蔵設備	B			設備・機器の支持構造物	B	燃料加工建屋			
			スクラップ貯蔵機器 <sup>注28</sup>	B								
			スクラップ保管容器入出装置	B								
			スクラップ保管容器受渡装置	B								
			製品レレット貯蔵設備	B								
			製品レレット貯蔵機器 <sup>注29</sup>	B								
			ペレット保管容器入出装置	B								
			ペレット保管容器受渡装置	B								
			燃料貯蔵貯蔵設備	B								
			燃料貯蔵貯蔵機器 <sup>注30</sup>	B								
その他加工設備の附属施設	(つづき)	分析設備のグローブボックス	受注装置グローブボックス	B			設備・機器の支持構造物	B	燃料加工建屋			
			分析装置グローブボックス	B								
			分析済液処理装置グローブボックス	B								
			分析装置	B								
			分析済液処理装置 <sup>注31</sup>	B								
			小規模貯蔵設備	B								
			小規模貯蔵混合装置	B								
			小規模プレス装置	B								
			小規模貯蔵検査装置	B								
			資料保管装置	B								

添5第11表 クラス別施設 (13/16)

耐震クラス	クラス別施設	主要設備等 <sup>注21</sup>			補助設備 <sup>注22</sup>		直接支持構造物 <sup>注23</sup>		間接支持構造物 <sup>注24,注25</sup>		波及的影響を考慮すべき設備 <sup>注26</sup>	
		施設名	適用範囲	耐震クラス <sup>注27</sup>	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	耐震クラス	適用範囲	
C	Sクラスに属する施設及びBクラスに属する施設以外の一般産業施設又は公共施設と同等の安全性が要求される施設 (つづき)	放射線廃棄物の産業施設	ウラン貯蔵設備	C			設備・機器の支持構造物	C	燃料加工建屋			
			ウラン粉末出入出装置	C								
			燃料貯蔵貯蔵設備	C								
			ウラン燃料貯蔵貯蔵設備	C								
			グローブボックス負圧・温度監視設備	C								
			燃料貯蔵貯蔵設備	C								
			工程放射線監視設備	C								
			グループボックス排気設備	C								
			グループボックス排気設備のうち、Sクラス及びBクラス以外の範囲	C								
			グループボックス排気設備のうち、Sクラス及びBクラス以外の範囲	C								
廃棄物貯蔵設備	C											
廃棄物貯蔵ダクトのうち、Bクラス以外の範囲	C											
給気設備	C											
排気筒 <sup>注32</sup>	C											
低レベル廃液処理設備のオープンポートボックス	C											
ろ過処理オープンポートボックス	C											
吸着処理オープンポートボックス	C											
低レベル廃液処理設備	C											
検査槽	C											
廃液貯蔵槽	C											
ろ過処理装置	C											
吸着処理装置	C											
グループボックス負圧・温度監視設備	C											
海洋放出管理系						設備・機器の支持構造物	C					
放射線計測												
第1放射線計測	C											
第1海洋放出ポンプ	C											
海洋放出計管	C											
低レベル廃液貯蔵貯蔵設備						設備・機器の支持構造物	C					
第2低レベル廃液貯蔵貯蔵系	C											

注21 分析済液処理装置のうち、二重管の外管。

第3図 事業変更許可申請書 添5第11表抜粋

4. 抽出結果

色塗りにて抽出した機器等のリスト(抽出リスト)、色塗り結果を添付3に示す。抽出結果を反映した申請対象設備リストを添付2に示す。

設計図書等を確認するにあたり、設計図書の記載に係る留意事項を参考に示す。設計図書等の色塗りについては、主流路となる部分が明確になるよう着色する。

分析済液処理装置において、耐震Cクラスとして設工認申請する範囲は、設備図書等で着色している範囲である。なお、二重配管部分については、外管がBクラスとなる。



添付 1

別紙 2 機能要求②抜粋

(分析済液処理装置)



(1) 10条：閉じ込めの機能



項目番号	基本設計方針	要求種別	主な設備	展開事項	第1回申請			第2回申請			第3回申請			第4回申請					
					説明対象	申請対象設備 (2項変更①)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更②)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更③)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更④)	仕様表			
3	(2) グローブボックス等の閉じ込めに係る設計方針 グローブボックス等は、グローブボックス排気設備により負圧に維持し、オープンポートボックス及びフードは、グローブボックス排気設備により開口部からの空気流入風速を確保する設計とする。	機能要求① 機能要求② 評価要求	・基本方針 ・グローブボックス排気設備(グローブボックス排風機、グローブボックス排気ダクト) ・窒素循環設備(窒素循環ファン、窒素循環ダクト、窒素循環冷却機) ・グローブボックス ・オープンポートボックス ・フード ・焼結炉 ・スタック乾燥装置 ・小規模焼結処理装置	基本方針 設計方針(閉じ込め) 評価(閉じ込め)	○	基本方針	-	○	粉末一時保管装置GB ペレット一時保管器GB スタック編成設備GB 等	グループボックス排気設備(グローブボックス排風機、グローブボックス排気ダクト) 窒素循環設備(窒素循環ファン、窒素循環ダクト、窒素循環冷却機) スタック乾燥装置 分析装置 分析装置フード 低レベル廃液処理設備OPB 等	＜ファン＞ ・容量 ・原動機 ＜主配管＞ ・外径・厚さ ＜機械装置＞ ・主要寸法 ＜核物質等取扱ボックス＞ ・焼結・乾燥装置 ・漏れ率	○	予備混合装置GB 等	焼結炉 小規模焼結処理装置 均一化混合装置GB 外蓋着脱装置OPB 貯蔵容器受払装置OPB フード(放射能測定設備) 等	＜核物質等取扱ボックス＞ ・漏れ率 ・開口部風速 ＜焼結・乾燥装置＞ ・漏れ率	-	-	-	
4	また、グローブ1個が破損した場合でもグローブポートの開口部における空気流入風速を設定値以上に維持する設計とする。	機能要求① 機能要求② 評価要求	・基本方針 ・グローブボックス排気設備(グローブボックス排風機、グローブボックス排気ダクト) ・窒素循環設備(窒素循環ファン、窒素循環ダクト、窒素循環冷却機) ・グローブボックス	基本方針 設計方針(閉じ込め) 評価(閉じ込め)	○	基本方針	-	○	粉末一時保管装置GB ペレット一時保管器GB スタック編成設備GB 等	グループボックス排気設備(グローブボックス排風機、グローブボックス排気ダクト) 窒素循環設備(窒素循環ファン、窒素循環ダクト、窒素循環冷却機) 分析装置GB 等	＜ファン＞ ・容量 ・原動機 ＜主配管＞ ・外径・厚さ ＜機械装置＞ ・主要寸法 ＜核物質等取扱ボックス＞ ・開口部風速	○	予備混合装置GB 等	均一化混合装置GB 等	＜核物質等取扱ボックス＞ ・開口部風速	-	-	-	
5	グローブボックスは、給気口及び排気口を除き密閉できる設計とする。	機能要求②	・基本方針 ・グローブボックス	基本方針 設計方針(閉じ込め)	○	基本方針	-	○	粉末一時保管装置GB ペレット一時保管器GB スタック編成設備GB 等	分析装置GB 等	＜核物質等取扱ボックス＞ ・漏れ率	○	予備混合装置GB 等	均一化混合装置GB 等	＜核物質等取扱ボックス＞ ・漏れ率	-	-	-	
8	(3) 核燃料物質等の漏えいに対する措置等に係る設計方針 核燃料物質等を限定された区域に適切に閉じ込めるため、核燃料物質等の漏えいに対する措置等として、以下の設計を講じる。 (a) 核燃料物質等を取り扱う設備は、内包する物質の種類に応じて適切な腐食対策を講じる設計とする。	機能要求① 機能要求②	・基本方針 ・グローブボックス排気設備 <sup>※1</sup> ・窒素循環設備 ・グローブボックス ・オープンポートボックス ・フード ・焼結炉 ・スタック乾燥装置 ・小規模焼結処理装置 ・低レベル廃液処理設備 ・分析済液処理装置 ・混合酸化物貯蔵容器 ・火災防護設備(延焼防止ダンパ、ピストンダンパ) <sup>※2</sup>  ※1 グローブボックス排気設備のうち、グローブボックス排気フィルタユニットより下流の機器については、清浄化された空気を取り扱うことから対象外。 ※2 火災防護設備である延焼防止ダンパとピストンダンパは安全上重要な施設のグローブボックスの排気系に設置するものであるため、対象設備として選定。	基本方針 設計方針(閉じ込め)	○	基本方針	-	○	粉末一時保管装置GB ペレット一時保管器GB スタック編成設備GB 等	グループボックス排気設備 <sup>※1</sup> 窒素循環設備 分析済液処理装置 低レベル廃液処理設備  【機能要求②】 グローブボックス排気設備(グローブボックス給気フィルタ、グローブボックス排気フィルタ、グローブボックス排気ダクト) <sup>※1</sup> 窒素循環設備(窒素循環ファン、窒素循環ダクト、窒素循環冷却機) スタック乾燥装置 分析装置GB 低レベル廃液処理設備OPB 分析装置フード 分析済液処理装置(ろ過処理供給槽、ろ過処理供給槽ポンプ、第1ろ過装置、主配管等) 低レベル廃液処理設備(ろ過処理前槽、ろ過処理前槽ポンプ、第1ろ過処理装置、主配管等) 火災防護設備(延焼防止ダンパ、ピストンダンパ) <sup>※2</sup> 等  ※1 グローブボックス排気設備のうち、グローブボックス排気フィルタユニットより下流の機器については、清浄化された空気を取り扱うことから対象外。 ※2 火災防護設備である延焼防止ダンパとピストンダンパは安全上重要な施設のグローブボックスの排気系に設置するものであるため、対象設備として選定。	＜ファン＞ ・主要材料 ＜フィルタ＞ ・主要材料 ＜主配管＞ ・主要材料 ＜機械装置＞ ・主要材料 ＜核物質等取扱ボックス＞ ・主要材料 ＜焼結・乾燥装置＞ ・主要材料 ＜ろ過装置＞ ・主要材料 ＜容器＞ ・主要材料 ＜ポンプ＞ ・主要材料 ＜主要弁＞ ・主要材料	○	予備混合装置GB 等	焼結炉 小規模焼結処理装置 均一化混合装置GB 外蓋着脱装置OPB 貯蔵容器受払装置OPB フード(放射能測定設備) 等	＜焼結・乾燥装置＞ ・主要材料 ＜核物質等取扱ボックス＞ ・主要材料	混合酸化物貯蔵容器	-	-	＜選搬・製品容器＞ ・主要材料
11	(d) 放射性物質を含む液体を取り扱うグローブボックス及びオープンポートボックスは、貯槽等から放射性物質を含む液体が漏えいした場合においても漏えい検知器により検知し、警報を発生する設計とする。また、グローブボックス及びオープンポートボックス底部に漏えい検知器を設置することにより、グローブボックス及びオープンポートボックスに放射性物質を含む液体を閉じ込めることで、放射性物質を含む液体がグローブボックス及びオープンポートボックス外に漏えいし難い設計とする。	機能要求② 評価要求	・基本方針 ・グローブボックス(漏えい液受皿) ・オープンポートボックス(漏えい液受皿) ・低レベル廃液処理設備 漏えい液受皿液位 ・分析済液処理装置 漏えい液受皿液位	基本方針 設計方針(閉じ込め) 評価(閉じ込め)	○	基本方針	-	○	-	・グローブボックス(漏えい液受皿) ・オープンポートボックス(漏えい液受皿) ・低レベル廃液処理設備 漏えい液受皿液位 ・分析済液処理装置 漏えい液受皿液位	＜核物質等取扱ボックス(漏えい液受皿)＞ ・主要寸法 ・主要材料 ＜計測装置＞ ・検出器の種類 ・警報動作範囲	-	-	-	-	-	-		
13	工程室は工程室排気設備、燃料加工建屋は建屋排気設備にて排気し、燃料加工建屋、工程室、グローブボックス等の順に負圧を低くすることで、核燃料物質等の漏えいの拡大を防止する設計とする。 なお、負圧維持の達成に必要な起動順序に係る設計方針については、第2章 個別項目の「5.2換気設備」に示す。	機能要求① 機能要求②	・基本方針 ・グローブボックス排気設備 ・窒素循環設備 ・工程室排気設備(工程室排風機、工程室排気ダクト) ・建屋排気設備(建屋排風機、建屋排気ダクト)	基本方針 設計方針(漏えいの拡大防止)	○	基本方針	-	○	-	グループボックス排気設備 窒素循環設備  【機能要求②】 工程室排気設備(工程室排風機、工程室排気ダクト) 建屋排気設備(建屋排風機、建屋排気ダクト)	＜ファン＞ ・容量 ・原動機 ＜主配管＞ ・外径・厚さ	-	-	-	-	-	-		
17	液体廃棄物を内包する貯槽等から廃液が漏えいした場合、漏えい検知器により検知し、警報を発生する設計とする。また、堰等により漏えいの拡大を防止する設計とする。	機能要求② 評価要求	・基本方針 ・低レベル廃液処理設備 サンプ液位 ・分析済液処理装置 サンプ液位 ・燃料加工建屋(堰)	基本方針 設計方針(漏えいの拡大防止) 評価(漏えいの拡大防止)	○	基本方針	-	○	-	・低レベル廃液処理設備 サンプ液位 ・分析済液処理装置 サンプ液位 ・燃料加工建屋(堰)	＜計測装置＞ ・検出器の種類 ・警報動作範囲 ＜施設外漏えい防止堰＞ ・主要寸法 ・主要材料 ・床面及び壁面の塗装の範囲	-	-	-	-	-	-		

凡例  
・「説明対象」について  
○：当該申請回次で新規に記載する項目又は当該申請回次で記載を追記する項目  
△：当該申請回次以前から記載しており、記載内容に変更がない項目  
-：当該申請回次で記載しない項目



(2) 14条：安全機能を有する施設



項目 番号	基本設計方針	要求種別	主な設備	展開事項	第1回申請			第2回申請			第3回申請			第4回申請				
					説明対象	申請対象設備 (2項変更①)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更②)	申請対象設備 (1項新規①)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更③)	申請対象設備 (1項新規②)	仕様表	説明対象	申請対象設備 (2項変更④)	申請対象設備 (1項新規③)
113	(9) 分析済液処理装置 分析済液処理装置は、分析済液からウラン及びプルトニウムをRS粉末として回収し、成形施設の粉末調整工程のスクラップ処理設備の再生スクラップ受払装置又は低レベル廃液処理設備へ払い出す設計とする。また、スクラップの容器の払い出しまでの一時的な保管を行う設計とする。 分析済液を内包する系統及び機器は、溶接、フランジ又は継手で接続する構造とし、放射性物質が漏えいしにくい設計とする。	設置要求 機能要求②	分析済液処理装置	基本方針	-	-	-	○	-	分析済液処理装置	(容器) ・容量 (ろ過装置) ・容量 (ポンプ) ・容量 ・吐出圧力 ・原動機 (主配管) ・外径・厚さ	-	-	-	-	-	-	-

凡例  
 ・「説明対象」について  
 ○：当該申請回次で新規に記載する項目又は当該申請回次で記載を追記する項目  
 △：当該申請回次以前から記載しており、記載内容に変更がない項目  
 -：当該申請回次で記載しない項目



## 添付 2

申請対象設備リスト

(分析済液処理装置)





申請対象設備リスト（系統設備）（分析済液処理装置）  
(2/2)

番号	施設区分		設備区分				機器（許可）	機器	機種	基本設計方針 紐付け番号	エビデンス 紐付け番号	別紙番号	設置場所	数量	申請時期	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用 (主従)	共用 (主従)	備考		
	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備 の検査設備	分析設備	—																	—	
886	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	希釈槽	容器	10条-8 14条(個別)-113	系統_分析済液処理装置_機 器_27	別紙2-2-5	燃料加工建屋	1	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	
887	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	吸着処理液受槽ポンプ	ポンプ	10条-8 14条(個別)-113	系統_分析済液処理装置_機 器_28	別紙2-2-5	燃料加工建屋	1	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	
888	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	払出前希釈槽	容器	10条-8 14条(個別)-113	系統_分析済液処理装置_機 器_29	別紙2-2-5	燃料加工建屋	1	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	
889	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	主配管（分析済液処理系）	主配管	10条-8 14条(個別)-113	系統_分析済液処理装置_配 管_1 ～ 系統_分析済液処理装置_配 管_5	別紙2-2-5	燃料加工建屋	1式	2	新設	非安重	—	C※/—	—	—	—	※分析済液 中和固液分離 グローブボク スろ過・第1 活性炭処理 グローブボ ックス間 及びろ過・ 第1活性炭 処理グロー ブボクス -第2活性 炭・吸着処 理グローブ ボクス間 は二重配管 とし、外管 は耐震Bク ラスとす る。
890	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	分析済液中和固液分離グローブボクス漏 えい液受皿液位	計装/放管設備 (計測装置)	10条-11 14条(個別)-113	計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_5 計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_6 計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_7 計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_8	別紙2-2-5	燃料加工建屋	4	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	—
891	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	ろ過・第1活性炭処理グローブボクス漏 えい液受皿液位	計装/放管設備 (計測装置)	10条-11 14条(個別)-113	計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_1 計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_2	別紙2-2-5	燃料加工建屋	2	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	
892	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	第2活性炭・吸着処理グローブボクス漏 えい液受皿液位	計装/放管設備 (計測装置)	10条-11 14条(個別)-113	計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_3 計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_4	別紙2-2-5	燃料加工建屋	2	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	
893	その他加工 設備の附属 施設	—	核燃料物質 の検査設備 及び計量設 備	核燃料物質 の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	払出前希釈槽下部堰内漏えい液位	計装/放管設備 (計測装置)	10条-17	計装_分析済液処理装置(漏 えい検知)_機器_9	別紙2-2-5	燃料加工建屋	1	2	新設	非安重	—	C/—	—	—	—	



### 添付 3

申請対象設備抽出結果（分析済液処理装置）

## (1) 分析液处理装置









【主配管等の名称整理】

紐付け番号	施設区分		設備区分				機器名称(許可)	機器名称	機種	設置場所	数量	申請回	変更区分	DB区分	SA区分	耐震設計	兼用(主従)	共用(主従)	備考	
1	その他加工設備の附属施設	—	核燃料物質の検査設備及び計量設備	核燃料物質の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	分析済中和槽A, B ~ 中和ろ過装置A, B ~ 中和ろ液受槽A, B ~ 遠心分離処理液受槽 ~ 遠心分離処理液受槽ポンプ ~ ろ過処理供給槽, 第1活性炭処理供給槽	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	C※/— ※二重配管の外管はBクラス	—	—	「遠心分離処理液受槽ポンプ~ろ過処理供給槽, 第1活性炭処理供給槽」のうち, 分析済液中和固液分離GB-ろ過・第1活性炭処理GB間は二重配管とし, 外管は耐震Bクラスとする。
2	その他加工設備の附属施設	—	核燃料物質の検査設備及び計量設備	核燃料物質の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	ろ過処理供給槽 ~ ろ過処理供給槽ポンプ ~ 第1ろ過装置 ~ 第2ろ過装置 ~ 第2ろ過処理液受槽 ~ 第2ろ過処理液受槽ポンプ ~ 希釈槽, 第1活性炭処理供給槽	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	C/—	—	—	
3	その他加工設備の附属施設	—	核燃料物質の検査設備及び計量設備	核燃料物質の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	第1活性炭処理供給槽 ~ 第1活性炭処理供給槽ポンプ ~ 第1活性炭処理第1処理塔 ~ 第1活性炭処理第2処理塔 ~ 第1活性炭処理液受槽 ~ 第1活性炭処理液受槽ポンプ ~ 第2活性炭処理供給槽, ろ過処理供給槽	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	C※/— ※二重配管の外管はBクラス	—	—	「第1活性炭処理液受槽ポンプ~第2活性炭処理供給槽, ろ過処理供給槽」のうち, ろ過・第1活性炭処理GB-第2活性炭・吸着処理GB間は二重配管とし, 外管は耐震Bクラスとする。
4	その他加工設備の附属施設	—	核燃料物質の検査設備及び計量設備	核燃料物質の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	第2活性炭処理供給槽 ~ 第2活性炭処理供給槽ポンプ ~ 第2活性炭処理塔A, B, C, D ~ 第2活性炭処理液受槽 ~ 第2活性炭処理液受槽ポンプ ~ 吸着処理供給槽 ~ 吸着処理供給槽ポンプ ~ 吸着処理塔 ~ 吸着処理液受槽A, B ~ 希釈槽, 吸着処理液受槽ポンプ入口配管分岐部 ~ 吸着処理液受槽ポンプ ~ 払出前希釈槽	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	C/—	—	—	
5	その他加工設備の附属施設	—	核燃料物質の検査設備及び計量設備	核燃料物質の検査設備	分析設備	—	—	分析済液処理装置	払出前希釈槽 ~ 分析済液処理設備境界弁(0167-W3001)	主配管	燃料加工建屋	1式	3	新設	安重	—	C/—	—	—	

